

仙台市文化財調査報告書第150集

富沢遺跡

第35次発掘調査報告書

1991年3月

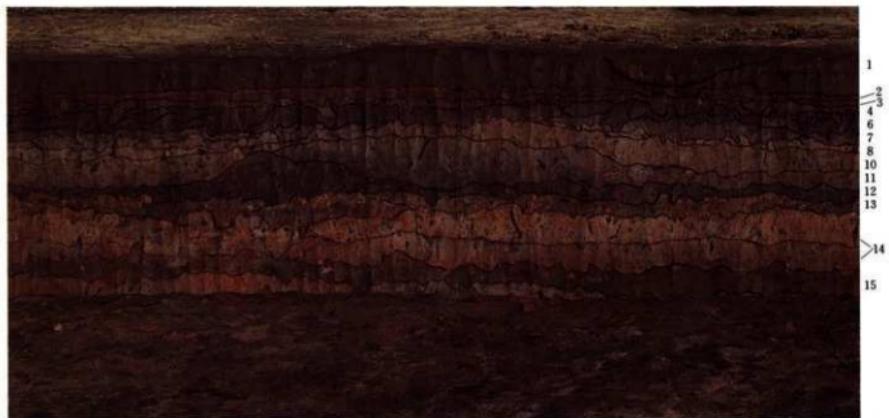
仙台市教育委員会

富 沢 遺 跡

第35次発掘調査報告書

1991年3月

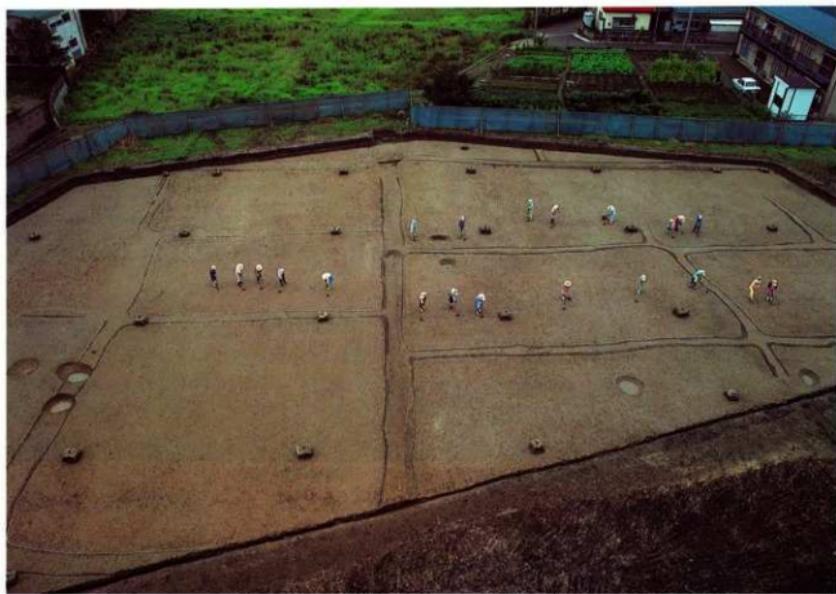
仙 台 市 教 育 委 員 会



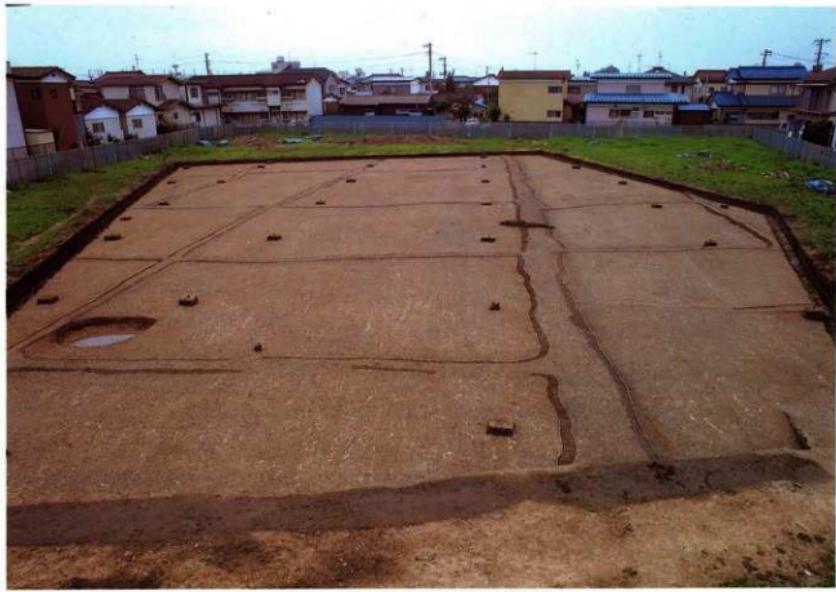
IV区北壁断面（基本層1～16層・7～12層水田跡大畦畔）



V区西壁断面（基本層16～27層）



10層水田跡検出状況（I～III区、北から）



10層水田跡検出状況（IV・V区、北から）



12層水田跡検出状況（IV・V区、北から）



15層水田跡確認状況（II区）、検出状況（I区）



15層水田跡検出状況（I～III区、北から）



15層水田跡検出状況（IV・V区、北から）

序 文

本市の南東部に位置する富沢地区は以前は肥沃な田園地帯でありました。近年は土地区画整理事業を契機といたしまして開発が進んできましたが、地下鉄の開業と共にさらに都市化が進展しつつあります。

富沢遺跡は、このような開発に伴う事前調査において水田跡が検出されたことがきっかけとなり発見されましたが、昭和57年以来、年毎に行われてきた調査では予想以上に貴重な成果を得ております。

調査件数も今回で35次を数えますが、調査の結果では弥生時代から近世までの水田跡が何枚にも重なって発見され、当時の人々の生活の様子も明らかになってまいりました。

仙台市には、私たちの祖先が創造し、伝えてきた貴重な文化遺産が数多くあります。これららの遺産を保存、活用していくことは、これからの方々の「まちづくり」に欠くことのできない大切なことでもあり、また市民の宝として永く後世に継承していくことは、現在のわれわれに課された重要な責務と考えます。

かような貴重な遺跡の保存、活用というのは、市民の皆様や関係各機関のご協力があつて初めてなされることです。教育委員会といたしましては、市民の皆様と共に手をたずさえ、先人の残してくれました遺産を守り育てていきたいと考えておりますので、今後とも多くの皆様の御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、発掘調査や報告書の作成にあたり、御協力下さいました皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が社会教育や学術研究の場で多くの方々に積極的に活用され、文化財の保護に大きく役立つことを切に希望してやみません。

1991年3月

仙台市教育委員会

教育長 東海林 恒英

例　　言

1. 本書は医療法人宏人会による病院建設に伴う富沢遺跡の発掘調査報告書であり、すでに公表された現地説明会資料等に優先するものである。
2. 報告書作製にあたっての遺物整理は文化財調査係平間亮輔が担当し、陶器・磁器の鑑定は佐藤洋が行った。
3. 本文の執筆・編集は平間亮輔が行ったが、第4章の執筆については古環境研究所に依頼した。
4. プラントオーバル分析は古環境研究所に依頼した。石器の材質鑑定は蟹沢聰史氏(東北大)、種子の鑑定は星川清親氏(東北大)、庄司駒男氏(東北大)にお願いした。
5. 発掘調査・報告書作製にあたっては下記の方々に指導・助言・協力を賜った。(敬称略・順不同)
医療法人宏人会・蟹沢聰史・星川清親・庄司駒男・前川要・杉山真二・能登健・岡田隆大・神英雄・結城慎一
井上國雄・鈴木功

凡　　例

1. 本書中の土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原:1973)を使用した。
2. 本書に掲載した地形図は「仙台市埋蔵文化財調査報告書第98集 富沢」の付図を再トレスしたもの及び、国土地理院1:25,000仙台西南部・仙台東南部(平成2年1月1日)を合成したものである。
3. 本書中の北(N)はすべて真北である。
4. 本書中の座標値は、平面直角座標系Xによっている。
5. 畦畔及び水田区画のNoは各層別に付け、その他の遺構は全層を通して付けた。なお、畦畔Noは1・2・3…、水田区画Noは①・②・③…として区別した。
6. 遺構名の略語として、SB:掘立柱建物跡、SD:溝跡、SK:土坑、SX:性格不明遺構を使用した。
7. 遺物の登録記号は陶器(I)、磁器(J)のみに使用した。
8. 遺物実測図の中心線が1点鎖線のものは図上展開したものである。
9. 土師器内面の網スクリーントーンは黒色処理、陶・磁器内外面の1点鎖線は施釉範囲を示す。
10. 遺物の法量のうち()は図上復元値である。
11. 7・8・10・12層水田跡遺物出土状況図に実測図を掲載した各遺物の位置は概略の地点であり、実際には広範囲に出土した破片が接合している。
12. 畦畔計測表における上端幅・下端幅の()は複数地点において測定した平均値である。
13. 水田区画計測表の数値は以下のように統一した。
標高の()は複数地点において測定した平均値で、区画のほぼ全体を検出できた場合のみ記した。
比高差は各水田区画内における比高差で、区画全体を検出できなかった場合は()で区別した。
面積は畦畔の下端で測定した。
推定規模は区画の東辺長と西辺長の平均(南北の長さ)×南辺長と北辺長の平均(東西の長さ)を示す。
14. 水田区画規模のグラフ中における矢印は短辺または長辺のいずれかのみが判明しているものである。
15. 引用・参考文献は第4章分を除き、すべて巻末にまとめた。

目 次

第1章 はじめに.....	1
第1節 調査要項.....	1
第2節 遺跡の概要.....	2
第3節 調査方法.....	7
第4節 調査経過・その他.....	9
第2章 基本層序.....	12
第3章 検出遺構と出土遺物.....	19
第1節 3層水田跡.....	19
第2節 4層水田跡.....	25
第3節 5層水田跡.....	29
第4節 6層水田跡.....	33
第5節 7層水田跡.....	38
第6節 8層水田跡.....	44
第7節 9層水田跡.....	51
第8節 10層水田跡.....	55
第9節 11層水田跡.....	67
第10節 12層水田跡.....	71
第11節 13層の遺構と遺物.....	80
第12節 14層の遺物.....	85
第13節 15層水田跡.....	86
第14節 16層水田跡.....	105
第15節 18層水田跡.....	110
第16節 22層水田跡.....	117
第17節 23層水田跡.....	122
第18節 24層水田跡.....	128
第19節 25層水田跡.....	131
第20節 26層水田跡.....	142
第21節 下層の調査.....	145
第22節 その他の遺構・遺物.....	146
第4章 プラント・オパール分析.....	150
第1節 I～III区におけるプラント・オパール分析.....	150
第2節 IV・V区におけるプラント・オパール分析.....	154
第5章 考 察.....	162
第1節 出土遺物.....	162
I. 遺物の出土状況と問題点.....	162
II. 出土遺物の特徴と年代.....	165
第2節 遺構の年代.....	164
I. 第15次調査V区との層位の対応.....	164
II. 各層の年代.....	166
第3節 遺構の特徴と変遷.....	169
第4節 まとめ.....	198

挿 図 目 次

第1図 周辺の遺跡	2	第37図 9層水田跡全体図	53
第2図 富沢遺跡全体図	4	第38図 9層水田跡水口平面図	54
第3図 富沢遺跡周辺の旧地形	5	第39図 9層水田跡出土遺物	54
第4図 遺跡周辺の地形	6	第40図 10層水田跡全体図	56
第5図 調査区配置図	8	第41図 10層水田跡大畦畔 (No.7・22) 断面図、 IV区北壁断面図	57
第6図 基本層序模式図	13	第42図 10層水田跡水田区画規模	58
第7図 柱状図・断面図ポイント	14	第43図 SK14・SX1群平面・断面図	60
第8図 基本層序柱状図	15	第44図 10層上面足跡平面図	61
第9図 調査区壁面断面図(1)	16	第45図 10層水田跡遺物出土状況図	62
第10図 調査区壁面断面図(2)	17	第46図 10層水田跡出土遺物(1)	64
第11図 3層水田跡全体図	20	第47図 10層水田跡出土遺物(2)	65
第12図 S K 1～7・10平面・断面図	22	第48図 10層水田跡出土遺物(3)	66
第13図 3層水田跡出土遺物(1)	23	第49図 11層水田跡大畦畔 (No.7) 断面図	67
第14図 3層水田跡出土遺物(2)	24	第50図 11層水田跡全体図	68
第15図 4層水田跡全体図	26	第51図 11層水田跡水田区画規模	70
第16図 SD 2・3断面図	27	第52図 SK15平面・断面図	70
第17図 4層水田跡出土遺物	28	第53図 12層水田跡大畦畔 (No.8・30) 断面図	71
第18図 5層水田跡全体図	30	第54図 12層水田跡全体図	73
第19図 5層水田跡水田区画規模	31	第55図 12層水田跡水田区画規模	75
第20図 5層水田跡出土遺物	32	第56図 SK16・17・SX2群平面・断面図	76
第21図 6層水田跡大畦畔 (No.12) 断面図	33	第57図 12層水田跡遺物出土状況図	77
第22図 6層水田跡全体図	34	第58図 12層水田跡出土遺物(1)	78
第23図 6層水田跡水田区画規模	35	第59図 12層水田跡出土遺物(2)	79
第24図 SB 1全体図	37	第60図 13層上面全体図	81
第25図 6層水田跡出土遺物	37	第61図 SD12断面図	82
第26図 7層水田跡大畦畔 (No.17) 断面図	38	第62図 SK18・SD4～13平面・断面図	83
第27図 7層水田跡水田区画規模	40	第63図 13層出土遺物	84
第28図 7層水田跡全体図	41	第64図 14層山上遺物	85
第29図 7層水田跡遺物出土状況図	42	第65図 15層水田跡全体図	87
第30図 7層水田跡出土遺物	43	第66図 15層水田跡I～III区全体図	88
第31図 8層水田跡大畦畔 (No.5・19) 断面図	44	第67図 15層水田跡IV・V区全体図	89
第32図 8層水田跡水田区画規模	46	第68図 15層水田跡水田区画規模	92
第33図 8層水田跡全体図	47	第69図 15層水田跡水田面の平均標高と傾斜	100
第34図 8層水田跡遺物出土状況図	48	第70図 15層水田跡大畦畔 (No.2)、大区画C、 SD14・15断面図	101・102
第35図 8層水田跡出土遺物	50		
第36図 9層水田跡水田区画規模	52		

第71図	15層水田跡出土遺物	104	第109図	SK 8・9・11~13平面・断面図	147
第72図	16層水田跡全体図	106	第110図	その他の出土遺物(1)	148
第73図	SD16・17 断面図	107・108	第111図	その他の出土遺物(2)	149
第74図	16層水田跡出土遺物	109	第112図	I~III区における試料採取地点	150
第75図	18層水田跡全体図	112	第113図	イネのプラント・オーバルの検出状況	153
第76図	18層水田跡水田区画規模	113	第114図	15層水田跡(IV・V区)における 試料採取地点	154
第77図	18層水田跡I~III区全体図	113	第115図	イネのプラント・オーバルの検出状況	156
第78図	SD19 断面図	114	第116図	おもな植物の推定生産量と変遷	159
第79図	18層水田跡出土遺物	115	第117図	15層水田跡におけるイネの 推定生産量と分布状況	160
第80図	22層水田跡全体図	118	第118図	15層水田跡におけるヨシ属の 推定生産量と分布状況	160
第81図	22層水田跡 I~III区全体図	119	第119図	15層水田跡におけるタケ亜科の 推定生産量と分布状況	161
第82図	22層水田跡耕作域・非耕作域断面図	119	第120図	各地点における15層水田層の層厚	161
第83図	SD20・21・24 断面図	120	第121図	遺物の接合パターン	164
第84図	22層水田跡出土遺物	121	第122図	土師器I類	166
第85図	23層水田跡全体図	123	第123図	土師器II類坏	169
第86図	23層水田跡耕作域・非耕作域、 畦畔1・2 断面図	124	第124図	土師器II類坏 底径口径比	169
第87図	23層水田跡V区全体図	125	第125図	赤焼土器坏	170
第88図	SD32 断面図	126	第126図	赤焼土器坏 底径口径比	170
第89図	23層水田跡出土遺物	127	第127図	須恵器坏 底径口径比	172
第90図	24層水田跡全体図(1)	129	第128図	須恵器坏	172
第91図	24層水田跡全体図(2)	129	第129図	各層における陶器・磁器の年代幅	180
第92図	24層水田跡大畦畔3・擬似畦畔2 断面図	130	第130図	棒状鉄製品集成図	182
第93図	25層水田跡大畦畔(No.1・7・14)断面図	131	第131図	第35次調査・15次調査V区基本層序柱状図	186
第94図	25層水田跡全体図	132	第132図	25層水田跡・15次V区11a層水田跡	189
第95図	25層水田跡 I~III区全体図	133	第133図	15層水田跡・15次V区7a層水田跡	190
第96図	25層水田跡 V区全体図	133	第134図	12層水田跡・15次V区6層水田跡	191
第97図	25層水田跡大畦畔(No.14)部分図	134	第135図	10層水田跡・15次V区5a層水田跡	192
第98図	25層水田跡水田区画規模	135	第136図	8層水田跡・15次V区4b層水田跡	192
第99図	SD35~40 断面図	136	第137図	条里型土地割の復元	193
第100図	SD41 検出杭平面・断面図	137	第138図	6層水田跡・15次V区3b層水田跡	195
第101図	SD41 断面図	138	第139図	5層水田跡	195
第102図	25層水田跡出土遺物(1)	140	第140図	近世の富沢地区	196
第103図	25層水田跡出土遺物(2)	141	第141図	明治年間の字切図	197
第104図	26層水田跡全体図	143			
第105図	26層水田跡大畦畔(No.2・3・5)断面図	144			
第106図	26層水田跡出土遺物	144			
第107図	41層上面遺物出土状況図	145			
第108図	41層出土遺物	145			

挿 表 目 次

表1 周辺の遺跡地名表	3	表37 18層水田跡水田区画計測表	111
表2 3層水田跡畦畔計測表	19	表38 22層水田跡畦畔計測表	117
表3 3層水田跡水田区画計測表	21	表39 22層水田跡水田区画計測表	117
表4 3層上面検出土坑計測表	21	表40 22層検出溝跡計測表	120
表5 4層水田跡畦畔計測表	25	表41 23層水田跡畦畔計測表	122
表6 4層水田跡水田区画計測表	25	表42 23層水田跡水田区画計測表	122
表7 SD 2・3計測表	27	表43 23層検出溝跡計測表	125
表8 5層水田跡畦畔計測表	29	表44 24層水田跡畦畔計測表	128
表9 5層水田跡水田区画計測表	31	表45 24層水田跡水田区画計測表	128
表10 6層水田跡畦畔計測表	35	表46 25層水田跡畦畔計測表	131
表11 6層水田跡水田区画計測表	36	表47 25層水田跡水田区画計測表	135
表12 SB 1柱穴計測表	36	表48 26層水田跡畦畔計測表	142
表13 7層水田跡畦畔計測表	39	表49 26層水田跡水田区画計測表	142
表14 7層水田跡水田区画計測表	40	表50 プラント・オパール分析結果	145
表15 8層水田跡畦畔計測表	45	表51 I～III区におけるイネのプラント・オパールの 検出状況と稻作の可能性	152
表16 8層水田跡水田区画計測表	46	表52 各水田耕作土層における 稻穀生産量の推定値	152
表17 9層水田跡畦畔計測表	51	表53 プラント・オパールの分析結果(1)	155
表18 9層水田跡水田区画計測表	52	表54 プラント・オパールの分析結果(2)	156
表19 10層水田跡畦畔計測表	55	表55 植物体生産量の推定値(1)	157
表20 10層水田跡水田区画計測表	58	表56 植物体生産量の推定値(2)	158
表21 11層水田跡畦畔計測表	69	表57 破片集計表	163
表22 11層水田跡水田区画計測表	69	表58 須恵器壺の組み合わせ	173
表23 12層水田跡畦畔計測表	72	表59 陶器・磁器観察表(1)	175
表24 12層水田跡水田区画計測表	74	表60 陶器・磁器観察表(2)	176
表25 15層水田跡畦畔計測表(1)	90	表61 陶器・磁器観察表(3)	177
表26 15層水田跡畦畔計測表(2)	91	表62 陶器・磁器観察表(4)	178
表27 15層水田跡水田区画計測表(1)	93	表63 陶器・磁器観察表(5)	179
表28 15層水田跡水田区画計測表(2)	94	表64 第35次調査・第15次調査V区基本層序対応表	180
表29 15層水田跡水田区画計測表(3)	95	表65 地割りの大畦畔	191
表30 15層水田跡水田区画計測表(4)	96		
表31 15層水田跡水田区画計測表(5)	97		
表32 15層水田跡水田区画計測表(6)	98		
表33 15層水田跡水田区画計測表(7)	99		
表34 16層水田跡擬似畦畔B計測表	105		
表35 16層水田跡水田区画計測表	105		
表36 18層水田跡畦畔計測表	106		

写真図版目次

写真1 V区東壁断面 (L-8、1~15層) 201	写真37 10層水田跡確認状況 (畦畔No.9、東から) 215
写真2 V区東壁断面 (L-7、16~26層) 201	写真38 10層水田跡確認状況 (畦畔No.8・11、南から) 215
写真3 3層水田跡検出状況 (III区、北から) 222	写真39 10層水田跡検出状況 (I~III区、北から) 216
写真4 SK 1断面 222	写真40 10層水田跡検出状況 (I~III区、北から) 216
写真5 SK 2・3断面 222	写真41 10層水田跡検出状況 (IV・V区、北から) 217
写真6 SK 4断面 222	写真42 6~12層水田跡大畦畔断面 (IV区北壁) 217
写真7 SK 5断面 222	写真43 6~12層水田跡大畦畔断面 (V区南壁) 217
写真8 SK 6完掘状況 233	写真44 水田面の状況 (V区、北から) 218
写真9 SK 7完掘状況 233	写真45 水田面の足跡 (区画⑪、東から) 218
写真10 SK10完掘状況 233	写真46 水田面の足跡 (区画⑪、東から) 218
写真11 4層水田跡検出状況 (II区、北から) 234	写真47 SK14完掘状況 (南から) 219
写真12 4層水田跡検出状況 (IV区、東から) 234	写真48 SX 1群確認状況 (一部半蔵、北から) 219
写真13 SD 3完掘状況 234	写真49 10層水田跡断面、灰白色火山灰の状況 (II区南壁) 219
写真14 5層水田跡確認状況 (IV区、東から) 235	写真50 12層水田跡検出状況 (I区、北から) 220
写真15 5層水田跡検出状況 (I区、北から) 235	写真51 12層水田跡検出状況 (II区、北から) 220
写真16 6層水田跡確認状況 (I区、北から) 236	写真52 12層水田跡確認状況 (III区、北から) 221
写真17 6層水田跡検出状況 (I区、北から) 236	写真53 12層水田跡検出状況 (III区、北から) 221
写真18 6層水田跡検出状況 (II区、北から) 237	写真54 12層水田跡検出状況 (IV・V区、北から) 222
写真19 6層水田跡検出状況 (V区、南から) 237	写真55 12層水田跡検出状況 (IV・V区東部、北から) 222
写真20 SB 1完掘状況 (南から) 237	写真56 12層水田跡大畦畔 (No.19、東から) 223
写真21 7層水田跡確認状況 (III区、北から) 238	写真57 SK16完掘状況 (東から) 223
写真22 7層水田跡検出状況 (II・III区、北から) 238	写真58 SK17完掘状況 (南から) 223
写真23 7層水田跡確認状況 (V区、南から) 238	写真59 15層水田跡検出状況 (I~III区、北から) 224
写真24 7層水田跡検出状況 (V区、南から) 239	写真60 15層水田跡検出状況 (IV・V区、北から) 224
写真25 7層水田跡検出状況 (IV・V区、北から) 239	写真61 15層水田跡確認状況 (I区C-3、東から) 225
写真26 8層水田跡確認状況 (I区、北から) 240	写真62 15層水田跡検出状況 (I区、北から) 225
写真27 8層水田跡検出状況 (I区、北から) 240	写真63 15層水田跡確認状況 (II区、北から) 225
写真28 8層水田跡確認状況 (II区、北から) 241	写真64 15層水田跡検出状況 (II区北部、北から) 225
写真29 8層水田跡検出状況 (II区、北から) 241	写真65 15層水田跡検出状況 (I・II区、北から) 225
写真30 8層水田跡検出状況 (II・III区、北から) 242	写真66 15層水田跡検出状況 (II・III区、北から) 225
写真31 8層水田跡検出状況 (IV・V区、北から) 242	写真67 15層水田跡検出状況 (IV・V区、大区画G・H、北から) 228
写真32 9層水田跡確認状況 (I区、北から) 243	写真68 15層水田跡検出作業 (IV・V区、北から) 228
写真33 9層水田跡検出状況 (I区、北から) 243	
写真34 9層水田跡検出状況 (II区、北から) 244	
写真35 9層水田跡検出状況 (II・III区、北から) 244	
写真36 10層水田跡確認状況 (I区、北から) 245	

写真69	水田面の状況（区画⑩、東から）	29	写真100	26層水田跡畦畔No.2断面（I区B-4北壁）	26
写真70	水田面の状況（区画⑪）	29	写真102	26層水田跡畦畔No.3断面（III区C-7東壁）	26
写真71	大畦畔No.3・大区直C断面（A-5北壁）	29	写真103	下層試掘区全景（北から）	26
写真72	18層水田跡確認状況（II・III区、北から）	29	写真104	下層試掘区断面（北から）	26
写真73	18層水田跡検出状況（II・III区、北から）	29	写真105	3層水田跡出土遺物(1)	26
写真74	22層水田跡検出状況（II・III区、北から）	29	写真106	3層水田跡出土遺物(2)	26
写真75	SD21先掘状況（東から）	29	写真107	4層水田跡出土遺物(1)	26
写真76	22層水田跡耕作域・非耕作域断面 （III区D-6南壁、区画③西端）	29	写真108	4層水田跡出土遺物(2)	26
写真77	23層水田跡確認状況（V区、東から）	29	写真109	5層水田跡出土遺物	26
写真78	23層水田跡確認状況（V区北部、東から）	29	写真110	6層水田跡出土遺物	26
写真79	23層水田跡検出状況（V区、南から）	29	写真111	7層水田跡出土遺物	26
写真80	23層水田跡耕作域・非耕作域 (V区、東から)	29	写真112	8層水田跡出土遺物	26
写真81	23層水田跡耕作域・非耕作域断面 （III区D-7南壁、区画①西端）	29	写真113	9層水田跡出土遺物	26
写真82	23層水田跡畦畔No.2断面（V区M-6南壁）	29	写真114	10層水田跡出土遺物(1)	26
写真83	23層水田跡畦畔1・SD33断面（V区北壁）	29	写真115	10層水田跡出土遺物(2)	26
写真84	23層水田跡畦畔1・SD33断面（V区東壁）	29	写真116	10層水田跡出土遺物(3)	26
写真85	24層水田跡検出状況（V区、南から）	29	写真117	10層水田跡出土遺物(4)	26
写真86	24層水田跡擬似畦畔B確認状況 (V区、南東から)	29	写真118	12層水田跡出土遺物(1)	26
写真87	24層水田跡擬似畦畔B断面（V区南壁）	29	写真119	12層水田跡出土遺物(2)	26
写真88	25層水田跡検出状況（I～III区、北から）	29	写真120	13層出土遺物	26
写真89	25層水田跡上面の状況 (II区・部分、北から)	29	写真121	14層出土遺物	26
写真90	25層水田跡溝跡確認状況（III区、北から）	29	写真122	15層水田跡出土遺物	26
写真91	25層水田跡溝跡確認状況（IV区、南から）	29	写真123	16層水田跡出土遺物	26
写真92	25層水田跡確認状況（V区、南から）	29	写真124	18層水田跡出土遺物	26
写真93	25層水田跡検出状況（V区、西から）	29	写真125	22層水田跡出土遺物	26
写真94	25層水田跡畦畔中の樹木出土状況 (V区、南東から)	29	写真126	23層水田跡出土遺物(1)	26
写真95	25層水田跡検出杭断面（No.1、西から）	29	写真127	23層水田跡出土遺物(2)	26
写真96	25層水田跡検出杭断面（No.3・4、東から）	29	写真128	25層水田跡出土遺物(1)	26
写真97	25層水田跡検出杭断面（No.4・5、東から）	29	写真129	25層水田跡出土遺物(2)	26
写真98	26層水田跡検出状況（I～III区、北から）	29	写真130	26層水田跡出土遺物	26
写真99	26層水田跡検出作業（I～III区、西から）	29	写真131	41層出土遺物	26
写真100	26層水田跡擬似畦畔B確認状況 (II区畦畔No.2下、南西から)	29	写真132	1・2層出土遺物(1)	26
			写真133	1・2層出土遺物(2)	26
			写真134	1・2層出土遺物(3)	26
			写真135	その他の出土遺物	26
			写真136	プランツ・オバールの顕微鏡写真(1)	26
			写真137	プランツ・オバールの顕微鏡写真(2)	26
			写真138	プランツ・オバールの顕微鏡写真(3)	26
			写真139	プランツ・オバールの顕微鏡写真(4)	26

第1章 はじめに

第1節 調査要項

調査名 富沢遺跡第35次調査

所在地 仙台市太白区長町南1丁目3・6番地

調査目的 宏人会病院建設に伴う事前調査

調査面積 約3,900m²

調査期間 昭和63年5月9日～12月26日、平成元年3月8日～3月24日

平成元年4月25日～12月15日

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 仙台市教育委員会文化財課調査係

担当職員 佐藤甲二・平間亮輔・宮崎 明・渡辺雄二・佐藤 淳

調査協力 医療法人宏人会

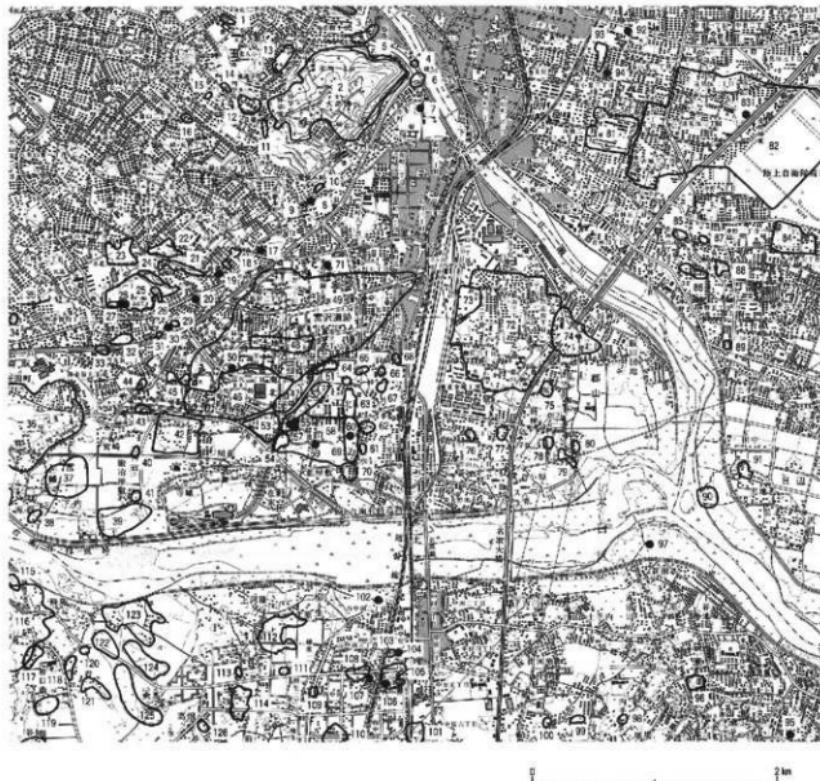
調査参加者	相澤 史子	青山 博樹	青山 諒子	浅野ヤシ子	浅見 シゲ	浅見 禮子
	阿部 高子	阿部みのる	阿部 幸夫	阿部八重子	阿部 洋子	阿部よね子
	井口 彰文	石垣 紗子	板橋喜恵子	板橋 静江	板橋スエノ	板橋 孝子
	伊藤 貞子	伊藤 征子	伊藤 律子	入間川さみ	植野 幸子	植野美登子
	遠藤タイ子	遠藤 照子	太田 兼也	大友 節子	大友フミ子	大沼みさほ
	大庭チエ子	小田島智恵子	鬼沢 悅子	小野つや子	加賀美要子	加島みえ子
	柏倉セツ子	菊地つね子	菊地 道代	小池 房子	鴻巣つや子	越田知左子
	小林 斎美	斎藤とき子	斎藤由美子	佐久間長子	佐々木志津	佐竹さく子
	佐藤 祥子	佐藤ちよし	佐藤とみ子	佐藤 紀子	佐藤 みよ	佐藤よし江
	庄子 一浩	庄司けき子	庄子 孝子	須賀 栄子	菅井キノエ	菅井 君子
	菅井きみ子	菅井 清子	菅井ちよの	菅井美枝子	菅田みき子	菅田わくり
	鈴木 いし	鈴木かつ子	鈴木よしあ	関 八重子	関谷 栄子	高橋 美香
	高橋ヨシ子	高橋 良子	高山 紀子	高山ゑつ子	武田 知之	武田 芳子
	竹森 光子	千田あや子	千田タイ子	永野 泰治	蓮沼 英子	蓮沼 秀子
	早川 裕子	針生 昭三	星 愛子	星 レイ子	洞口 秋子	牧 かね子
	三浦 市子	三浦 芳子	宮嶋 郡	村井二郎松	村上 令子	守谷 恵子
	八幡 伸明	山田千代子	山田 貞子	山田やす子	吉田八重子	我妻美代子
	渡辺イチ子	渡辺 幸子	渡辺 久子	渡邊 洋子	渡部 麗子	
整理参加者	大森 緑	栗原 皎子	小林 三佳	斎藤 彰裕	斎藤 玲子	菅谷 格子
	鈴木 幸子	西原 聰美	原田由美子	松川 有美	村田 佳子	

第2節 遺跡の概要

宮沢遺跡は仙台市南西部の太白区鹿野、長町、長町南、泉崎、富沢に位置し、総面積は約90haに及ぶ。

昭和51年、本遺跡南側の六反田遺跡で「アゼ状遺構」が検出され、その後昭和57年には隣接する山口遺跡において仙台市では初めて水田跡が検出された。また同時に富沢地区においても高速鉄道に係わる試掘調査の結果から水田跡の存在が予想されたため、昭和58年「富沢水田遺跡」として登録された。その後昭和62年には「富沢遺跡」と改称され、平成2年には第15次調査と本調査区の調査結果などから遺跡の東部のラインが拡大されている。

今年度まで宮沢遺跡では69次に及ぶ調査が実施され(第2図)、その結果、弥生時代から近世までの水田跡が重層的に存在する他、中・近世の居住域も確認されており、さらに下層からは縄文時代の遺構・遺物、後期旧石器時代の生活跡等も発見されている。

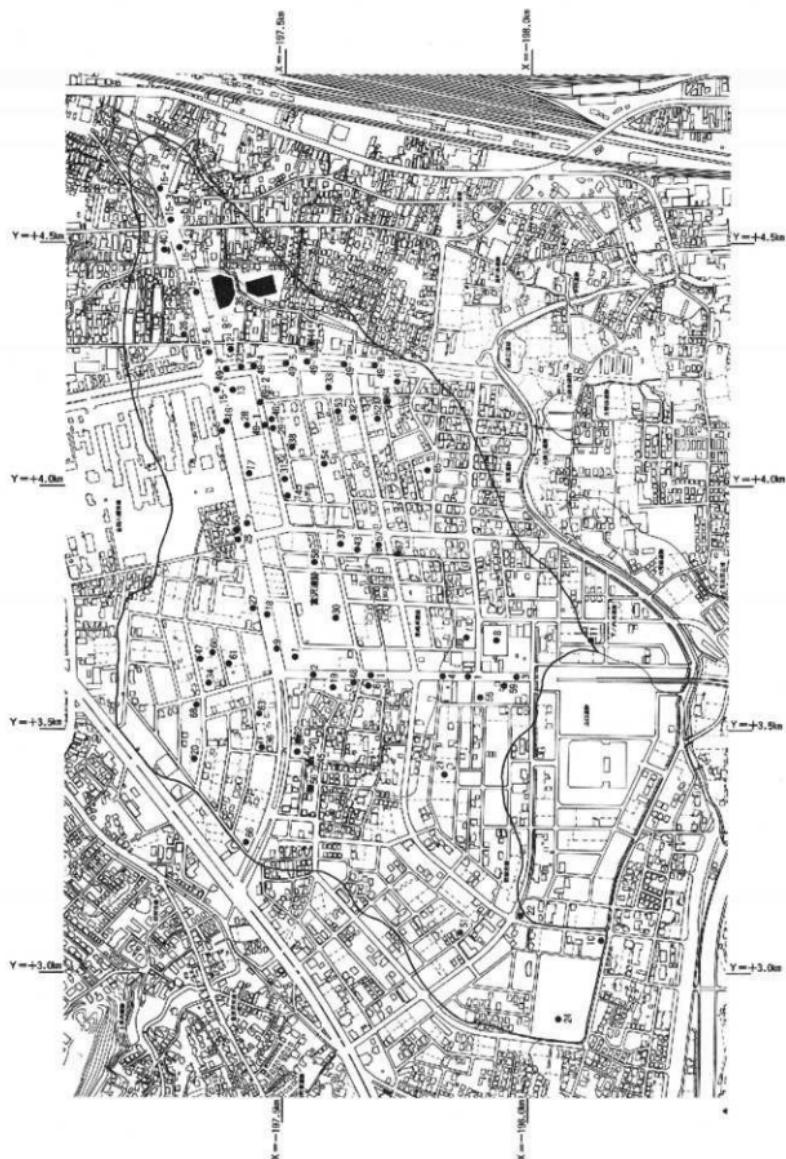


第1図 周辺の遺跡

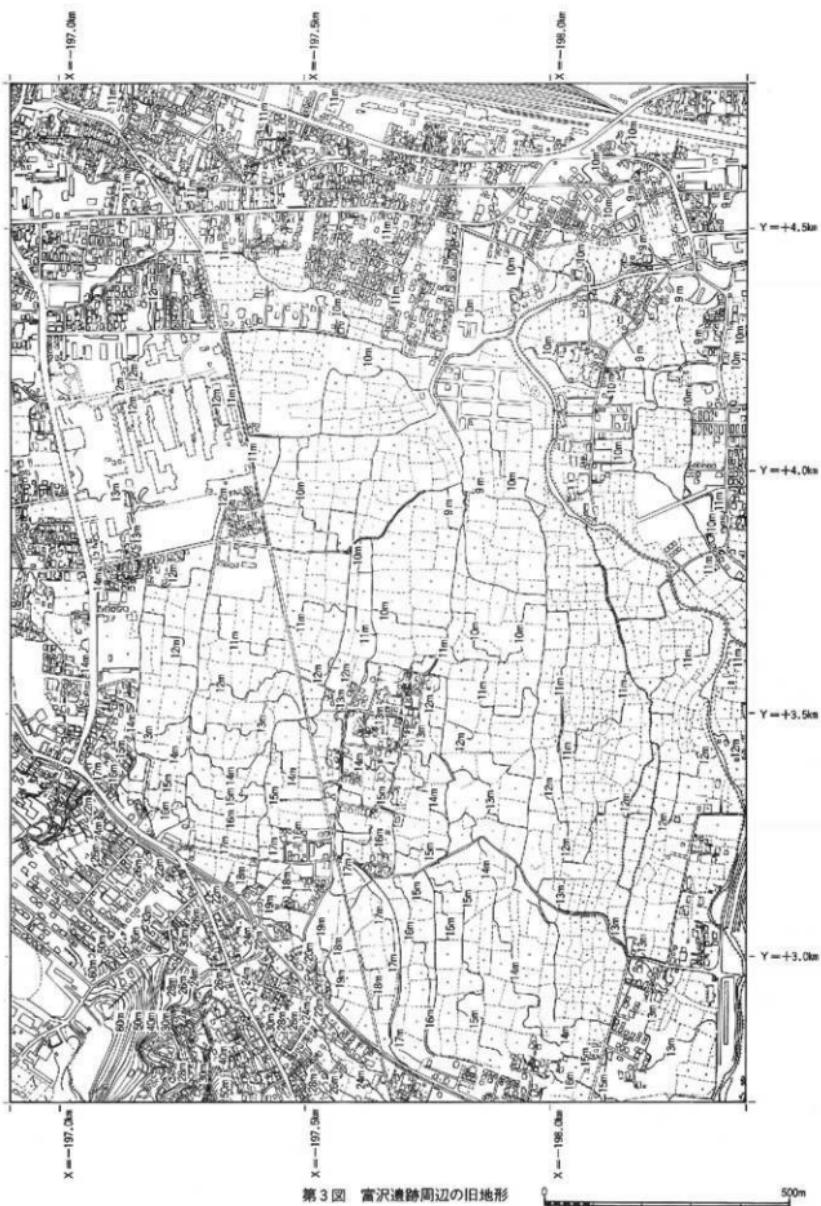
周辺の遺跡も含めた歴史的環境及び地形・地質に関しては富沢遺跡第15次発掘調査報告書(濱野他:1987)と山口遺跡第2次調査報告書(田中他:1984)富沢遺跡第30次調査報告書(太田他:1991)に詳しいので、重複をさけここでは主に35次調査に係わる環境についてのみ若干の記述をするに留めたい。

区	路名	地	時 代	区	路名	地	時 代
1	四川高裏	丘陵	漢文(中期)	63	大山川	自然邊境	越文(後期)、後生
2	五、城崎路	丘陵	南北朝-宋町	64	元日目	自然邊境	後生-平安
3	寶山山頂御前	丘陵斜面	古墳、奈良	65	光日目	自然邊境	奈良-平安
4	寺井才廣大路	丘陵	古墳	66	多可町	自然邊境	奈良-平安
5	人奉寺山腰六郎	丘陵斜面	古墳	67	南山	自然邊境	奈良-平安
6	根見	丘陵的面	漢文	68	通天六日	自然邊境	奈良-平安
7	安堵内塊	自然邊境	古墳	69	王ノ堆	自然邊境	禹(後期)、菟生、占領、奈良、中世、近世
	—、藤古塊	後背邊地	古墳	70	周基敷	自然邊境	筑城、奈良-平安、中世
9	原野一丁目	段丘	漢文、野生?、空島-平安	71	北岡八幡宮前	後背邊地	古墳、奈良-平安
10	野野屋敷	段丘	古墳?、奈良-平安	72	西山	自然邊境、後背邊地	奈良、古墳、奈良
11	二、丘陵大前	丘陵的面	古墳	73	西山畠	自然邊境	穗波(後期)、奈良、布施
12	新、丘陵	丘陵	漢文	74	北山城跡	自然邊境	葛西、江戸
13	新、丘陵	丘陵	漢文	75	矢木	自然邊境、後背邊地	竹原、奈良-平安
14	八木山御所	丘陵	漢文、奈良-平安	76	の崎	自然邊境	奈良-平安家
15	—、二丁目	丘陵	漢文	77	篠ノ瀬	自然邊境	古墳、奈良-平安
16	青山二丁目	丘陵	奈良-平安	78	の上々	自然邊境、後背邊地	古墳、奈良-平安、中世
17	二層六坡	複數高地	古墳	79	水の上三	自然邊境	古墳、奈良-平安
18	御前田原	段丘	奈良-平安	80	の上七	自然邊境	古墳、奈良-平安
19	御前古道	段丘	古墳	81	曾我城跡	自然邊境	片桐、奈良、岐阜、近江
20	金池山古道	段丘	古墳	82	圓ノ原	自然邊境	守谷、奈良-平安
21	土子内溝津	丘陵斜面	古墳	83	新見方端	自然邊境	古墳
22	小手内	丘陵	古墳	84	神代坂跡	自然邊境	後背邊地
23	7丁目	丘陵	漢文、且日-平安	85	御前山	自然邊境	古墳
24	十手内櫛穴門	丘陵斜面	古墳	86	御前山	自然邊境	古墳、奈良-平安
25	二串神	段丘	漢文(早期)、中期)、平安	87	御傳	自然邊境	古墳、奈良-平安
26	金山城跡	段丘	古墳	88	中野川	自然邊境	穂波、守谷、山城、奈良-平安
27	浜尻鬼塚	段丘	吉原、奈良-平安	89	御前京	自然邊境	古墳、奈良-平安
28	三神坐天廻復	段丘	古墳	90	日忍	自然邊境	古墳
29	東町村	段丘	平安	91	日臣詔跡	自然邊境	重町
30	喜志古塚	丘陵		92	御原古墳	自然邊境	古墳
31	東原	段丘	古墳、奈良-平安	93	御傳塚	自然邊境	古墳
32	原	段丘	笠生、内張-平安	94	御原内墳	自然邊境	古墳
33	西台露頭	段丘	奈良-平安?	95	丸久古墳	自然邊境	古墳
34	八坂	段丘	古墳、平安	96	中田横田	自然邊境	古墳
35	麻糸土子(砂子)	丘陵、段丘	江戸	97	大塚山古墳	自然邊境	古墳、奈良-平安
36	上野	段丘	漢文(中期)、律達、平安	98	大沢	自然邊境	古墳
37	南、水	自然邊境、後背邊地	奈良、平安	99	御中北	自然邊境	古墳、奈良-平安
38	富田南西	自然邊境	奈良-平安	100	御中中	自然邊境	古墳、奈良-平安
39	六本松	自然邊境	奈良-平安	101	山田郡跡	自然邊境、後背邊地	中世
40	御前便歎人	自然邊境	漢文、奈良-平安	102	大川	自然邊境	古墳
41	御前壓跡	自然邊境	汉文、奈良-平安	103	中山神社跡	自然邊境	古墳、平安
42	御前壓跡	自然邊境、後背邊地	跡跡時代	104	御原野御殿古墳	自然邊境	古墳
43	ノ内	自然邊境	古墳、奈良-平安	105	久保久	自然邊境	稻作、古墳、奈良-平安
44	御原ノ少	段丘	漢文、少安	106	安久坂	自然邊境	稻作、古墳、奈良-平安
45	御清水	自然邊境	奈良-平安	107	安久坂古墳	自然邊境	古墳
46	HIZ	自然邊境	漢文(中期)、律達、理隱)、少安、古墳	108	安久	自然邊境	奈良-平安
47	下、内溝	自然邊境	奈良-平安、中世	109	吉用	自然邊境	古墳、奈良-平安
48	佐崎	自然邊境	御原(中期)、律達、少安、奈良、平安	110	吉用	自然邊境	古墳、奈良-平安
49	幕次道路	後背邊地	御原(中期)、律達、少安、奈良、平安	111	吉氣	自然邊境	古墳、奈良-平安
50	御曾古塚	古墳	御原(後期)、律達、少安、奈良、平安	112	吉生内塚	自然邊境	奈良-平安
51	莫要	自然邊境	古墳、平安	113	吉	自然邊境	平安
52	六枚山	自然邊境	穂文(中期)、後期)、律達、少安、平安	114	鶴角	自然邊境	古墳、奈良-平安
53	下、内	自然邊境	奈良-平安、江戸	115	河口上	自然邊境	古墳、奈良-平安
54	少古田	自然邊境	漢文、少安、古墳、奈良、平安	116	猪野新宿社御跡	中世遺跡	古墳、奈良-平安
55	五反田山内塚	自然邊境	御原(後期)、山原、奈良-平安	117	河口下	自然邊境	古墳、奈良-平安
56	五反田山少塚	自然邊境	古墳	118	吉白中	自然邊境	山原、奈良-平安
57	天原山少塚	自然邊境		119	吉白南	自然邊境	古墳、奈良-平安
58	大野山山腰跡	自然邊境	古墳	120	土子下	自然邊境	奈良-平安
59	寺井山山腰跡	自然邊境	古墳	121	豊台中	自然邊境	奈良-平安
60	下、山腰	自然邊境	古墳	122	豊台山	自然邊境	奈良-平安
61	善利清水	自然邊境	古墳?	123	豊原上	自然邊境	古墳、奈良-平安
62	北尾跡	自然邊境	奈良-平安	124	豊原	自然邊境	奈良-平安

表1 番辺の遺跡地名表

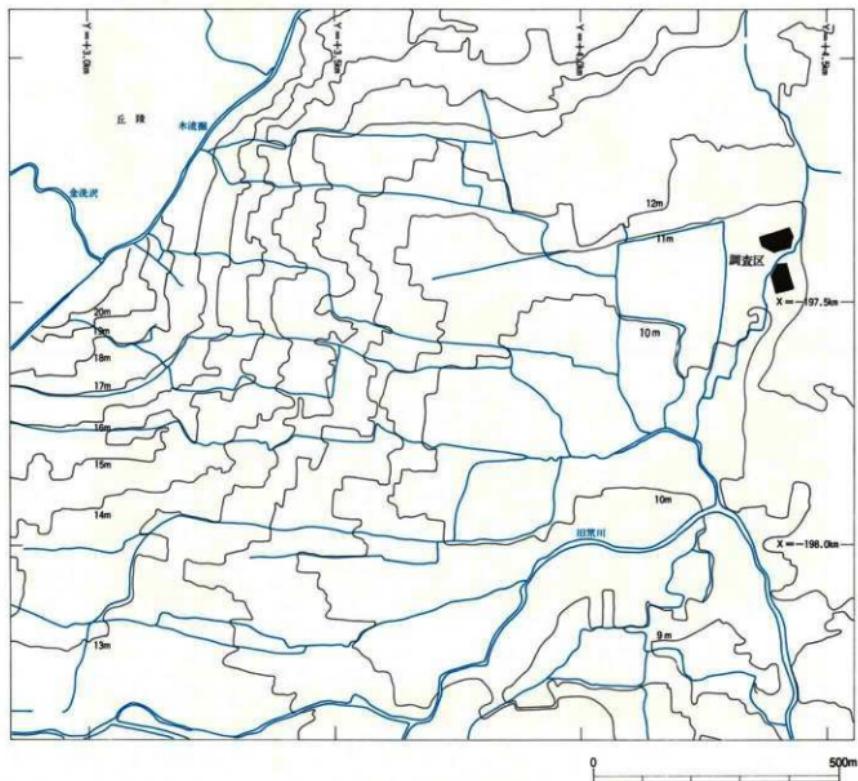


第2図 富沢遺跡全体図



第3図 富沢遺跡周辺の旧地形

富沢遺跡とその周辺の地域は、現在、土地区画整理事業による2m前後の盛土のために自然地形を見ることはできないが、第3図に旧地形を示し、これから等高線と河川・水路を抜き出したものが第4図である。遺跡は広瀬川と名取川に挟まれた低地に立地しているが、ここには遺跡の北西部を区切る青葉山丘陵から多数の小河川が流れ込んでおり、その中の主に金洗沢や二ツ沢などによって扇状地が形成されている(豊島:1987)。なお、これらの小河川のうち最も南側に位置する旧荒川が本遺跡の南側を流れているが、この付近には自然堤防が発達している。したがって地形を大まかに見ると遺跡の西~北部にはいくつかの扇状地、南部と東部には自然堤防という微高地が存在し、中央~南東部にかけて低湿地が広がっていたことがわかる。第35次調査区は二ツ沢によって形成された北部から広がる扇状地の最南端部付近に位置するが、同時に広瀬川の旧河道が形成したと考えられる自然堤防の西端部でもあり、言い替えれば、低湿地の周辺部分に位置している。なお、調査区の東側は早い時期から市街化が進んでいたため第3・4図の等高線が確実に自然地形を表しているとは言えないが、10・11mの等高線から推定すると本調査区付近は北方から張り出す扇状地よりも東側の自然堤防の影響をより強く受けている場所であることが窺える。



第4図 遺跡周辺の地形

第3節 調査方法

1. 調査区の設定

調査対象地は長町南1丁目3番地と6番地に別れており、また面積が広いこともあるので調査は2ヵ年に分けて実施した。1年目は北側の地区約2,200m²、2年目は南側の地区約1,700m²を対象とした。調査の効率化のためにそれぞれI～III区、IV・V区に分割し、原則的に遺構の平面図作成、写真撮影は各区ごとに分割して行った。なお、I～III区、IV・V区とも調査の進行に伴い調査区を縮小した他、最下層の水田の調査終了後はさらに下層の状況を把握するためC-4グリッドのみの試掘を実施した(第5図)。

調査区には平面直角座標系Xに乘せて基準杭を打ち、10mグリッドを設定した。グリッドの名称は東西方向をアラビア数字、南北方向をアルファベットとした。なお、遺構の平面図はこの基準杭によって簡易造り方を組み而成した。

2. 調査方法

遺構は水田跡を中心であったが、その調査方法については以下のとおりである。

(1) 遺構の確認

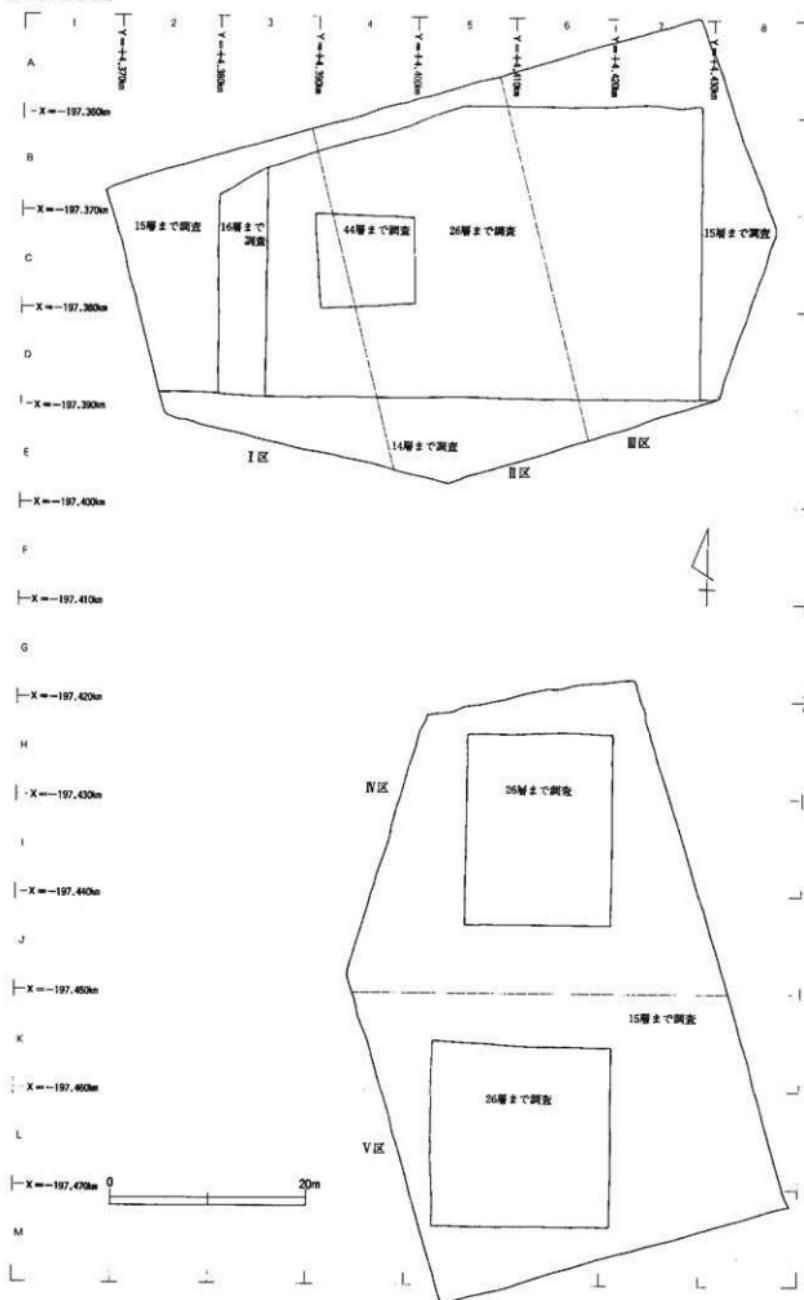
まず調査区の周囲に土層観察と排水を兼ねた側溝を掘って基本層序の確認を行い、同時に水田土壌の可能性のある層も確認した。その結果大部分の層において水田跡の存在が予想されたため、掘り下げに際しては一度に直下層を検出せずにやや上のレベルで止め、あとは少しづつ削り込んでいくことによって畦畔上面の確認を試みた。

(2) 畦畔・水田面の検出

畦畔上面の確認後は畦畔と耕作土上面の検出を行ったが、ほとんどの場合において水田耕作土が連続して堆積しているために、上層の耕作土が直下層のみならず4～5層下まで入り込み、また下層の土をブロック状に巻き上げている。このため平面上にある層の耕作土上面を検出しようとした場合、目的の層が露出し始めた段階においては2～3種類の土が混在した面が検出されることになる。このように耕作土上面が上層の耕作土によって搅乱されている場合、どの程度目的の層を露出させれば本来の耕作土上面に近い状態になるか判断し難いのが現状である。調査時には検出しようとする層が見た目で多くを占める面(遺存状況によって異なるが大体6～8割程度露出する面)をもって一応耕作土上面とした。これは畦畔を確認する際においても同様である。したがって耕作土が連続する場合、検出された畦畔の高さや水田面の標高については上層の水田耕作の状況によって測定値が左右されることが明らかであり、これらについては参考値程度として理解すべきものと考えている。なお、平面形についてはこれに比べて本来の畦畔との差異は少ないとと思われる。

(3) 遺物の取上げ

1・2層の遺物については各区ごとに取り上げたが、3層以下は破片1点ごとに地点、層位、標高を記録して随時取り上げた。このうち遺物の層の認定については、前述したように複数層の土が同一面で混在する状況であるので特に留意したが、結果的には他層からの混入遺物を完全に区別することはできなかった(第5章第1節参照)。



第5図 調査区配置図

第4節 調査経過・その他

1. 調査経過

(1) 昭和63年度

1年目の調査はI～III区を対象とし、昭和63年5月9日から開始した。重機によって1層（現耕作土）を除去した後に断面観察によって基本層序の確認を行ったところ、2～12層までは全て水田土壤と考えられ、その下にも自然堆積層をはさんで水田土壤の可能性のある層が何層か認められた。ただ2層は部分的に遺存するのみであり、遺構の検出は困難であると判断して精査は3層から実施した。3層上面では土坑・溝を検出したが、3層自体の遺存状況はかなり悪く、そのため畦畔の確認にはかなりの時間を要した。

6月14日には4層水田跡の確認作業を開始したが、4層も遺存状況が悪く、部分的に畦畔を検出できたのみであった。その後6月23日から5層水田跡の調査を行ったが、畦畔を6層の畦畔とほぼ同一面で確認したため、両者を混同してしまい、このため結果的に5・6層は同時の調査となった。

7～12層水田跡は条里型の水田跡である。7層水田跡の調査は7月5日から開始し、その後8・9層水田跡の調査を経て8月26日には10層水田跡の調査に入った。10層水田跡ではI～III区同時の写真撮影を行った。

12層水田跡は9月27日から調査を開始し、それと並行して10月15日からは13層の調査を行った。13層上面では溝跡や土坑などが検出された。

10月20日からは15層水田跡の確認作業を開始した。15層は古墳時代と推定され、砂層（14層）によって覆われているため遺存状況はかなり良好であると予想された。調査の結果、第15次調査と同様に小区域の水田跡が調査区全面で検出され、11月8日にはI～III区同時の全景写真撮影を完了した。

16～26層は古墳時代前期以前の層で、大部分が弥生時代に属する水田土壤である。16層では畦畔は確認できず、上面で水路を検出したのみであったが、11月11日に開始した18層の調査では水路のほか小区域の水田跡を検出した。その後19～21層の自然堆積層を除去し、11月28日には22層の水田跡を確認した。22層では畦畔は確認できなかったが、耕作域と非耕作域および擬似畦畔B・水路などを検出した。

12月5日には23層の調査に入り、畦畔は確認できなかったものの耕作域と非耕作域を確認できた。

12月8日からは25層の調査を行い、水路の他大畦畔を伴う水田跡を検出した。断面観察で予想された水田跡はあと1面（26層）が残っていたが、その調査は3月に実施することとして12月26日で一旦野外調査を中断した。

翌年3月8日、野外調査を再開して26層水田跡の確認作業に入るとともに調査区壁面の断面図作成を開始した。26層では大畦畔とその直下の擬似畦畔Bを検出した。その後3月24日までに水田跡の調査と調査区壁面の断面図作成、プラント・オパール分析用試料採取を終了した。この時点ではさらに下層の試掘調査が残っていたが、それは4月以降にIV・V区の調査と並行して行うこととしてこの年度の調査を終えた。

(2) 平成元年度

この年度はI～III区で残った27層以下の調査と新たにIV・V区の調査を実施した。27層以下の調査はII区の中央部に10×10mの試掘区を設けて重機で27層以下を約1.5m掘り下げ、あとは人力で掘り下げることした。4月25日から開始した調査は湧水に悩ましながらも疊層上面に達し、5月18日に終了した。

IV・V区は重機で1層を除去した後、5月1日から精査を開始した。調査はI～III区同様に3層から行ったが、基本層序はほとんどI～III区と同じであったため、遺構の確認は比較的容易であった。

1～10層までは前年度とほぼ同様な水田跡を検出したが、11層水田跡はV区で初めて確認した。

8月10日には12層の調査を終え、13層以下の調査を開始した。13層上面ではI～III区と同じく細い溝状遺構を検出したが、それに加えて幅の広い自然流路も確認している。

9月1日からは15層の調査に入り、前年度検出した小区画水田跡が全面に広がることを確認した。この水田跡ではプラント・オパールの平面分布を調べるために平面的な試料採取を行った。

10月24日からは16層以下の調査に入ったが、この層からIV・V区共に調査区を縮小した。18層では前年度検出した小区画の水田跡は検出できなかったが弥生土器が一括して出土し、水田跡の時期決定のための資料を得ることができた。22層以下26層までの各層の調査では、24層水田跡を除いてI～III区の水田跡と対応することができた。なお、26層のみは畦畔を検出することができなかつたが、他の層では畦畔を検出できた他に耕作域と非耕作域との境界等を確認でき、12月15日で野外調査をすべて終了した。

2. 普及活動

2年間の調査中、一般市民および遺跡周辺の小学校を対象として、埋蔵文化財への理解と关心を深めてもらうために以下のような普及活動を行った。

(1) 現地説明会

一般市民を対象とし、IV・V区で実施。

15層水田跡（古墳時代中期）を公開するとともにI～III区も含めたこれまでの調査成果を公表した。

平成元年10月12日 記者発表

10月14日 現地説明会－午後2時から開始し、約130名の市民が参加した。

(2) 体験学習

大野田小学校6年生児童（約120名）を対象とし、I～III区で実施。

昭和63年7月5日 事前見学－児童に体験学習をする調査現場の状況を知ってもらうことと、調査の方法を実際に見てもらうことを目的とした。

10月4日 事前授業－仙台市内の主な遺跡を紹介するとともに、体験学習の際の注意点を説明。

10月11日 体験学習－3班に分かれて12層水田跡の確認作業に参加する。スコップ、草ヶゼリ、一輪車等の器材を実際に使用する。

11月11日 事後見学－自分たちが発掘した場所のその後の調査状況を児童に知ってもらうことを目的とした。



現地説明会

(3) 見学会

八木山小学校 6年生児童を対象とし、平成元年 6月16日にIV・V区で実施した。IV区 8層水田跡の平面図作成と V区 9層水田跡の確認作業を見学した。



体験学習



体験学習（事前見学）

第2章 基本層序

基本層序は全部で44層確認した。これらのうちa・bの呼称を用いている層があるが、これは水田耕作土とその母材層となった自然堆積層との関係が明らかである場合についてのみ使用している。また、薄い縞状の自然堆積層が連続する場合本来的には分層が困難であるが、一応色調・土質が大きく変化する部位をもって層面とした。

また、27層以下については部分的な調査に留まっているので、層の広がりなどについては不明である。

基本層序を大別すると、1～2層がシルト、3～13層が粘土、14層が砂及びシルト、15～18層が粘土、19～34層が泥炭質粘土、35～42層が粘土、42層が砂、44層が砂砾である。

各層の状況は以下のとおりであるが、このうち水田耕作土と思われる層については第3章の本文中でさらに詳しく記述した。

なお、本調査区のI～III区は第15次調査（齊野他：1987）V区の南側に隣接する所以両調査区间における層位の対応を試みているが、これは最終的に両調査区間の構造の対応関係に係わってくるためここでは取り扱わず、第5章で記述する。

1 層 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト。酸化鉄を少量含み、層下面には厚さ1～1.5cmの酸化鉄集積層がある。厚さは6～25cmで、平均15cm程度である。

下面是凹凸が少ない。下層への食い込みは2～3層中で止まっているが、部分的に5層中にまで達する。
調査区全域に分布し、近・現代の水田耕作土である。

2 層 2.5Y7/2 灰黄色シルト。酸化鉄を少量含む。

厚さは1～24cmで、平均3cm程度である。

下面是凹凸が少ない。下層への食い込みの大部分は3層中で止まっているが、4層中にまで達する場合もある。

調査区のほぼ全域に分布するが、1層の搅乱によって分布の途切れる場所もある。近世～近代の水田耕作土である。

3 層 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土。酸化鉄を少量、マンガン粒を多量に含む。層下面には薄い酸化鉄の集積層がある。

厚さは平均4cm程度で、下面是比較的凹凸がある。

調査区全域に分布するが、上層の搅乱によって分布の途切れる箇所がある。近世の水田耕作土である。

4 層 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。

厚さは平均4cm程度で、下面是凹凸がある。

調査区全域に分布するが、上層の搅乱によって分布の途切れる箇所がある。中世の水田耕作土である。

5 層 10YR4/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。

厚さは平均5cm程度で、下面是凹凸が激しい。

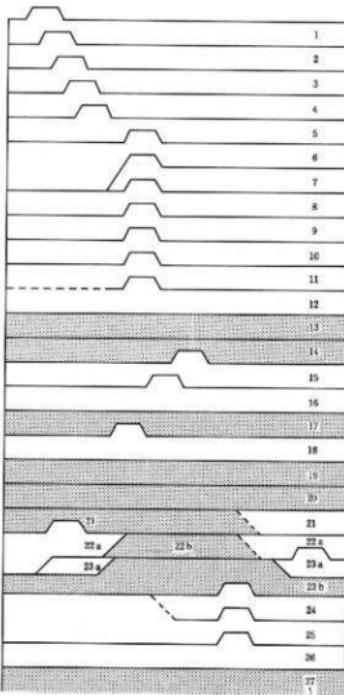
調査区全域に分布する。中世の水田耕作土である。

6 層 10YR3/2 黒褐色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。10YR6/6 明黄褐色シルト質粘土を多量に含む。

厚さは平均6cm程度で、下面是凹凸が激しく、7層を広範囲に搅乱する場合がある。

調査区全域に分布する。平安時代～中世の水田耕作土である。

7 層 2.5Y7/2 灰黄色粘土。酸化鉄・マンガン粒・灰白色火山灰粒をわずかに含む。



第6図 基本層序模式図 ■スクリントーンは水田耕作土以外の層

厚さは平均4cm程度で、下面是凹凸が激しい。

I～III区の北西部は5・6層の搅乱によって遺存しないが、その外は全域に分布する。平安時代の水田耕作土である。

8 層 2.5Y5/2暗灰黄色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。灰白色火山灰ブロックを部分的に含み、同粒子を少量含む。

厚さは平均10cm程度で、下面是凹凸が激しく、9層を広範囲に搅乱する場合がある。

調査区全域に分布する。平安時代の水田耕作土である。

9 層 2.5Y6/2灰黄色粘土。酸化鉄・マンガン粒をわずかに含む。灰白色火山灰ブロックを部分的に含み、同粒子を多量に含む。

厚さは平均5cm程度で、下面是凹凸が激しい。

I～III区は大体全域に分布するが、IV・V区は8層の搅乱によってほとんど遺存しない。平安時代の水田耕作土である。

10 層 10YR5/2灰黄褐色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。灰白色火山灰ブロックを層上半部を中心と含む

か、あるいは層上面に乗せる。

厚さは平均10cm程度で、下面是凹凸が激しい。

調査区全域に分布する。平安時代の水田耕作土である。

- 11 層 10YR4/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少量含む。

厚さは1~26cmで、平均6cm程度である。下面是凹凸が激しい。

IV・V区ではほぼ全域に分布するが、I~III区では確認できなかった。平安時代の水田耕作土である。

- 12 層 10YR4/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄を少量、マンガン粒を多量に含む。

厚さは1~22cmである。平均はI~III区が10cm程度、IV・V区が5cm程度である。下面是凹凸が激しい。

調査区の全域に分布する。主に奈良~平安時代の水田耕作土である。

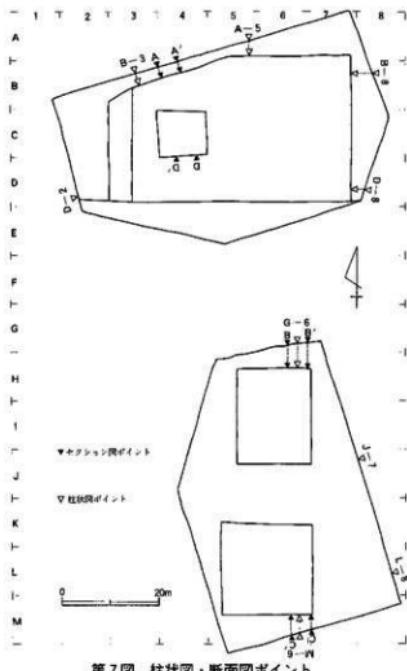
- 13 層 10YR3/2 黒褐色粘土。分解があまり進んでおらず、10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土と、2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土を多量に含む。

厚さは1~22cmで、平均4cm程度である。下面是凹凸が激しい。

12層によってかなり搅乱されており、特にI区にはほとんど遺存しない。耕作土の可能性もあるが、上面では溝跡などが検出されたのみである。

- 14 層 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルトと10YR7/6 明黄褐色砂の混合。酸化鉄を多量に含み、マンガン粒を少量含む。

I~III区に比べてIV・V区の方がやや粘性があり、また層上部に比べて下部の方がやや粘性がある。



第7図 柱状図・断面図ポイント

厚さは1~22cmで、平均はI~III区が10cm程度、IV・V区が20cm程度である。下面是凹凸が激しいが、これは15層上面の凹凸と考えられる。

調査区の全域に分布し、短期間の洪災などによってもたらされた自然堆積層と思われる。

- 15 層 10YR6/4 に近い黄褐色粘土。酸化鉄・マンガン粒を少々含み、炭化物粒をわずかに含む。

厚さは2~23cmで、平均はI~III区が10cm程度、IV・V区が6cm程度である。下面是凹凸が激しい。

調査区の全域に分布し、古墳時代の水田耕作土である。

- 16 層 10YR6/2 灰黄褐色粘土。酸化鉄を層上部に多く含み、下部に少量含む。マンガン粒を少量含む。

厚さは3~36cmで、平均15cm程度である。下面是凹凸が激しい。

調査区の全域に分布し、弥生時代~古墳時代の水田耕作土である。

- 17 層 2.5Y8/6 黄色シルト。IV・V区はやや色調が暗くなる。部分的に10YR7/3 に近い黄褐色粘土と10YR5/3 に近い黄褐色粘土との互層になる。

厚さは1~26cmで、平均2cm程度である。下面是凹凸が少なく、下層への食い込みはほとんど見られない。

調査区の全域に分布するが、16層によってかなり搅乱されている。自然堆積層と考えられる。

- 18 層 2.5Y6/2 灰黄色粘土。IV・V区はやや色調が暗い。酸化鉄・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。

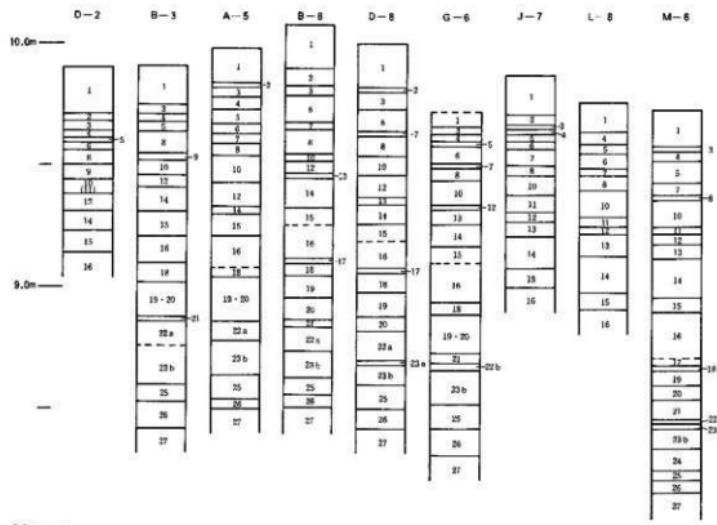
厚さは1~28cmで、平均10cm程度である。下面是凹凸が激しい。

調査区の全域に分布し、弥生時代の水田耕作土である。

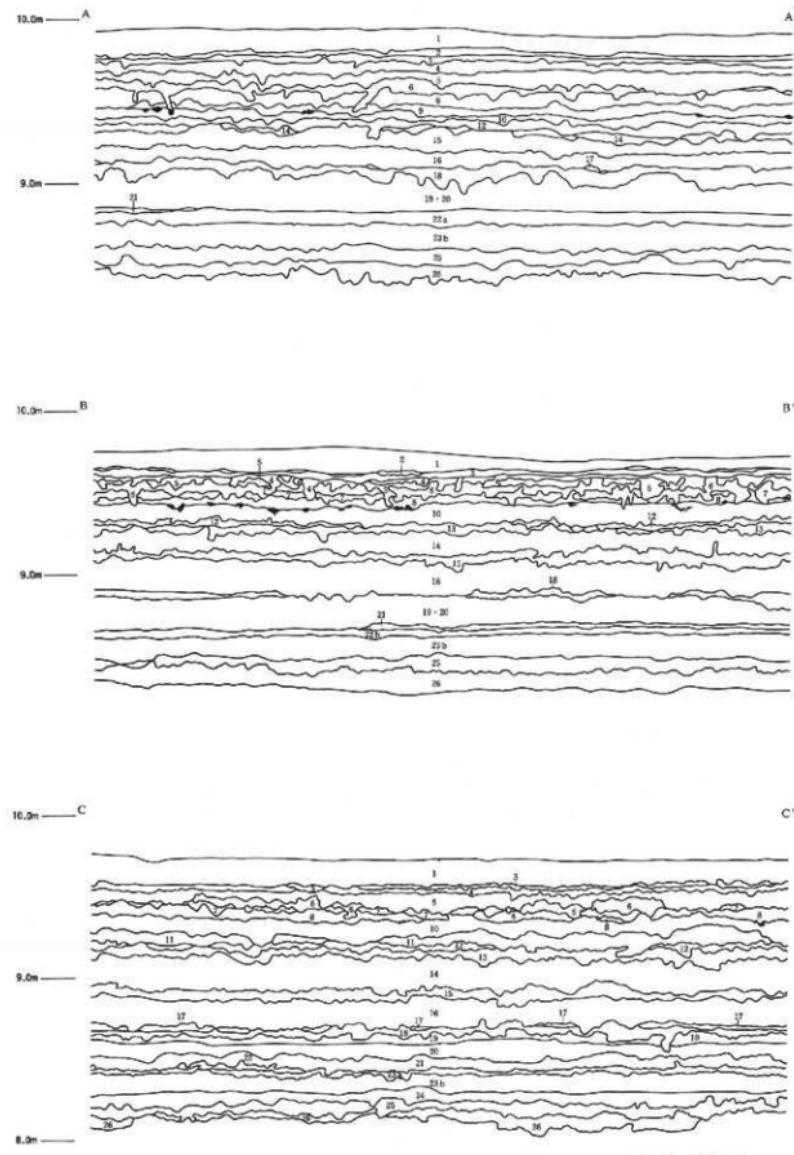
- 19 層 2.5Y7/2 灰黄色粘土と10YR1.7/1 黒色泥炭質粘土との互層。

厚さは7~20cmで、平均10cm程度である。下面是凹凸が少なく、ほぼ平坦である。

調査区の全域に分布するが、20層と区別できない箇所もある。



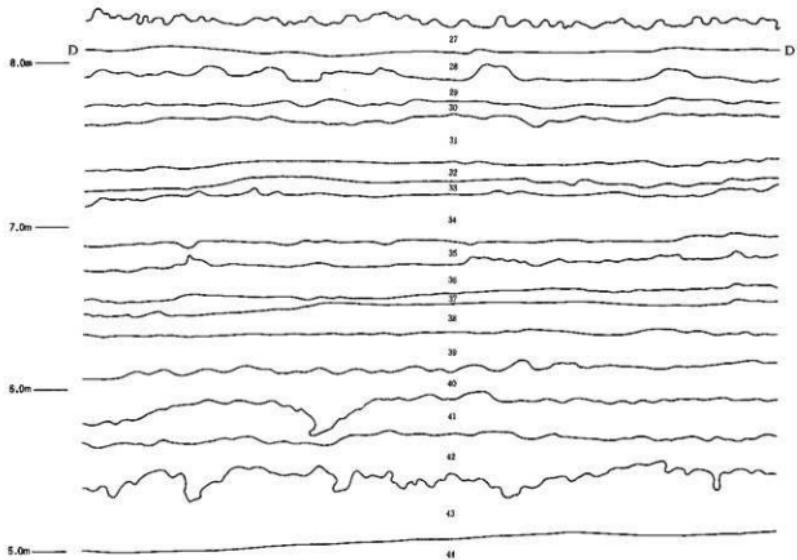
第8図 基本層序柱状図



第9図 調査区縦面断面図(1)

*黒い部分は灰白色火山灰

- 20 層 2.5Y5/1 黄灰色粘土・2.5Y7/2 灰黄色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。19層に比べて分解が進み、特に層下半は明瞭な互層とはなっていない。
 厚さは 6 ~ 19cm で、平均は I ~ III 区が 14cm 程度、IV・V 区が 8cm 程度である。
 下面はほぼ平坦であるが、部分的に凹凸がみられる箇所もある。
 調査区の全域に分布する。
- 21 層 I ~ IV 区では 2.5Y7/2 灰黄色粘土、V 区では 10YR7/3 に近い黄橙色粘土である。両層は層相も異なるため本来は分層すべきであるが、新旧関係が不明なため一応同一層とした。
 厚さは 1 ~ 7cm で、平均 3cm 程度である。下面是 I ~ IV 区ではほぼ平坦であるが、V 区では凹凸が激しい。
 調査区のほぼ全域に分布するが、V 区を除いてはやや断片的な分布である。
 V 区においてのみ水田耕作土の可能性がある。
- 22 a 層 10YR4/2 灰黃褐色粘土。炭化物粒をわずかに含む。
 厚さは 2 ~ 17cm で、平均は I ~ III 区が 12cm 程度、V 区が 5cm 程度である。下面是凹凸がある。
 I・II 区の北部と III 区の東部及び V 区に分布する。弥生時代の水田耕作土である。
- 22 b 層 10YR5/2 黄灰褐色粘土・10YR3/2 黑褐色粘土・2.5Y2/1 黑色泥炭質粘土の互層。
 厚さは 4 ~ 19cm で、平均は I ~ III 区が 13cm 程度、IV 区が 5cm 程度である。下面是ほぼ平坦である。
 22 a 層が分布しない箇所にのみ認められ、22 a 層水田跡の非耕作域となっている。
- 23 a 層 10YR3/2 黑褐色泥炭質粘土。10YR3/1 泥炭質粘土を少量含む。炭化物粒をわずかに含む。



第10図 調査区壁面断面図(2)

- 厚さは1～8cmで、平均4cm程度である。下面是凹凸がある。
- III区の東部とV区の中央～南西部に分布する。弥生時代の水田耕作土である。
- 23 b 層 10YR6/2 灰黄褐色粘土・10YR4/2 灰黄褐色泥炭質粘土・10YR1.7/1 黒色泥炭質粘土の互層。
厚さは8～22cmで、平均17cm程度である。下面是ほぼ平坦である。
調査区の全域に分布し、23 a 層が分布しない箇所では23 a 層水田跡の非耕作域となっている。
- 24 層 2.5Y5/2 暗灰黄色泥炭質粘土。
厚さは2～18cmで、平均7cm程度である。下面是凹凸が激しい。
V区にのみ分布し、弥生時代の水田耕作土である。
- 25 層 10YR5/2 灰黄褐色泥炭質粘土。
厚さは1～14cmで、平均7cm程度である。下面是凹凸が激しい。
調査区の全域に分布し、弥生時代の水田耕作土である。
- 26 層 10YR4/2 灰黄褐色泥炭質粘土。
厚さは1～16cmで、平均6cm程度である。下面是凹凸が激しい。
調査区の全域に分布し、弥生時代の水田耕作土である。
- 27 層 10YR4/2 灰黄褐色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約20cmである。なお、本層以下には水田耕作土は認められなかった。
- 28 層 上半部は2.5Y4/1 黄灰色粘土、下半部は2.5Y4/1 黄灰色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約18cmである。
- 29 層 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土・10YR1.7/1 黑色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約20cmである。
- 30 層 10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土。厚さは約10cmである。
- 31 層 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト・2.5Y1.7/1 黑色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約30cmである。
- 32 層 2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約10cmである。
- 33 層 2.5Y4/1 黄灰色粘土。厚さは約8cmである。
- 34 層 10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土。厚さは約30cmである。
- 35 層 2.5Y4/1 黄灰色粘土。植物遺体をわずかに含む。厚さは約12cmである。
- 36 層 10YR1.7/1 黑色粘土。厚さは約20cmである。
- 37 層 2.5Y4/1 黄灰色粘土・10YR1.7/1 黑色泥炭質粘土の互層。厚さは約10cmである。
- 38 層 10YR1.7/1 黑色粘土。植物遺体をわずかに含む。部分的に2.5Y5/2 暗灰黄色粘土との互層になる。厚さは約20cmである。
- 39 層 10YR1.7/1 黑色粘土。植物遺体をわずかに含む。部分的に2.5Y5/2 暗灰黄色粘土とのやや不明瞭な互層になる。厚さは約22cmである。
- 40 層 10YR1.7/1 黑色粘土。植物遺体をわずかに含む。厚さは約25cmである。
- 41 層 上半部は2.5Y4/2 暗灰黄色粘土、下半部は10YR4/1 鹅灰色粘土。厚さは約25cmである。
- 42 層 2.5Y3/1 黑褐色粘土。厚さは約25cmである。下面是凹凸が激しい。
- 43 層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂。上部には42層の粘土粒子が混入する。厚さは約40cmである。
- 44 層 砂礫層。

第3章 検出遺構と出土遺物

検出した遺構は3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・18・22・23・24・25・26層の各水田跡と13層上面の溝・土坑・性格不明遺構群、及び3層上面で検出した1・2層段階と考えられる土坑がある。また、遺物は遺構の精査を実施した3層以下の各水田跡及び13・14・41層中から出土した他、1・2層中からも出土している。なお、これらの遺構・遺物については3層から順に記述し、1・2層のものについては最後に記載した。

第1節 3層水田跡

3層上面では3層水田跡を検出した。水田跡の時期は近世頃と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

畦畔と土坑からなっているが、部分的な検出であり、全体の構成については不明である。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は2層を削り込んでいく過程で確認した。3層自体が1・2層の耕作土によって広範囲に渡って搅乱されているため、畦畔・耕作土の遺存状況は極めて悪い。このため畦畔はII・III区で確認できたのみであり、またIV・V区においては耕作土上面の標高も測定不可能であった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層3層で暗褐色のシルト質粘土である。厚さは1~14cmで一定せず、平均は4cm程度である。下面は比較的凹凸があり、下層へ食い込んで搅乱している。この食い込みは大体4層中で止まっているが部分的には6層中にまで達する。なお層下面には薄い酸化鉄の集積層がある。

(4) 水田域

畦畔はII・III区で検出できたのみであるが、耕作土は途切れながらも調査区全面に認められるので、水田域も同様に調査区全面に広がるものと推定される。

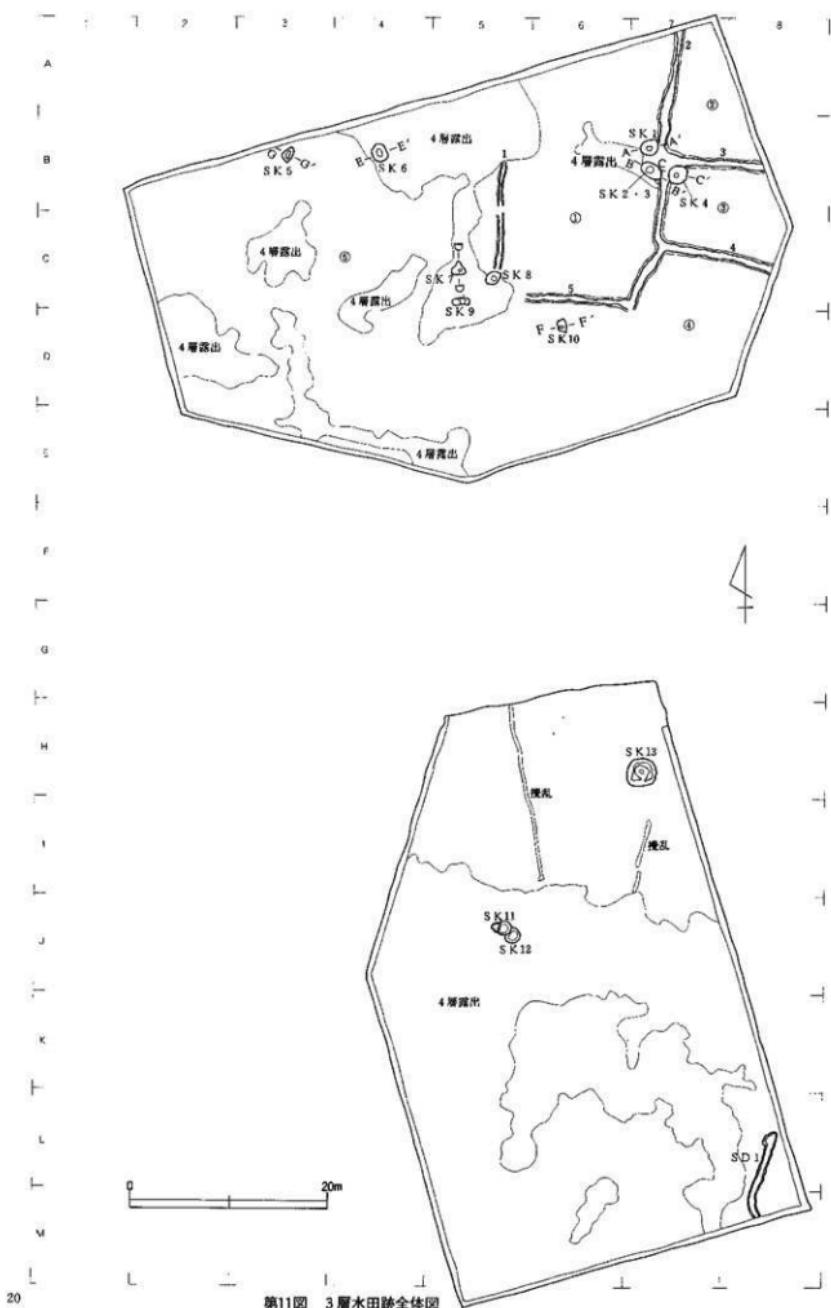
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1~5まで5条検出した。規模はNo.1がやや小さい他はほぼ同じである。方向はNo.2が南半部でやや屈曲する他はほぼ同一でやや東に振れている。なお等高線に対しては斜行しており、地形には余り影響されていないと推定される。

%	方 向	長さ(m)	上端標高(m)	下端標高(m)	高さ(m)	備 考
1	N=2°-E	11.9以上	22~50(40)	46~76(57)	1~2	
2	N=10°-E	28.9以上	32~96(62)	76~140(105)	1~2	やや屈曲
3	N=85°-W	9.6以上	52~83(63)	92~127(108)	4~6	
4	N=78°-W	11.1以上	52~82(84)	94~134(107)	2~4	
5	N=87°-W	10.2以上	42~84(54)	74~118(90)	1~3	

表2 3層水田跡畦畔計測表



第11図 3層水田跡全体図

(2) 水田区画

I～III区では①～⑤まで5区画認められるが、⑥はさらに分割されることが予想され、①についてもその可能性がある。IV・V区については全く不明であるため区画Noは付けなかった。平面形は方形を基準とすると考えられるが、区画ごとの面積については確定できるものはない。区画方法も不明である。

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	備考
①	9.72～9.79	(7)	北東～南西	27.5以上	?	推定13.3	?	341.8±上	さらに細分される可能性あり。
②	9.77～9.79	(2)	北東～南西	?	12.3以上	9.6以上	?	88.3±上	
③	9.74～9.78	(4)	北東～南西	?	7.4	11.4以上	9.1以上	92.1±上	
④	?～9.75	?	北東～南西	?	6.6±上	?	10.8以上	?	
⑤	?	?	北東～南西	?	?	?	?	?	

表3 3層水田跡水田区画計測表

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西へ緩やかに傾斜している。I～III区の標高は9.65～9.79mで、勾配は約2.5cm/10mである。各区画の水田面は全体の地形と同じ傾斜を示すが、全体を検出できた区画がないため各区画内及び区画間の比高差等については不明である。

(4) 溝跡

SD 1

V区の南東部に位置し、やや湾曲しながら南北に走る。検出した長さは約9mで、上端部58～110cm、下端部35～90cm、深さは約2cmである。堆積土は基本層2層による単層である。本来の掘り込み面が不明であるので1～3層のうちどの層に伴うものか断定できず、性格も不明である。

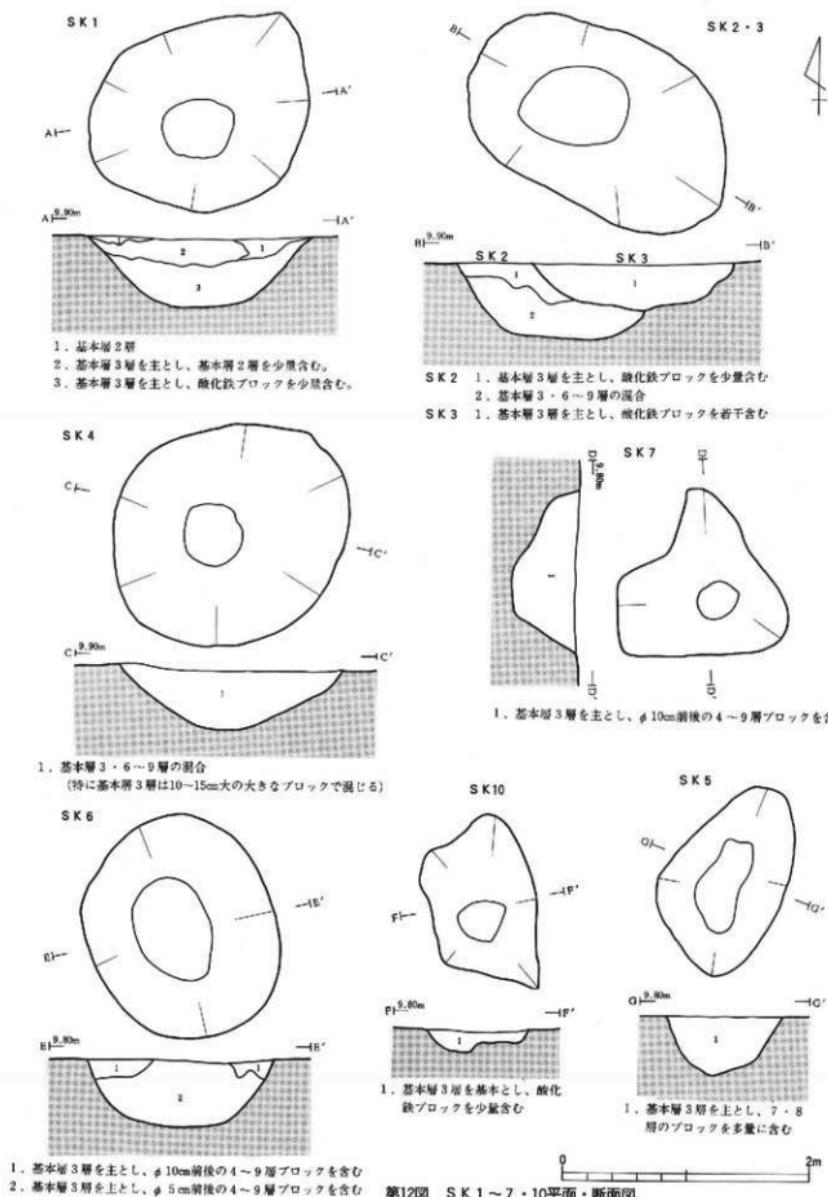
(5) 土坑

SK 1～7・10 (第12図・表4)

3層上面で計13基(SK 1～13)検出したが、これらのうち堆積土や出土遺物から判断して8基(SK 1～7・10)が3層水田跡に伴う土坑と推定される。なお、他の土坑のうちSK 9・11～13は1層段階、SK 8は2層段階のものと推定される。平面形は大体橢円形を基本としているが、断面形は数種類認められる。覆土は一気に埋め戻したものとそうでないものとの2種類が認められる。性格については断定できないが、SK 1～4は水田区画のコーナーに位置し、SK 5～7・10も畦畔3・5やその延長線に接することからこれらは3層の水田耕作に伴う可能性が高いと考えられる。

No.	平面形	断面形	長軸方向	大きさ(cm)	深さ(cm)	基本となる覆土	備考
SK 1	橢円	台形	N-50°-E	198×157	58	基本層2・3層	3層に伴う、2層の時間も機密か？
SK 2	橢円	台形	?	約170×136	62	基本層3層のブロック	3層に伴う
SK 3	橢円	舟底形	?	約160×140	38	基本層3層	3層に伴う、SK 2を切る
SK 4	橢円	舟底形	N-57°-E	206×180	53	基本層3層の大ブロック	3層に伴う
SK 5	不整円	無底形	N-25°-E	157×99	48	基本層3層のブロック	3層に伴う
SK 6	橢円	舟底形	N-22°-W	184×152	55	基本層3層のブロック	3層に伴う
SK 7	不整形	台形	-	138×137	55	基本層3層のブロック	3層に伴う
SK 8	不整形	台形	-	170×133	42	基本層2層のブロック	2層に伴う
SK 9	長方形	輪形	N-86°-E	185×67	約50	基本層1層のブロック	ゴム長ぐつ出土、1層に伴う
SK 10	不整円	不整形	N-14°-W	139×86	(20)	基本層3層	4層上面で確認、3層に伴う
SK 11	橢円	不整形	N-78°-W	192×143	68	基本層1層の大ブロック	1層に伴い、SK 12を切る
SK 12	ほぼ円	台形	N-19°-W	160×150	73	基本層1層のブロック	1層に伴う
SK 13	不整円	輪形	N-58°-E	317×295	72	基本層1層	1層に伴う

表4 3層上面検出土坑計測表



(6) 水田面の状況

1・2層の耕作が及ばなかった箇所は比較的平坦で、足跡等も認められなかった。

3. 出土遺物

遺物は耕作土中及びSK 1・2・5・7・10から土師器、赤焼土器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器、瓦、石器、金属製品、土製品、鉄滓などが出土した。破片総数は240点で、これらのうち遺構に伴う遺物を厳密に限定することはできなかったが、他層からの混入品が大部分を占めると推定される(第5章、第1節を参照)。なお、平面的な出土状況は耕作土上面と耕作土中に散在しており、まとまりは認められなかった。

遺構に伴う、あるいは伴う可能性がある遺物としては陶・磁器の一部、かわらけ、瓦、金属製品、土製品、鉄滓があげられる。ただし瓦、金属製品、土製品、鉄滓については年代決定の根拠に欠けるため確実ではない。

(1) 陶器・磁器

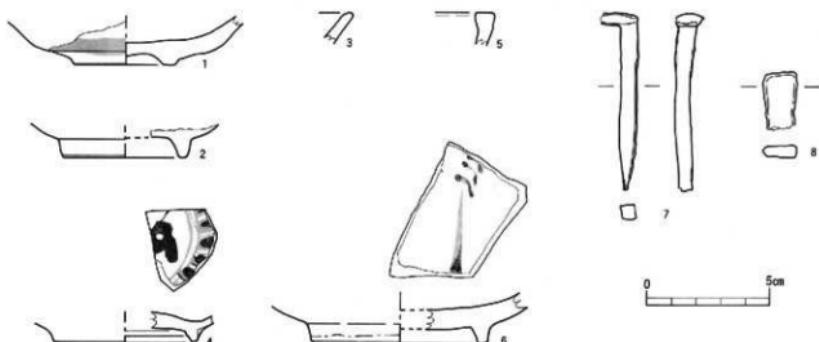
全部で36点出土した。3層水田跡に伴うと推定されるものは唐津、唐津系、志野産の陶器3点と中国産の磁器1点(第13図1~4、写真105-1・2・4・15)のみであるがこれらは16世紀から18世紀前半頃に比定される。その他は中世から近世以降のものまで新旧混在しており、このうち図化できたのは2点のみであった(第13図5・6、写真105-3・10)。なお、このうち代表的なものは写真を掲載した(写真105-3・5~14・16)。

(2) かわらけ

5点出土している。図化できるものはないが、3層に伴う可能性がある。

(3) 瓦

27点出土した。全て焼瓦片で、図化できるものはない。年代も不明である。



No.	陶・磁器 No.	写真図版	出土地点・層位	種別	器種	遺存度	底径(cm)	产地	特徴	年代
1	I-120	105-1	H-7、3層	陶器	盤	底部残	4.2	唐津	外周に一帯鉄化帯	16世紀末?
2	I-121	105-2	D-6、3層	陶器	盤	底部残	5.0	唐津系	灰陶	17世紀後半~18世紀前半
3	I-125	105-4	D-7、3層	陶器	皿	小片	?	志野		17世紀前半
4	J-67	105-15	S K10	磁器	碗	底部残	6.0	中国	査付、輪郭線、底部に放射状の割り痕	16世紀
5	I-123	105-3	C-2、3層	陶器	香炉	小片	?	古窯址?	緑灰釉の釉	中世?
6	I-130	105-10	S K1	陶器	蓋	底部残	7.2	相馬	灰陶、鉄鉢	19世紀前半~中葉

No.	写真図版	出土地点・層位	種別	遺存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
7	106-1	SK7	鉄製品・鉗	ほぼ完形	7.8	0.6	0.6	先端部が扁平になる、頭部一部欠損
8	106-2	C-8、3層	鉄製品・用具不明	複数のみ	過往2.3	1.4	0.5	

第13図 3層水田跡出土遺物(1)

(4) 金属製品

鉄製品2点（第13図7・8、写真106-1・2）、銅製品1点（第14図1、写真106-3）の他銅錢6点が出土した。銅錢のうち図化できたのは5点（第14図2～6）である。

(5) 土製品

灯明立て1点と土鍤1点が出土したが、図化はできなかった。

(6) 鉄滓

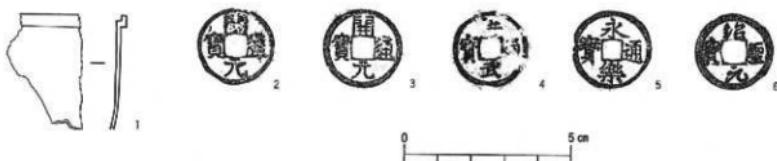
2点出土している。1点（写真106-4）は椀形滓の破片である。上面は比較的平滑であるが、下面是凹凸があり1cm前後的小石や砂粒を含んでいる。気孔は少なく、磁力はやや強い。他の1点（写真106-5）は全体に凹凸があり木炭の痕跡が認められる。気孔は少なく、磁力はやや弱い。肉眼観察では2点とも鍛冶滓と推定されるが、どの段階のものか限定はできない。

(7) 土師器・赤焼土器・須恵器

破片が159点出土した。量は他の遺物に比べて圧倒的に多いが、上下層も含めた全体的な遺物の出土状況から判断して、これらはすべて下層から巻き上げられたものと推定される。なお、砾石に転用されたと考えられる須恵器の破片が1点出土しているが（写真107-6）3層水田跡の時期に使用されたかどうか不明である。図化できるものはない。

(8) 石器

剝片が1点出土したが、下層から巻き上げられたものと推定される。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	備考
1	106-3	D-3、3層	銅製品・容器	口縁部、厚さ0.1cm
2	—	I-Ⅳ区、3層	銅錢	開元通宝
3	—	C-8、3層	銅錢	開元通宝
4	—	I区、3層	銅錢	洪武通寶
5	—	B-2、3層	銅錢	永樂通宝
6	—	C-7、3層	銅錢	嘉慶元宝

第14図 3層水田跡出土遺物（2）

第2節 4層水田跡

4層上面では4層水田跡を検出した。時期は中世と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

全体の構成については不明であるが、規模の異なる畦畔と溝からなっている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は3層を削り込んでいく過程で確認した。1～3層の耕作土によって攪乱されているため層上面の遺存状況が悪く、畦畔は一部で確認できたのみである。

(3) 耕作土

耕作土は基本層4層で、暗灰黄色のシルト質粘土である。厚さは1～16cmで一定せず、平均は4cm程度である。下面は凹凸があり、下層へ食い込んで攪乱している。下層への攪乱の大部分は5層中で止まっているが部分的には10層中にまで達する。

(4) 水田域

畦畔はII区南部とIV区で検出できたのみであるが耕作土は調査区全面に認められるので、水田域も同様に調査区全面に広がるものと推定される。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No 1～4まで検出した。規模は東西方向の畦畔（No 2・4）がやや大きい傾向がある。方向は畦畔1・2がほぼ真北あるいはそれに直交するが、3・4は20～25°東に振れる。等高線に対してはほぼ直交または平行している。

No	方 向	長さ(m)	上端幅(m)	下端幅(m)	高さ(m)
1	N-2°-E	8.0以上	40～62(55)	78～98(90)	1～4
2	N-86°-E	12.2以上	35～99(64)	73～135(99)	1～4
3	N-20°-E	11.5以上	22～54(43)	58～86(76)	1～3
4	N-65°-W	24.5以上	42～115(72)	70～147(102)	1～3

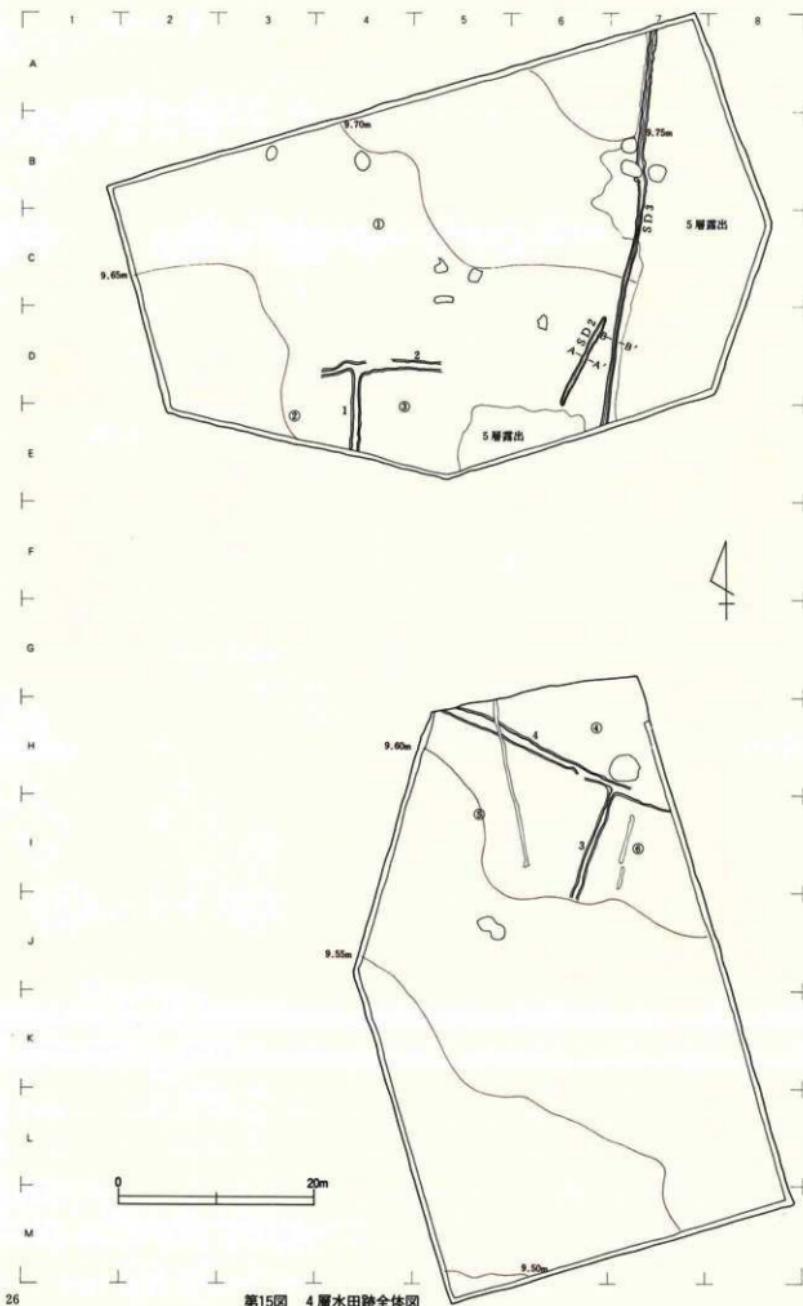
表5 4層水田跡畦畔計測表

(2) 水田区画

水田区画は6区画認められるが全体が判るものはない。このため平面形や面積は不明である。区画の方法については検出できた畦畔が少ないため断定はできないが、等高線に平行してやや規模の大きな畦畔（No 2・4）を配し、それに直交して小規模な畦畔（No 1・3）が取り付いていた可能性がある。

No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	備考
①	9.62～9.77	(15)	北東～南西	?	?	?	?	?	さらに細分される。
②	9.61～9.67	(6)	北東～南西	8.0以上	?	?	?	?	
③	9.54～9.68	(4)	北東～南西	?	7.9以上	?	8.1以上	?	
④	9.60～9.64	(4)	東～西	?	?	19.5以上	?	?	
⑤	?～9.62	?	北東～南西	11.5以上	?	?	18.7以上	?	
⑥	?～9.64	?	北東～南西	?	14.4以上	?	6.1以上	?	

表6 4層水田跡水田区画計測表



(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西へ緩やかに傾斜している。標高は9.47~9.77mで、勾配は約2.5cm/10mである。各区画の水田面は全体の地形と同じ傾斜を示すが、全体を検出できた区画がないため各区画間及び区画内の比高差等については不明である。

(4) 溝跡

SD 2・3 (第16図・表7)

4層上面で確認した。堆積土は両者とも基本層3層が落ち込んでいる。本来の掘り込み面が不明なため3・4層のいずれに伴うものか断定はできないが、方向からするとSD 2は3層、SD 3は4層に伴う可能性がある。性格については、水の流れた痕跡が認められないことから水路ではないと考えられる。^(註1)

(5) 水田面の状況

上層(特に3層)の耕作による擾乱によって荒れており、耕作痕や足跡などは確認できなかった。

3. 出土遺物

遺物は土師器、赤焼土器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器、瓦、石器、金属製品、鉄滓などが出土した。破片総数は178点で、層中及び他層出土の片との接合関係によって修正すると164点となるが、これらのうち遺構に伴う遺物を厳密に限定することはできず、他層からの混入品が大部分を占めると推定される。なお、平面的な出土状況は耕作土上面や耕作土中に散在しており、まとまりは認められなかった。

遺構に伴う、あるいは伴う可能性がある遺物としては陶磁器の一部、かわらけ、金属製品、鉄滓があげられる。ただし金属製品、鉄滓については年代決定の根拠に欠けるため確実ではない。

(1) 陶器・磁器

全部で26点出土した。このうち遺構に伴う可能性のあるものとしては瀬戸、常滑及び座地不明の中世陶器片計6点と中国産の磁器5点があり(写真107-1・3~6、108-2~6)、1点が図化できた(第17図1)。その他は古代末から近世のものまで新旧混在しており、図化できたのは3点(第17図2~4、写真107-2・9、108-1)であるが、代表的なものは写真を掲載した(写真107-7・8・10)。

(2) かわらけ

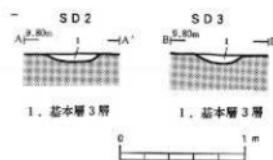
破片7点のうち1点が図化された(第17図5、写真108-7)。比較的肉厚の小皿である。

(3) 金属製品

鉄製品3点と銅鏡1点、鉛玉1点が出土した。鉄製品は図化できたのは1点(第17図6、写真108-8)で、一端がやや幅広で偏平、もう一端が細い棒状を呈している。細い方の端部近くには段が見られるが、これは鍔のために表面が削落したためと考えられる。用途は断定できないが地ならし用の農具の歯である可能性があり、この場合は幅広の端部側を木製の台にとり付けたと推定される。^(註2) 鉛玉(第17図7、写真108-9)は火薬筒の弾丸と推定され、規格は三匁五分玉と考えられる。

(4) 鉄滓

3点出土した。1点(写真108-13)は片面に粘土が付着した多孔質のもので、磁性はやや弱い。炉壁の一部と推定される。他の2点(写真108-11・12)は表面は凹凸があるが比較的平滑なもので磁性はやや強い。鍛冶滓の破片



第16図 SD 2・3断面図

No	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)
SD 2	N-25°-E	10.3	30~50	10~40	4.0~8.0
SD 3	N-7°-E	41.0	30~61	10~41	4.0~10.0

表7 SD 2・3計測表

と推定されるが、どの段階のものか限定はできない。

(5) 土師器・赤焼土器・須恵器

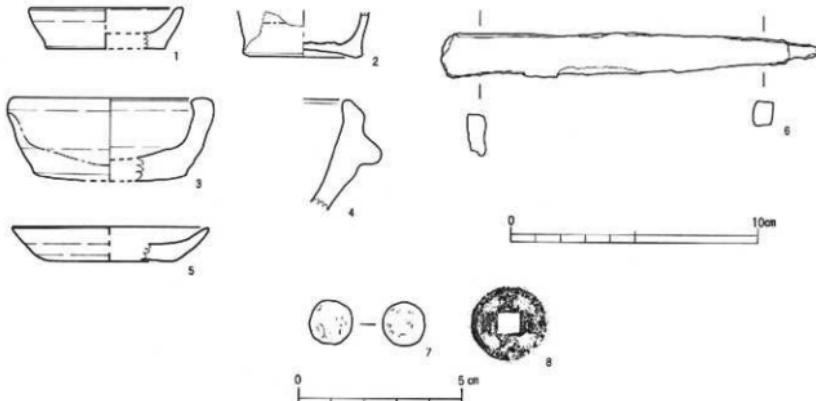
破片が124点出土した。量は他の遺物に比べて圧倒的に多いが、上下層も含めた全体的な遺物の出土状況から判断して、これらはすべて下層から巻き上げられたものと推定される。なお、磁石として転用されたと考えられる須恵器の破片が1点出土しているが（写真108-10）、4層水田跡の時期に使用されたかどうか断定はできない。図化できるものはない。

(6) 瓦

3点出土した。全て焼瓦片で、図化できるものはなく年代も不明である。

(7) 石器

剝片が4点出土した。すべて下層から巻き上げられたものと推定される。



No.	陶・磁器	写真図版	出土地点・層位	幅	剖面	造存度	法 規 格(cm)			產地	特 徴	年 代
							口径	底径	高さ			
1	I-147	107-1	L-4、4層	陶器	丸形直?	5%	6.3	4.8	1.7	瀬戸	内外面鉄錆、底部鉄配を有する	中世
2	I-148	107-2	J-6、4層	陶器	?	下部片	?	4.6	?	瀬戸	内面と体部中央の外壁に鉄錆	中世
3	I-161	108-1	H-5、4層	陶器	小鉢	5%	8.5	6.2	3.4	?	内面・体部中央の外壁に上部鉄錆	17世紀
4	I-158	107-9	J-6、4層	陶器	壺體	口縁小片	?	?	?	?	内外面鉄錆	暮末-明治
5	-	108-7	B-5、4層	かわらけ	小鉢	5%	8.0	6.0	1.4	-	ロクロ測量、底部鉄配を有する	-

No.	写真図版	出土地点・層位	種 別	造存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特 徴		
								口径	底径	高さ
6	108-8	M-6、4層	鉄製品・糞丸の鑑?	ほぼ完形	直径15.3	0.3-1.8	0.7-0.8	-	-	重畠75g
7	108-9	J-7、4層	鉄製品・糞玉	完形	-	径1.3	-	-	-	三枚瓦分重7g、重畠13g
8	-	J-5、4層	糞鏡	変形	-	-	-	-	-	悪灰通気、鏡による劣化が激しい

第17図 4層水田跡出土遺物

(注1) 富沢遺跡第24次調査（工藤・太田：1988）III層水田跡では、区画性を持った溝が検出されており、これは畦畔を構築する際に土を取った跡跡と考えられている。本来は畦畔脇の耕作土上面から掘り込まれていたと推定される。

(注2) 第5章第1節IIを参照。

第3節 5層水田跡

5層上面では5層水田跡を検出した。時期は中世と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

小畦畔によって区画されたほぼ同規模の区画によって構成されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は4層を削り込んでいく過程で確認したが、II・III区ではその際にやや掘りすぎたため直下の6層畦畔の上面も同時に露出させてしまう結果となった。さらに当初5・6層の畦畔を混同して検出した畦畔を全て6層のものとして捉えてしまった結果6層の耕作土上面まで掘り下げてしまい、このためII・III区では水田面の標高を測定することができなかった。層の状況は全体的に4層耕作土による擾乱の影響が大きく、畦畔・耕作土の遺存状況は悪い。特にIII・IV・V区の遺存状況が悪く、畦畔を全く検出できなかつた箇所もある。

(3) 耕作土

耕作土は基本層5層で、灰黄褐色の粘土である。厚さは1~22cmで一定せず、平均は5cm程度である。下面是凹凸が激しく、下層へ食い込んで擾乱している。下層への擾乱の大部分は6層中で止まっているが部分的には10層中にまで達する。

(4) 水田域

調査区全面に広がる。

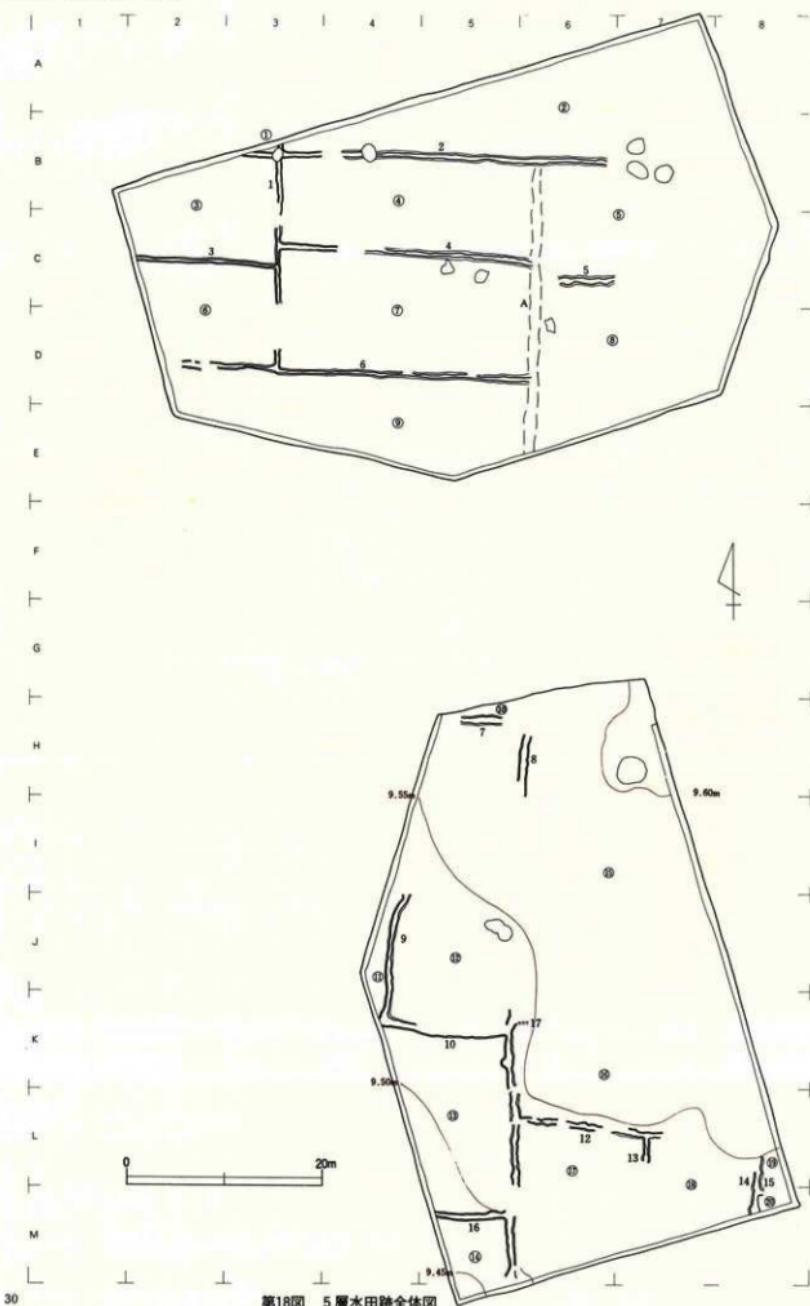
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1~17まで検出した。このうちNo.17はNo.11の東側ラインの北端部がわずかに東側に屈曲するので、この部分から東に向かってのびる畦畔があったと推定したものである。なお、その他にNo.5と7の位置関係から両者の間に南北畦畔Aが存在したことが推定できる(第18図の破線部分)。この想定さ

No.	方 向	長さ(m)	上堆幅(cm)	下堆幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-1°-E	22.7以上	15~49(35)	32~66(50)	1~2	
2	N-88°-W	36.9以上	23~65(41)	54~96(75)	1~2	
3	N-88°-W	14.2以上	27~42(35)	44~58(51)	1	
4	N-88°-W	25.7	32~78(45)	48~105(74)	1~2	
5	N-88°-E	5.8以上	41~77(57)	75~112(96)	1	
6	N-87°-W	35.5以上	22~62(38)	42~90(61)	1~2	
7	N-88°-W	4.2以上	40~76(61)	75~104(89)	1~2	
8	N-7°-E	5.5以上	49~81(69)	75~98(88)	1~2	
9	N-12°-E	13.3以上	38~81(49)	54~101(67)	1~2	やや蛇行、6層畦畔No.15とほぼ同位置
10	N-87°-W	12.8以上	59~100(71)	70~120(87)	1~2	
11	N-1°-E	26.6以上	30~108(59)	60~130(82)	1~3	6層畦畔No.12とほぼ同位置
12	N-84°-W	14.6以上	15~67(47)	38~88(64)	1	6層畦畔No.18とほぼ同位置
13	N-3°-E	2.4以上	32~60(41)	61~87(71)	1~2	部分的に検出
14	N-3°-E	4.9以上	39~95(61)	70~130(94)	1~3	
15	?	0.5以上	35~47(40)	60~70(66)	2	部分的に検出
16	N-89°-W	7.2以上	34~76(49)	57~93(72)	1~3	6層畦畔No.17と同位置
17	?	?	?	?	1	

表8 5層水田跡畦畔計測表

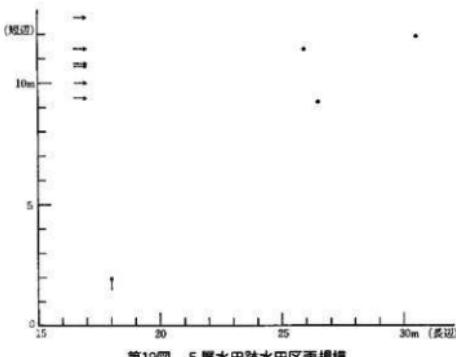


第18図 5層水田跡全体図

れる畦畔Aは6段階の畦畔No.3を踏襲するもので、南方の畦畔8から11へ連続していくと思われる。その他にはNo.11・12・16が6層水田の畦畔と同位置に造られたもので、No.9もほぼ同位置と言える。各畦畔の規模は大体同じで特に差異は認められない。方向はNo.9・12の振れがやや大きいほかはほぼ同じで、真北から平均2°程東に振れている。等高線に対してはIV・V区では斜行しているが、II・III区では水田面の標高を測定できなかったため不明である。

(2) 水田区画

水田区画は①～⑩まで20区画認められたが全体を検出できた区画はなく、また②・⑧・⑯のようにほとんど詳細が不明なものもある。ただ畦畔を推定して全体を復元できる区画が④・⑦・⑩と3区画あり、さらに区画の一辺の長さが判明している③・⑤・⑥・⑪・⑫・⑬も含めて比較すると、短辺9～13m、長辺26～31m程度の長方形を基調としていることが予想される(第19図)。なお、これらの区画はI～III区では東西方向の区画がまとまり、IV・V区では⑮・⑯を除いて南北方向の区画がまとまっている。



第19図 5層水田跡水田区画規模

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(a)	推定規模(m)	備考
①	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
②	?	?	東東→南西	?	?	33.0以上	?	?	?	さらに細分される?
③	9.63～9.66	(3)	東東→南西	推定10.8	?	14.3以上	?	139.1以上	10.8×?	
④	?	?	東東→南西	推定9.7	8.7	26.4	?	推定26.6	9.3×26.5	
⑤	?	?	?	?	?	推定11.4	5.8以上	5.5以上	11.4×?	
⑥	9.60～9.63	(3)	東東→南西	10.0	?	9.5以上	14.0以上	127.5以上	10.0×?	
⑦	9.61～?	?	東東→南西	推定10.6	12.2	推定25.3	推定26.4	推定303.0	11.4×25.9	
⑧	?	?	?	?	?	5.8以上	?	?	?	さらに細分される?
⑨	9.60～?	?	東→西	?	?	?	?	?	?	さらに細分される?
⑩	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑪	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑫	9.51～9.57(9.54)	(6)	東東→南西	推定30.5	12.4以上	11.9	?	?	推定343.2	30.5×11.9
⑬	9.50～9.53	(3)	東東→南西	18.0	?	7.3以上	12.7以上	184.3以上	18.0×?	
⑭	9.44～9.48	(4)	東東→南西	?	?	?	?	45.3以上	?	
⑮	9.53～9.61	(8)	東東→南西	?	?	?	?	?	?	さらに細分される?
⑯	9.53～9.58	(5)	北→南	?	9.4	14.6以上	?	?	9.4×?	さらに細分される?
⑰	9.50～9.54	(4)	東東→南西	?	14.3以上	?	12.7	176.1以上	?	×12.7
⑱	9.52～9.55	(3)	東東→南西	?	?	?	?	推定10.7	95.9以上	?
⑲	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑳	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出

表9 5層水田跡水田区画計測表

(3) 水田面の標高と傾斜

II・III区の標高を測定できなかったためI～III区については不明である。IV・V区の全体的な地形は北東から南西へ緩やかに傾斜している。標高は9.44～9.66mで、勾配は約3cm/10mである。IV・V区では全体を検出できた区画がないため各区画間及び区画内の比高差は大部分が不明である。ただ9.55mの等高線を見ると区画⑩の南西コーナーから南辺に沿うように湾曲しており、この付近の水田面は特に平坦に近くなっていることが読み取れる。

(4) 水田面の状況

上層（特に4層）の耕作による擾乱のために荒れており、耕作痕や足跡などは確認できなかった。

3. 出土遺物

遺物は土師器、赤焼土器、須恵器、かわらけ、陶器、磁器、瓦、石器、金属製品が出土した。破片総数は82点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると72点となるが、これらのうち遺構に伴う遺物を厳密に限定することはできず、他層からの混入品が大部分を占めると推定される。なお、平面的な出土状況は耕作土上面や耕作土中に散在しており、まとめは認められなかった。

遺構に伴う、あるいは伴う可能性がある遺物は非常に少なく、陶磁器の一部、かわらけ、金属製品のみである。ただし金属製品については年代決定の根拠がなく、確実ではない。

(1) 陶器・磁器

5点出土したが、このうち遺構に伴う可能性のあるものは渥美産の壺1点（写真109-1）と中国産の青磁2点（写真109-2・3）のみである。図化はできなかった。他の2点のうち1点は小片のため判別不能である。残りの1点は18世紀以降に比定されるもので、これは上層からの混入品と推定される。

(2) かわらけ

破片1点のみで、細片のため図化できなかった。

(3) 金属製品

銅鏡1点が出土した（第20図1）。

(4) 土師器・赤焼土器・須恵器

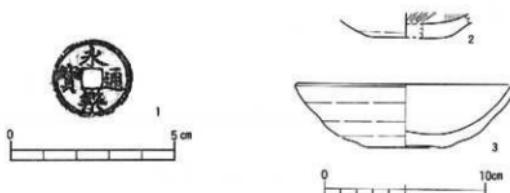
破片が60点出土した。量は他の遺物に比べて圧倒的に多いが、上下層も含めた全体的な遺物の出土状況から判断して、これらはすべて下層から巻き上げられたものと推定される。土師器1点と赤焼土器1点が図化できた（第20図2・3、写真109-4・5）。赤焼土器は他の赤焼土器と異なり、やや肉厚で胎土には砂粒をほとんど含まないものである。

(5) 瓦

焼瓦片が3点出土した。図化できるものはなく年代も不明である。

(6) 石器

側片が1点出土したが下層から巻き上げられたものと推定される。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	保存度	底径(cm)	縁(cm)	厚さ(cm)	特徴	備考
1	—	D-4, 5層	鏡	—	—	—	—	水素発光	

No.	写真図版	出土地点・層位	種別	保存度	底径(cm)	縁(cm)	高さ(cm)	色調	特徴	備考
2	109-5	J-3, 4~5層	土師器	杯	7	5.0	?	?	外腹灰褐色	ロクロ、回転糸切無開盤、内腹ヘラミガタ、黒色處理
3	109-4	J-K-5, 4~5層	赤焼土器	壺	13.3	5.5	4.0	0.41	による橙色	ロクロ、回転糸切無開盤

第20図 5層水跡跡出土遺物

第4節 6層水田跡

6層上面では6層水田跡を検出した。時期は平安時代末から中世頃と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

南北に走る大畦畔と多数の小畦畔によって規模の異なる区画が構成されており、その他に水田跡に伴うと考えられる掘立柱建物跡1棟が検出されている。

(2) 検出・遺存状況

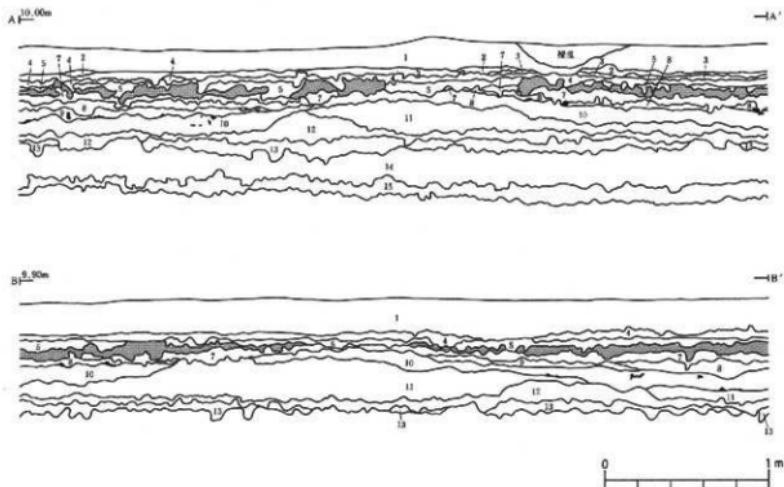
畦畔は5層を削り込んでいく過程で確認したが、前述したようにII・III区では5層水田の畦畔と同時に検出している。畦畔・耕作土共に4層耕作土による搅乱の影響が大きく、遺存状況は悪い。特にI区西部とIII・IV区の東部では状況が悪く、畦畔を全く検出できなかった箇所もある。

(3) 耕作土

耕作土は基本層6層で黒褐色の粘土である。明黄褐色のシルト質粘土が多量に（まれにブロック状を呈する）含まれるので、本来は7層上にこの明黄褐色シルト質粘土が堆積していて、その後6層の耕作土の母材の一部になつたと推定される。耕作土の厚さは1~20cmで一定せず、平均は6cm程度である。下面は凹凸が激しく、7層を広範囲に搅乱する場合がある。なお下層への食い込みは部分的に10層中にまで達する。

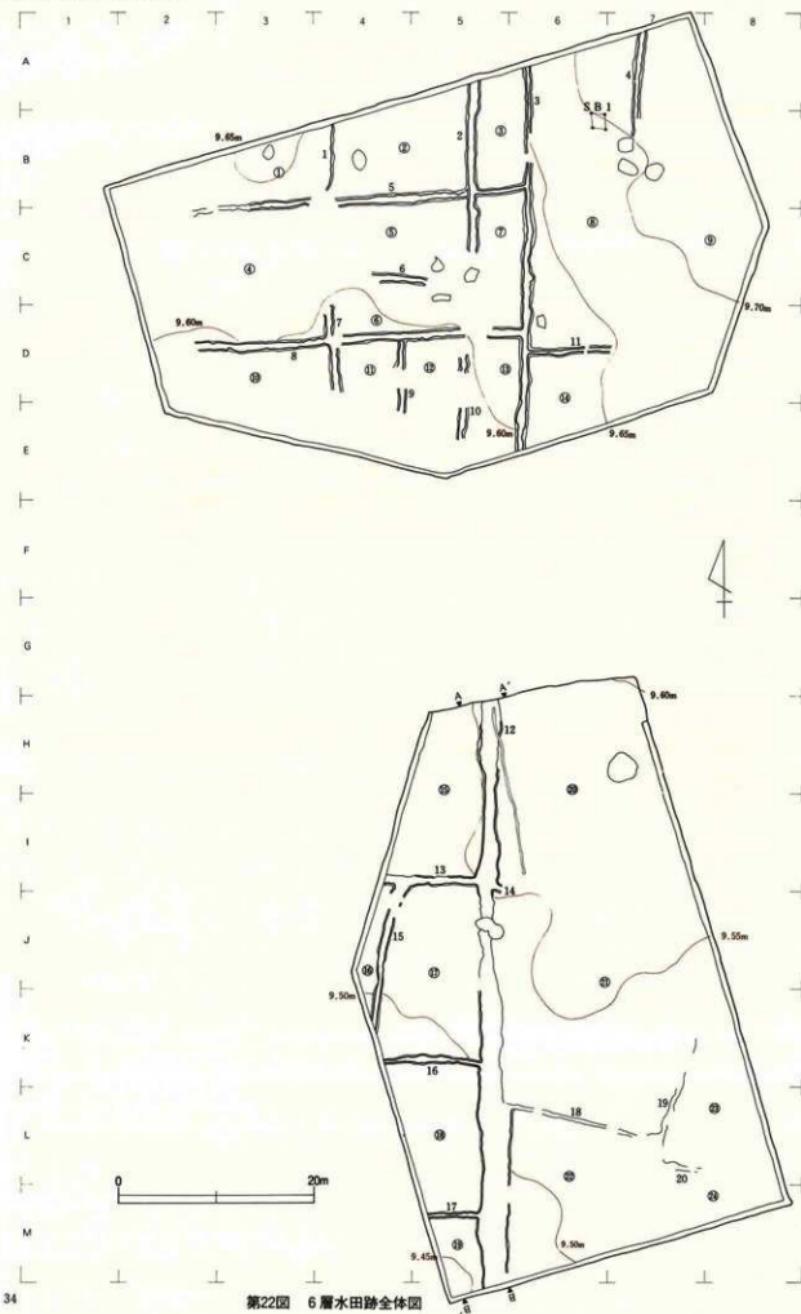
(4) 水田域

調査区全域に広がる。



第21図 6層水田跡大畦畔(No.12)断面図

※アミ点部分は6層水田跡耕作土
黒色部分は灰白色火山灰



第22図 6層水田跡全体図

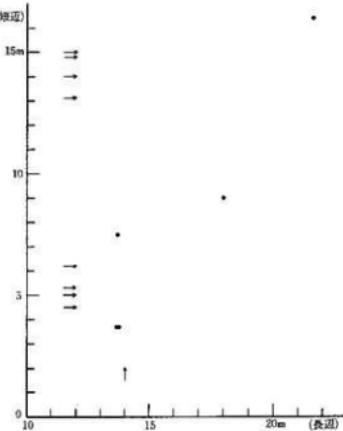
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～20まで検出した。そのうちNo.1は畦畔ではなく段差を検出しただけであるが、畦畔があった痕跡と考えられるので便宜的に畦畔No.1と付ける。No.12は7層水田の大畦畔（No.17）を踏襲して同位置に造られた大畦畔で、平均幅が他の畦畔の約2.5倍ある。その他、No.2・4・10・15も7層水田の畦畔を踏襲してほぼ同位置に造られた畦畔で、その中のNo.2・10は7層水田の大畦畔を踏襲したものであるが、規模はその他の畦畔とほぼ同じである。なお、No.2・10・12の下部には下層の大畦畔の盛り上がりが認められる（第21図、写真42・43）。方向はNo.15・18・19・20がやや大きく東に振れる他は大体南北を中心（東・西への振れが6'未満）としている。

No.	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N=6°-E	6.9±上	?	?	3~4	段差を確認
2	N=1°-E	17.4±上	48~106(71)	78~144(124)	2~6	7層大畦畔No.1と同位置
3	N=1°-E	39.2±上	22~97(50)	56~130(90)	2~9	区画の
4	N=4°-E	10.7±上	35~60(45)	74~106(91)	2~7	7層畦畔No.3とほぼ同位置
5	N=86°-E	33.6±上	24~85(50)	64~126(89)	1~4	
6	N=86°-W	5.5±上	44~74(55)	77~104(89)	1~3	部分的に検出
7	N=2°-W	2.5±上	46~78(63)	88~115(99)	1~4	
8	N=87°-E	33.1±上	40~84(64)	77~111(96)	1~7	
9	N=1°-W	7.3±上	28~78(50)	58~98(78)	2~3	部分的に検出
10	N=1°-E	8.6±上	38~74(56)	70~98(87)	1~2	部分的に検出、7層大畦畔No.1と同位置
11	N=88°-E	8.2±上	30~53(39)	63~82(70)	1~2	
12	N	59.5±上	100~343(252)	126~360(257)	1~4	大畦畔、7層大畦畔No.17と同位置
13	N=85°-W	9.3±上	47~82(68)	76~102(89)	1~3	
14	?	?	73~82(76)	88~97(91)	2	部分的に検出
15	N=12°-E	14.6±上	43~151(77)	67~178(102)	1~3	やや蛇行、7層畦畔No.11とは同位置
16	N=89°-W	9.9±上	30~88(53)	49~108(70)	1~3	
17	N=88°-E	5.1±上	28~51(38)	46~67(56)	1~3	
18	N=77°-W	13.6	?	27~48(38)	不 明	畦畔痕跡のみ確認
19	N=20°-E	10.9±上	?	41~70(66)	不 明	畦畔痕跡のみ確認
20	N=80°-W	3.1±上	?	39~48(45)	不 明	部分的に畦畔痕跡のみ確認

表10 6層水田跡畦畔計測表



第23図 6層水田跡水田区画規模

(2) 水田区画

水田区画は①～⑩まで24区画認められた。全体を検出できた区画はなく、IV・V区の東部では不明の部分が多い。畦畔を推定して区画を復元できるものは⑤・⑥・⑦・⑪・⑫の5区画であり、さらに区画の一辺の長さが判明しているものは②～④・⑪～⑬・⑯・⑰の8区画ある。なお、⑧・⑨は区画内の比高差が他の区画と比べて大きいことからさらに細分されると推定される。平面形は長方形を尾するものが多い。大きさはばらつきがあるため例外もあるが、大別すると大小2種類が認められる。③・⑥・⑦・⑪～⑬は短辺5m前後、長辺約14mの比較的小さな区画と推定され、一方②・④・⑮・⑯・⑰は短辺15m前後、長辺20m以上の区画と推定される（第23図）。区画の方法は明らかではないが、畦畔2～10～12と連続するラインは12層の段階から継続する条里型土地割の坪境であり、その他にも7層と同

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	堆積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	9.62~9.67	(5)	北→南	?	?	12.23以上	?	109.81以上	?	
②	9.58~9.61	(3)	東→西	10.5以上	7.5以上	14.0	?	124.31以上	? × 14.0	
③	9.60~9.63	(3)	北→南	11.62以上	11.1以上	4.5	?	55.31以上	? × 4.5	
④	9.60~9.61	(1)	ほぼ水平	推定13.1	?	13.21以上	13.01以上	253.51以上	13.1×?	
⑤	9.61~9.62(9.61)	1	東→西	推定 8.3	推定 6.7	推定13.4	推定13.9	推定101.5	7.6×13.7	
⑥	9.58~9.62(9.60)	4	北東→南西	推定 4.0	推定 5.2	推定13.6	推定13.9	推定64.9	4.6×13.8	
⑦	9.61~9.64(9.63)	3	西→東	14.1	推定13.4	推定 4.3	4.8	推定61.2	13.8×4.6	
⑧	9.63~9.71	(8)	北東→南西	?	28.82以上	8.2以上	?	?	?	さらに細分される
⑨	9.66~9.73	(7)	北東→南西	?	?	?	?	?	?	さらに細分される
⑩	9.58~9.59	(1)	ほぼ水平	4.7以上	?	?	13.2以上	134.62以上	?	
⑪	9.59~9.61	(2)	東→西	2.21以上	4.5以上	?	6.2	68.9以上	? × 6.2	
⑫	9.59~9.61	(2)	南→北	3.3以上	2.5以上	?	?	推定 5.3	74.9以上	? × 5.3
⑬	9.59~9.61	(2)	北→南	11.53以上	3.11以上	?	?	推定 5.0	72.4以上	? × 5.0
⑭	9.61~9.67	(6)	北東→南北	?	9.5	?	8.3以上	?	?	
⑮	9.52~9.55	(3)	ほぼ水平	17.9以上	?	9.0以上	?	125.4以上	?	
⑯	9.51~9.52	(1)	?	13.71以上	?	?	?	17.31以上	?	部分的に検出
⑰	9.49~9.53(9.51)	4	北→南	17.8	推定18.1	推定11.3	6.7	推定 164.2	18.0×9.0	
⑲	9.48~9.49	(1)	ほぼ水平	14.8	?	5.0以上	9.6以上	114.51以上	14.8×?	
⑳	9.44~9.47	(3)	北東→南西	7.31以上	?	?	4.9以上	32.2以上	?	部分的に検出
㉑	9.55~9.60	(5)	北東→南北	?	18.8以上	?	?	?	?	
㉒	9.53~9.57	(4)	北→南	?	21.6	16.4	?	推定 435.8	21.6×16.4	
㉓	9.49~9.51	(2)	北東→南西	?	17.61以上	?	?	推定 15.0	201.6以上	? × 15.0
㉔	9.50~9.54	(4)	北東→南北	?	8.31以上	?	?	?	125.6以上	?
㉕	9.56~9.52	(2)	東→西	?	?	?	?	54.6以上	?	部分的に検出

表11 6層水田跡水田区画計測表

位置に作られた畦畔もいくつかあるので、条里型土地割が一部残存していることは見て取れる。ただ、I～III区では畦畔2～10のラインよりもそれと平行する畦畔3の方が次の5層の時期まで継続して使用されることと、畦畔3を境にして西側には小さな区画が集中し東側とは状況が異なることから、この6層の時期には新たに造られた畦畔3～12のラインの方が基準となっていた可能性が高い。なお、条里型土地割はその痕跡のみが一部で認められるだけの状況であるので、大畦畔(No12)によって東西に分割された区域は「大区画=坪」とは捉えられず、したがって水田区画は一応小区画のみで構成されていると考えられる。

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西方向へ緩やかに傾斜している。標高は9.44～9.73mで、勾配は約3cm/10mである。各区画内の傾斜は大体において全体的な地形の傾斜と一致しているが、④・⑩・⑯・⑰のようにほぼ水平なものや⑦・⑫のように僅かではあるが地形とは逆方向に傾斜する区画も認められる。各区画間・区画内の比高差は全体を検出できた区画が少ないため不明なものが多いため、各区画間の比高差は1～3cm、区画内の比高差は大体10cm以内と推定される。

(4) 掘立柱建物跡

SB 1 (第24図・表12・写真20)

区画⑧の北部に位置する。実際に確認したのは7層上面であるが、堆積土は基本層6層であるので、6層の段階で機能していたと考えられる。1間×1間の建物で、柱間寸法は東西1.54m、南北1.62m、方向は周辺の畦畔同様にはぼ真北を示す。柱痕は確認できなかった。建物の性格は明らかではないが、水田区画内にあり、しかも簡易な建物であるので鳥追い小屋のようなものであると考えられる。

(5) 水田面の状況

上層(主に5層)の耕作による擾乱のために荒れており、耕作痕や足跡などは確認できなかった。

No.	大きさ(cm)	深さ(cm)
P 1	14×19	33
P 2	13×14	20
P 3	13×19	16
P 4	11×13	27

表12 SB 1柱穴計測表

3. 出土遺物

遺物は土器類、赤焼土器、須恵器、陶器、磁器、金属製品が出土している。破片総数は91点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると72点となるが、これらのうち遺構に伴う遺物を厳密に限定することはできず、他層からの混入品が大部分を占めると推定される。なお平面的な出土状況は大畔12の周辺に集中する傾向が認められたが、これらの遺物は6層に伴うものではなく7~10層の遺物の分布状況を反映した結果と考えられる。

遺構に伴う、あるいは伴う可能性がある遺物は陶器1点と金属製品のみである。ただし金属製品については年代決定の根拠がなく、確実ではない。

(1) 陶器・磁器

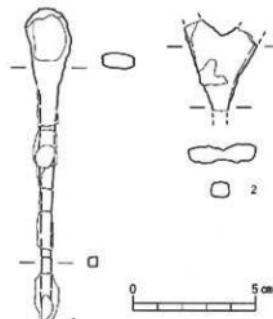
2点出土したが、このうち遺構に伴う可能性のあるものは涅美産の陶器1点(写真110-1)で時期は12~13世紀に比定される。他の1点は肥前産と思われる磁器で、上層からの混入品と推定される。

(2) 金属製品

鉄錆が2点出土した(第25図1・2、写真110-2・3)。1は柳葉式と推定され、先端部を欠損しているが、長い茎または笠被を有する形態である。また2は部分的な遺存であるが雁又式と推定される。

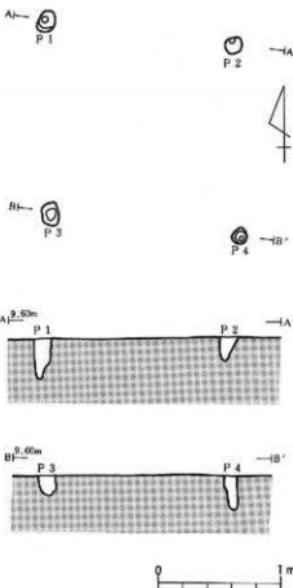
(3) 土器類・赤焼土器・須恵器

破片が68点出土した。量は他の遺物に比べて圧倒的に多いが、上下層も含めた全体的な遺物の出土状況から判断して、これらはすべて下層から巻き上げられたものと推定される。図化できるものはない。



No.	写真図版	出土場所・層位	種別	進荷度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特	考
1	110-3	K-6、6層	鉄製品・錆	山腹欠損	進存13.0	0.4~1.8	0.4~0.6	柳葉式と推定される。錆のため形状の有無は不明	
2	110-2	L-8、6層	鉄製品・錆	頭部一部	進存 3.7	0.7~2.8	0.3~0.8	雁又式	

第25図 6層水田跡出土遺物



第24図 S B I 全体図

第5節 7層水田跡

7層上面では7層水田跡を検出した。時期は平安時代後葉と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

「十」字に交わる大畦畔によって造られた4つの大区画(坪)と、さらに小畦畔によって細分された小区画によつて構成されている。

(2) 検出・遺存状況

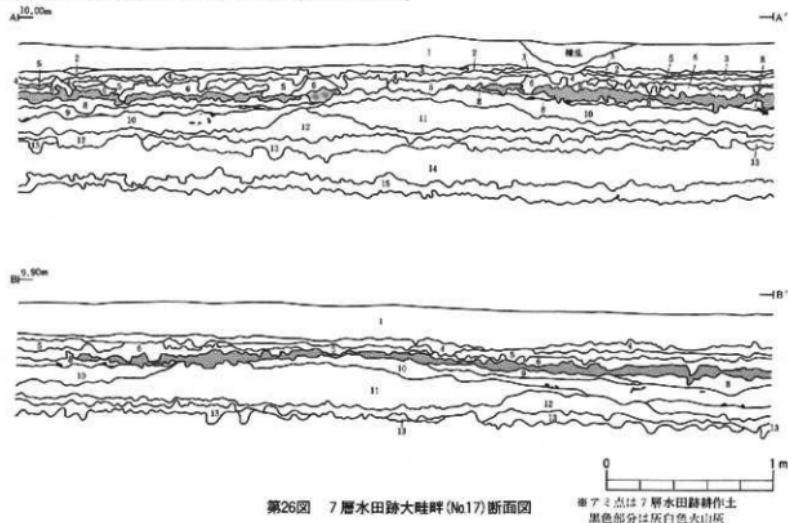
大部分の畦畔は6層を削り込んでいく過程で確認したが、6層の遺存状態が悪かったために6層耕作土上面を検出した時点ですでに上面を確認できた畦畔もある(写真19)。遺存状況は後述するように広範囲に搅乱されたと考えられる部分があるものの、他は比較的良好であった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層7層で灰黄色の粘土である。耕作土の厚さは1~15cmで一定せず、平均は4cm程度である。下面は凹凸が激しく、下層へ食い込んでいる。食い込みの大部分は8層中で止まっているが部分的に10層中にまで達する場合がある。なお層中には灰白色火山灰粒がわずかに含まれているが、これは下層から巻き上げられたものと考えられる。

(4) 水田域

大畦畔1と9の北西側の坪では7層は全く認められず、6層下には直接8層がある状況であった。これが本来の状況(7層水田の非耕作域)であるのか、あるいは6層によって完全に搅乱された結果であるのか断定はできないが、調査区全域は12層段階から3層段階まで(その後現代まで)継続的に水田耕作が行われてきた場所であり、その中である区画(坪)のみが長期間(7層水田の經營期間中)耕作されないことは不自然と考えられることから、一応水田域は調査区全域に広がっていたと考えておきたい。



第26図 7層水田跡大畦畔(No17)断面図

※アミ点は7層水田跡耕作土
黒色部分は灰白色火山灰

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～23まで検出した。大部分の畦畔が8層水田の畦畔と同位置に造られているが、このうちNo.1・9・10・17は条里型土地割における坪境の大畦畔である。規模はNo.17が他の畦畔と比べて2倍以上の幅があり、No.1・9・10も大体他の畦畔の1.5倍程度の幅がある。これらの大畦畔の交点は実際にには畦畔が接することなく、1～1.5mの間隔があいている。上面は5・6層の耕作土によって搅乱されているために大畦畔上面に耕作土が遺存しない場合もあるが、畦畔の下部には下層の大畦畔が良好に遺存していた（第26図、写真42・43）。なお、その他の小畦畔の規模はほぼ同じである。方向は大体真北方向を中心としているが、南北方向の畦畔に比べて東西方向の畦畔の振れがやや大きい傾向にある。特に大畦畔17の西側にある東西畦畔（No.12～16）は一様に12～16°西に振れている。これは東西畦畔を地形の傾きの方向（等高線に対して直角方向）に近く配した結果と考えられる。また、畦畔の配列は大畦畔に対して小畦畔はすべて「T」字状に接しており、小畦畔同士では「L」字状に交わる場合が多い。これは大畦畔で囲まれた各坪ごとに畦畔が配置されたためと推定される。

No.	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-3°-W	34.8以上	51～110(74)	74～148(108)	1～5	大畦畔、8層大畦畔No.5と同位置
2	N-80°-W	3.2以上	28～40(35)	60～67(64)	1～2	部分的に検出、8層畦畔No.6と同位置
3	N-4°-W	37.8以上	23～69(42)	59～128(81)	1～8	8層畦畔No.9と同位置
4	N-3°-W	25.1以上	30～49(41)	66～94(77)	1～3	8層畦畔(段差)No.10と同位置
5	N-85°-E	14.6	25～76(43)	64～104(80)	1～3	8層畦畔No.7と同位置
6	N-82°-E	8.5	34～64(48)	68～106(87)	1～3	
7	N-83°-E	3.5以上	36～60(50)	70～98(89)	1～2	
8	N-88°-E	23.7	32～72(50)	70～98(79)	1～4	西半部は8層畦畔No.8と同位置
9	N-88°-W	31.2以上	50～145(103)	83～177(136)	1～4	大畦畔、8層大畦畔No.11と同位置
10	N-89°-E	11.0以上	52～121(84)	83～150(115)	1～6	大畦畔、8層大畦畔No.12と同位置
11	N-3°-E	14.7以上	28～66(50)	24～98(76)	1～3	8層畦畔No.13と同位置
12	N-76°-E	7.6以上	36～64(55)	36～106(85)	2	水口あり、8層畦畔No.14と同位置
13	N-78°-E	9.5	28～69(51)	56～120(94)	1～6	水口あり、8層畦畔No.15と同位置
14	N-74°-E	9.8	41～81(58)	65～110(85)	1～3	水口あり、8層畦畔No.16と同位置
15	N-74°-E	8.0以上	38～61(57)	79～96(88)	1～3	水口あり、8層畦畔No.17とほぼ同位置
16	N-77°-E	3.0以上	41～67(51)	77～108(87)	1～3	8層畦畔No.18とほぼ同位置
17	N S	59.6以上	114～270(172)	157～307(214)	1～7	大畦畔、8層大畦畔No.19とほぼ同位置
18	N-88°-E	14.1以上	42～75(50)	65～108(78)	1～3	一部は段差のみ検出
19	N-85°-W	17.1以上	32～84(55)	70～111(84)	?	一部は段差のみ検出
20	N-84°-E	11.0	35～72(57)	72～107(85)	1～3	一部は段差のみ検出
21	N-3°-E	57.6以上	28～80(50)	52～104(86)	1～7	8層畦畔No.22と同位置
22	N-89°-E	8.2以上	32～96(53)	62～100(84)	1～3	8層畦畔No.20の東半部と同位置
23	N-1°-W	28.4以上	38～99(65)	67～136(91)	1～5	一部を除いて8層畦畔No.24と同位置

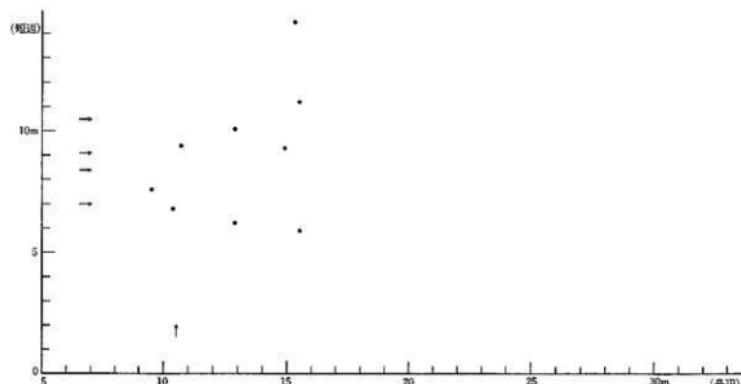
表13 7層水田跡畦畔計測表

(2) 水田区画

4つの大区画(坪)と、その中に①～⑩までの区画が認められた。なお、北西側の坪には耕作土が認められなかつたので、区画No.は付けなかった。全体を検出できた区画は⑥・⑦・⑯・⑭・⑮・⑪の5区画のみであるが、その他②・⑧・⑨・⑩・⑫が畦畔を推定して区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としているが、大畦畔17の西側の坪では歪みが大きい。大きさはばらつきがあり特に傾向性は認められないが、短辺が大体6～11m、長辺が9～16mのものが大部分である(第27図)。区画方法は南北方向の畦畔が比較的長く直線的に通ることから南北に細長い地割をし、それを東西畦畔で細分している可能性がある。

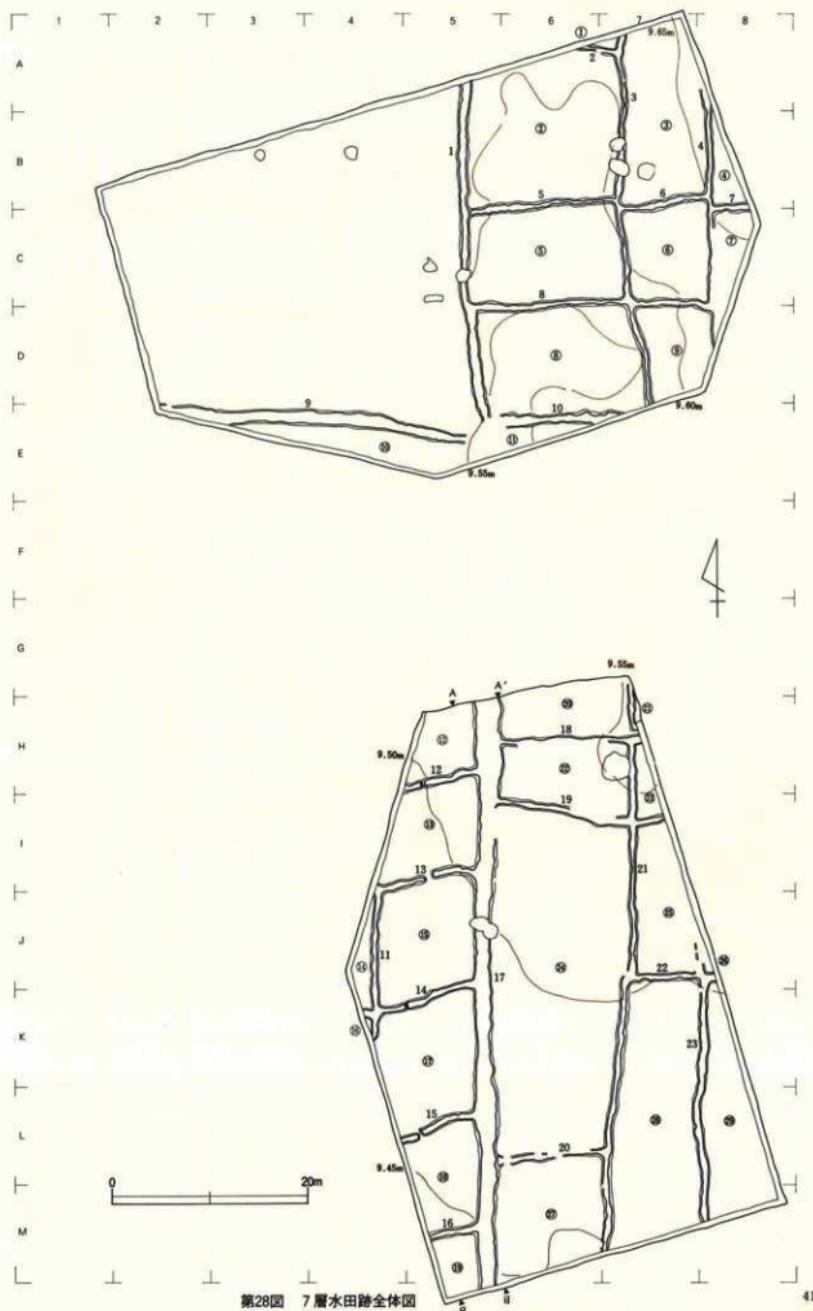
N.	標高(m)	北高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南北(m)	北辺(m)	面積(a)	地盤規模(m)	備考
①	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
②	9.58~9.62(9.60)	4	北→南	14.3	推定16.3	14.7	推定14.2	推定 228.5	15.3×14.5	
③	9.62~9.66	(4)	東→西	12.51上	17.23上	8.4	?	136.15上	? ×8.4	
④	9.66~	?	?	?	9.73上	?	?	?	?	部分的に検出
⑤	9.55~9.58(9.57)	3	北→南	9.8	8.7	15.3	14.5	145.8	9.3×14.9	
⑥	9.59~9.62(9.61)	3	北→南	10.0	9.0	7.1	8.1	76.4	9.5×7.6	
⑦	9.62~9.66	(4)	?	?	1.52上	?	?	?	?	部分的に検出
⑧	9.53~9.56(9.55)	3	ほぼ水平	推定11.4	10.9	推定16.1	14.8	推定 170.5	11.2×15.5	
⑨	9.58~9.62	(4)	東→西	推定10.0	推定10.7	推定 5.9	7.7	推定 69.8	10.4×6.8	
⑩	9.57~9.59	(2)	?	?	?	?	23.81上	?	?	
⑪	9.53~9.57	(4)	?	?	?	?	8.71上	?	?	
⑫	9.50~9.52	(2)	ほぼ水平	6.51上	?	7.20以上	?	39.81上	?	
⑬	9.48~9.51	(3)	東→西	9.1	?	10.01上	7.65上	78.35上	9.1×?	
⑭	9.46~9.49	(3)	?	11.52上	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑮	9.47~9.50(9.49)	3	ほぼ水平	10.3	11.1	9.8	9.0	109.1	10.7×9.4	
⑯	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑰	9.45~9.48(9.46)	(3)	ほぼ水平	12.3	推定13.4	推定10.6	9.5	推定 115.4	12.9×10.1	
⑲	9.43~9.46	(3)	北東→南西	10.5	?	4.95上	7.59上	66.31上	10.5×?	
⑳	9.40~9.44	(3)	北東→南西	3.56上	?	?	4.58上	33.51上	?	
㉑	9.52~9.55	(3)	ほぼ水平	?	4.12上	12.8	?	70.31上	? ×12.8	
㉒	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉓	9.52~9.55(9.53)	3	北東→南西	7.2	5.2	13.1	12.7	82.3	6.2×12.9	
㉔	9.52~9.36	(4)	?	?	7.4	2.81上	?	?	7.4×	
㉕	9.46~9.53(9.50)	7	北→南	32.3	35.1	11.1	13.5	442.3	33.7×12.3	
㉖	9.30~9.33	(3)	北→南	推定16.1	14.8	5.7	推定 6.0	推定 78.2	15.5×5.9	
㉗	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉘	9.41~9.47	(3)	ほぼ水平	9.61上	12.05上	?	10.5	119.35上	? ×10.5	
㉙	9.44~9.48	(4)	北→南	24.81上	27.15上	?	7.0	213.35上	? ×7.0	
㉚	9.45~9.50	(5)	北→南	?	24.15上	?	?	102.65上	?	

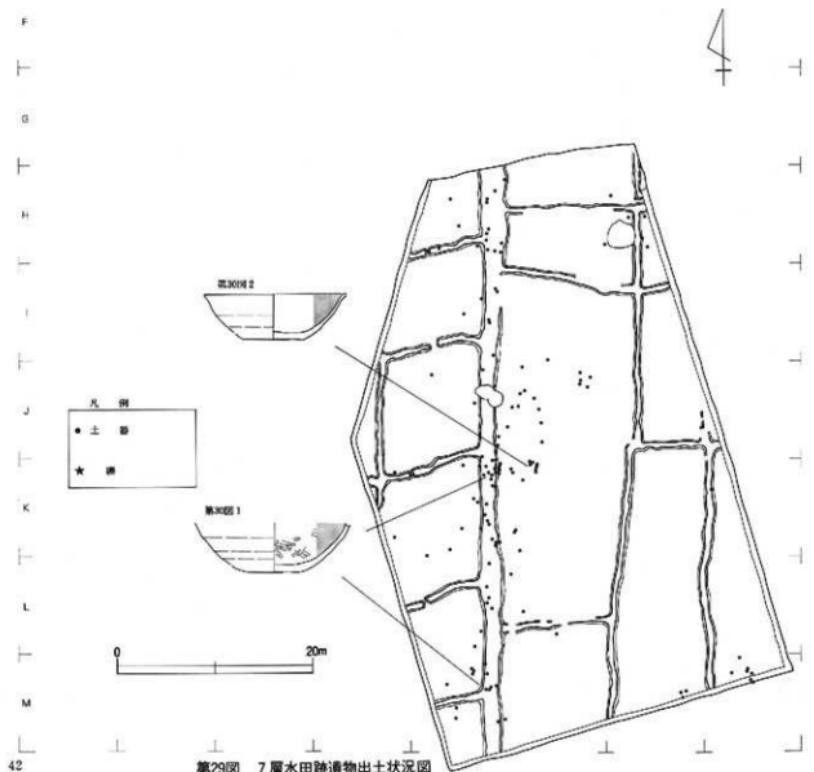
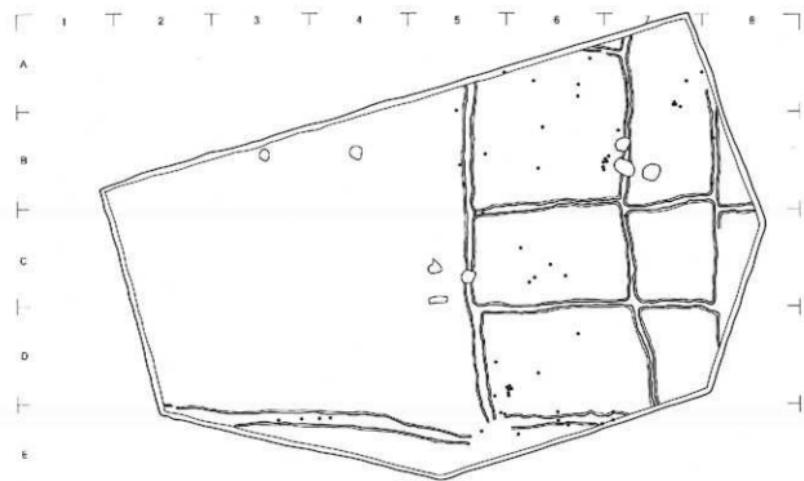
表14 7層水田跡水田区画計測表



第27図 7層水田跡水田区画規模

第5節 7層水田跡





第29図 7層水田跡遺物出土状況図

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西方向へ緩やかに傾斜し、IV・V区の西方からII区へ向かってごく浅い谷状の地形が入り込んでいる。標高は9.41～9.66mで、勾配は谷の部分に当たるII・III区で約4cm/10m、IV・V区では約2cm/10mである。各区画内の傾斜は大体全体的な地形と一致するが、区画⑧・⑩・⑯・⑭・⑮・⑯のようにほぼ水平なものも認められる。各区画間の比高差は3～4cmで、IV・V区の大畦畔をはさんだ東西の区画でも同様である。

(4) 水口

水口は南東側の坪にある東西畦畔のみ（No.12～15）に検出された。畦畔14の水口はやや西に寄っているが、その他は区画各辺のほぼ中央に位置すると推定される。水口の規模は畦畔13のものが大きく、上端幅約90cm、下端幅約60cmあるが、他は上端幅約30cm、下端幅約10cmである。底面のレベルはいずれも水田面とほぼ同じである。なお、坪境の大畦畔の交点も水口状に畦畔が途切れており、坪間の配水のための水口と考えられる。

(5) 水田面の状況

上層（主に6層）の耕作による擾乱のために荒れしており、耕作痕や足跡などは確認できなかった。

3. 出土遺物

遺物は土師器、赤焼土器、須恵器、陶器、磁器が出土した。破片総数は241点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると194点となるが、出土状況からは遺構に伴う遺物を限定することはできなかった。なお平面的な出土状況は大畦畔（特にNo.17）の周辺に集中している（第29図）。

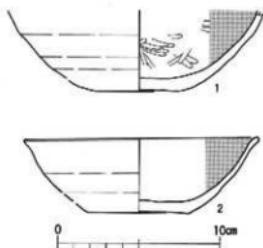
遺構に伴う、あるいは伴う可能性がある遺物は土師器、赤焼土器、須恵器と陶器1点である。

(1) 土師器・赤焼土器・須恵器

出土遺物の大部分を占めるが、他層からの混入品を区別することはできなかった。なお、土師器のうち調整技法が判るものはすべてロクロ調整で、このうち坏2点が図化できた（第30図1・2、写真111-1・2）。1は内面にヘラミガキ・黒色処理がなされ、2も内面が磨滅しているが同様にヘラミガキ・黒色処理が施されていると推定される。

(2) 陶器・磁器

破片が3点出土したが図化できるものはない。このうち遺構に伴う可能性のあるものは渥美産の陶器1点（写真111-3）で時期は12～13世紀に比定される。他の2点は上層からの混入品と推定される。



No.	写真添版	出土地点・層位	種別	器種	進存度	法量(cm) 口径 底径 厚さ	底径 口径 厚さ	色調	特徴
1	111-1	K-5, 4~10層	土師器	坏	好	?	5.1	?	浅黄褐色 ロクロ、回転先端無調整、内面ヘラミガキ・黒色処理
2	111-2	K-6, 7~8層	土師器	坏	好	14.5 6.2	4.6 0.43	黒褐色 ロクロ、回転先端無調整、内面削減、黒色処理の痕跡	

第30図 7層水田跡出土遺物

第6節 8層水田跡

8層上面では8層水田跡を検出した。時期は平安時代後葉と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

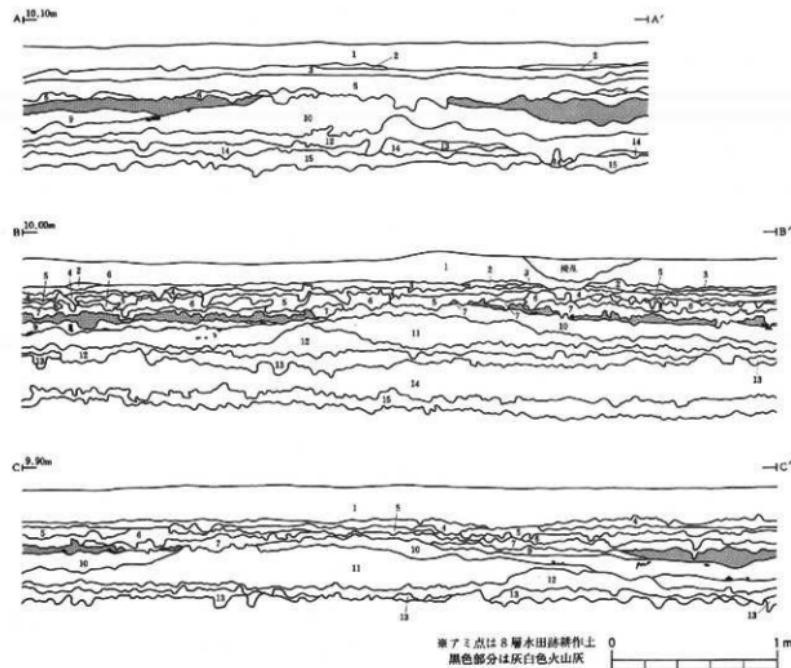
「十」字に交わる大畦畔によって造られた大区画（坪）と、その内部を小畦畔によって分割された区画から構成されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は7層を削り込んでいく過程で確認した。畦畔及び耕作土上面は7層等によって攪乱されているものの、遺存状況は比較的良好である。

(3) 耕作土

耕作土は基本層8層で暗灰黄色の粘土である。耕作土の厚さは1~19cmで一定せず、平均は10cm程度である。下面は凹凸が激しく、9層を広範囲に攪乱する場合がある。下層への食い込みは部分的に12層中にまで達する場合がある。なお層中には灰白色火山灰のブロックと粒子が含まれているが、これは下層から巻き上げられたものと推定される。



第31図 8層水田跡大畦畔(No.5・19)断面図

(4) 水田域

調査区全面に広がる。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～24まで検出した。なお、No.10は段差であるが、畦畔の痕跡と考えられるため畦畔No.を付けている。I～III区では畦畔1の北部を除いた全ての畦畔が9層水田の畦畔と同位置に造られている。IV・V区では9層の畦畔をほとんど検出できなかったのでその関係は不明であるが、その直下の10層水田の畦畔とほぼ同位置に造られているものが多い。畦畔のうちNo.5・11・12・19は条里型土地割における坪境の大畦畔で幅が他の畦畔の約1.5倍ある。大畦畔の上面は5・6層の耕作土によって搅乱されているために大畦畔上面に耕作土が遺存しない場合もあるが、畦畔下部には下層の大畦畔が良好に遺存していた(第31図、写真42・43)。小畦畔の規模はNo.23がやや小さいだけで、ほぼ同じである。方向は大体真北方向を中心としており、東西への振れも6°未満であるが、大畦畔19の西側にある東西畦畔(No.14～18)の振れは11～20°とやや大きい。

No.	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-6°-W	23.9以上	24～82(50)	46～123(81)	1～4	南部では9層畦畔No.4と同位置
2	N-6°-W	13.7以上	20～50(33)	52～83(69)	2～5	やや屈曲、9層畦畔No.3と同位置
3	N-88°-E	33.5以上	15～58(44)	57～93(77)	2～5	9層畦畔No.1と同位置
4	N-89°-E	33.7以上	27～59(48)	60～94(75)	2～5	9層畦畔No.2と同位置
5	N-4°-W	35.0以上	48～106(80)	76～168(132)	2～12	大畦畔、9層大畦畔No.5とほぼ同位置
6	N-78°-W	3.0以上	57～58(58)	85～91(88)	1～3	9層畦畔No.6と同位置
7	N-85°-E	14.9	13～56(33)	45～93(68)	2～5	9層畦畔No.7とほぼ同位置
8	N-88°-E	15.0	26～54(40)	54～87(72)	2～5	9層畦畔No.8と同位置
9	N-4°-W	37.9以上	27～66(42)	59～123(77)	1～5	9層畦畔No.9とほぼ同位置
10	N-1°-W	25.0以上	?	?	1～5	段差のみ検出、9層段差No.1と同位置
11	N-88°-W	31.2以上	50～124(87)	90～179(136)	1～7	大畦畔、9層大畦畔No.12と同位置
12	E-W	11.5以上	48～123(85)	91～166(120)	1～4	大畦畔、9層大畦畔No.13とほぼ同位置
13	N-S	1.0以上	26～57(34)	50～90(69)	1～4	
14	N-76°-E	7.7以上	18～39(32)	57～85(73)	3～5	
15	N-79°-E	10.3	21～59(39)	56～100(79)	2～5	
16	N-72°-E	9.8	21～51(37)	60～93(75)	1～5	
17	N-70°-E	8.0以上	29～47(38)	77～105(96)	2～4	
18	N-78°-E	4.6以上	20～45(33)	76～88(83)	2～3	9層畦畔No.15とほぼ同位置
19	N-S	59.6以上	35～75(63)	81～151(117)	2～5	大畦畔、9層大畦畔No.14とほぼ同位置
20	N-85°-E	22.9以上	19～64(45)	62～103(76)	1～3	
21	N-85°-E	11.2以上	31～65(44)	62～92(75)	1～2	
22	N-3°-E	57.4以上	14～60(37)	41～87(66)	1～4	
23	N-76°-E	3.0以上	14～32(23)	45～54(49)	2～3	
24	N-2°-E	24.6以上	28～69(50)	54～96(82)	1～5	

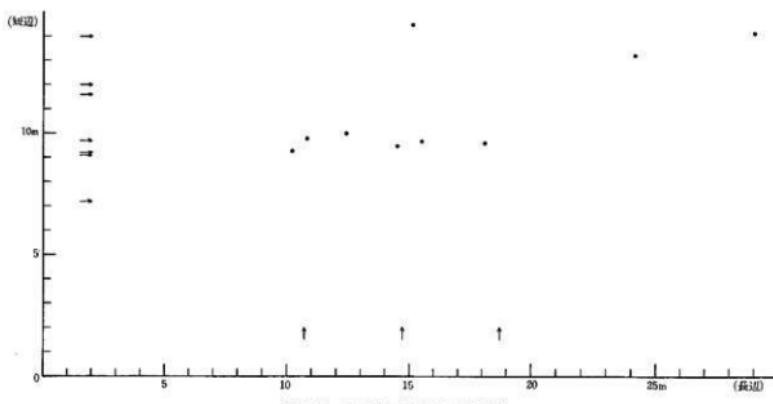
表15 8層水田跡畦畔計測表

(2) 水田区画

水田区画は4つの大区画(坪)とその内部に①～⑩までの31区画が認められた。全体を検出できた区画は⑤・⑥・⑧・⑪・⑫・⑬の6区画であるが、その他⑩・⑫・⑬が区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としているが、大畦畔19の西側では歪みが大きい。大きさはばらつきがあるが、区画の短辺の長さを見ると9.5m前後のものが多く、次に14m前後のものが多い(第32図)。

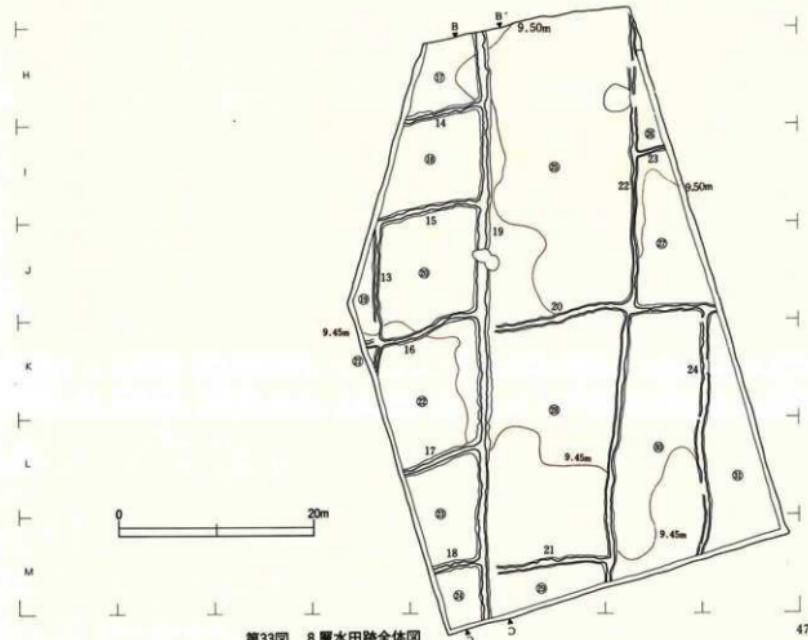
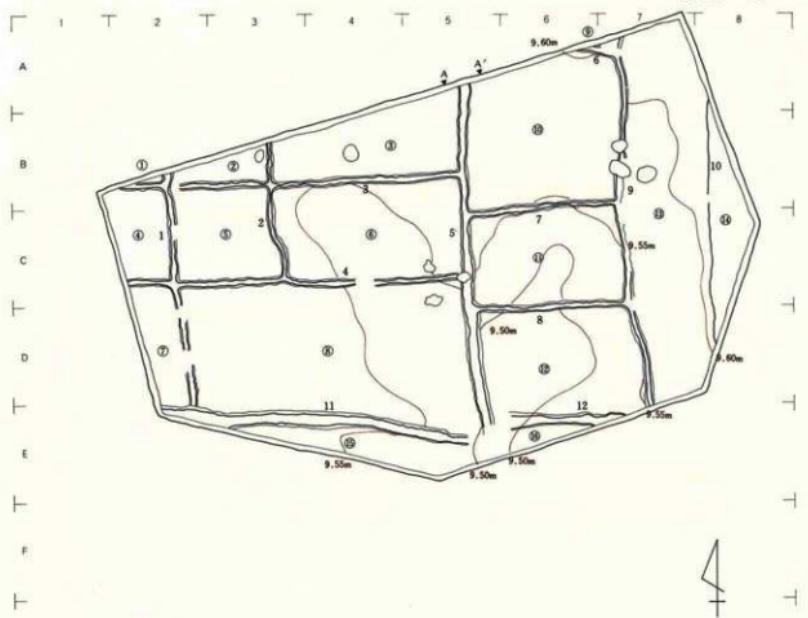
No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東延(m)	西延(m)	南延(m)	北延(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
②	9.58~9.59	(1)	ほぼ水平	3.8以上	?	9.7	?	23.2以上	? × 9.7	
③	9.55~9.58	(3)	北東→南西	9.6以上	4.0以上	18.7	?	119.2以上	? × 18.7	
④	9.55~9.56	(1)	北東→南西	9.2	?	4.3以上	4.4以上	49.6以上	9.2 × ?	
⑤	9.55~9.57(9.56)	2	ほぼ水平	9.2	9.4	10.4	9.9	91.6	9.3 × 10.2	
⑥	9.53~9.56(9.55)	3	中央が低い	9.8	9.3	17.6	18.5	178.6	9.6 × 18.1	
⑦	9.54~9.58	(4)	北→南	12.0	?	2.9以上	4.2以上	46.4以上	12.0 × ?	
⑧	9.50~9.58(9.53)	8	西→東	16.0	12.1	29.4	28.6	384.3	14.1 × 29.0	
⑨	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
⑩	9.55~9.60(9.57)	5	北→南	14.4	推定15.8	14.9	推定14.0	推定233.9	15.1 × 14.5	耕作痕らしい痕跡
⑪	9.49~9.56(9.52)	7	北→南	9.9	9.1	14.5	14.4	145.5	9.5 × 14.5	耕作痕らしい痕跡
⑫	9.46~9.53(9.49)	7	東→西	推定11.1	10.3	推定15.9	15.0	推定166.5	10.7 × 15.5	
⑬	9.55~9.63	(8)	北東→南西	25.3以上	37.8以上	?	?	?	?	
⑭	9.60~9.65	(5)	北→南	?	25.0以上	?	?	?	?	
⑮	9.50~9.56	(6)	?	?	?	?	24.0以上	?	?	
⑯	?	?	?	?	?	?	8.4以上	?	?	
⑰	9.46~9.51	(5)	東→西	6.6以上	?	7.5以上	?	42.3以上	?	
⑱	9.45~9.48	(3)	東→西	9.1	?	10.2以上	7.7以上	79.2以上	9.1 × ?	
⑲	9.44~9.45	(1)	?	10.7以上	?	0.9以上	?	12.8以上	?	
⑳	9.44~9.46(9.45)	2	ほぼ水平	10.1	11.4	9.9	9.7	109.4	10.8 × 9.8	
㉑	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉒	9.43~9.46(9.44)	(3)	ほぼ水平	12.2	推定12.6	推定10.4	9.5	推定129.7	12.4 × 10.0	
㉓	9.40~9.43	(3)	ほぼ水平	10.7	?	4.3以上	7.3以上	62.6以上	10.7 × ?	
㉔	9.38~9.41	(3)	?	5.4以上	?	?	4.5以上	22.6以上	?	
㉕	9.48~9.53	(5)	北→南	29.5以上	29.6以上	14.0	?	435.4以上	? × 14.0	
㉖	9.51~9.53	(2)	?	?	13.0以上	2.9以上	?	14.9以上	?	
㉗	9.48~9.52	(4)	ほぼ水平	?	14.7	8.0以上	3.0以上	86.9以上	14.7 × ?	
㉘	9.43~9.49(9.46)	6	北→南	24.9	23.3	12.3	14.0	306.5	24.1 × 13.2	
㉙	9.41~9.43	(2)	?	1.9以上	4.3以上	?	11.6	39.6以上	? × 11.6	
㉚	9.43~9.48	(5)	ほぼ水平	24.7以上	26.9以上	?	7.2	214.4以上	? × 7.2	
㉛	9.44~9.49	(5)	北→南	?	24.4以上	?	0.6以上	102.6以上	?	

表16 8層水田跡水田区画計測表

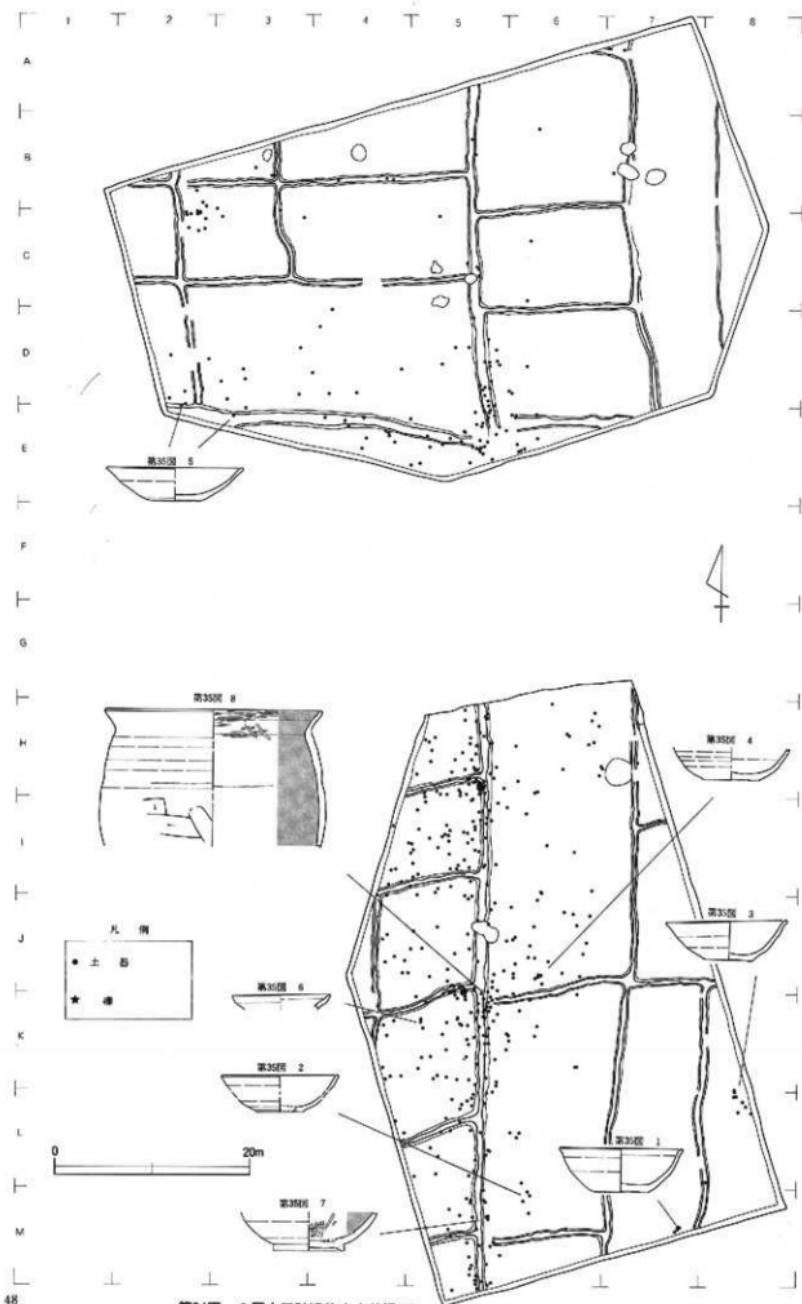


第32図 8層水田跡水田区画規模

第6節 8層水田跡



第33図 8層水田跡全体図



第34図 8層水田跡遺物出土状況図

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西方向へ緩やかに傾斜し、IV・V区の西方からII区へ向かってごく浅い谷状の地形が入り込んでいる。標高は9.38～9.65mで、勾配は谷の部分に当たるII・III区で約5cm/10m、IV・V区では約3cm/10mである。各区画内の傾斜は大体において全体的な地形と一致するが、区画④のように逆の傾斜を示すものや②・⑤・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭のようにはほぼ水平なものも認められる。各区画間の比高差は⑤・⑥・⑧の間で1～3cm、⑩・⑪・⑫の間で3～5cm、⑩と⑫の間で1cmとごくわずかで、大畦畔をはさんだ東西の区画でも同様である。

(4) 水口

數カ所で畦畔が途切れる状況が認められたが、この部分の畦畔の立ち上がりがはっきりせず、水口とは断定できなかった。なお、坪境の大畦畔の交点も畦畔が途切れしており、区画⑧と⑫の水田面がここに向かって傾斜していることからこの部分は坪間の配水のための水口と推定される。

(5) 水田面の状況

区画⑩・⑪では南北方向に延びる細い溝状のプランが多数平行して認められた（写真30）。この部分には7層の耕作土が入り込んでいる。幅は10cm前後、間隔は30cm前後であるがプランは明確ではなく、近くで観察すると不定型の小ビットが連続、あるいは途切れながら並び、距離をおいて見ると平行したシマ状に見える状況であった。掘り上げをしなかったため詳細は不明であるが、断面観察では明確な溝状の窪みは認められなかつたことから特に意識して掘られたものではないと考えられる。性格については、方向が水田区画と同じであるので耕作痕の可能性があるが、7・8層のいずれに伴うものか断定はできない。

3. 出土遺物

遺物は土師器、赤焼土器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品が出土した。出土時の破片総数は703点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると567点になるが、遺構に伴う遺物を限定することはできなかった。

平面的な出土状況は大畦畔（特にNo19）の周辺に集中する傾向がある（第34図）。なお、図化できた遺物の中には8層だけではなく4～7層出土の破片も接合したものもあるが、破片の層別の数量・分布状況から8層に伴うものとして捉えている。

(1) 土師器

土師器の可能性のあるものを含めると破片総数は389点である。磨滅のために調整技法が不明なものもあるが調整技法が判るものはすべてロクロ調整で、器種では壺が圧倒的に多い。このうち図化できたのは2点（第35図7・8、写真112-7・8）である。7は高台付壺で、高台は断面三角形の低い形態である。8の壺は内面が黒色処理され、そのうちの口縁部にのみヘラミガキが施されるのが特徴である。

(2) 赤焼土器

赤焼土器の可能性のあるものを含めると破片総数は155点である。このうち5点が図化できた（第35図1～5、写真112-1～5）。1～3は体部がやや丸みをもって立ち上がり、口唇部がわずかに外反するタイプで、底径口径比は0.40前後である。5は他に比べて口径が大きくて器高が低く、底径口径比が他に比べてやや小さい。これらのうち2は内面が再調整されてロクロ目が消されており、その際の工具痕も認められる。また、その他1・3・5も内面のロクロ目が不明瞭であることから意識的にロクロ目が消された可能性がある。

(3) 須恵器

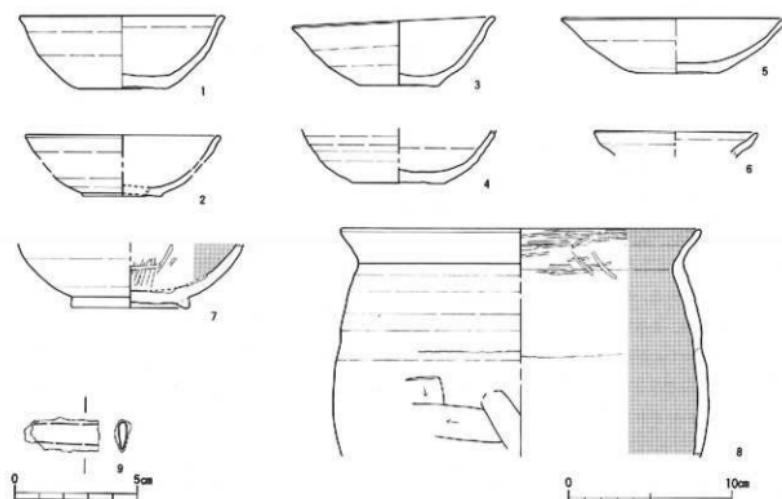
破片が22点出土したが、図化できるものはない。

(4) 灰釉陶器

破片が1点出土し、7層出土の破片と接合した（第35図6、写真112-6）。口縁部の破片で、瓶と推定される。

(5) 鉄製品

刀子と考えられる破片が1点出土した(第35図9、写真112-9)。



No.	写真回数	出土地点・層位	種別	器種	造形段	法 量(cm)	幅 (cm)	高 (cm)	厚 (cm)	規 格	色 調	特 徴	
1.	112-1	M=7.4m、7~8層	非焼土器	环	Y'	(12.4)	5.2	4.5	0.42	118	に赤い橙色	ロクロ、回転系切削調整	
2.	112-2	M=6.3、4~8層	非焼土器	环	Y'	(12.0)	(4.6)	3.8	0.40		に赤い橙色	ロクロ、回転系切削無調整、内面にコチ次の工具痕	
3.	112-3	K-I.~6.3、5~8層	非焼土器	环	ほぼ丸形	12.3	4.6	4.3	0.39		に赤い橙色	ロクロ、回転系切削調整、内面ロクロ痕-円錐形か?	
4.	112-4	J=6.3、8層	非焼土器	环	片	?	5.7	?	?		圓弧・浅波粒状	ロクロ、回転系切削調整	
5.	112-5	E=2.3m、8層	非焼土器	环	另	(14.0)	(4.6)	3.4	0.34		浅黄褐色	ロクロ、回転系切削調整、内面ロクロ痕-円錐形か?	
6.	112-6	K=5.3、7~8層	灰陶鉗器	瓶?	片	(10.0)	?	?	?		一	灰白色	
7.	112-7	M=5.3、5~8層	土師器	高台坪	下半部	?	7.2	?	?		に赤い橙色	ロクロ、台高台、内面ヘラミガキ・黒色処理	
8.	112-8	K=5.3、4~8層	土師器	壺	上半部	(22.2)	?	?	?		外面浅黄褐色 内面黑色	ロクロ、全体外張へラケズリ、口縁部内面ヘラミガキ・黒色処理、体部内面ナメ・黒色処理	

No.	写真回数	出土地点・層位	種 別	造形段	反 き(cm)	幅 (cm)	高 (cm)	特 徴
9	112-9	L=8.8層	鉄製品・刀子	小片	進存 3.1	1.1	0.3	全面上赤鍛、遺存状態悪い

第35図 8層水田跡出土遺物

第7節 9層水田跡

9層上面では9層水田跡を検出した。時期は平安時代中頃と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

「十」字に交わる大畦畔によって造られた大区画（坪）と、その内部を小畦畔によって分割された区画から構成されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は8層を削り込んでいく過程で確認した。畦畔及び耕作土上面は8層によって搅乱されているために遺存状況は極めて悪い。特にIV・V区では大畦畔と小畦畔を各1条検出できただけで、大畦畔の東側では耕作土も部分的に遺存するのみであった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層9層で灰黄色の粘土である。耕作土の厚さは2~18cmで一一定せず、平均は5cm程度である。下面は凹凸が激しい。下層への食い込みの大部分は10層中で止まっているが、部分的に12層中にまで達する場合がある。なお層中には灰白色火山灰のブロックと粒子が多量に含まれているが、これは本来10層上面にあったものが巻き上げられた結果と推定される。

(4) 水田域

調査区全面に広がる。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1~15まで検出した。No.11は段差であるが、畦畔の痕跡と考えられるため畦畔No.1を付けている。No.10・11・15を除いた全ての畦畔が10層水田の畦畔と同位置か、ほぼ同位置に造られている。畦畔のうちNo.5・12・13・14は条里型土地割における坪境の大畦畔である。12・13は幅が他の小畦畔に比べて約1.5倍程度あるのに対し、5・14はそれほど大きくなはないが、畦畔の性格上一応大畦畔として捉えておきたい。小畦畔はほとんど同じ規模である。方向は大体真北方向を中心とし、東西への振れも4°未満のものが多いが6~8°ほどずれるものもある。ただNo.15だけがやや振れが大きい。

No	方 向	長さ(m)	上堆積(cm)	下堆積(cm)	高さ(cm) [†]	備 告
1	N-89°-E	33.61上	20~77(42)	50~110(78)	2~6	10層畦畔No.4と同位置
2	E-W	33.81上	17~64(40)	55~113(82)	1~9	10層畦畔No.6と同位置
3	N-6°-W	13.71上	22~57(41)	60~92(77)	3~7	やや蛇行、10層畦畔No.2とはほぼ同位置
4	N-6°-W	12.3	36~76(46)	66~133(80)	2~4	10層畦畔No.1と同位置
5	N-3°-W	33.31上	22~96(58)	71~134(98)	3~14	大畦畔、10層畦畔No.7とほぼ同位置
6	N-81°-W	4.01上	42~58(49)	75~99(82)	2~3	10層畦畔No.8とほぼ同位置
7	N-87°-E	15.0	12~53(36)	42~83(66)	2~4	10層畦畔No.9とほぼ同位置
8	N-87°-E	15.1	29~66(50)	65~122(92)	1~6	10層畦畔No.10とほぼ同位置
9	N-4°-W	38.01上	14~55(34)	35~88(68)	2~5	10層畦畔No.11・12とほぼ同位置
10	N-82°-E	8.8	20~53(38)	52~78(67)	1~8	
11	N-1°-W	25.71上	?	?	1~4	段差のみ検出
12	N-88°-W	28.91上	40~113(85)	111~178(152)	4~12	大畦畔、10層畦畔No.14と同位置
13	N-89°-E	14.71上	70~113(98)	89~174(146)	2~9	大畦畔、10層畦畔No.15と同位置
14	N-S	59.71上	63~168(85)	120~193(93)	3~11	大畦畔、10層畦畔No.22と同位置
15	N-71°-E	4.21上	34~84(64)	77~117(103)	2~8	

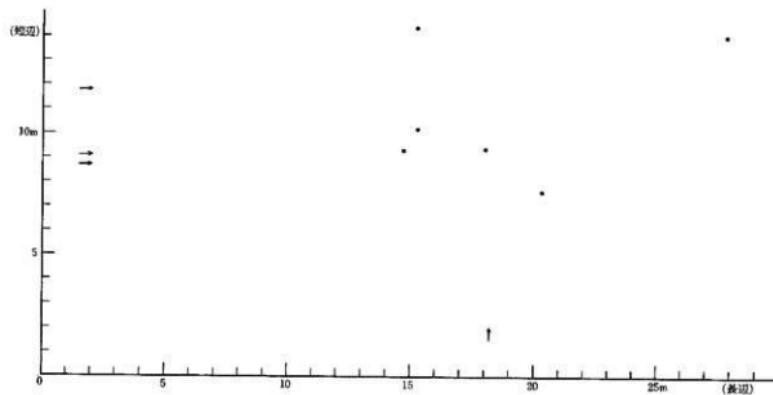
表17 9層水田跡畦畔計測表

(2) 水田区画

水田区画は4つの大区画(坪)とその内部に①～⑩まで18区画認められた。ただ⑯・⑰については小畦畔を検出できなかった結果大きな区画となっている可能性が高く、本来の状況ではないと考えられる。全体を検出できた区画は④・⑥・⑩・⑪の4区画であるが、その他⑧・⑫が区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としている。大きさはばらつきがあるが、短辺10m前後、長辺15～20m前後のものが多い(第36図)。

No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	9.55～9.56	(1)	北→南	3.62以上	?	13.02以上	?	25.62以上	?	
②	9.50～9.52	(2)	ほぼ水平	8.61以上	4.1以上	18.2	?	118.3以上	?×18.2	
③	9.52～9.54	(2)	ほぼ水平	9.1	?	15.92以上	15.65以上	149.4以上	9.1×?	
④	9.45～9.50(9.48)	5	北→南	9.8	9.0	17.5	18.4	176.7	9.4×18.0	
⑤	9.48～9.53	(5)	北→南	11.8	?	2.63以上	4.95以上	46.2以上	11.8×?	
⑥	9.42～9.52(9.47)	10	北西→南東	15.7	12.2	27.7	27.9	378.5	14.0×27.8	
⑦	?	?	?	?	?	3.23以上	?	?	?	部分的検出
⑧	9.50～9.57(9.53)	7	北東→南	14.7	推定15.6	14.2	推定14.6	推定238.5	15.2×14.4	
⑨	9.58～9.62	(4)	北東→南西	9.7以上	17.4以上	8.7	?	141.2以上	?×8.7	
⑩	9.45～9.53(9.48)	8	北→南	9.3	9.2	15.0	14.4	141.7	9.3×14.7	
⑪	9.42～9.49(9.47)	7	東→南西	10.4	9.9	16.0	14.4	162.4	10.2×15.2	
⑫	9.53～9.57(9.55)	4	北東→南西	推定21.0	19.6	推定6.7	8.5	推定156.1	20.3×7.6	
⑬	9.59～9.65	(6)	北東→南西	?	25.3以上	?	?	?	?	
⑭	9.43～9.51	(8)	?	?	?	?	?	24.31以上	?	
⑮	9.42～9.46	(4)	?	?	?	?	?	11.65以上	?	
⑯	?	?	?	?	?	?	?	?	?	標高測定せざ
⑰	?	?	?	5.55以上	?	?	4.05以上	?	?	標高測定せざ
⑲	?	?	?	?	?	?	?	?	?	標高測定せざ

表18 9層水田跡水田区画計測表

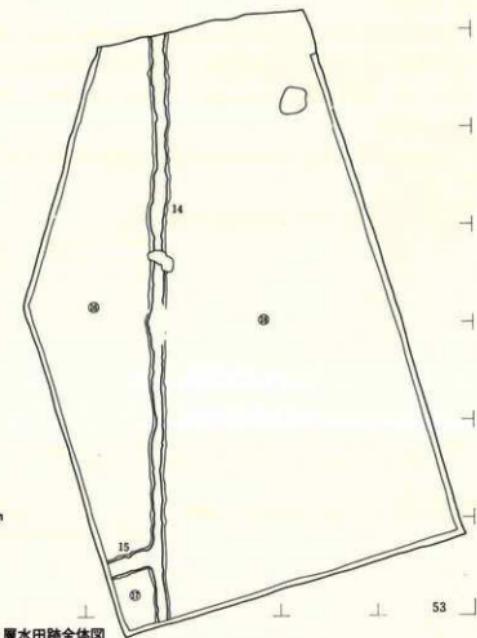
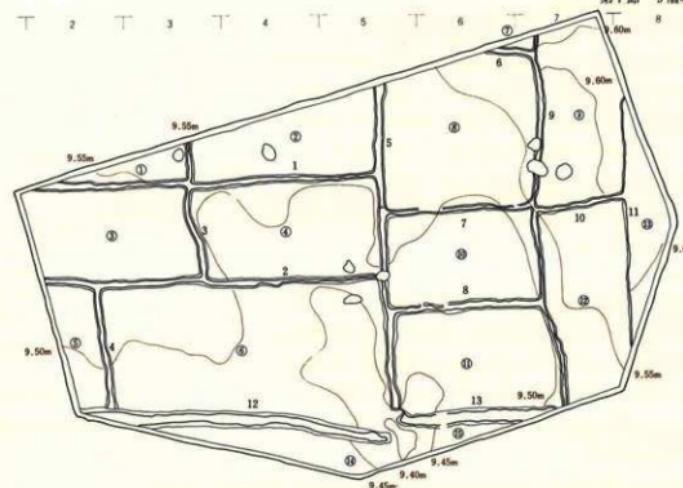


第36図 9層水田跡水田区画規模

(3) 水田面の標高と傾斜

IV・V区では耕作土の遺存状況が悪かったため標高を測定することができなかった。このため全体的な地形は不明であるが、大体上下層と同じく北東から南西方向へ緩やかに傾斜し、IV・V区の西方からII区へ向かってごく浅い谷状の地形が入り込んでいると考えられる。I～III区の標高は9.42～9.65mで、勾配はI・II区で約5cm/10m、

第7節 9層水田跡



第37図 9層水田跡全体図

III区で約10cm/10mである。各区画内の傾斜は大体において全体的な地形と一致するが、区画②・③のようにほぼ水平なものも認められる。各区画間の比高差は④・⑥の間と⑩・⑪の間では1cmとごくわずかであるが、⑧と⑩の間、⑩と⑫の間、⑪と⑫の間では5~8cmとやや差がある。I~III区の大畦畔をはさんだ東西の区画間ではほとんど高低差がないが、水口をはさんだ④と⑧の間のみは5cmの差がある。

(4) 水口

区画④と⑧の間の大畦畔に1ヶ所確認された(第38図)。溝状に畦畔を切っており、深さは約3cm、底面のレベルは区画⑧の水田面から約6cm高い。なお、坪境の大畦畔の交点も畦畔が途切れしており、区画⑥と⑪の水田面がここに向かって傾斜していることから坪境の配水のための水口と推定される。

(5) 水田面の状況

水田面は8層の耕作によって搅乱されており、耕作痕などは確認できなかった。

3. 出土遺物

遺物は土師器、赤焼土器、須恵器などが出土した。破片総数は256点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると239点になるが、遺構に伴う遺物を限定することはできなかった。平面的な出土状況は大畦畔の周辺に集中する傾向がある。

(1) 土師器

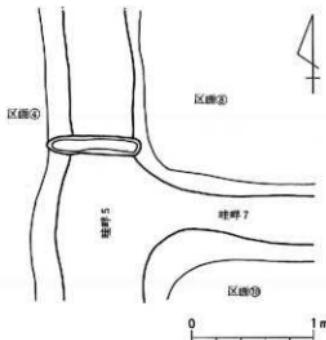
土師器の可能性のあるものを含めると破片総数は168点である。磨滅のために調整技法が不明なものもあるが、調整技法が判るものはすべてロクロ調整で、器種では壺が圧倒的に多い。このうち1点が図化できた(第39図1、写真113-1)。体部が直線的に立ち上がり、底径が小さい器形で、内面はヘラミガキ・黒色処理が施されている。

(2) 赤焼土器

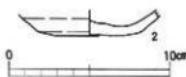
赤焼土器の可能性のあるものを含めると破片総数は53点で、このうち1点が図化できた(第39図2、写真113-2)。

(3) 須恵器

破片が17点出土したが、図化できるものはない。



第38図 9層水田跡水口平面図



No.	写真回数	出土地点・層位	種別	基盤	遺存度	法 寸 径 底径 高さ 口径	量 (cm)	底径 (cm)	色 調	特 徴
1	113-1	B-7、9層	土師器	壺	残	12.6 4.1 4.3 0.33	外表面赤褐色 内面赤褐色	ロクロ。底部下端~底部手持へラケズリ。切離法不明		
2	113-2	A-6、9層	赤焼土器	壺	底部のみ	?	4.2 ?	?	内面ヘラミガキ・黑色処理 後若狭色	ロクロ。同軸先切無調整

第39図 9層水田跡出土遺物

第8節 10層水田跡

10層上面では10層水田跡を検出した。時期は平安時代前葉と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

「十」字に交わる大畦畔によって造られた大区画(坪)と、その内部を小畦畔によって分割された区画から構成され、水田に伴うと考えられる土坑・性格不明遺構も検出されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は9層を削り込んでいく過程で確認した。畦畔及び耕作土上面は9層によって搅乱されているもの、遺存状況は比較的良好である。

(3) 耕作土

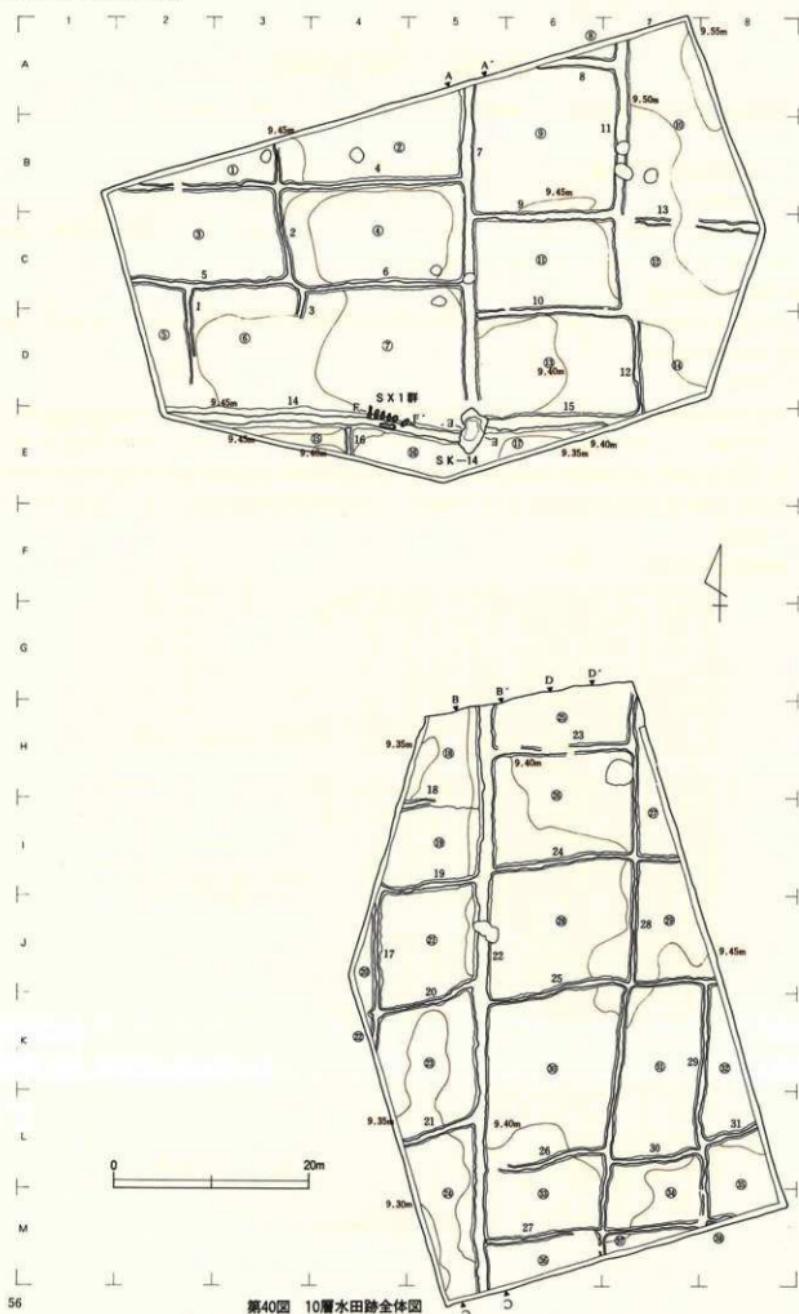
耕作土は基本層10層で灰黄褐色の粘土である。耕作土の厚さは1~18cmで一定せず、平均は10cm程度である。下面は凹凸が激しい。下層への食い込みの大部分は直下層(I~III区では12層、IV~V区では11層)中で止まっているが、部分的に14層上面にまで達する場合がある。なお、主に層上部あるいは上面に灰白色火山灰ブロックが認められるが、層中のものは本来は層上面に降下したものか、その後の耕作によって層中に入り込んだと考えられる。

(4) 水田域

調査区全面に広がる。

No.	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-2°-W	9.7以上	31~78(48)	52~109(78)	1~4	
2	N-7°-W	9.1以上	11~49(35)	44~94(69)	1~5	
3	N-10°-E	2.6以上	42~61(49)	68~94(83)	2~4	
4	N-87°-E	33.8以上	19~67(48)	64~114(87)	2~7	
5	N-89°-E	16.0以上	36~94(45)	67~108(85)	2~7	
6	N-87°-E	15.9以上	26~73(44)	68~124(91)	2~6	
7	N-1°-W	32.1以上	61~137(100)	97~165(140)	4~12	大畦畔、11層畦畔No.1と同位異
8	N-87°-W	6.3以上	69~90(78)	98~146(111)	1~6	
9	N-89°-E	14.1	42~85(65)	83~110(99)	3~6	
10	N-89°-E	15.1	46~80(57)	81~103(93)	1~4	
11	N-1°-W	27.1以上	31~118(86)	65~162(121)	1~6	
12	N-3°-W	9.6以上	25~84(38)	52~84(74)	3~3	
13	N-87°-W	12.7以上	23~94(59)	44~108(86)	1~5	
14	N-88°-W	29.9以上	54~95(79)	130~230(172)	4~37	大畦畔、11層畦畔No.2と同位異
15	N-89°-E	14.0以上	62~140(102)	116~202(167)	2~12	大畦畔、11層畦畔No.3と同位異
16	N-2°-W	3.0以上	36~48(41)	75~95(82)	4~9	
17	N-2°-E	15.7以上	31~47(38)	74~100(87)	3~9	
18	N-87°-E	7.9以上	33~49(41)	67~105(88)	1~6	
19	N-83°-E	9.5	18~50(35)	73~115(91)	3~6	
20	N-73°-E	9.6	19~58(32)	52~97(70)	3~7	
21	N-71°-E	7.7以上	39~81(54)	78~109(88)	2~6	
22	N S	59.7以上	63~168(85)	120~203(158)	3~11	大畦畔、11層畦畔No.7とほぼ同位異
23	N-87°-E	13.6	42~59(52)	88~122(98)	2~4	
24	N-86°-E	19.0以上	24~47(35)	69~101(82)	2~4	
25	N-85°-E	23.2以上	17~56(33)	49~103(72)	2~5	
26	N-81°-E	10.8以上	26~50(41)	63~93(83)	3~5	
27	N-85°-E	25.6以上	17~49(29)	18~85(67)	1~5	
28	N-3°-E	56.7以上	23~69(38)	55~107(76)	2~5	
29	N-1°-E	24.6以上	24~64(40)	63~107(85)	2~4	11層畦畔No.12とほぼ同位異
30	N-83°-E	8.9	32~58(40)	73~97(80)	2~4	11層畦畔No.13とほぼ同位異
31	N-70°-E	5.5以上	26~48(36)	73~101(86)	2~4	

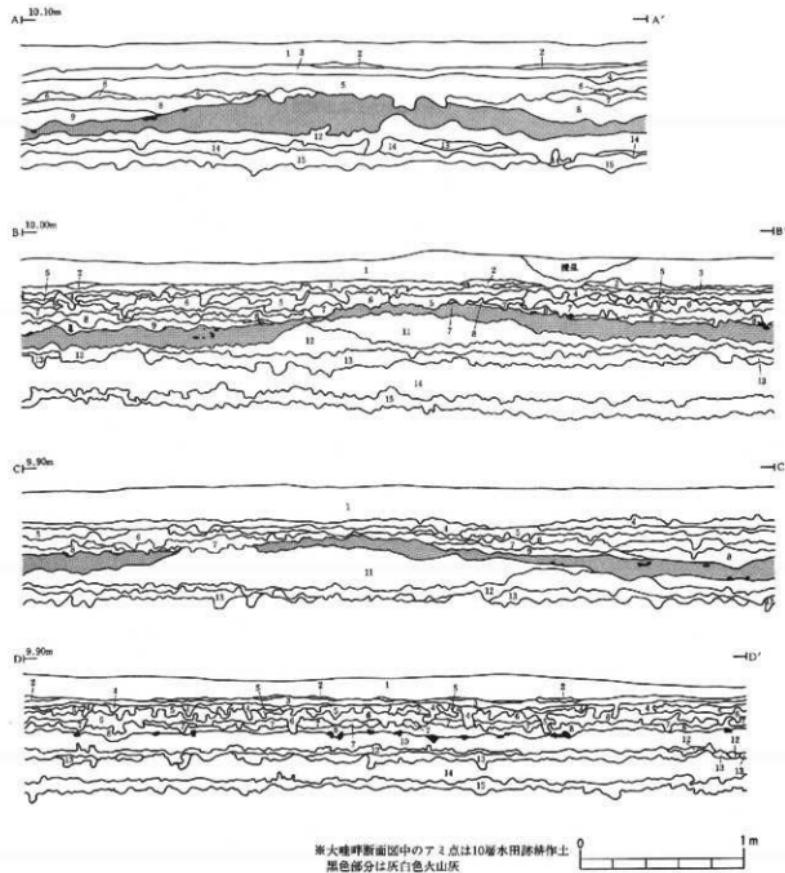
表19 10層水田跡畦畔計測表



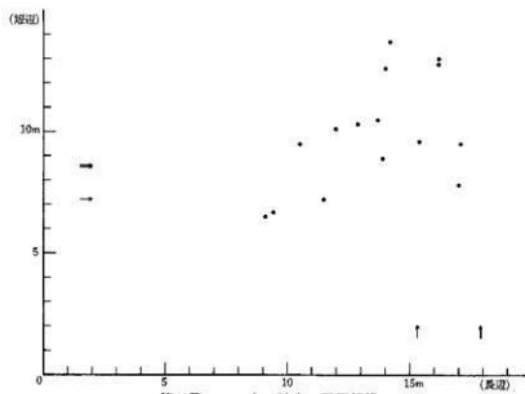
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～31まで検出した。これらのうちNo.7・14・15・22は条里型土地割における坪境の大畦畔で、幅が他の畦畔の約1.5～2倍ある。これらは11層水田の大畦畔を踏襲しており、畦畔上面は5・6層の耕作土によって攢乱されているが、畦畔下部には11・12層の大畦畔が良好に遺存していた（第41図、写真42・43）。小畦畔はNo.8・11がやや大きいが、その他はほぼ同規模である。位置は畦畔29・30が11層水田の畦畔とほぼ同位置に作られているが、11層の小畦畔はV区以外では検出されていないので11層水田跡との全体的な関係は不明である。方向は大体真北方向を中心とし、東西への振れも3°未満のものが多いが、V区の東西畦畔は振れが大きく、5～20°程ずれる。



第41図 10層水田跡大畦畔(No.7・22)断面図、IV区北壁断面図



第42図 10層水田跡水田区面規模

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(af)	推定規模(m)	備考
①	9.49~9.50	(1)	?	3.90以上	?	13.51以上	?	26.61以上	?	
②	9.40~9.49	(9)	中央が低い	8.51以上	3.51以上	17.9	?	118.12以上	? × 17.9	
③	9.43~9.47	(4)	北東→南西	8.6	?	15.43以上	15.51以上	147.91以上	8.6 × ?	
④	9.36~9.43(9.39)	7	ほぼ水平	9.6	9.4	16.1	16.1	171.0	9.5 × 17.1	
⑤	9.44~9.46	(2)	?	11.8	?	2.51以上	5.01以上	46.99以上	11.8 × ?	
⑥	9.41~9.46(9.44)	5	北内→南東	12.1	11.8	9.8	10.4	推定124.0	12.0 × 10.1	
⑦	9.34~9.42(9.37)	8	北西→南東	14.5	11.5	16.8	15.6	推定216.9	13.0 × 16.2	
⑧	9.50	?	?	1.51以上	?	4.31以上	?	?	?	
⑨	9.44~9.48(9.46)	4	北東→南西	13.9	推定14.5	13.7	推定13.7	推定210.1	14.2 × 13.7	部分的に検出
⑩	9.46~9.57	(11)	北東→南西	?	17.81以上	13.61以上	?	185.13以上	?	
⑪	9.40~9.45(9.42)	5	ほぼ水平	8.7	9.1	14.4	13.4	125.5	8.9 × 13.9	
⑫	9.47~9.52	(5)	北東→南西	?	8.6	?	13.51以上	102.32以上	8.6 × ?	
⑬	9.36~9.42(9.40)	6	北東→南西	9.4	9.8	15.5	15.2	157.1	9.6 × 15.4	
⑭	9.42~9.47	(5)	北東→南西	?	9.43以上	?	?	67.51以上	?	
⑮	9.40~9.43	(3)	?	2.61以上	?	?	11.11以上	17.21以上	?	
⑯	9.36~9.38	(2)	?	?	2.81以上	?	11.0	62.22以上	? × 11.0	
⑰	9.32~9.35	(3)	?	?	?	?	12.31以上	?	?	
⑱	9.34~9.40	(6)	東→西	9.51以上	?	7.71以上	?	55.1以上	?	
⑲	9.34~9.39	(5)	ほぼ水平	6.7	?	9.4	8.0以上	推定66.4	6.7 × 9.4	
⑳	9.35~9.38	(3)	?	9.61以上	?	?	?	?	?	
㉑	9.34~9.40(9.36)	6	ほぼ水平	9.4	11.6	9.9	9.1	102.2	10.5 × 9.5	
㉒	9.34	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉓	9.31~9.40(9.34)	(9)	中央が低い	12.3	推定13.4	推定10.9	9.6	推定121.5	12.9 × 10.3	
㉔	9.30~9.36	(6)	北東→南西	16.91以上	?	?	7.31以上	82.43以上	?	
㉕	9.44~9.46	(2)	ほぼ水平	5.21以上	4.31以上	13.4	?	78.21以上	? × 13.4	
㉖	9.43~9.48(9.45)	5	ほぼ水平	10.1	10.9	13.8	13.5	146.2	10.5 × 13.7	
㉗	9.46~9.49	(3)	?	?	16.01以上	4.01以上	?	30.23以上	?	
㉘	9.13~9.46(9.44)	3	ほぼ水平	12.1	12.7	13.8	14.1	176.6	12.4 × 14.0	
㉙	9.43~9.46	(3)	ほぼ水平	?	12.0	8.11以上	4.21以上	73.56以上	12.0 × ?	
㉚	9.38~9.45(9.42)	7	北東→南西	16.2	16.1	11.9	13.6	210.7	16.2 × 12.8	
㉛	9.38~9.45(9.41)	7	ほぼ水平	16.5	17.5	8.6	6.9	137.2	17.0 × 7.8	
㉜	9.43~9.44	(1)	ほぼ水平	?	15.3	5.41以上	0.71以上	45.21以上	15.3 × ?	
㉝	9.36~9.40(9.38)	4	ほぼ水平	7.5	6.8	11.2	11.8	80.4	7.2 × 11.5	
㉞	9.37~9.41(9.39)	4	北西→南東	6.5	6.4	9.7	8.5	60.6	6.5 × 9.1	
㉟	9.38~9.41	(3)	ほぼ水平	?	7.2	2.51以上	5.31以上	47.51以上	7.2 × ?	
㉟	9.35~9.39	(4)	?	2.31以上	4.41以上	?	11.3	38.31以上	? × 11.3	
㉟	9.37~9.39	(2)	?	?	1.9以上	?	8.9以上	9.03以上	?	
㉟	9.40	?	?	?	0.2以上	?	0.41以上	?	?	部分的に検出

表20 10層水田跡水田区面計測表

(2) 水田区画

水田区画は4つの大区画(坪)とその内部に①～⑩までの38区画が認められた。全体を検出できた区画は④・⑥・⑦・⑪・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳の12区画であるが、その他⑨・⑩・⑫が区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としているが、大畦畔22の西側では歪みが大きい。大きさはばらつきがあるが、7×10m前後、10×10～17m前後、13×15m前後との3種類にまとまる傾向がある(第42図)。

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北東から南西方向へ緩やかに傾斜し、IV・V区の西方からII区へ向かってごく浅い谷状の地形が入り込んでいる。標高は9.30～9.57mで、勾配はI～III区で約7cm/10m、IV・V区では約3cm/10mである。各区画内の傾斜は大体において全体的な地形と一致するが、区画④・⑪・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳のようにほぼ水平なものも認められる。区画内の比高差については不確定なものもあるが大体10cm以内と推定される。各区画間の比高差は⑥・⑦の間が7cmあるのを除けば1～4cmとごくわずかである。大畦畔をはさんだ東西の区画間の比高差はI～III区では3～4cmで他と同様であるが、IV・V区では西側の坪の方が8cm程度低くなっている。

(4) 水口

数ヶ所で畦畔が途切れる状況が認められたが、この部分の畦畔の立ち上がりがはっきりせず、水口とは断定できなかった。なお、坪境の大畦畔の交点にはSK14があるために畦畔が途切れており、区画⑦と⑩の水田面がここに向かって傾斜していることからこの部分は坪間の配水のための水口と推定される。

(5) 土坑

SK14(第43図、写真47)

坪境の大畦畔の交点に位置する。平面形は不正な梢円形で、規模は4.5×2.2m、深さ約20cmである。堆積土は3層に分層され、主として基本層9層に類似した粘土質シルトが堆積していた。堆積状況からすると10層水田の経営期間中は開口していたと考えられ、前述したように、各坪間の配水に係わる水口の可能性が高い。

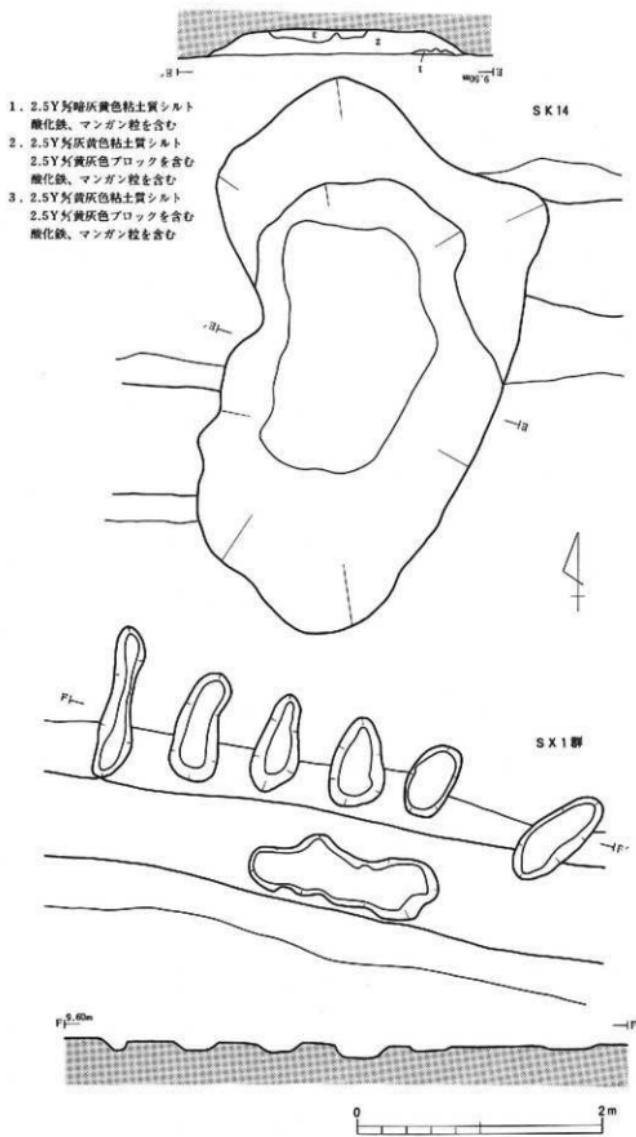
(6) 性格不明遺構群

SX 1群(第43図、写真48)

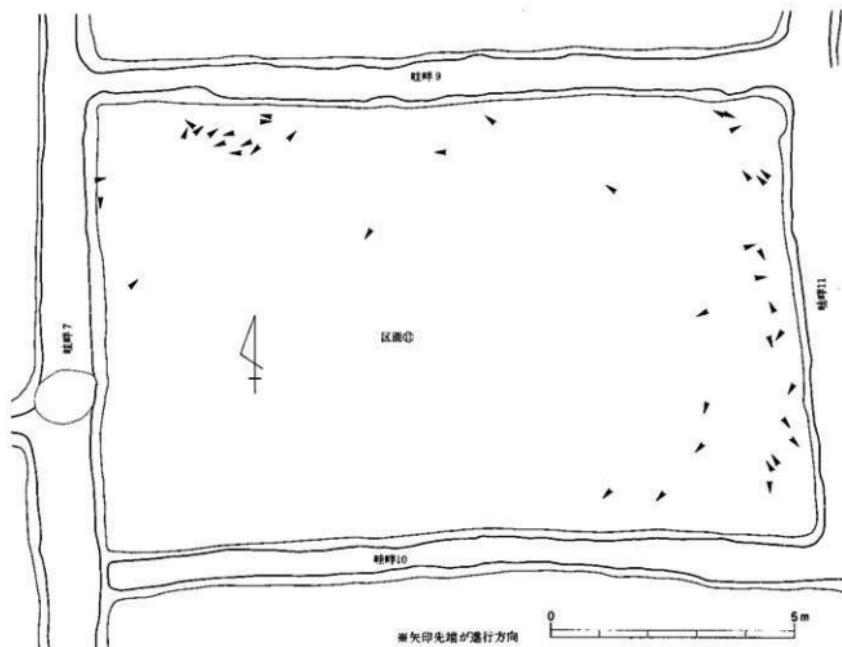
大畦畔14上に小規模な土坑を7基検出したが、一ヶ所に集中し、しかも形態が類似するものが大部分であるのでまとまった一群としてとらえている。土坑は畦畔上にある1基と畦畔の北側の肩から水田面にかけて位置する6基との2種類認められた。前者は平面形が不整な梢円形を呈し、規模は160×40cm、深さ2～6cm、後者は平面形は長梢円形で、規模は大体80×30cm、深さ1～9cmである。堆積土は粘土質シルトの単層で、9・10層に類似する。土坑の方向が畦畔と直交あるいは平行することから、水田経営に係わる何らかの痕跡と考えられるが9・10層のどちらの層に伴うものかは不明である。畦畔を切っているので耕作痕の可能性は低いと考えられるが、具体的な性格については断定できない。

(7) 水田面の状況

IV・V区では南北方向に延びる細い溝状のプランが多数平行して認められ(写真41・44)、この部分には10層耕作土が混じった灰白色火山灰が入り込んでいた。幅は5cm前後、間隔は20～30cm前後であるが、8層上面で確認したものと同様にプランは明確ではなく、近くで観察すると不定型の小ビットが連続し、距離をおいて見ると平行したシマ状に見える状況であった。掘り上げをしなかったため詳細は不明であるが、断面観察では灰白色火山灰は主として10層の窪みに堆積しており、部分的に10層中にも認められる(第41図)。ただ、明確な溝状の窪みは認められなかったことから特に意識して掘られたものではないと考えられる。性格については方向が水田区画と同じであるので、10層に伴う耕作痕と考えられ、その窪みに灰白色火山灰が堆積したと推測される。



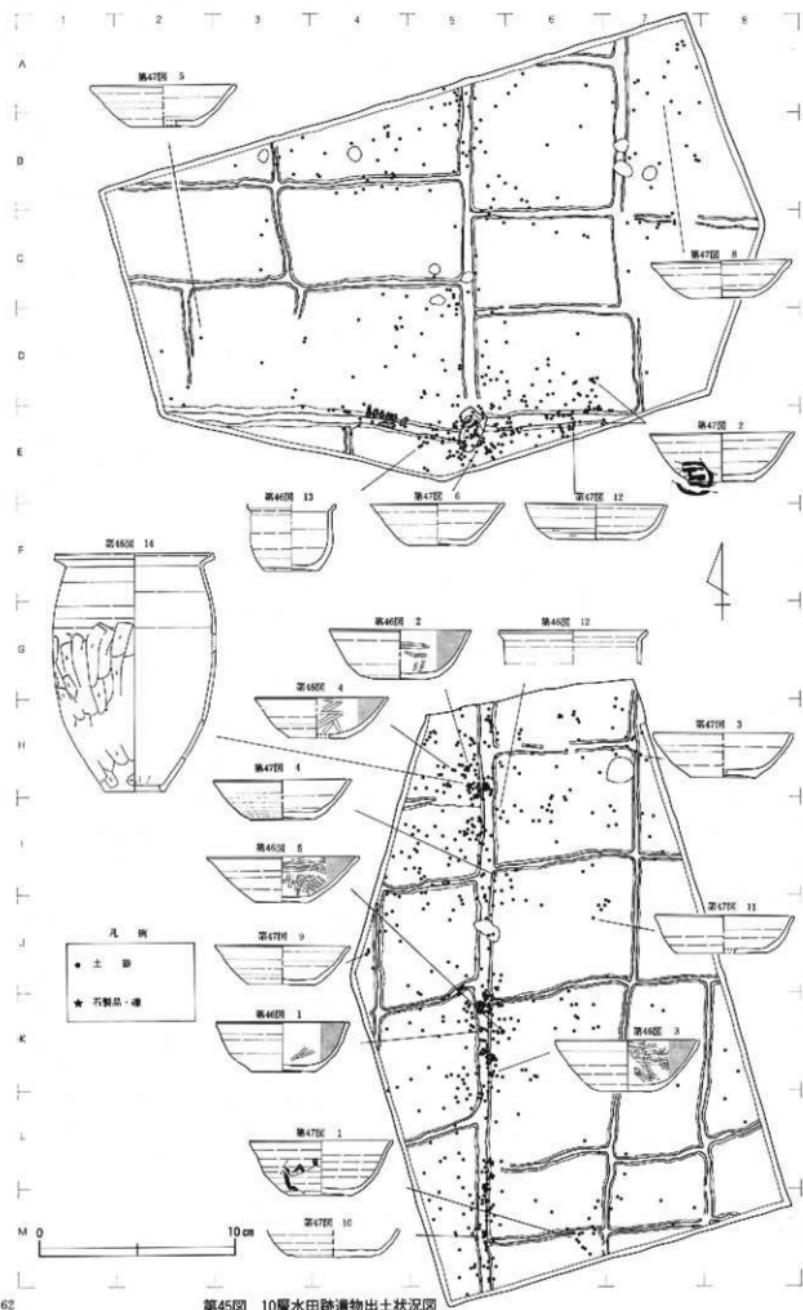
第43図 SK 14、SX 1 群平面・断面図



第44図 10層上面足跡平面図

なお、区画⑪とその周辺からは灰白色火山灰が詰まった牛と推定される足跡が多数検出された(第44図、写真45・46)。区画⑪では約40個確認したが、足跡の分布は区画の周辺部に限られ、中央部には認められなかった。ただ、区画⑪以外では足跡が集中する箇所は認められずごく少数が散在する程度であったことから、本来10層上面にあった大部分の足跡は9層の耕作によって攪乱されてしまったと考えられ、したがって区画⑪における分布状況は本来のものではない可能性がある。検出できた足跡のみでは歩行方向などを検証することはできないが、足跡の方向はほぼ畦畔にそって区画内を巡っていることから、牛は複数の水田区画をまたいで歩行したのではなく、各区画ごとに歩行した可能性がある。ただし水田耕作に伴うものかどうかは不明である。

なお灰白色火山灰は、これまで記述したように基本的には耕作土上面にブロック状に認められるが、特に畦畔の側面と畦畔際の水田面には途切れながらも帯状に分布する傾向性が認められた(写真38)。これは畦畔は当然として、畦畔際は水田区画の他の箇所よりも耕作による攪乱を受けにくくことに起因すると考えられる。言い換えれば10層水田は灰白色火山灰の降下・堆積後にも耕作され、その時は畦畔際が区画内の他の部分に比べてあまり耕作されなかったことを示している。ただ、火山灰がブロック状であることと耕作土中に含まれる量が層上面に比べて少ないことから火山灰降下後も恒常に耕作されたとは考えにくい。なお、本来は畦畔上には多量の火山灰があったと考えられるが、上層の水田耕作による攪乱のために畦畔上部と共に失われたと推測される。



3. 出土遺物

耕作土中およびSK14から土師器、赤焼土器、須恵器、石製品、鉄製品が出土した。破片総数は1102点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると750点となる。これらの平面的な出土状況は大畦畔の周辺に集中する傾向がある(第45図)。また、この他に自然縫44点が出土しているが、これらの大部分は大畦畔中に埋め込まれた状態であった。

なお、図化できた遺物の中には10層だけではなく7~9・12層出土の破片と接合したものもある。これらは、破片の各層別の数量・分布状況から一応10層に伴うものとして捉えているが、11層水田跡の項で述べるように10層として取り上げた遺物の中には11層水田跡に帰属する遺物が含まれている可能性がある。出土状況からは遺構に伴う遺物を限定することはできなかったが、器形・調整技法からすると須恵器8~14は本来11層水田跡に伴うかあるいは10層水田の耕作によって下層(11~12層)から巻き上げられた可能性もある(第5章第1節II参照)。

(1) 土師器

土師器の可能性のあるものを含めると破片総数は571点である。磨滅のために調整技法が不明なものも多いが調整技法が判るものの大半はロクロ調整である。このうち図化できたのは壺9点(第46図1~9、写真114-1~7)、高台付壺2点(第46図10・11)、甕3点(第46図12~14、写真114-8・9)である。壺はすべてロクロ調整がなされ、底部の切離しは回転糸切りで再調整は施されない。内面はヘラミガキ・黒色処理が施されている。器形は体部がやや膨らみをもって立ち上がり、口縁部が外反するもの(1・2・4)、体部が直線的に開き、口縁部がわずかに内湾するもの(3)、体部が直線的に開き、口縁部がわずかに外反するもの(5)の3種に大別できる。高台付壺は一部分のみの遺存であるため器形は不明であるが、内面にヘラミガキ・黒色処理が施されている。甕は小型のもの(12・13)と長胴のもの(14)があり、長胴のものはロクロ調整後体部下半に縱方向のヘラケズリが施されている。

(2) 赤焼土器

赤焼土器の可能性のあるものを含めると破片総数は83点で、このうち高台付壺1点が図化できた(11)。底部のみの遺存であるが、比較的高い高台が付くものである。なお、他の破片は細片のため器種構成等は不明である。

(3) 須恵器

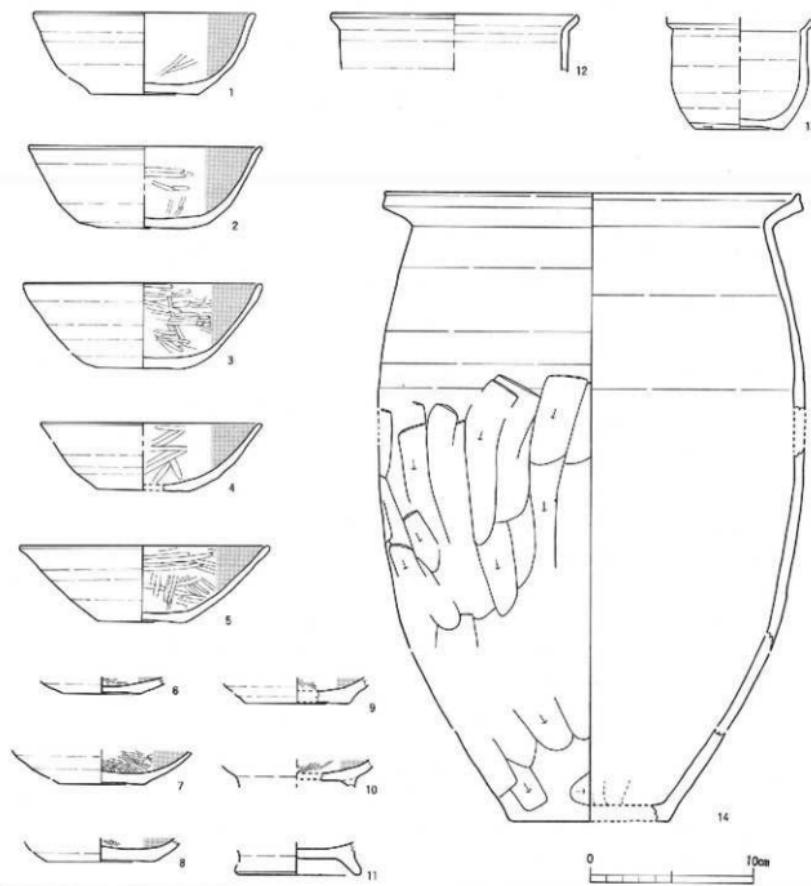
須恵器の可能性のあるものも含めると破片総数は91点である。器種は大部分が壺と推定され、このうち14点が図化できた(第47図、写真115・116-1~4)。なお、第47図13・14は須恵器ではなく、いわゆる赤褐色土器(小井川:1981)である可能性があるが、断定できないため…必須器としている。

これらをロクロからの切離し技法と再調整技法から分類すると、底部からの切離しが回転糸切りで再調整が施されないもの(1~7)、切離し技法は不明であるが底部あるいは底部と体部下半に回転ヘラケズリ調整が施されるもの(11~14)、回転ヘラ切りで再調整が施されないもの(8~10)の3種に大別できる。

一方、器形によって分類すると、やや深い器形で体部が膨みをもって立ち上がり、口縁部が比較的強く外反するもの(1・2)、体部が膨みをもって立ち上がり、そのまま口縁部に至るもの(3)、体部がやや膨みをもって立ち上がり、直線的に開くか口縁部がごくわずかに外反するもの(4~6・8・9)、底径が大きく体部がやや膨みをもって立ち上がり、口縁部は直線的にのびるかわずかに外反するもの(11・12)の4種に分けられる。1は体部に1ヶ所、2は底部および体部の正対する位置に墨書きがなされているが、1は欠損のために判読不能であった。

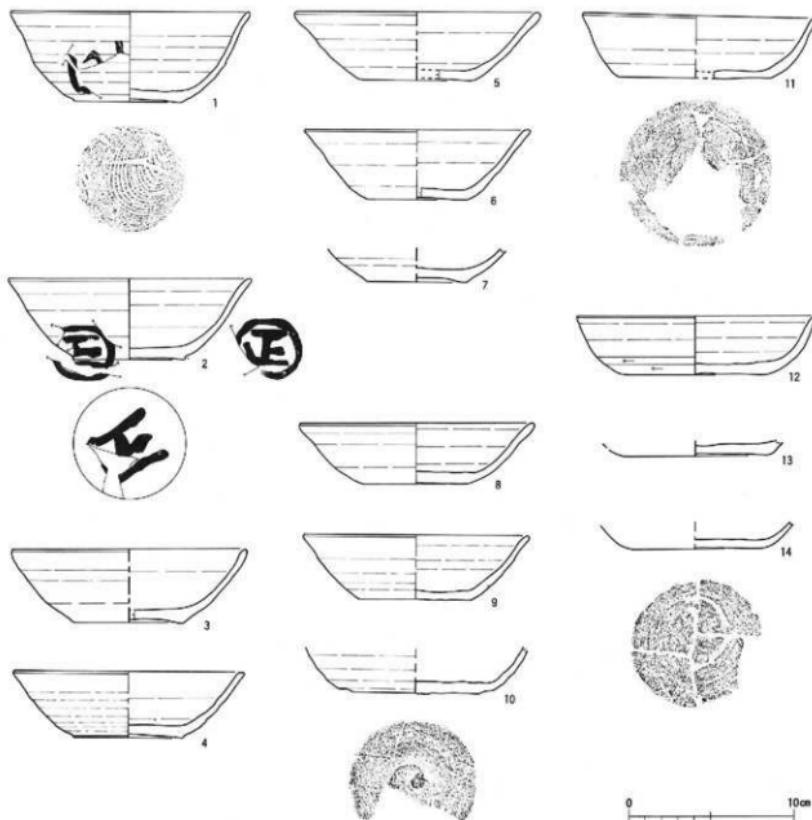
(4) 石製品

紡錘車1点(第48図2、写真116-6)と砥石3点(第48図3~5、写真116-7~9、117)が出土した。砥石は川原石をそのまま利用しており、1~2面に擦痕が認められる。石材は多数出土している自然縫と違いはなく特別なものではないことから、何らかの理由で持ち込まれた縫のうち比較的広い平坦面があるものを選んで砥石として利用したと考えられる。



No.	写真標題	出土地点・層位	種別	形種	遺存度	法 量(cm)	底 径 口 径 高 さ 厚 さ	内 面 外 面 色 調	特 徴
1	114-1	K-5、 H-5、 8-10層	土師器	碗	残	(13.6) 6.6 (14.4) 5.6	5.1 5.1 0.49 0.39	灰白色 灰白色 黑色地 黑色地	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
2	114-2	H-5、 10-12層	土師器	碗	残	(13.4) 5.6	5.1 0.38	浅黃褐色 灰白色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
3	114-3	K-L-5、 7~10層	土師器	碗	残	(14.6) 5.5	5.3 4.2 0.40	灰白色 灰白色 黑色地	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋 コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
4	114-4	H-I-5、 8-10層	土師器	碗	残	(13.4) 5.3	4.2 0.40	灰白色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
5	114-5	K-5、6、 6~10層	土師器	碗	残	15.4	5.2 4.8 0.34	灰白色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
6	-	H-5、 8-10層	土師器	碗	底部のみ	?	4.7 ?	浅黃褐色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
7	114-7	H-5、 10層	土師器	碗	下手部	?	5.1 ?	灰白色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
8	-	H-6、7、 8-10層	土師器	碗	底部のみ	?	6.8 ?	明褐色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
9	114-6	K-5倍、 8-10層	土師器	碗	底部のみ	?	6.3 ?	灰白色	コクロ、斜面木柱跡痕、内面へリガサ・黑色地埋
10	-	J-K-5、 10層	土師器	高台碗	底部部	?	(6.8) ?	に赤い跡色	コロリ、底面堅化、高台、内面へリガサ・黑色地埋
11	-	J-6、 8-10層	赤燒土器	高台碗	底部のみ	?	(7.4) ?	灰白色	コクロ、底面堅化、高台
12	-	I-5、8 8-10層	土師器	甕	上部%	(14.0)	?	?	外表面褐色 内面褐色
13	114-9	E-5倍、 10層	土師器	小梨甕	残	?	5.4 ?	?	外表面褐色 内面褐色
14	114-8	H-I-5倍、 7~12層	土師器	甕	残	(25.4) (9.6) (38.5)	?	?	外表面 内面

第46図 10層水田跡出土遺物（1）

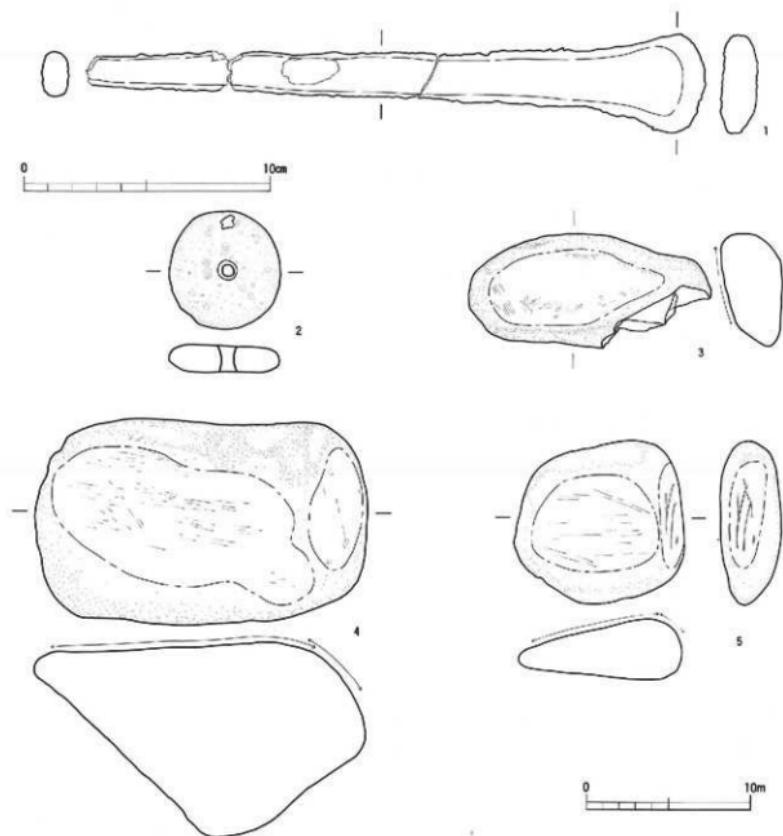


%	写真回数	出土地点・層位	種別	形状	遺存状	法 星(cm)	底 径	高 度	口径	色 調	特 徴
1	115-1	M-6倍、 8-10層	埴 器	盆	残	14.4	6.6	5.6	0.46	灰黃色	ロクロ、回転舟切無調査、底部外縁に凹凸(底鋸不規)
2	115-2-3	D-E-5倍、 7-10層	埴 器	盆	残	14.8	6.8	5.0	0.46	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査、全体と底部に墨書き(正・②)
3	115-	H-I-7倍、 8-10層	埴 器	盆	(14.2)	(6.5)	4.6	0.46	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査	
4	115-5	J-5倍、 10-12層	埴 器	盆	残	(13.8)	6.6	4.1	0.46	灰白・褐色	ロクロ、回転舟切無調査
5	115-9	D-2・3倍、 7-10層	埴 器	盆	残	(14.6)	6.6	4.4	0.45	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査
6	115-6	E-5倍、 10層	埴 器	盆	残	13.8	6.0	4.2	0.43	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査
7	115-7	K-5、 10-12層	埴 器	盆	底無	?	6.0	?	?	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査
8	116-1	A-B-6・7倍、 7-10層	埴 器	盆	(14.4)	6.4	3.8	0.44	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査	
9	116-2	J-4倍、 8-12層	埴 器	盆	(13.6)	6.8	4.0	0.50	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査	
10	116-4	M-5・6、 8-10層	埴 器	盆	?	7.6	?	?	?	明瞭灰色	ロクロ、回転舟切無調査
11	116-3	J-6倍、 8-12層	埴 器	盆	?	14.0	9.2	4.0	0.66	灰白色	ロクロ、回転舟切無調査
12	115-11	E-6倍、 9-12層	埴 器	盆	残	14.6	8.2	3.6	0.56	灰白色	ロクロ、切妻法不明、底部下端一部回転ヘラケズリ
13	115-9	J-5・6倍、 7-12層	埴 器	底部のみ	?	8.6	?	?	?	よい褐色	ロクロ、切妻法不明、底部回転ヘラケズリ
14	115-10	I-5倍、 10-12層	埴 器	下半部	?	7.6	?	?	?	淡黄色	ロクロ、切妻法不明、底部回転ヘラケズリ

第47図 10層水田跡出土遺物（2）

(5) 鉄製品

偏平な棒状のものが1点出土した(第48図1、写真116-5)。当調査区4層水田跡出土のものを含めて、板状あるいは棒状の鉄製品は富沢地区の水田跡から数点の出土例があり、水田に係わる遺物である可能性が高い。具体的な用途は特定できないが、地ならし用の農具の歯と推定される(第5章第1節IIを参照)。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	造形	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
1	116-5	E-5, 10層	鉄製品・農具の歯?	端部欠損	遺存26.1	1.2-4.0	0.9-1.5	偏平な棒状を呈し、一方端が扇形に広がる、重量114g
2	116-6	D-6, 10層	石製品・研錐車	完形	-	径 7.2	1.7	石炭灰岩質、重量27g
3	116-8-9	K-5, 10層	石製品・吸石	一部欠損	遺存14.7	8.9	3.6	石炭灰岩質、1面に側面、重量569g
4	117-1-2	S K10, 10層	石製品・吸石	完形	20.2	12.6	11.8	安山岩質、2面に側面、重量3956g
5	116-7	H-3, 10層	石製品・吸石	完形	10.4	9.7	3.6	石炭灰岩質、2面に側面、重量523g

第48図 10層水田跡出土遺物(3)

第9節 11層水田跡

11層上面では11層水田跡を検出した。時期は平安時代前葉と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

「十」字に交わる大畦畔によって造られた大区画(坪)と、その内部を小畦畔によって分割された比較的狭い区画によって構成されている。また、水田跡に伴うと考えられる土坑1基も検出している。

(2) 検出・遺存状況

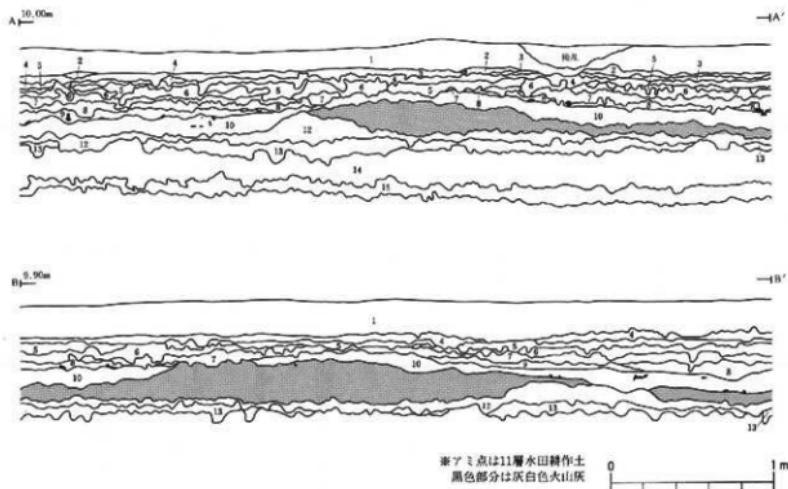
畦畔は10層を削り込んでいく過程で確認したが、畦畔はIV区南部とV区にかけて確認できただけである。また、畦畔を検出できた箇所も畦畔及び耕作土上面は10層によって搅乱されているために遺存状況は極めて悪い。当初は11層の存在を確認できず、検出した畦畔を12層のものとして捉えていたために、わずかに遺存していた11層耕作土の大部分を12層上面まで掘り下げてしまい、このため11層上面の標高を測定することはできなかった。

(3) 耕作土

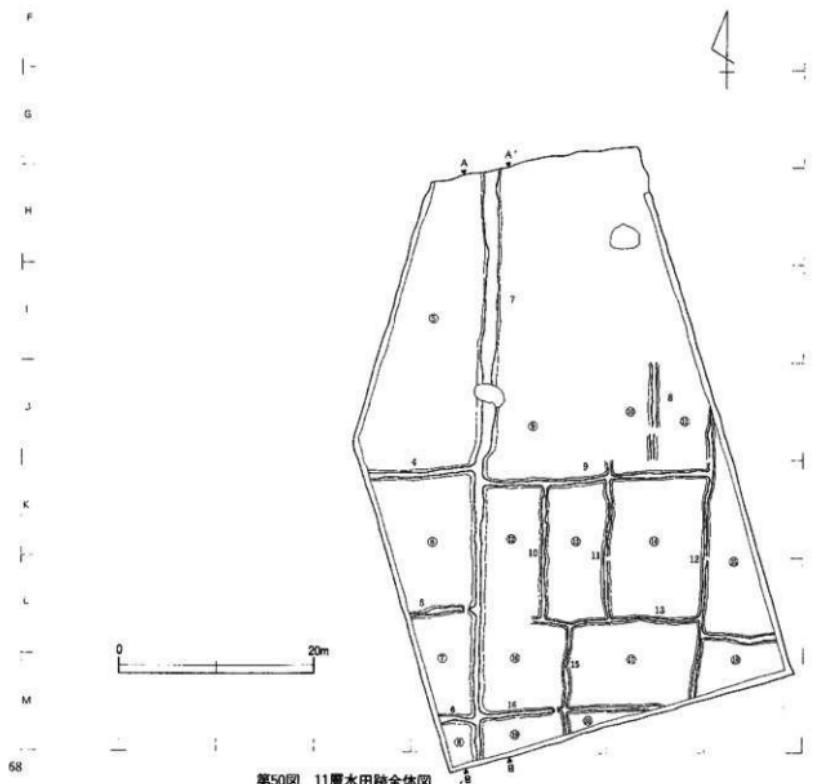
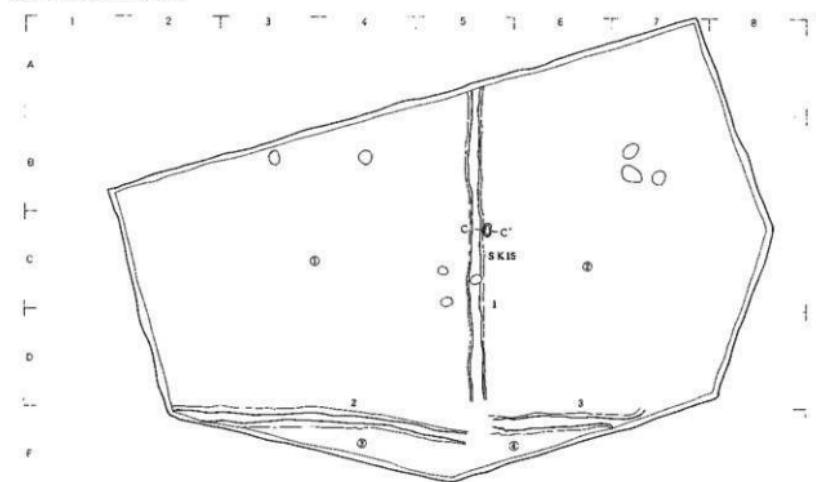
耕作土は基本層11層で灰黄褐色の粘土である。耕作土の厚さは1~26cmで一定せず、平均は6cm程度である。下面は凹凸が激しい。下層への食い込みの大部分は12層中で止まっているが、部分的に13層中にまで達する場合がある。なお、耕作土はI~III区の調査時には確認できなかったが、SK15の確認面が10層下部であるので、本来は10層下部を11層として分層できた可能性もある。

(4) 水田域

耕作土はIV・V区で確認したのみであるが、前述したようにI~III区でも11層が存在した可能性があるので、不確実ではあるが一応調査区全域に広がると考えておきたい。



第49図 11層水田跡大畦畔(No.7)断面図



No	方 向	長さ(m)	上地幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	?	32.11±1	?	?	?	大畦畔、存在を推定
2	?	29.9±1	?	?	?	大畦畔、存在を推定
3	?	14.0±1	?	?	?	大畦畔、存在を推定
4	N-86°-E	10.21±1	41~62 (49)	90~111 (99)	3~7	12層畦畔No.29と同位置
5	N-82°-E	5.5±1	23~50 (39)	70~103 (84)	2~7	12層畦畔No.30と同位置
6	N-88°-W	3.21±1	40~65 (46)	89~106 (96)	3~6	12層畦畔No.31と同位置
7	N S	59.7±1	63~168 (85)	120~193 (152)	3~11	大畦畔?、12層畦畔No.32とほぼ同位置
8	N-1°-E	10.01±1	26~64 (43)	88~111 (98)	1~13	北傾小明
9	N-87°-E	22.4	30~51 (40)	72~96 (83)	2~7	
10	N-1°-E	13.2	25~51 (38)	66~94 (81)	1~4	12層畦畔No.40の一部と同位置
11	N-1°-W	16.11±1	22~41 (34)	44~93 (80)	3~10	
12	N-4°-E	29.3±1	23~46 (33)	57~94 (73)	1~13	12層畦畔No.42・44と同位置
13	N-89°-E	17.01±1	21~36 (27)	60~72 (66)	4~11	
14	N-89°-W	7.31±1	33~61 (50)	71~94 (88)	2~9	12層畦畔No.45の一部と同位置
15	N-1°-E	10.81±1	27~47 (36)	56~91 (73)	3~6	
16	N-84°-E	7.21±1	29~41 (34)	44~101 (76)	1~6	

表21 11層水田跡畦畔計測表

No	東延(m)	西延(m)	南延(m)	北延(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備 考
①	34.9±1	?	30.2±1	?	?	?	詳細不明
②	?	33.8±1	16.0±1	?	?	?	詳細不明
③	?	?	?	23.1±1	?	?	詳細不明
④	?	?	?	12.3±1	?	?	詳細不明
⑤	29.5±1	?	10.3±1	?	?	?	
⑥	13.2	?	6.21±1	10.11±1	111.73±1	13.2×?	
⑦	10.3	?	3.31±1	5.9±1	48.61±1	10.3×?	
⑧	3.6±1	?	?	3.0±1	10.56±1	?	部分的に検出
⑨	?	31.21±1	12.2	?	?	?	×12.2
⑩	10.9±1	?	3.5	?	?	?	×3.5
⑪	6.4±1	10.8±1	5.2	?	?	?	×5.2
⑫	13.0	13.0	5.5	5.6	72.3	13.0×5.6	
⑬	13.7	13.1	6.1	5.6	77.3	13.4×5.9	
⑭	14.0	13.8	8.5	9.5	128.8	13.9×9.0	
⑮	?	21.6±1	7.21±1	?	77.31±1	?	
⑯	8.0	8.8	7.7	8.3	70.6	8.4×8.0	
⑰	推定 9.0	8.1	推定 12.2	12.6	推定 104.1	8.6×12.4	
⑱	?	5.9±1	?	7.3±1	34.61±1	?	
⑲	2.5±1	3.6±1	?	7.8	24.5±1	?	×7.8
⑳	?	2.11±1	?	8.0±1	?	?	部分的に検出

表22 11層水田跡水田区面積測定表

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

耕作土を盛り上げて造られており、No.4～16まで検出した。No.1～3はI～III区で耕作土を確認できなかつたために調査時には検出できなかつたが、区画の基準となる坪境の大畦畔でしかも上下の水田には認められることから、確実に存在したと考えられるため図化した。また、畦畔7も坪境の大畦畔で、幅が他の小畦畔に比べて約1.5倍程度ある。これらの大畦畔は12層水田跡の大畦畔を踏襲して造られており、畦畔下部には12層の大畦畔が良好に遺存していた(第49図、写真42・43)。小畦畔の規模はほぼ同一で、位置はNo.4～6・10・12・14が12層水田の畦畔と同位置か、ほぼ同位置に造られている。方向は大体真北方向を中心とし、東西への振れも4°未満のものが大部分であるが、No.5と16は6～8°ほどずれる。

(2) 水田区画

水田区画は4つの大区画(坪)と、その内部に①～⑩まで20区画認められた。ただ①～④は図上で推定した区画であるので詳細は不明であり、⑤・⑨・⑩・⑪もこれらに係わる畦畔を一部検出したのみであるので不明な点が多い。全体を検出できた区画は⑫・⑬・⑭・⑮の4区画であるが、その他⑯が区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としている。大きさはばらつきがあるが、短辺5.5～9m、長辺13m前後のものが多い(第51図)。

(3) 水田面の標高と傾斜

前述したように耕作土上面の標高を測定できなかつたため、標高や傾斜に関しては不明である。

(4) 水口

区画⑥と⑦の間、⑩と⑪の間に二ヶ所確認された。上端幅約50～60cm、下端幅約40cmで、底面は周囲の水田面と同じ高さである。また、他にも畦畔が途切れている部分があるが、はっきり水口とは断定できない。

(5) 土坑

SK15(第52図)

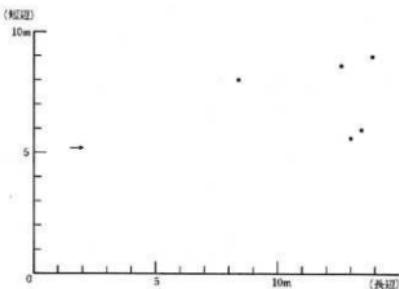
II区の畦畔1の東側に位置する。前述したように調査時の確認面は10層下部であるので、本来は11層上面から掘り込まれていた可能性が高い。平面形は丸みを帯びた長方形で、大きさは125×75cm、深さ約40cmである。堆積土は2層に分かれるが、ブロック状に土が入り込んでいるので比較的短期間のうちに埋め戻された可能性が高い。

(6) 水田面の状況

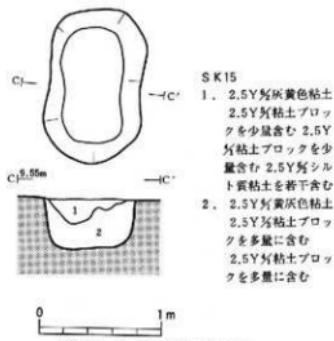
水田面は10層の耕作によって搅乱されており、耕作痕などは確認できなかった。

3. 出土遺物

調査時に11層耕作土の大部分を10層として誤認してしまった結果、遺物も10層として取り上げたため数量は非常に少ない。出土したのは土器片6点で、層中および他層出土の破片との接合関係から点数を修正するとわずかに2点を数えるのみである。内訳は調整不明の土師器片1点、調整不明で土師器と考えられるもの1点で、図化できるものはない。



第51図 11層水田跡水田区画規模



第52図 SK15平面・断面図

第10節 12層水田跡

12層上面では12層水田跡を検出した。時期は大体奈良～平安時代前葉と考えられ、条里型土地割が認められた。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

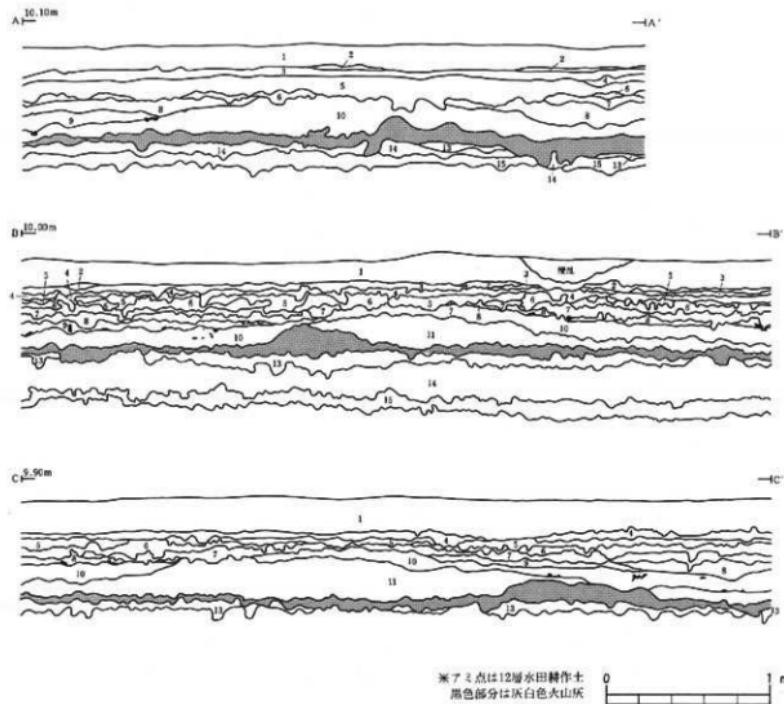
「十」字に交わる大畦畔によって造られた大区画（坪）と、その内部を小畦畔によって分割された比較的小さな区画から構成されている。また、水田に伴うと考えられる土坑2基を検出している。

(2) 検出・遺存状況

畦畔はIV区南部とV区では11層水田の畦畔を検出した際にやや掘りすぎたため、11層水田跡とほぼ同一面で確認している。他の箇所では11層を確認できなかっただため10層を削り込んでいく過程で確認した。畦畔及び耕作土上面は10・11層によって擾乱されているものの、遺存状況は比較的良好である。

(3) 耕作土

耕作土は基本層12層で灰黄褐色の粘土である。耕作土の厚さは1～22cmで一定せず、平均はI～III区が10cm程度、IV・V区が5cm程度である。下面是凹凸が激しく、13層をかなり擾乱しており、部分的に15層中にまで食い込んでいる。



第53図 12層水田跡大畦畔 (No. 8. 30) 断面図

(4) 水田域

調査区全面に広がる。

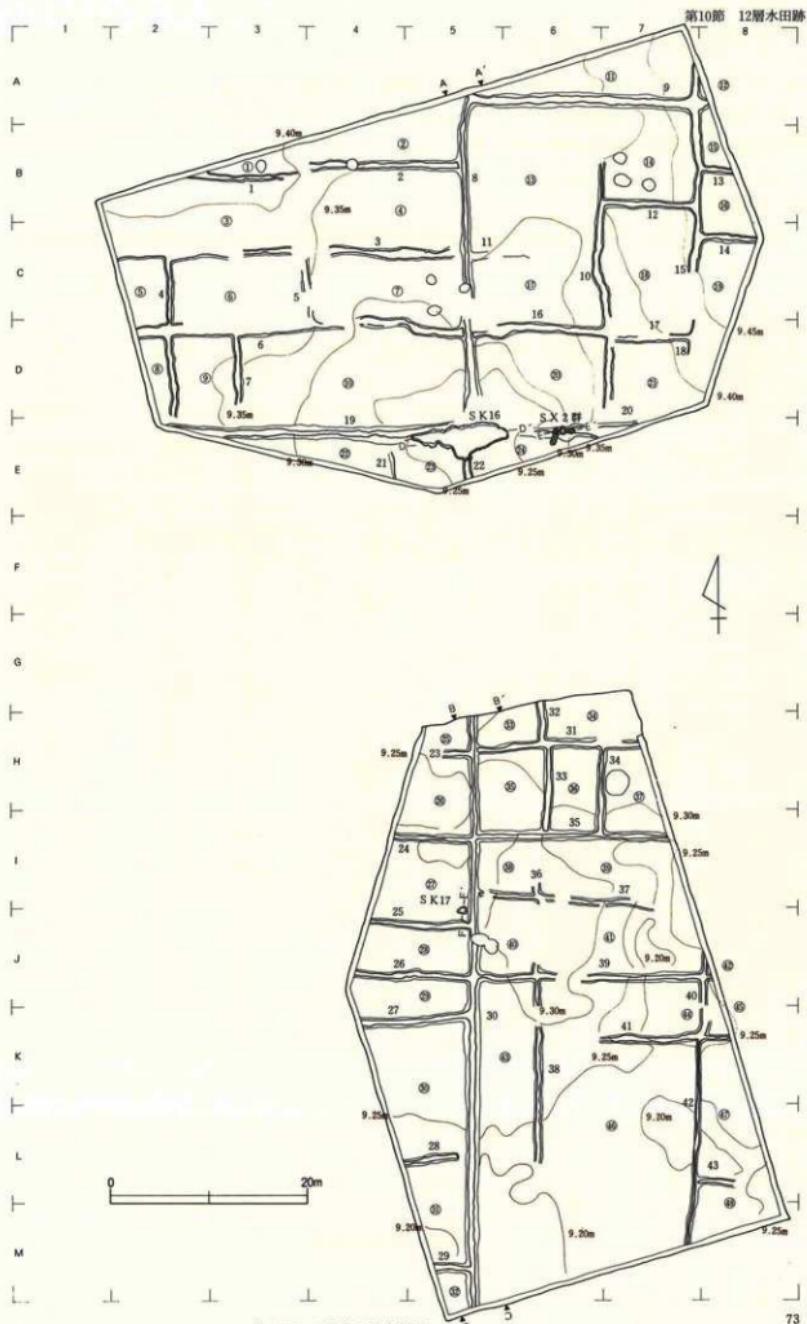
2. 遺構の状況

(1) 鮎畔

No 1~43まで検出した。基本的に耕作土を盛り上げて造られているが、部分的に13層ブロックが混じる場合もある。これらのうちNo 8・19・20・22・30（第53図、写真42・43）は条里型土地割における坪境の畦畔で、22と30は同一のものと考えられる。No 19・20・30の平均幅は他の畦畔の約1.5~2倍である、大畦畔として位置づけられる。No 8だけは他よりもやや大きい程度であるが、他の畦畔よりも直線的で、また10層以降の水田においても踏襲されることから他の畦畔とは性格が異なり、一応機能的には大畦畔と考えられる。その他にはNo 9の平均幅が他の2倍

No	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-89°-W	10.4以上	17~51(37)	45~93(62)	1~3	北に延びると推定される
2	E-W	15.0	37~67(51)	77~105(92)	2~6	
3	E-W	34.0以上	26~110(55)	58~129(87)	1~5	やや蛇行、西半部は段差のみ検出
4	N-2°-W	16.0以上	19~60(43)	57~98(74)	1~2	
5	N-8°-W	6.4以上	47~66(55)	72~101(85)	1~2	部分的に検出
6	E-W	33.1以上	28~113(74)	82~153(106)	1~2	やや蛇行、一部は段差のみ検出
7	N-3°-W	7.0以上	36~68(56)	64~95(78)	1~3	
8	N-S	32.1以上	20~91(44)	69~189(99)	1~10	
9	N-89°-W	22.1	46~91(68)	94~153(131)	5~10	
10	N	29.9以上	14~69(51)	52~102(85)		やや蛇行
11	E-W	5.8以上	?	65~113(79)		畦畔の痕跡のみ確認
12	N-88°-W	9.0以上	33~87(47)	62~91(73)	1~3	
13	N-85°-W	2.9以上	32~44(39)	67~74(70)	1~3	
14	N-87°-W	5.5以上	30~59(43)	65~100(79)	1~2	
15	N-1°-E	20.7以上	34~86(61)	61~114(89)	1~3	やや蛇行
16	N-88°-E	13.1	32~133(65)	75~182(102)	1~3	やや蛇行
17	E-W	7.7	41~55(45)	64~79(70)	1~2	
18	N-7°-E	1.4以上	?	?	1	段差のみ検出
19	E-W	28.7以上	36~75(54)	97~189(133)	1~18	大畦畔？
20	N-87°-E	6.5以上	65~91(73)	120~153(129)	1~10	大畦畔？
21	N-11°-W	2.7以上	?	?	1~3	段差のみ検出
22	N-7°-W	2.1以上	47~63(53)	77~90(85)	1~2	No32と同・畦畔
23	E-W	2.5以上	35~55(44)	72~79(76)	3~4	
24	N-87°-W	7.7以上	31~46(34)	68~92(82)	2~11	
25	N-88°-W	10.0以上	25~66(48)	57~93(78)	2~7	
26	N-89°-W	20.4以上	30~67(44)	58~106(83)	1~8	
27	N-85°-E	10.7以上	42~63(50)	90~108(99)	4~8	
28	N-82°-E	5.5以上	25~49(38)	70~104(82)	6~9	
29	N-87°-W	3.3以上	35~65(46)	95~106(97)	5~6	
30	N-S	59.8以上	25~69(47)	71~185(116)	5~13	大畦畔
31	N-88°-E	16.4以上	30~68(46)	58~115(89)	1~5	
32	N-3°-W	3.9以上	50~55(52)	91~98(94)	2~4	
33	N-2°-E	8.2	30~75(51)	72~97(86)	1~4	
34	N-2°-E	8.4	22~61(41)	67~106(85)	1~4	
35	N-87°-E	19.2以上	20~58(38)	83~118(100)	3~9	
36	?	1.9以上	45~56(51)	86~88(87)	1~2	部分的に検出
37	N-86°-W	16.6以上	18~53(37)	56~86(73)	1~3	
38	N-S	20.2以上	30~54(42)	58~91(76)	1~3	
39	E-W	23.5以上	28~54(42)	69~100(87)	1~10	
40	N-2°-E	8.4以上	29~65(46)	59~112(83)	1~5	
41	N-89°-E	13.3以上	20~60(40)	56~100(78)	2~7	
42	N-4°-E	20.7以上	10~49(19)	39~62(51)	1~7	
43	N-88°-W	3.8以上	27~49(39)	65~113(75)	不 明	

表23 12層水田跡畦畔計測表



第54図 12層水田跡全体図

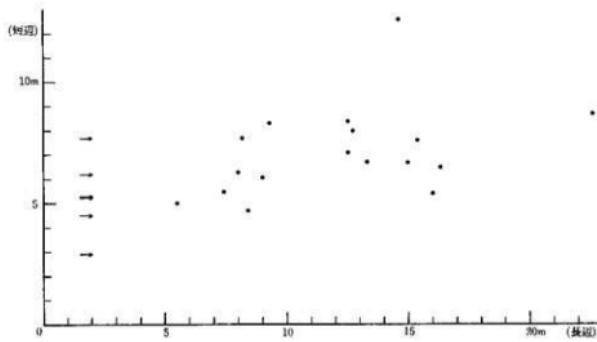
近くあるので、大畦畔として捉えておきたい。他の小畦畔はほぼ同規模で、下端幅が70~90cmのものが大部分であるが、南北畦畔に比べて東西畦畔の方が幅がやや広い傾向があり、遺存状態も比較的良好である。方向は大体真北方向を中心とし、検出した距離が長い畦畔は東西への振れも3°未溝のものが大部分であるが、IV・V区の大畦西側のNo27・28のみは5~8°程ずれる。

(2) 水田区画

水田区画は4つの大区画(坪)とその内部に①~⑩までの48区画が認められた。全体を検出できた区画は④~⑩・

No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南北(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	9.38~9.44	(6)	?	3.0以上	?	9.2以上	?	15.6以上	?	?
②	9.32~9.38	(6)	ほぼ水平	6.3以上	2.0以上	15.0	?	64.4以上	? × 15.0	
③	9.37~9.44	(7)	北→南	推定 6.7	?	18.7以上	11.31以上	129.05以上	6.7×?	
④	9.32~9.36(9.33)	4	ほぼ水平	7.5	推定 7.6	推定 15.5	15.3	推定 124.9	7.5×15.4	
⑤	9.37~9.40	(4)	?	6.8	?	3.2以上	4.6以上	27.31以上	6.8×?	
⑥	9.35~9.40(9.39)	5	ほぼ水平	7.0	6.3	13.7	12.9	92.6	6.7×13.3	
⑦	9.29~9.35(9.32)	6	北→南	7.0	6.4	14.3	15.6	98.5	6.7×15.0	
⑧	9.34~9.37	(3)	?	8.6	?	?	2.6以上	16.43以上	8.6×?	
⑨	9.33~9.38(9.36)	5	内→東	9.3	8.7	6.1	6.1	55.0	9.0×6.1	
⑩	9.18~9.36(9.29)	18	北→南東	8.4	9.0	22.5	22.6	214.3	8.7×22.6	細分される可能性
⑪	9.35~9.49	(14)	東→西	3.5以上	?	21.8	?	74.81以上	? × 21.8	細分される可能性
⑫	9.48	?	?	1.9以上	0.6以上	?	?	?	?	部分的に検出
⑬	9.34~9.37(9.36)	3	ほぼ水平	14.6	14.6	推定 12.3	12.9	推定 191.3	14.6×12.6	
⑭	9.38~9.46(9.42)	8	東→西	9.2	推定 9.3	8.6	8.0	推定 82.1	9.3×8.3	
⑮	9.49	?	?	?	5.4	2.6以上	1.0以上	10.91以上	5.4×?	
⑯	9.47~9.50	(3)	東→西	?	6.1	5.6以上	3.1以上	27.4以上	6.1×?	
⑰	9.33~9.36(9.34)	3	東→西	推定 7.0	7.2	12.8	推定 12.1	推定 88.5	7.1×12.5	
⑲	9.38~9.44(9.41)	6	東→西	12.6	12.8	7.4	8.6	110.6	12.7×8.0	
⑳	9.40~9.49	(9)	北→南	?	推定 17.0	?	5.3以上	36.81以上	17.0×?	
㉑	9.22~9.36(9.27)	14	北東→南西	8.8	8.0	11.9	13.1	115.5	8.4×12.5	細分される可能性
㉒	9.37~9.41(9.38)	1	ほぼ水平	推定 8.1	8.2	推定 7.6	7.7	推定 61.6	8.2×7.7	
㉓	9.27~9.34	(7)	?	3.6以上	?	?	16.2以上	?	?	
㉔	9.22~9.30	(8)	?	2.23以上	3.6以上	?	7.7	59.61以上	? × 7.7	
㉕	9.23~9.29	(6)	?	1.9以上	?	12.7以上	24.81以上	?	?	
㉖	9.27	?	?	3.43以上	?	4.8以上	?	12.7以上	?	
㉗	9.20~9.29	(9)	中央が低い	7.8	?	7.5以上	5.1以上	49.91以上	7.8×?	
㉘	9.23~9.29	(6)	ほぼ水平	7.7	?	9.81以上	7.63以上	69.21以上	7.7×?	
㉙	9.24~9.28	(4)	北→南	4.5	?	11.32以上	10.11以上	48.11以上	4.5×?	
㉚	9.24~9.27	(3)	ほぼ水平	2.9	?	10.43以上	11.53以上	41.41以上	2.8×?	
㉛	9.23~9.27	(4)	ほぼ水平	13.4	?	6.52以上	10.21以上	111.81以上	13.4×?	
㉜	9.18~9.23	(5)	北→南	10.6	?	5.31以上	6.21以上	48.81以上	10.6×?	
㉝	9.15~9.18	(3)	?	3.53以上	?	?	3.0以上	10.81以上	?	
㉞	9.29~9.34	(5)	ほぼ水平	3.93以上	3.03以上	6.0	?	20.96以上	? × 6.0	
㉟	9.31~9.34	(3)	ほぼ水平	?	3.9以上	9.33以上	?	42.61以上	?	
㉟	9.23~9.32(9.28)	9	東→南西	8.1	7.8	6.0	6.6	52.8	8.0×6.3	
㉟	9.27~9.32(9.29)	5	ほぼ水平	8.4	8.3	4.4	4.9	38.4	8.4×4.7	
㉟	9.28~9.32	(4)	ほぼ水平	?	8.4	6.23以上	3.53以上	41.81以上	8.4×?	
㉟	9.27~9.32(9.30)	5	東→西	推定 5.2	4.8	5.5	推定 5.4	推定 27.5	5.0×5.5	
㉟	9.23~9.31	(8)	内→東	?	推定 5.3	15.0以上	12.9以上	83.21以上	5.3×?	
㉟	9.26~9.33(9.31)	7	東→西	7.2	7.6	5.1	5.9	41.4	7.4×5.5	
㉟	9.18~9.32(9.27)	14	西→東	推定 6.1	6.9	16.2	推定 16.4	推定 107.1	6.5×16.3	細分される可能性
㉟	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
㉟	~9.30	?	北→南	31.1以上	32.73以上	?	5.3	?	? × 5.3	南北不明
㉟	9.17~9.31(9.24)	14	西→東	5.0	5.8	15.6	16.3	108.9	5.4×16.0	細分される可能性
㉟	9.23~9.25	(2)	?	?	5.4	2.03以上	0.61以上	6.93以上	5.4×?	
㉟	~9.28	?	北→南	20.83以上	24.63以上	?	推定 15.6	?	? × 15.6	南北不明
㉟	9.18~9.27	(9)	北→南	?	13.3	7.31以上	2.71以上	72.81以上	13.3×?	
㉟	9.19~9.23	(4)	西→東	?	6.0以上	?	7.31以上	36.71以上	?	

表24 12層水田跡水田区画計測表



第55図 12層水田跡水田区画規模

⑦・⑨・⑩・⑪・⑫・⑬・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳・⑳・⑳の15区画であるが、その他②・④が区画を復元可能である。各区画の平面形は長方形を基調としているが、正方形に近いものも認められる。大きさは例外もあるが短辺の長さは、4.5～8.5mの間にまとまっており、長辺の長さで大小2種類に大別できる。長辺の長さは小さい区画が5.5～9.5m、大きい区画が12.5～16.5mである（第55図）。地形との係わりについては、等高線が入り組んだIV・V区で小さい区画が多い傾向が認められる。

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北から南方向へ緩やかに傾斜しているが、IV・V区の西方からII区へかけてとIV・V区の東側にも南からごく浅い谷状の地形が入り込んでおり、特にIV・V区ではやや複雑な微地形となっている。水田面の標高は9.15～9.50mで、勾配はI・II区で大体6cm/10m、III区で10cm/10m、IV・V区では約3cm/10mである。各区画内の傾斜は大体において全体的な地形と一致するが、区画②・④・⑥・⑫・⑭・⑮・⑯・⑰・⑱・⑲・⑳のようにほぼ水平なものも認められる。区画内の比高差については不確定なものもあるが大体10cm以内と推定される。なお区画⑩・⑪・⑫・⑬・⑭は区画内の比高差が他と比べて大きいが、これらは南北の畦畔によって細分される可能性がある。各区画間の比高差は⑩・⑪の間が11cmあるのを除けば7cm以下で、中には1cm程度のものもある。大畦畔をはさんだ東西の区画間の比高差はIV・V区が不明であるが、I～III区では1～3cmで他と同様である。

(4) 水口

小畦畔には明瞭な水口は認められなかった。なお、坪境の大畦畔の交点にはSK16があるために畦畔が途切れており、区画⑩と⑪の水田面がここに向かって傾斜していることからこの部分は坪間の配水のための水口と推定される。

(5) 土坑

SK16（第56図、写真57）

坪境の大畦畔の交点に位置し、耕作土上面で確認した。平面形は細長い不正形で、規模は9.8×3.6m、深さ約20cm、底面は平坦ではなく、凹凸が激しい。堆積土は単層で、上層の基本層が落ち込んでいた。調査時はこれを10層と考えていたが、11層の可能性もある。堆積状況からすると12層水田の経営期間中は開口していたと考えられる。10層水田跡SK14同様に坪間の配水に係わる水口の機能を有していたと推定される。

SK17（第56図、写真58）

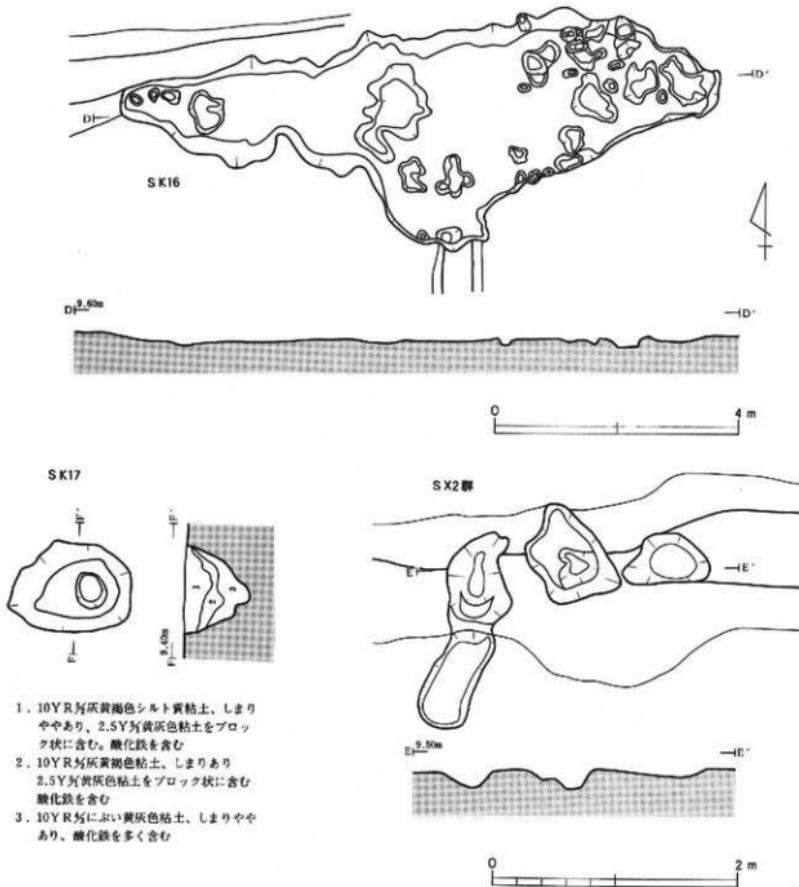
大畦畔30の西側、区画⑩の南東コーナーに位置し、耕作土上面で確認した。平面形は不正な梢円形を呈し、規模は103×75cm、深さ53cmである。長軸方向は大畦畔と直交している。堆積土は自然堆積の状況を示し、3層に分層さ

れる。各層は下から順に12・11・10層に類似しているので、12層水田から10層水田の時期までの間は開口したままで、流れ込んだ耕作土によって次第に埋没したと考えられる。水田經營に係わる何らかの施設と考えられるが具体的な性格については不明である。

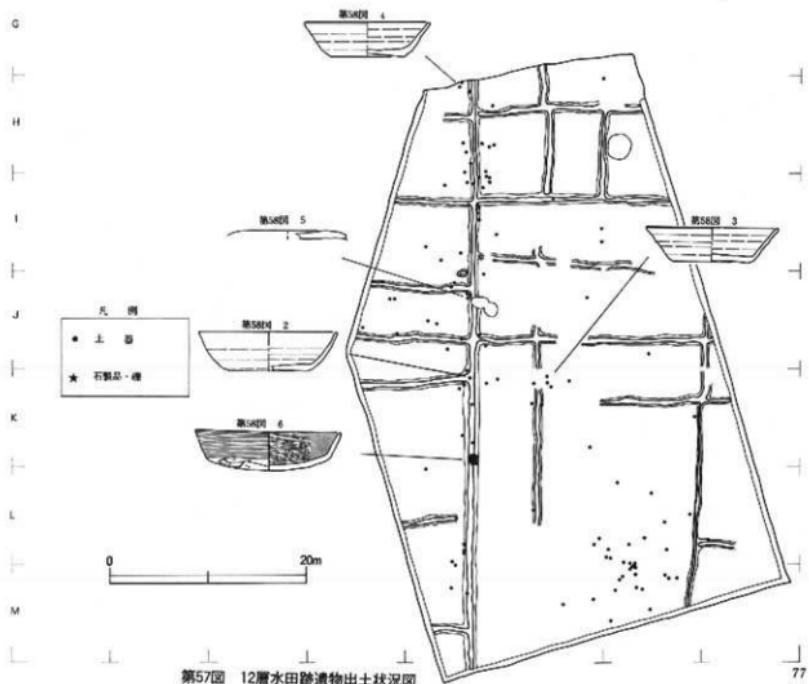
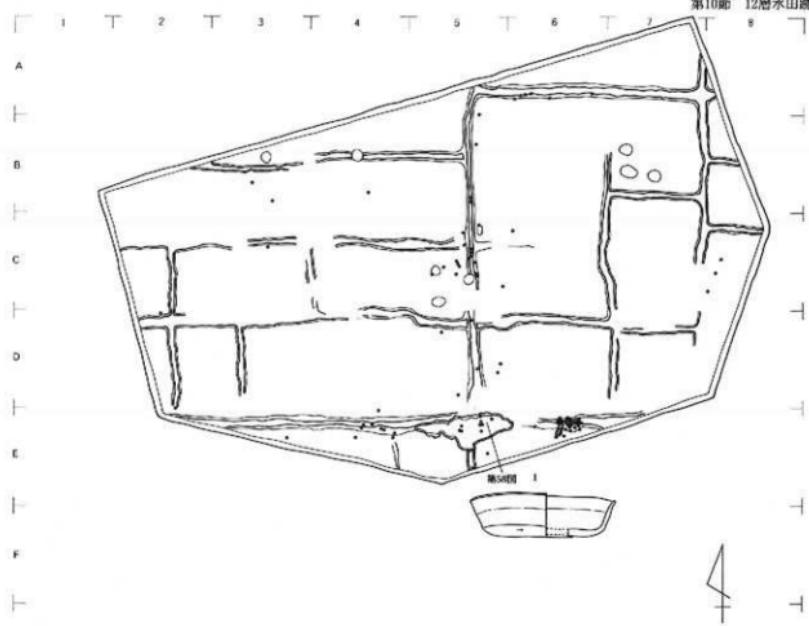
(6) 性格不明遺構群

SX 2群 (第56図)

大畦畔20の上に位置し、小規模な土坑3基が集中するので1群として捉えている。土坑の平面形は不整な楕円または長楕円形で、規模は長軸70～170cm、短軸30～60cm、深さは2～9cmで、底面は凹凸がある。堆積土は単層で、調査時はこれを10層と考えていたが11層の可能性もある。畦畔上や畦畔の側面に集中して位置する在り方は10層上面で検出したSX 1群に類似しているが、これと同様に性格は不明で、10～12層のうちどの層に伴うものか断定できない。



第56図 SK16・17、SX2群平面・断面図



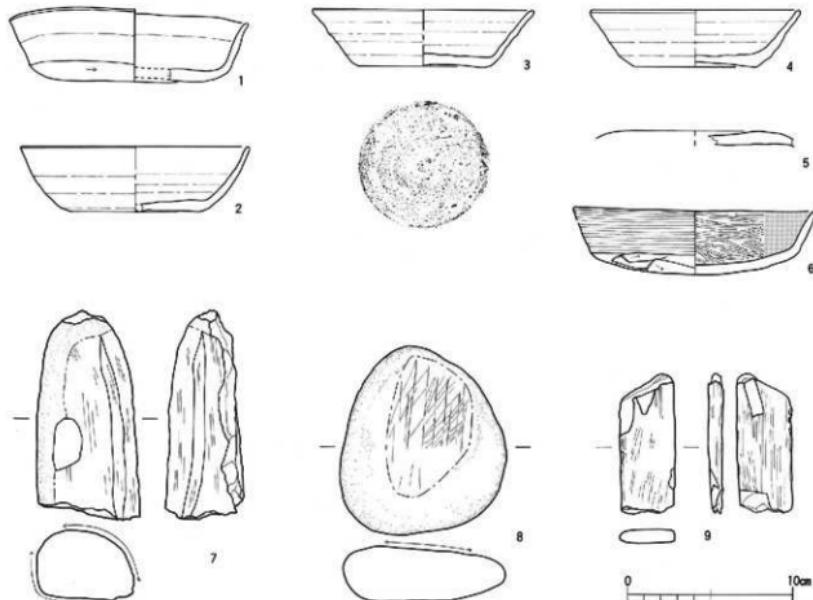
(7) 水田面の状況

10・11層耕作土の擾乱が及ばない部分は比較的平坦で、耕作痕や足跡などは検出されなかった。

3. 出土遺物

耕作土中およびSK16から土師器、赤焼土器、須恵器、石製品、金属製品が出土した。破片総数は197点で、層中および他層出土の破片との接合関係によって修正すると117点である。平面的な出土状況は大畦畔の周辺に集中する傾向があるが、IV・V区では他にも集中地点が認められる(第57図)。また、この他に自然疊56点が出土したが、これらの大部分は大畦畔や比較的規模の大きな畦畔9などに埋め込まれた状態であった。

なお、直下層は一応水田耕作土ではないと推定されるため、3~10層水田跡のように下層の複数層の遺物を巻き上げている例は少ないと考えられるが、確実に遺構に伴う遺物を限定することはできなかった。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	断面	進存度	法 式	径 (cm)	底 径 (cm)	底 高 (cm)	色 調	特 徴
1	118-1	D-E-5他、10~12層	須恵器	环	月	15.3	10.5	4.6	0.69	外面褐鐵、底白色 内面紫灰色	ロクロ、切離辺不明、休耕下層-底面同軸 ヘラケズリ、重みが大きい
2	118-2	K-5他、8~12層	須恵器	环	月	(14.6)	(7.8)	4.0	0.56	底角	ロクロ、輪郭ヘラカタ-盤ナギ、底部鋸歯(一部分)
3	118-3	K-6~7、10~12層	須恵器	环	月	(15.4)	7.8	3.5	0.58	底角	ロクロ、圓輪ヘラ切無縫割
4	118-4	H-5、12層	須恵器	环	月	(15.6)	7.4	3.5	0.59	底角	ロクロ、圓輪切無縫割
5	118-5	J-5、12層	須恵器	环	月	?	-	?	-	外表面白色 内表面白色	ロクロ、外面上に自然付苔
6	118-6	K-5、10~12層	土師器	环	ほぼ完形	(14.6)	12.6	4.3	0.86	にぶい褐色	外表面一回縁-休耕リコナグ、底部手待ちヘラケズリ 内面ヘラミギキ黒色処理

No.	写真図版	出土地点・層位	種別	断面	進存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特 徴
7	119-1	J-5、12層	石製品・磁石	両側欠損	燕舟12.2	6.2	4.1	石燕舟山岩、3面に擦痕、重量425g	
8	119-2	E-6、12層	石製品・磁石	完形	11.5	10.1	3.4	石燕舟山岩、1面に擦痕、重量576g	
9	119-3	J-5、12層	石製品・磁石	両側欠損	燕舟8.5	3.3	0.9	粘根岩、4面に擦痕、重量41g	

第58図 12層水田跡出土遺物(1)

(1) 土師器

土師器の可能性のあるものを含めると破片総数は88点である。調整技法が判るものを見ると非ロクロ調整とロクロ調整のものが混在しており、数量的には非ロクロ調整のものの方が多い。このうち図化できたのは壺1点（第58図6、写真118-6）のみである。底部は丸底で、体部と底部との境には軽い棱が形成されている。調整は外側が口縁部から体部にかけてヨコナデ、底部はヘラケズリが施され、内面にはヘラミガキ・黒色処理が施されている。

(2) 赤焼土器

明確に赤焼土器と判別できるものはなく、赤焼土器の可能性のある破片が5点出土したのみである。図化できるものはない。

(3) 須恵器

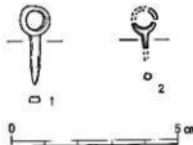
須恵器の可能性のあるものも含めると破片総数は19点で、器種は大部分が壺と推定される。図化できたのは壺4点（第58図1～4、写真118-1～4）と壺蓋1点（第58図5、写真118-5）である。壺をロクロからの切離し技法と調整技法によって分類すると、底部の切離し技法は不明であるが底部から体部下端に回転ヘラケズリ調整が施されるもの（1）、回転ヘラ切りでほとんど再調整が施されないもの（2・3）、底部の切離しが回転糸切りで再調整が施されないもの（4）の3種に大別できる。また、これは別に器形によって分類すると、外側の体部と底部の境に軽い段が付き、体部は直線的に立ち上がるものの（1）、体部がやや膨らみをもち、口縁部がほぼ直線的なものの（2）、体部が直線的あるいはわずかに外反しながら立ち上がるものの（3・4）の3種に大別できる。これらを器形と切離し・調整技法の両者から見ると（1）は他に比べて古い様相が認められることから下層（13～14層）から巻き上げられた可能性もある（第5章第1節II参照）。なお、蓋は小片のために器形の詳細は不明である。

(4) 石製品

砥石3点（第58図7～9、写真119-1～3）が出土した。7・8は川原石をそのまま利用しており、1～3面に擦痕が認められる。石材は多数出土している自然礫と同じで特別なものではないことから、何らかの理由で持ち込まれた礫のうち比較的広い平坦面があるものを選んで砥石として利用したと考えられる。9は石材が他と異なり、偏平な板状に成形していることがやや異質であるが、一応砥石として捉えておきたい。

(5) 金属製品

^(注1) 銅製品が2点出土した（第59図1・2）。1は完全形で、長さ15mmの釘状の部分の頭部に径9mmの環が付く。2は破損しているが、同様の形態と推定される。用途は不明である。



No.	呼称・形態	出土地点・層位	種別	遺存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	備考
1 119-4	完全形	E-6, 12層	鍛造品・用途不明	完全形	2.4	0.9	0.3	先端部が尖り、表面方形	
2 119-5	破損	S K11, 12層	鍛造品・用途不明	破片	0.6	0.7	0.2		

第59図 12層水田跡出土遺物(2)

(註1) 成分分析を行っていないので断定できないが、表面に錆色が認められるので、銅あるいは銅を基本とした合金と考えられる。

第11節 13層の遺構と遺物

1. 遺構の概要

13層は12層水田の耕作土によって搅乱されているため遺存状況が悪く、まとまった分布はII区およびIII区西部に認められるだけで、その他は断片的に遺存するだけである。13層上面（遺存しない部分は14層上面）の地形は直上の12層とほぼ同じで、北から南へ緩やかに傾斜している中に南方から浅い谷が入り込んでいる。

遺構は溝10条、土坑1基、性格不明遺構2群を検出した。遺構の確認面はほとんど13層上面である。13層が遺存しない箇所では14層上面で確認したものもあるが、13層が遺存する箇所では13層を除去した後に14層上面で新たに確認された遺構はない。したがって、一応これらの遺構の大部分は13層上面から掘り込まれたものと考えられる。

2. 遺構の状況

(1) 溝跡

SD 4（第60・62図）

II区に位置してほぼ直線的に延び、方向はN-83°-Wである。東端は北東方向に屈曲しSX 4群の手前で途切れる。西端は12層によって搅乱されているため不明である。検出した長さは約25mで、上端幅約40cm、下端幅約20cm、深さ4～10cm、底面はやや凹凸があるが比較的平坦で、レベルはほぼ水平である。堆積土は2層に分層されるが、上層は基本層12層、下層は13層に類似する。性格は明らかではないが、何らかの区画のためのものと推定される。

SD 5（第60・62図）

IV・V区に位置し、調査区を東西に横断するが途中でほぼ直角に屈曲している。方向は屈曲部の西側がN-65°-W、東側がN-13～45°-Eである。SD12と重複しているが、この部分ではSD12の底面でプランを確認しており、また溝底面のレベルもSD12底面の傾斜に沿って上下することからSD12の埋没以前に掘られたものと考えられる。検出した長さは約48mで、上端幅40～50cm、下端幅約20cm、深さ5～20cm、底面はやや凹凸があるが比較的平坦である。底面のレベルは東西両側が低いが、これは周囲の地形に影響された結果と考えられる。特にSD12と重なる場所では、前述したようにSD12底面から掘り込まれているために底面のレベルはかなり低くなっている。堆積土は単層で、基本層13層に類似している。底面のレベルからすると水路とは考えにくく、何らかの区画のためのものと推定される。

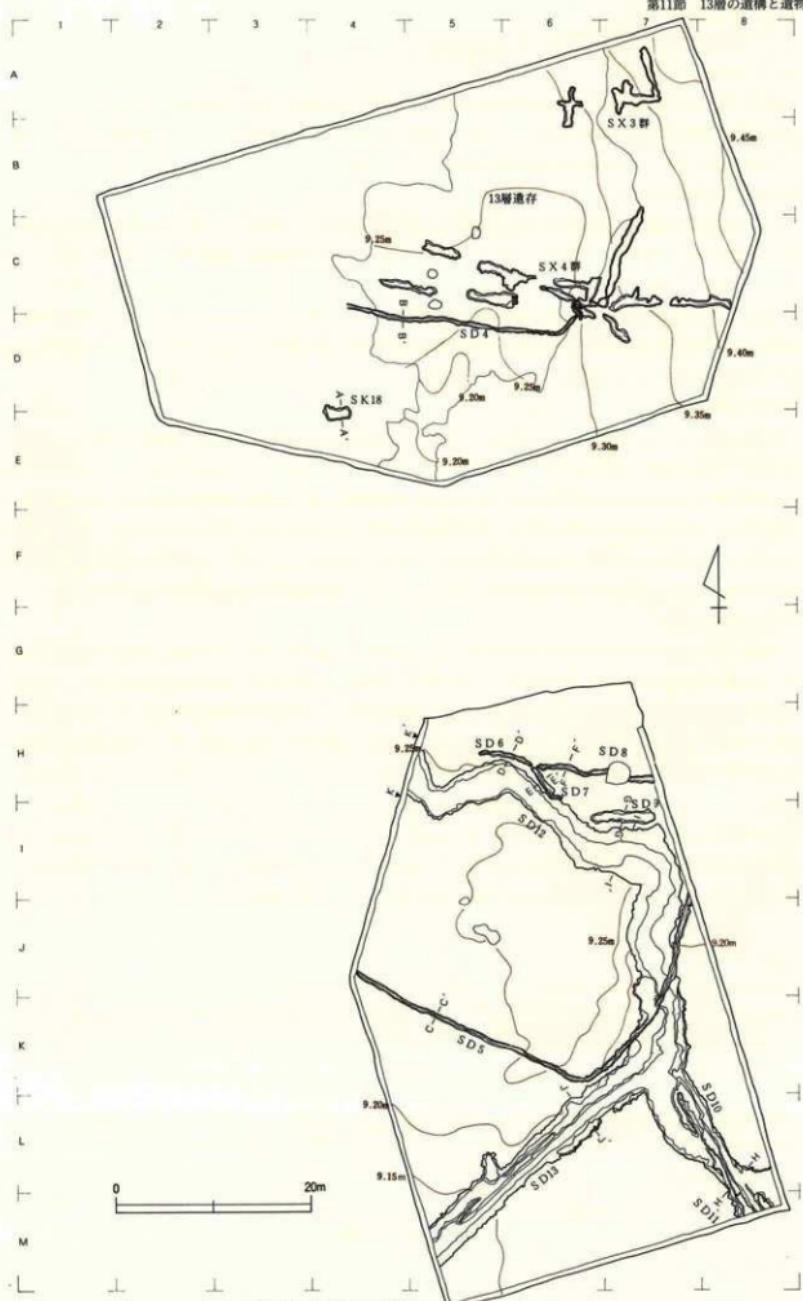
SD 6・7（第60・62図）

IV区、SD12の北側に位置し、SD12とほぼ平行してやや湾曲しながら北西から南東方向に延びる。SD 6とSD 7とは接続しないが、方向や堆積土などからすると両者は本来同一のもので、上部を12層水田の耕作土によって搅乱された結果、見かけ上は途切れて確認された可能性が高い。両者を合わせた全体的な方向はN-58°-Wで、長さはSD 6が約5.5m、SD 7が約4.3mである。なお両者共に上端幅40～50cm、下端幅約20cm、深さ1～6cmで、底面は凹凸があるが全体的なレベルはほぼ水平である。堆積土は単層で基本層13層に類似している。性格については区画のためのものとも考えられるが、自然流路と考えられるSD12（後述する）のカーブと方向がほぼ一致していることから別の性格も考えられる。

SD 8（第60・62図）

SD 6の東端近くからほぼ東西に延び、調査区東壁に達する。方向はN-83°-Wであるが、かなり蛇行している。検出した長さは約12m、上端幅40～70cm、下端幅約20～40cm、深さ3～4cmで、底面は凹凸があるが全体的なレベルはほぼ水平である。堆積土は単層で基本層13層に類似している。性格については断定できない。

第11節 13層の構造と遺物



第60図 13層上面全体図

SD 9 (第60・62図)

SD12の北側にこれとほぼ平行して直線的に延びる。方向はほぼ正確な東西方向を示す。長さは6.5m、上端幅90~120cm、下端幅約50~100cm、深さ2~9cmで、底面は凹凸があるが全体的なレベルはほぼ水平である。堆積土は2層に分かれるが、いずれも基本層13層に類似している。性格についてはSD 6・7同様に断定はできない。

SD10・11 (第60・62図)

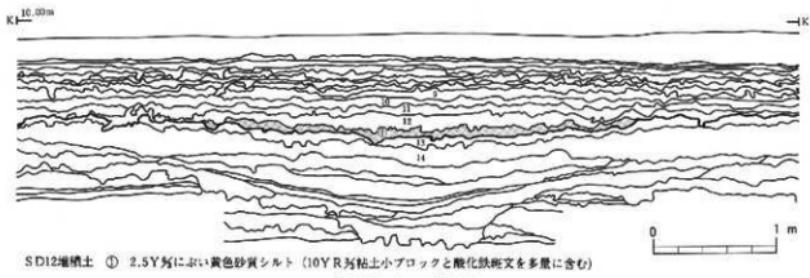
V区の南西部に位置し、北西から南東方向に平行して直線的に延びる。方向はN-30°-Wである。SD12と重複しており、平面ではその切り合い関係をとらえることができなかつたが、断面観察の結果SD12を切っていることが判明した。SD10は北端のプランが不明であるが、SD11はSD12の南側で途切れている。検出した長さはSD10が約16.3m、SD11が約14.2mである。なお両者共に上端幅は約70cm、下端幅約10~50cm、深さ約7cmで、底面は凹凸があるが全体的なレベルはほぼ水平である。堆積土は単層で基本層13層に類似している。性格は蛇行するSD12を改修して直線的にしようとしたものか、あるいは区画のためのものと思われるが、断定はできない。

SD12 (第60~62図)

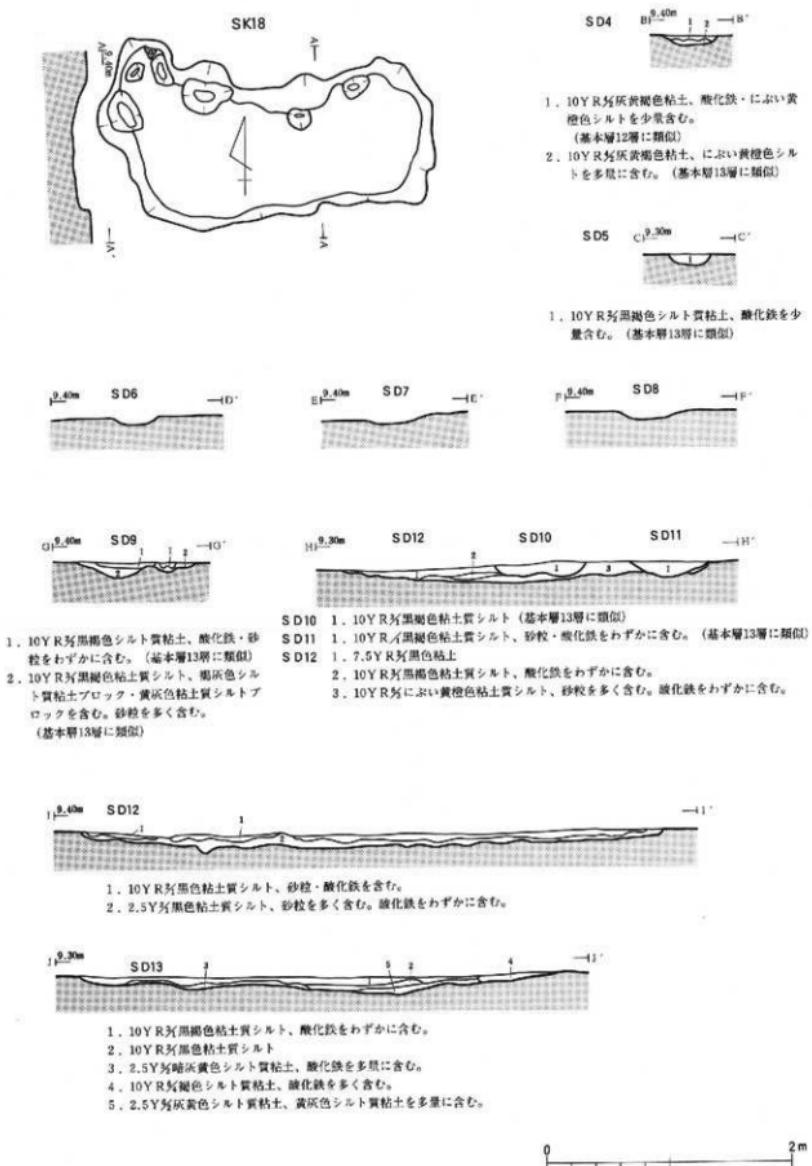
IV区西北部からV区の南東コーナーにかけて、蛇行しながら調査区を縦断している。上端幅は大体2~3mで、部分的に7m近い箇所も認められる。下端幅は1~2.8mである。深さは大体10~15cmで、底面は凹凸が激しい。底面の全体的なレベルは北西から南東方向に下っており、調査区内における底面の比高差は約12cm、勾配は約2cm/10mである。堆積土は1~2層に分層でき、基本層13層に類似している。なお、この溝はこれより下層の調査結果から25~15段階の水路が埋没する過程の最終段階であることが判明しているが、この段階では壁面の立ち上がりが緩やかで、人為的な掘り込みの痕跡が認められないことから、自然流路的性格が強いと推定される。

SD13 (第60~62図)

V区南西部から北東方向に直線的に延びてSD12につながる。方向はN-48°-Eである。検出した長さは約28.5m、上端幅は大体2.5~3.5m、下端幅1.8~2.6m、深さは大体5~15cmである。底面は北側に段を有し、中央部には細長い帯状に盛り上がった部分も認められる。底面の全体的なレベルは北東から南西方向に下っており、調査区内における底面の比高差は約8cm、勾配は約3cm/10mである。堆積土は2層に大別でき、上層は基本層13層・下層は基本層14層に類似している。平面・および断面でも確認はできなかつたが、底面の形状からすると2条の溝が存在したか、あるいは改修されている可能性が高い。またSD12との新旧関係は確認できなかつたが、SD12が下層の溝の埋没途中のものであることが判明しているのに対してSD13はこの層で初めて確認されることから、SD13はSD12に接続するように掘り込まれたものであることは明らかである。性格については、V区の南西部に向かって低い地形になっていることからSD12の水を南西方向に流すための水路と推定される。



第61図 SD12断面図



第62図 SK18・SD4～13平面、断面図

(2) 土坑

SK18 (第62図)

I 区南部に位置する。平面形は不整な梢円形で、規模は $2.8 \times 1.1\text{m}$ 、深さは約10cmである。底面は凹凸がある。堆積土は単層で、基本層12層に類似する。性格については12層水田の耕作土下面の掘り込みや耕作痕であることとも考えられるが、位置的には12層水田跡の大畦畔No19に土坑の南北分がかかるので耕作痕の可能性は低いと考えられる。

(3) 性格不明遺構群

SX 3群 (第60図)

III区北部に位置する。平面形が不定型の溝状の落ち込みが2基隣接するので、1群としてとらえている。幅は大体40~95cm、深さは2~8cmである。堆積土は単層で、基本層12層に類似している。性格については、12層水田の耕作土下面の掘り込みや耕作痕であることとも考えられるが、位置・方向共に12層水田跡の畦畔とは関連性が認められないで、耕作痕の可能性は低いと考えられる。

SX 4群 (第60図)

II~III区にかけて位置する。溝状の落ち込みが11基途切れながらも東西方向に連続する(一部は北側に張り出す)ので1群としてとらえている。幅は大体60~220cm、深さは2~8cmである。堆積土は単層で、基本層12層に類似している。性格については、SX 3群同様に不明である。

3. 出土遺物

13層上面・層中及びSK12から土師器片29点が出土した。このうち1点のみは調整技法が不明であるが、他はすべて非クロロ調整である。ほとんどが細片のために図化できたのは層中から出土した壺1点(第63図1、写真120)のみである。III区B-6グリッドから出土したもので、口縁部から体部上端の破片で、口縁部は緩やかに外反している。調整は口縁部の内外面がヨコナデで、体部の内外面は磨滅のため不明瞭であるがナデ調整と考えられる。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	石種	遺存度	法			持	備
						量(cm)	一色	調		
1	120	B-6, 13層	土師器	甕	口縁小片	?	?	?	底白色	1)縁部ヨコナデ、体部磨滅(ナデ?)

第63図 13層出土遺物

第12節 14層の遺物

14層はごく短期間に堆積したと考えられる砂層である。

層中から出土した遺物の大部分は層上面から下面まで散在していて、出土状況にまとまりは認められないことから、これらは14層の堆積時に他の地点から流されて混入したと考えられるものである。

遺物は、土師器片および土師器と推定されるものの計26点あるが、層中及び他層出土の破片との接合関係によつて修正すると土師器片23点となる。このうち5点は調整技法が不明であるが、他はすべて非ロクロ調整の土師器である。このうち坏2点（第64図1・2、写真121）が図化できた。

1はII区A-5グリッドの14層上面から出土した破片と8・10・12層から出土した破片が接合したものであるが、本来は14層上面にあった可能性が強いと考えられる。底部は丸底で、外面の底部と体部の境に比較的明瞭な段を有する。なお、口縁部が欠損しているためにはっきりしないが、体部から口縁部にかけては直線的に開くと推定される。調整は外面の底部が手持ちヘラケズり、口縁部から底部にかけてヨコナデが施され、内面はヘラミガキ・黒色処理がなされている。

2はIV区H-6グリッドの14層の最下部から出土したもので、直下の15層水田にごく近い時期のものと推定される。小片のため全体の器形は判らないが、体部は底部近くでわずかに屈曲するものの、ほぼ直線的に開く。口縁部は大部分が欠損しているが、わずかに残る部分からすると口縁部は直立するか、やや内傾すると推定される。調整は口縁部のわずかに残る部分がヨコナデと推定され、体部外表面がナデ後粗いヘラミガキである。体部内面はナデが施されるが、底部に近い部分以外はハケメ状のヘラナデ痕が完全に消されずにその痕跡が認められる。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	器種	遺存度	法 口径	法 底径	高 基高	色 調	特	備
1	121	A-5, 8~14層	土師器	环	下半部	?	12.2	?	灰白色	外表面ヨコナデ、底部手持ちヘラケズり、内面ヘラミガキ・黒色処理	
2	—	H-6, 14層下部	土師器	环	体部小片	?	?	?	黑色	外表面ヨコナデ、体部ナデ→粗いヘラミガキ、内面ハケメ状のヘラナデ	

第64図 14層出土遺物

第13節 15層水田跡

15層上面では15層水田跡を検出した。時期は古墳時代中期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

大畦畔7条と・多数の小畦畔によって構成され、給・排水路を伴っている。水田区画は大区画を設けた後、さらに細分して小区画を配置しているが、その過程で中区画が存在したことが想定できる。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は14層を削り込んでいく途中で確認した。14層は自然堆積層で、層厚も比較的厚いために15層をほぼ完全に覆っており、このため水田跡の遺存状態は良好であった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層15層で、にぶい黄褐色の粘土である。厚さは2~23cmで一定せず、平均はI~III区で約10cm、IV・V区で6cm程度である。下面は凹凸が激しいが、下層への食い込みは直下の16層の層厚が比較的厚いためか、16層中で止まっている。

(4) 水田域

調査区全域に広がる。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて作られており、No.1~186まで検出した。

No.1~5・116・117は大畦畔であるが、No.1・2・5とNo.3・4・116・117とは性格が異なる。1・2・5はいずれも東西方向に延びるもので、計画的にこの場所に配置されたと考えられ、地形的制約は少ないと考えられる。これに対してNo.3・4はこの間の帶状の部分が下層の水路の影響で他の部分よりも一段低くなっているために必然的に造られたものであり、またNo.116・117はSD15に伴う土手である。このためこれらは1・2・5とは異なり、位置・方向などの規格性は認められず、特に116・117はかなり蛇行している。規模はNo.5だけがやや小さく上端幅平均45cm、下端幅平均97cmであるが、その他は小畦畔の2倍以上あり、上端幅平均68~100cm、下端幅平均125~150cm、高さは20cm以上ある箇所も認められる(第70図)。

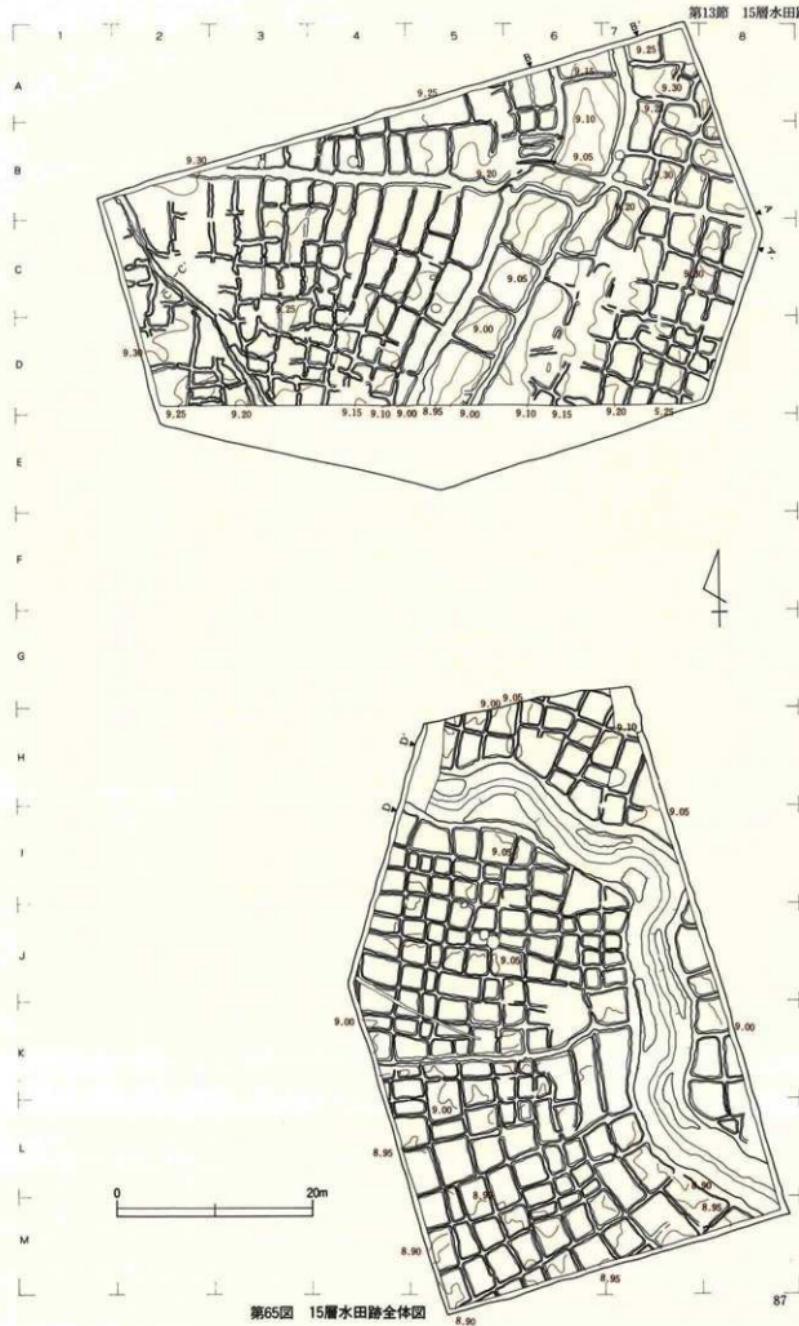
小畦畔は179条検出しているが、No.27・35はSD14に伴う土手の機能も有している。なお、畦畔ナンバーは途中が水口などで途切れたり、部分的に検出できなかった箇所があつても直線的に結べるものは同一の畦畔と考え、同一ナンバーを付けている。

規模はNo.180~186が他と比べて大きいが、これらは後述するように特殊な立地の区画にあるため他とは区別して考えたい。他の畦畔の規模はほぼ同じで、上端幅12~46cm、下端幅36~83cm、高さ1~9cmで、平均すると上端幅28cm、下端幅56cm、高さ4cm程度である。

方向・配列は基本的に大畦畔を基準とし、これに直交または平行しているが、前述したように大畦畔3・4・116・117が屈曲・蛇行しているために、それに伴って小畦畔の方向も変化している。

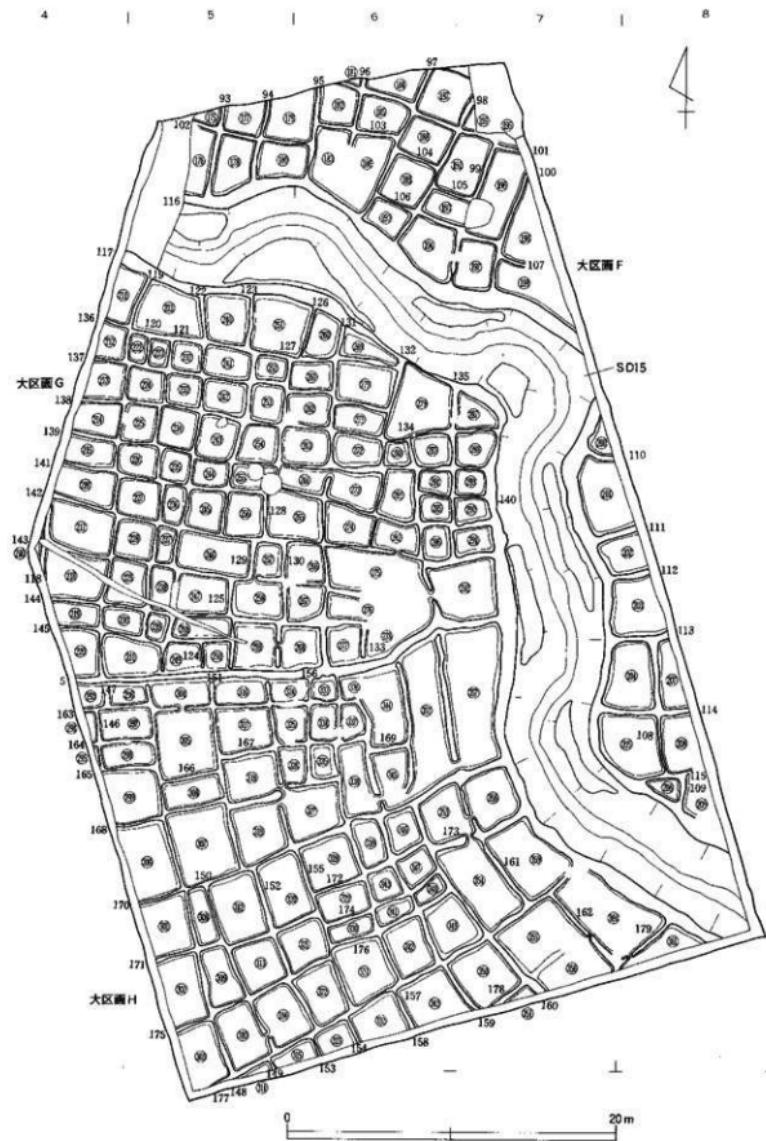
I~III区では南北畦畔は長く直線的に延びるもののが比較的多いが、東西畦畔は途中で切れたり屈曲するものが多い。また、大畦畔4の東側は比較的規則的な配列になっているが、大畦畔3の西側では南北畦畔のうち大畦畔3の近くに位置するものは東への振れが大きくなっている。東西畦畔も大畦畔3に近づくにつれて南東方向へ屈曲・湾曲する。

第13節 15層水田跡





第66図 15層水田跡 I ~ III区全体区



第67図 15層水田路IV・V区全体図

No	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	No	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)
1	E-1°-S	30.9以上	55~137(91)	102~188(132)	1~11	60	E-18°-S	21.0	15~68(53)	40~94(59)	1~6
2	E-17°-S	14.21以上	68~110(89)	115~150(130)	1~10	61	E-12°-S	11.8	20~43(32)	47~69(56)	1~5
3	N-23°-E	37.51以上	37~150(00)	98~255(150)	1~13	62	E-11°-S	14.2	20~46(33)	39~87(58)	1~5
4	N-22°-E	39.41以上	42~128(68)	95~171(125)	1~21	63	S-6°-E	2.3以上			2~6
5	E-9°-N	25.91以上	23~69(45)	70~139(97)	1~12	64	S-20°-W	9.4	26~54(39)	58~89(69)	1~6
6	N S	0.51以上	33~39(36)	54~60(58)	1~3	65	S-18°-W	3.2	36~48(44)	69~86(78)	3~6
7	N-1°-W	1.91以上	15~53(29)	40~46(53)	1~4	66	S-2°-W	4.1以上	30~58(43)	66~99(79)	2~6
8	N-11°-E	3.41以上	14~56(23)	45~78(56)	1~5	67	S-23°-W	10.0以上	22~49(35)	60~90(69)	1~7
9	N S	3.0	23~35(32)	40~60(54)	1~3	68	S-11°-W	3.1	19~58(42)	62~90(53)	4~8
10	N-6°-W	4.31以上	17~39(28)	44~72(54)	1~3	69	E-1°-S	5.0	38~57(47)	72~87(78)	1~5
11	N S	5.81以上	16~36(26)	48~66(57)	1~3	70	E-25°-S	1.3	24~33(29)	45~59(51)	2~3
12	N-9°-W	4.3	14~28(21)	41~70(52)	1~3	71	E-5°-S	5.2	18~53(38)	51~84(72)	1~6
13	N-1°-W	5.1	17~40(26)	47~69(56)	1~6	72	E-15°-S	6.1以上	31~65(43)	64~110(77)	2~6
14	N-14°-W	3.11以上	13~31(19)	38~62(46)	1~2	73	E-14°-S	11.3以上	15~44(32)	49~80(66)	1~6
15	N-3°-E	3.01以上	19~28(24)	45~63(55)	2~6	74	N-24°-E	17.0	15~44(30)	57~82(69)	1~6
16	N-12°-W	5.21以上	20~44(30)	52~79(65)	1~5	75	N-31°-W	0.9以上	24~30(28)	50~60(54)	1~3
17	N-9°-W	5.51以上	16~23(20)	44~52(49)	1~2	76	S-24°-W	10.9	11~34(23)	37~71(56)	1~5
18	E-19°-N	1.51以上	34~61(45)	59~82(67)	2~4	77	N-30°-E	3.3	26~31(30)	54~64(59)	1~3
19	W-11°-S	4.81以上	22~27(25)	44~62(54)	1~3	78	N-12°-E	0.8以上	28~36(32)	59~64(62)	1~3
20	E-5°-N	5.8	19~58(36)	67~120(85)	1~6	79	N-13°-E	9.2以上	14~47(28)	32~78(54)	1~4
21	E-7°-N	3.2	10~37(25)	49~80(67)	3~4	80	N-14°-E	10.6	20~51(32)	42~74(58)	1~4
22	N-1°-W	7.31以上	23~57(38)	50~88(62)	1~2	81	S-12°-W	7.9以上	18~52(30)	49~68(56)	1~4
23	N-3°-E	1.81以上	20~35(31)	54~62(58)	1~3	82	S-18°-W	4.4以上	9~40(24)	37~90(53)	1~7
24	N-2°-E	8.8	20~30(27)	33~66(61)	1~4	83	N-16°-E	18.8以上	14~49(27)	39~70(54)	1~5
25	N-2°-W	0.21以上	14~15(15)	32~40(26)	2~3	84	N-24°-E	3.3以上	22~36(28)	40~55(46)	1~2
26	N-11°-W	5.01以上	12~57(38)	36~77(55)	1~3	85	E-11°-S	2.4	22~40(31)	50~80(63)	1~3
27	N-35°-W	22.11以上	8~101(33)	37~122(62)	1~2	86	E-20°-S	7.9以上	24~42(32)	46~77(58)	1~3
28	E-16°-N	2.51以上	23~70(40)	53~87(65)	1~3	87	E-17°-S	18.4以上	15~40(29)	40~103(62)	1~7
29	E-7°-N	2.41以上	38~53(45)	59~78(70)	1~2	88	E-21°-S	18.8以上	20~52(35)	47~83(63)	1~3
30	E-8°-N	2.31以上	24~48(35)	52~79(59)	1~4	89	E-22°-S	8.2以上	20~35(28)	42~58(51)	1~3
31	E-3°-N	2.71以上	15~42(30)	39~65(55)	1~3	90	E-19°-S	12.6以上	22~48(30)	42~72(57)	1~5
32	EW	6.31以上	26~42(33)	48~80(60)	1~5	91	W-16°-N	17.7以上	15~47(28)	40~77(60)	1~5
33	E-5°-N	5.0	25~35(29)	51~60(56)	1~4	92	W-30°-N	4.0以上	27~64(38)	53~89(65)	1~3
34	EW	3.1	23~42(31)	46~65(56)	1~3	93	N-9°-E	5.4以上	22~37(31)	44~61(54)	1~6
35	N-36°-W	22.21以上	18~79(39)	39~107(68)	1~3	94	N-10°-E	4.9以上	17~32(25)	41~57(49)	1~5
36	N S	5.01以上	25~39(33)	43~59(54)	1~3	95	N-7°-E	5.6以上	13~40(28)	43~93(53)	1~6
37	N-2°-W	8.11以上	16~48(35)	33~67(52)	1~3	96	N-11°-E	4.2以上	20~31(25)	41~55(47)	1~6
38	N-3°-W	17.0	18~48(33)	40~74(53)	1~5	97	N-25°-E	9.8以上	16~41(25)	42~61(30)	1~4
39	N-6°-E	17.1	19~43(30)	40~64(53)	1~5	98	N-29°-E	9.9以上	13~36(25)	35~64(49)	1~4
40	N-4°-E	22.3	16~54(30)	37~75(53)	1~5	99	N-17°-E	8.8	10~40(26)	42~59(48)	1~4
41	N-7°-E	11.9	13~39(24)	41~51(46)	1~4	100	N-16°-E	7.2以上	16~36(23)	40~63(46)	1~4
42	N-10°-E	22.81以上	13~45(28)	40~61(52)	1~6	101	W-21°-N	11.5以上	19~42(28)	40~64(50)	1~6
43	N-8°-E	22.61以上	14~54(29)	38~74(55)	1~6	102	W-10°-N	7.1以上	18~33(23)	39~53(44)	1~3
44	S-15°-W	13.31以上	14~26(19)	37~60(46)	1~5	103	V-1°-N	4.6	21~28(24)	39~60(49)	1~5
45	N-20°-E	22.3	9~47(23)	38~71(49)	1~5	104	W-24°-N	2.5	19~29(23)	45~71(54)	2~4
46	N-19°-E	23.91以上	8~35(20)	28~64(44)	1~5	105	W-10°-N	2.3	15~27(19)	41~60(48)	2~4
47	N-18°-E	23.31以上	7~40(19)	24~76(47)	1~9	106	W-21°-N	7.7	9~44(25)	32~65(49)	1~4
48	E-3°-N	15.7	21~46(30)	40~65(51)	1~4	107	E-19°-S	1.4以上	18~21(20)	45~50(46)	1~2
49	E-15°-S	2.4	9~19(12)	27~38(33)	1~3	108	N-6°-W	7.9	9~45(27)	31~78(55)	1~4
50	E-5°-N	4.4	33~50(41)	55~72(63)	1~3	109	N-6°-E	2.1	21~37(29)	52~69(61)	1
51	E-2°-S	3.8	21~31(27)	44~67(54)	1~3	110	E-13°-S	1.6以上	27~32(30)	60~68(63)	1~2
52	E-20°-S	7.5	13~52(22)	51~71(59)	1~5	111	E-17°-S	2.4以上	35~40(38)	67~82(74)	1~4
53	E-25°-S	2.6	16~24(20)	36~46(40)	1~2	112	E-13°-N	2.1以上	35~39(37)	68~78(73)	1~4
54	E-15°-S	29.9	5~54(26)	30~76(50)	1~7	113	E-7°-N	3.2以上	30~49(39)	70~90(77)	1~4
55	E-9°-S	1.8	33~58(41)	59~75(65)	1~4	114	E-1°-S	5.3以上	26~46(37)	65~71(68)	1~3
56	E-17°-S	1.8	25~37(31)	45~62(51)	2~4	115	E-12°-N	3.0以上	25~35(31)	40~63(57)	1~2
57	E-5°-N	7.3	20~43(34)	45~64(55)	1~4	116	E-20°-S	2.5以上	43~118(76)	117~205(147)	1~25
58	E-7°-S	3.1	18~39(26)	42~59(49)	1~3	117	E-23°-S	2.5以上	37~116(80)	79~160(130)	1~17
59	E-8°-S	11.11以上	14~64(30)	36~86(54)	1~6	118	N-4°-E	3.9以上	23~35(29)	52~63(56)	4~7

表25 15層水田跡跡群計測表(1)

No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)
119	N-6°-E	21.3	12~34(20)	34~82(60)	1~6	153	S-24°-E	1.1以上	9~16(14)	34~44(39)	2~4
120	N-7°-E	1.4	14~22(19)	47~50(48)	1~4	154	S-26°-E	1.6以上	21~28(23)	50~55(52)	1~2
121	N-5°-E	17.9	14~35(22)	39~60(49)	1~6	155	S-20°-E	20.1	15~40(23)	40~78(55)	1~6
122	N-7°-E	22.9	10~39(20)	40~70(52)	1~5	156	N-S	5.8	14~34(23)	36~73(52)	2~6
123	N-7°-E	14.4	12~40(24)	40~73(58)	1~5	157	S-12°-E	18.6	17~38(25)	40~79(59)	1~5
124	N-2°-W	0.7	9~15(12)	37~43(40)	1~2	158	S-26°-E	2.4以上	24~35(29)	44~72(61)	1~3
125	N-S	5.2	10~28(22)	44~73(56)	2~4	159	S-22°-E	20.1以上	17~48(31)	45~83(63)	1~6
126	S-16°-W	2.7	8~18(14)	37~54(46)	1~3	160	S-24°-E	22.0以上	12~60(31)	52~89(65)	1~6
127	S-6°-W	6.9	14~31(25)	40~66(53)	1~4	161	S-30°-E	8.1	16~41(31)	47~73(63)	1~5
128	N-S	2.6	14~30(23)	45~59(51)	1~2	162	S-44°-E	5.6	21~44(31)	54~70(61)	1~4
129	S-7°-W	1.9	24~32(29)	54~59(56)	1~3	163	W-2°-S	16.6以上	12~36(22)	38~60(46)	1~4
130	S-2°-W	7.4	16~36(26)	45~71(60)	1~3	164	W-4°-S	3.5以上	19~30(24)	39~60(45)	1~3
131	N-3°-E	20.5	7~35(23)	37~80(60)	1~7	165	W-1°-S	3.2以上	10~32(21)	39~61(48)	1~4
132	N-10°-E	11.5	9~43(19)	40~80(54)	1~5	166	W-12°-S	3.1	20~28(23)	51~60(54)	1~3
133	N-1°-E	1.9	22~31(26)	42~51(48)	1~2	167	W-11°-S	3.0	15~44(27)	44~74(60)	1~6
134	N-6°-W	7.0	17~43(27)	39~70(60)	1~3	168	W-12°-S	13.6以上	10~43(27)	40~79(58)	1~7
135	N-1°-E	10.2	12~45(29)	40~77(59)	1~3	169	W-8°-S	2.1	23~35(30)	54~61(59)	1~2
136	W-9°-N	17.8以上	13~36(25)	39~80(59)	1~5	170	W-22°-S	23.7以上	13~47(30)	41~83(63)	1~7
137	W-10°-N	18.0以上	10~33(22)	40~70(52)	1~6	171	W-16°-S	10.0以上	16~35(25)	46~64(52)	1~4
138	W-4°-N	25.2以上	6~38(20)	34~78(52)	1~6	172	W-25°-S	7.2	19~45(31)	41~78(58)	2~6
139	W-5°-N	25.1以上	10~46(21)	33~90(53)	1~5	173	W-23°-S	5.5	40~56(46)	65~90(78)	1~3
140	W-4°-N	3.8	7~21(14)	39~56(46)	1~2	174	W-26°-S	7.4	17~30(24)	42~62(52)	1~5
141	W-10°-N	21.7以上	8~44(22)	36~78(53)	1~5	175	W-26°-S	10.2以上	10~31(23)	41~62(53)	1~6
142	W-8°-N	26.8以上	10~52(24)	37~83(55)	1~8	176	W-25°-S	7.7	20~34(26)	49~87(63)	2~5
143	W-10°-N	19.0以上	11~47(23)	39~80(52)	1~6	177	W-32°-S	25.1以上	11~39(29)	46~79(61)	1~6
144	W-4°-N	18.8以上	13~62(26)	38~112(61)	1~7	178	W-41°-S	3.8	25~33(28)	49~58(54)	1~5
145	W-4°-N	10.2以上	11~31(20)	46~66(54)	1~6	179	W-44°-S	4.3以上	19~26(23)	40~67(50)	2~4
146	N-6°-W	3.3	16~25(20)	39~50(42)	1~4	180	W-8°-S	5.5	23~40(35)	65~83(73)	2~7
147	N-S	1.1	25~36(32)	56~68(62)	1~2	181	W-16°-S	5.9	17~70(31)	70~116(82)	4~11
148	N-13°-W	24.2	14~36(24)	40~66(52)	1~5	182	W-20°-N	5.6	39~68(53)	92~126(111)	1~11
149	N-29°-W	0.6以上	16~24(20)	41~50(44)	3~5	183	E-32°-S	4.7	14~40(29)	52~94(70)	2~8
150	N-23°-W	10.7	13~28(21)	40~62(50)	1~5	184	E-28°-S	4.2	20~40(30)	60~81(73)	4~7
151	N-9°-W	11.3	19~34(25)	45~64(55)	1~5	185	E-24°-S	4.6	13~34(24)	43~82(61)	1~7
152	N-22°-W	10.3	23~37(28)	50~67(58)	1~4	186	E-19°-S	3.9	72~88(80)	101~155(128)	1~4

表26 15層水田跡畦畔計測表(2)

曲している。なお、SD14が北西から南東方向に流れしており、畦畔列はこれに分断される形となっているが、方向的にはSD14の影響は少ないと考えられる。

IV・V区の畦畔の配列はI～III区と比べて規則的で、SD15の西側は東西畦畔が東から西へ向かって扇状に直線的に並び、南北畦畔はSD15のカーブに沿って北～南東方向へ滴曲している。東西・南北畦畔共に途切れるものは少ないが、両者を比べると東西畦畔の方が比較的分断されずに長く延びるものが多い。また、SD15の北側部分ではSD15の細かい屈曲に対応して南北畦畔の向きも変化しているようにも見えるが、東側については調査面積が狭いために詳細は不明である。

なお、地形との関係は余り認められないが、畦畔54はII区南部から北西方向に向かって入り込むごく浅い谷のほぼ谷心線に沿って走行・屈曲していることから、この畦畔のみは微地形に制約されて造られたものと考えられる。

(2) 水田区画

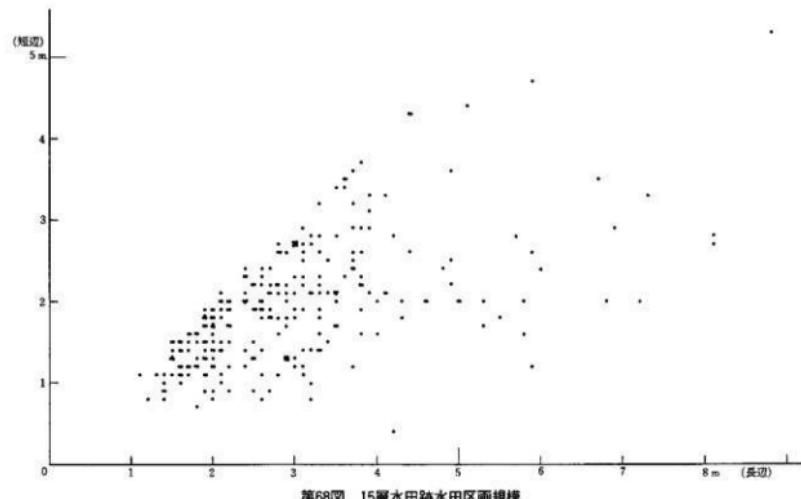
水田区画は大畦畔によって分割された大区画が8区画(A～H)と、小畦畔によって細分された小区画が361区画(①～⑩)認められた。なお、大区画を分割して小区画を設定する際には中間段階として中区画が存在したことが類推できるが、この中区画の認定においては客観的な判断材料が少ない中での推定であるので、必ずしも断定できるものではない。

大区画は区画の基準となるものである。全体を検出できたものはないが、B・G・Hについては比較的広い面積を調査できた。その他A・Dは部分的な検出に留まっており、Fについては分割される可能性がある。なお、Cは下層の水路の埋没途中の窪みを利用して造られた水田区画である。この下層の水路は18層水田段階（SD18）から16層水田段階（SD16）まで継続して確認されるが、堆積土は15層直下の黒色泥炭質粘土層のみで、この層が15・16・18層の各水田跡のうちどの層に伴うのか断定できないため、水路の時期の下限は15層段階まで下る可能性がある（第70図）。その場合は当初水路として利用し、その後何らかの理由で水田に変更したことになる。最初からここに区画が存在したのか、あるいは水路として使用したあと水田としたのかどちらとも判断できないが、最終段階の水路の確認面が16層上面であるので、一応この水路は16層以下に伴うものとして捉え、この15層段階では当初から水田として使用されたと考えたい。

大区画の平面形はSD15が蛇行しているためこれに接するF・G・Hが歪んでいるが、概ね方形を意識して設定されていることは窺える。規模についてはほとんど不明であるが、Gの南北長が約25mと判明しているので最小値は25m程度と推定される。さらに、Bの東西長が約42m以上あることや、仮にFが南北に分割され、しかもEとFの北半部が同一区画であると仮定するとその南北長は約65mあるので、大きいものは一辺70m以上になる可能性もある。

中区画は前述したようにその認定に不確定要素が多く、またその機能についても単に大区画を小区画に分割する際の過程を示すものにすぎない可能性もあるが、以下にその概要を述べてみたい（第69図）。

小畦群の中には他の畦群によって分断されずに長く直線的に延びるものがあり、これらの畦群は結果的に他の畦群を分断する場合が多く認められる。さらに、これらは規則的な配列を示すことから単なる小畦群ではなく、区画の際の基準の畦群であることが考えられ、このことから中区画の存在を想定した。中区画は大区画B・G・Hで認められ、特殊な立地のCを除くA・D・E・Fにも存在したと考えられるが、A・Dでは確認できず、E・Fでは小区画のまとまった単位が認められるものの調査面積が狭いために中区画を想定するには至らなかった。



第68図 15層水田跡水田区画規模

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	9.28~9.33	(5)	?	1.23以上	?	3.83以上	?	2.6以上	?	
②	9.28~9.32	(4)	西→東	1.90以上	1.31以上	1.9	?	3.0以上	? × 1.9	
③	9.26~9.29	(3)	中央が低い	3.1以上	1.9以上	2.4	?	7.45以上	? × 2.4	
④	9.29~9.30	(1)	?	0.70以上	?	3.0	?	1.50以上	? × 3.0	
⑤	9.24~9.29(9.27)	5	北→南	3.3	2.8	1.5	0.9	4.3	3.1 × 1.2	
⑥	9.28~9.30(9.29)	2	ほぼ水平	3.4	3.1	1.7	1.8	6.0	3.3 × 1.8	
⑦	9.27~9.29	(2)	ほぼ水平	1.30以上	1.00以上	2.5	?	3.3以上	? × 2.5	
⑧	9.25~9.27(9.26)	2	北西→南東	3.6	3.4	1.8	2.3	7.9	3.5 × 2.1	
⑨	9.18~9.27	(9)	西→東	2.63以上	1.43以上	8.0	?	17.13以上	? × 8.0	東西に分割される?
⑩	9.25~9.28(9.27)	3	北→南	3.6	3.7	1.4	1.0	5.3	3.7 × 1.2	
⑪	9.23~9.26(9.24)	3	西→東	3.9	3.7	3.5	3.9	16.3	3.8 × 3.7	
⑫	9.24~9.26	(2)	ほぼ水平	3.30以上	2.80以上	1.6	?	5.3以上	? × 1.6	
⑬	9.15~9.24(9.17)	9	北→南	5.3	4.4	3.1	4.1	19.9	4.9 × 3.6	
⑭	9.24	?	?	?	?	1.43以上	?	?	?	部分的に検出
⑮	9.24~9.25(9.24)	1	ほぼ水平	2.1	推定 2.3	推定 1.7	1.2	推定 3.7	2.2 × 1.5	
⑯	9.23~9.24(9.23)	1	ほぼ水平	1.6	1.5	1.7	1.7	2.3	1.6 × 1.7	
⑰	9.16~9.20(9.17)	4	北西→南東	3.3	3.9	2.5	2.0	7.8	3.6 × 2.3	
⑱	9.23~9.26	(3)	西→東	3.00以上	2.80以上	1.6	?	5.13以上	? × 1.6	
⑲	9.22~9.25(9.23)	3	西→東	1.9	1.9	1.4	1.5	2.9	1.9 × 1.5	
⑳	9.19~9.22	(3)	南→北	3.4以上	3.2以上	1.7	?	7.1以上	? × 1.7	
㉑	9.20~9.22(9.20)	2	ほぼ水平	1.7	1.5	1.4	1.5	2.5	1.6 × 1.5	
㉒	9.15~9.16(9.16)	1	ほぼ水平	0.2	0.5	4.2	4.2	1.5	0.4 × 4.2	溝状の平面形
㉓	9.15~9.14(9.15)	1	ほぼ水平	1.1	0.5	2.1	3.0	1.7	0.8 × 2.6	溝状の平面形
㉔	9.28~9.29	(1)	ほぼ水平	3.5以上	?	1.7以上	?	5.3以上	?	
㉕	9.29~9.30	(1)	ほぼ水平	推定 2.0	?	1.7以上	?	3.9以上	2.0 × ?	
㉖	9.27~9.28	(1)	ほぼ水平	1.2	?	2.4以上	2.3以上	2.5以上	1.2 × ?	
㉗	9.30~9.32	(2)	ほぼ水平	4.3	?	0.6以上	2.3以上	5.9以上	4.3 × ?	
㉘	9.30	?	?	3.5	?	?	0.6以上	1.63以上	3.5 × ?	部分的に検出
㉙	9.27~9.32	(5)	ほぼ水平	7.2以上	6.5以上	1.2	?	18.53以上	? × 1.2	南北に割りられる?
㉚	9.29~9.30(9.30)	1	ほぼ水平	3.1	2.4	2.9	-	3.7	-	三角形
㉛	9.29~9.31(9.30)	2	ほぼ水平	1.8	1.8	1.7	1.5	2.9	1.8 × 1.6	
㉜	9.28~9.29(9.29)	1	ほぼ水平	推定 2.0	推定 1.7	推定 2.1	推定 1.5	4.0	1.9 × 1.8	
㉝	9.25~9.30(9.29)	5	西→東	推定 3.7	推定 3.4	推定 3.1	推定 4.3	12.1	3.6 × 3.7	
㉞	9.23~9.25(9.25)	(5)	西→東	3.5以上	?	?	3.8以上	11.6以上	?	
㉟	9.27~9.31(9.29)	4	北西→東	3.4	推定 3.8	3.4	推定 3.5	推定 13.3	3.6 × 3.5	
㉟	9.29~9.31(9.30)	2	ほぼ水平	3.5	3.2	3.8	3.3	11.8	3.4 × 3.6	
㉟	9.26~9.30(9.28)	4	ほぼ水平	推定 2.9	推定 4.1	推定 2.2	5.0	推定 11.3	3.5 × 3.6	台形
㉟	9.26~9.28(9.27)	2	ほぼ水平	推定 2.9	推定 2.9	1.7	推定 2.4	推定 6.9	3.9 × 2.1	台形
㉟	9.24~9.25(9.24)	1	西→東	0.8	1.0	2.4	2.0	2.0	0.9 × 2.2	
㉟	9.24~9.25(9.25)	1	西→東	1.2	0.9	2.8	2.8	2.8	1.1 × 2.8	
㉟	9.24	?	?	?	?	?	0.9	?	?	部分的に検出
㉟	9.24	?	?	?	?	?	2.1	?	?	部分的に検出
㉟	9.25~9.27(9.26)	2	西→東	3.2	3.2	1.9	2.3	6.6	3.2 × 2.1	
㉟	9.25~9.29(9.27)	4	南→北	4.2	3.9	2.0	2.1	8.5	4.1 × 2.1	
㉟	9.27~9.28(9.27)	1	ほぼ水平	3.0	2.9	1.9	1.9	5.6	3.0 × 1.9	
㉟	9.28~9.29(9.28)	1	ほぼ水平	2.4	推定 4.8	-	推定 3.8	推定 5.2	-	二角形
㉟	9.25~9.28(9.26)	3	北→南	2.7	推定 2.6	0.8	0.9	1.6	2.7 × 0.9	台形
㉟	9.24~9.25(9.25)	1	北→南	2.7	2.5	1.6	0.5	2.5	-	三角形に近い
㉟	9.20~9.21	(1)	北→南	2.23以上	1.9以上	?	2.2	4.23以上	? × 2.2	
㉟	9.26~9.28(9.27)	2	ほぼ水平	3.2	3.3	1.9	2.3	6.9	3.3 × 2.1	
㉟	9.24~9.25(9.25)	1	ほぼ水平	2.5	2.5	1.9	1.9	4.8	2.5 × 1.9	
㉟	9.25~9.26(9.25)	1	ほぼ水平	1.9	1.5	2.2	1.7	3.5	1.7 × 2.0	
㉟	9.27~9.30(9.28)	3	ほぼ水平	3.0	3.5	2.0	2.4	7.3	3.3 × 2.2	
㉟	9.28~9.30(9.28)	2	西→東	1.3	1.3	1.6	1.4	2.4	1.3 × 1.5	
㉟	9.27~9.28(9.28)	1	北西→南東	1.6	1.8	-	1.5	1.9	-	三角形
㉟	9.27~9.30(9.28)	3	北西→南東	2.2	2.4	2.2	1.9	5.2	2.3 × 2.1	
㉟	9.22~9.27(9.24)	5	北→南	3.0	3.0	1.7	1.8	6.1	3.0 × 1.8	
㉟	9.25~9.28(9.27)	3	南→北	2.0	2.0	1.3	1.5	2.8	2.0 × 1.4	
㉟	9.27~9.29(9.28)	2	南→北	2.9	2.8	1.4	1.1	3.7	2.9 × 1.3	

表27 15層水田跡水田区画計測表(1)

No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
⑩	9.25~9.29(9.27)	4	北西→南東	3.0	2.2	1.9	1.8	5.3	2.6×1.9	
⑪	9.22~9.24(9.23)	2	ほぼ水平	1.7	2.3	2.1	1.6	4.5	2.0×1.9	直んだ方形
⑫	9.20~9.22(9.20)	2	ほぼ水平	1.0	1.2	1.7	2.0	2.2	1.1×1.9	
⑬	9.21~9.22(9.21)	1	北→南	1.5	2.2	—	1.5	1.3	—	三角形
⑭	9.26~9.29(9.27)	3	北西→南東	2.4	2.3	1.8	2.1	4.7	2.4×2.0	
⑮	9.22~9.27(9.23)	5	北西→南東	5.5	5.5	1.6	2.0	9.5	5.5×1.8	南北に分割される?
⑯	9.23~9.26(9.25)	3	ほぼ水平	2.9	2.9	1.7	1.8	5.5	2.9×1.8	
⑰	9.22~9.26(9.24)	4	西→南東	2.2	2.9	3.0	2.6	7.4	2.6×2.8	直んだ方形
⑲	9.19~9.24(9.22)	5	西→東	1.4	—	2.1	1.8	1.3	—	三角形
⑳	9.18~9.21(9.20)	3	ほぼ水平	1.3	2.5	2.8	2.6	5.1	1.9×2.7	直んだ方形
㉑	9.19~9.20(9.19)	1	ほぼ水平	1.5	1.1	3.0	3.0	3.8	1.3×3.0	
㉒	9.17~9.22	(5)	北→南	2.0以上	2.6以上	?	2.0	5.2以上	? × 2.0	
㉓	9.25~9.28(9.27)	3	北→南	2.1	1.8	1.6	1.8	3.9	2.0×1.7	
㉔	9.21~9.24(9.23)	3	西→東	3.3	3.4	1.1	1.8	5.2	3.4×1.5	直んだ方形
㉕	9.22~9.23(9.22)	1	ほぼ水平	1.7	1.8	1.1	1.2	2.1	1.8×1.2	
㉖	9.22~9.24(9.22)	2	西→東	1.8	2.9	1.6	1.2	2.4	2.1×1.4	三角形に近い
㉗	9.23~9.26(9.24)	3	北→南	5.7	5.8	1.6	1.5	9.8	5.8×1.6	直んだ方形
㉘	9.21~9.23(9.22)	2	ほぼ水平	2.2	1.7	1.7	1.8	3.8	2.0×1.8	直んだ方形
㉙	9.21~9.22(9.21)	1	ほぼ水平	1.4	2.0	1.2	2.0	3.0	1.7×1.6	直んだ方形
㉚	9.22~9.23(9.23)	1	ほぼ水平	1.3	1.7	1.3	1.7	2.2	1.5×1.5	直んだ方形
㉛	9.22~9.23(9.22)	1	ほぼ水平	1.5	1.2	1.8	1.6	2.4	1.4×1.7	
㉜	9.30~9.22(9.20)	2	ほぼ水平	1.5	1.3	1.9	2.3	3.2	1.4×2.1	
㉝	9.20~9.21(9.21)	1	ほぼ水平	1.3	1.6	1.7	1.7	2.5	1.5×1.7	
㉞	9.20~9.22(9.21)	2	西→東	1.2	1.2	1.6	1.6	1.9	1.2×1.6	
㉟	9.15~9.19	(4)	ほぼ水平	1.8以上	2.1以上	?	2.5	5.7以上	? × 2.5	
㉟	9.18~9.23(9.22)	7	北→南	9.1	9.0	1.5	2.2	19.1	9.1×1.9	南北に分割される?
㉟	9.16~9.20(9.17)	4	南→北	3.1	3.0	1.2	1.6	4.3	3.1×1.4	
㉟	9.20~9.22(9.20)	2	西→東	1.3	1.4	0.9	0.9	1.2	1.4×0.9	
㉟	9.19~9.23(9.22)	4	北西→南東	6.3	5.5	2.4	2.8	15.1	5.9×2.6	台形
㉟	9.16~9.20(9.18)	4	北西→南	4.1	4.0	1.7	2.4	8.8	4.1×2.1	
㉟	9.14~9.18(9.16)	4	西→東	3.6	4.0	1.6	1.6	6.2	3.8×1.6	やや直んだ方形
㉟	9.20~9.21(9.20)	1	ほぼ水平	2.0	1.8	1.8	2.2	3.8	1.9×2.0	
㉟	9.18~9.21(9.18)	3	西→東	1.2	1.1	1.6	1.9	2.4	1.2×1.8	
㉟	9.16~9.18(9.17)	2	ほぼ水平	1.2	1.5	1.4	1.7	2.3	1.4×1.6	
㉟	9.14~9.17	(3)	?	?	1.4以上	?	推定 3.1	4.0以上	? × 3.1	東西に分割?
㉟	9.19~9.21(9.20)	2	ほぼ水平	7.0	6.6	1.8	2.1	13.2	6.5×2.0	台形
㉟	9.14~9.17(9.16)	3	ほぼ水平	4.8	4.4	1.9	2.0	9.3	4.6×2.0	
㉟	9.13~9.16(9.14)	3	南西→北東	3.3	3.7	1.6	1.8	6.6	3.5×1.7	
㉟	9.17~9.18(9.17)	1	ほぼ水平	2.5	2.0	1.6	2.0	4.2	2.3×1.8	
㉟	9.15~9.18(9.15)	3	ほぼ水平	1.2	0.9	1.6	1.6	1.8	1.1×1.6	やや直んだ方形
㉟	9.17~9.19(9.17)	2	ほぼ水平	推定 1.0	推定 1.1	推定 1.2	1.6	推定 1.5	1.1×1.4	
㉟	9.17~9.20(9.18)	3	北→南	4.7	4.5	2.4	1.6	9.4	4.6×2.0	直んだ方形
㉟	9.16~9.18(9.18)	2	ほぼ水平	2.6	2.1	2.4	2.4	5.7	2.4×2.4	
㉟	9.13~9.16(9.14)	3	ほぼ水平	5.0	4.9	1.9	2.0	10.0	5.0×2.0	
㉟	9.11~9.14(9.13)	3	ほぼ水平	3.2	3.2	2.0	2.1	6.7	3.2×2.1	
㉟	9.13~9.15(9.14)	2	西→東	2.0	2.3	1.7	2.0	4.3	2.3×1.9	
㉟	9.12~9.15(9.14)	3	西→東	2.2	2.3	1.9	2.0	4.5	2.3×2.0	
㉟	9.10~9.12	(2)	?	?	1.0以上	?	推定 1.9	1.3以上	? × 1.9	部分的に検出
㉟	9.13~9.19(9.17)	6	ほぼ水平	7.5	7.1	2.6	3.9	24.7	7.3×3.3	やや直んだ方形
㉟	9.11~9.17(9.15)	6	北→南	6.1	5.8	2.1	2.7	15.2	6.0×2.4	
㉟	9.10~9.17(9.14)	7	南西→北	5.0	5.5	1.5	1.9	9.1	5.3×1.7	
㉟	9.10~9.15	(5)	北東→南	3.2以上	3.2以上	?	1.6	4.3以上	? × 1.6	
㉟	9.11~9.19	(8)	北→南	2.1以上	1.3以上	4.8	?	8.2以上	? × 4.8	南北に区画される?
㉟	9.03~9.15(9.10)	12	北→南	9.6	8.0	5.0	5.5	48.5	8.5×3.3	直んだ方形、低い
㉟	9.01~9.16(9.07)	15	西→東	2.6	3.2	6.9	6.9	14.3	2.9×6.9	直んだ方形、低い
㉟	9.01~9.11(9.05)	10	東→西→中央	6.2	5.6	4.7	4.7	30.5	5.9×4.7	周辺低く高い
㉟	8.99~9.06(9.02)	7	中央が低い	5.0	5.1	4.1	4.6	23.6	5.1×4.4	周辺低く高い
㉟	8.95~9.05(9.08)	10	北→南	4.3	4.4	4.5	4.1	18.9	4.4×4.3	周辺低く高い
㉟	8.91~8.98(9.95)	7	東→西→中央	4.1	4.5	推定 4.1	4.6	推定 19.1	4.3×4.4	周辺低く高い

表28 15層水田跡水田区画計測表(2)

No	標高(m)	北偏率(m)	傾斜方向	東邊(m)	西邊(m)	南邊(m)	北邊(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
⑩	8.93~8.96	(3)	?	?	?	?	推定 3.8	2.73以上	? × 3.8	面積の区画ごとに使い
⑪	9.22~9.28	(6)	東→西	2.6以上	1.5以上	2.9	?	6.4以上	? × 2.9	
⑫	9.35~9.31(9.29)	5	東→北西	推定 3.3	2.9	3.1	4.6	11.2	3.1 × 3.9	重んだ方形
⑬	9.22~9.28(9.24)	6	中央が低いく	5.0	5.0	1.7	2.3	10.1	5.0 × 2.0	やや重んだ方形
⑭	9.21~9.26(9.23)	5	東→北	3.0	推定 2.3	推定 3.0	3.0	推定 8.4	2.7 × 3.0	
⑮	9.30~9.31	(1)	?	0.5以上	0.8以上	1.2	?	1.4以上	? × 1.2	部分的に検出
⑯	9.31~9.32(9.32)	1	ほぼ水平	1.9	2.3	推定 1.4	1.3	2.9	2.1 × 1.4	
⑰	9.29~9.33(9.30)	4	北東→西	2.5	1.9	3.0	2.5	7.1	2.2 × 2.8	重んだ方形
⑱	9.29~9.31(9.30)	2	ほぼ水平	2.1	2.4	3.4	3.1	7.6	2.3 × 3.3	
⑲	9.27~9.33(9.28)	5	北東→西	3.5	3.4	2.0	2.2	7.2	3.5 × 2.1	
⑳	9.29~9.32	(3)	?	1.5以上	3.8以上	-	?	3.0以上	?	三角形?
㉑	9.29~9.31	(2)	?	2.3以上	1.5以上	?	2.3以上	?	?	部分的に検出
㉒	9.29~9.33	(4)	東→西	?	2.1	4.3以上	2.6以上	8.5以上	2.1 × ?	
㉓	9.29~9.32(9.31)	3	ほぼ水平	3.2	3.8	2.3	1.9	7.7	3.5 × 2.1	
㉔	9.28~9.33	(5)	北西→南東	?	3.0	4.3以上	2.4以上	12.0以上	3.0 × ?	
㉕	9.09~9.19(9.12)	10	北東→南西	6.5	7.9	2.8	1.1	16.1	7.2 × 2.0	重んだ方形
㉖	9.11~9.18(9.12)	7	東→西	3.2	2.4	3.0	3.5	9.4	2.8 × 3.3	重んだ方形
㉗	9.09~9.13(9.11)	4	東→西	5.4	推定 7.7	推定 4.2	2.8	23.2	6.7 × 3.5	台形
㉘	9.07~9.15(9.11)	8	ほぼ水平	3.8	-	推定 5.2	推定 5.7	推定 10.9	-	三角形
㉙	9.05~9.09	(4)	東→西	1.9以上	4.7以上	?	推定 4.1	14.0以上	? × 4.1	
㉚	9.12~9.14	(2)	?	0.9以上	1.5以上	?	1.3	2.1以上	? × 1.3	
㉛	9.18~9.25(9.19)	7	東→西	4.6	4.9	2.5	2.3	10.8	4.8 × 2.4	
㉜	?	?	?	?	?	?	?	?	?	時計を揃出できず
㉝	9.19~9.21(9.20)	2	ほぼ水平	推定 3.3	4.2	推定 2.6	1.7	推定 8.5	3.8 × 2.2	
㉞	9.17~9.22(9.20)	5	東→西	2.5	2.7	4.5	4.2	11.8	2.6 × 4.4	
㉟	9.14~9.21(9.18)	7	東→西	2.5	推定 1.8	推定 5.0	推定 4.7	推定 10.9	2.2 × 4.9	やや重んだ方形
㉟	9.14~9.18(9.16)	4	東→西	3.4	3.1	4.4	3.3	12.7	3.3 × 3.9	やや重んだ方形
㉟	?	?	?	?	?	?	1.5以上	?	?	部分的に検出
㉟	9.24~9.29(9.27)	5	北→南	2.5	2.7	2.4	1.9	5.9	2.6 × 2.2	やや重んだ方形
㉟	9.23~9.28(9.23)	5	北→南西	3.9	推定 3.9	推定 3.3	2.5	推定 11.9	3.9 × 2.9	
㉟	9.23~9.27(9.25)	4	東→西	2.9	推定 2.9	3.8	推定 3.6	推定 11.3	2.9 × 3.7	
㉟	9.22~9.23(9.23)	1	ほぼ水平	2.1	2.1	1.4	2.1	4.3	2.1 × 1.8	やや重んだ方形
㉟	9.20~9.23(9.22)	3	東→西	3.4	2.7	2.5	2.4	8.0	3.1 × 2.5	やや重んだ方形
㉟	9.19~9.21(9.21)	(2)	東→西	2.0以上	3.0以上	?	2.4	6.2以上	? × 2.4	
㉟	9.25~9.30(9.28)	5	東→西	3.9	3.1	2.6	2.9	10.2	3.5 × 2.8	やや重んだ方形
㉟	9.27~9.29(9.28)	2	北→南	2.9	3.1	2.9	2.5	8.1	3.0 × 2.7	
㉟	9.26~9.27(9.27)	1	ほぼ水平	3.1	2.9	2.7	2.6	7.9	3.0 × 2.7	
㉟	9.24~9.25(9.25)	1	ほぼ水平	1.1	0.4	3.2	3.2	2.5	0.8 × 3.2	やや重んだ方形
㉟	9.23~9.25(9.24)	2	東→西	1.3	1.1	3.0	2.9	3.9	1.2 × 3.0	やや重んだ方形
㉟	9.22~9.25(9.24)	3	北→南西	2.6	2.9	1.7	1.9	4.9	2.8 × 1.8	やや重んだ方形
㉟	9.20~9.21(9.21)	(1)	ほぼ水平	1.5以上	1.7以上	?	1.8	3.2以上	? × 1.8	
㉟	9.29~9.31(9.30)	2	ほぼ水平	3.8	3.7	2.1	1.6	7.4	3.8 × 1.9	
㉟	9.28~9.30(9.29)	2	ほぼ水平	2.5	2.9	2.2	2.0	5.7	2.7 × 2.1	
㉟	9.36~9.39(9.28)	3	北→南西	3.5	3.0	2.0	1.8	6.6	3.3 × 1.9	やや重んだ方形
㉟	9.26~9.27(9.27)	1	ほぼ水平	1.1	1.4	1.8	2.0	2.5	1.3 × 1.9	重んだ方形
㉟	9.34~9.25(9.24)	1	東→西	1.4	1.1	1.8	1.9	2.5	1.3 × 1.9	
㉟	9.22~9.26(9.23)	4	東→西	2.4	2.6	2.2	2.2	5.7	2.5 × 2.2	
㉟	9.21~9.23	(2)	?	0.6以上	1.4以上	?	2.0	2.5以上	? × 2.0	
㉟	9.27~9.31	(4)	ほぼ水平	?	4.0	2.3以上	2.6以上	10.4以上	4.0 × ?	
㉟	9.26~9.31	(3)	ほぼ水平	?	2.5	2.0以上	2.3以上	5.6以上	2.5 × ?	
㉟	9.27~9.28(9.28)	2	ほぼ水平	推定 3.9	3.7	1.9	推定 2.4	推定 8.0	3.8 × 2.2	
㉟	9.27~9.28(9.27)	1	ほぼ水平	1.1	1.1	1.4	1.5	1.7	1.1 × 1.5	
㉟	9.26~9.27(9.27)	1	ほぼ水平	1.3	1.4	1.8	1.4	2.3	1.4 × 1.6	やや重んだ方形
㉟	9.35~9.37	(2)	ほぼ水平	?	1.8	1.7以上	2.0以上	4.2以上	1.8 × ?	
㉟	9.26	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉟	9.28	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉟	8.99~9.01	(2)	?	1.1以上	?	1.5以上	?	1.0以上	?	部分的に検出
㉟	8.97~9.02	(5)	?	3.8	?	1.1以上	1.6以上	4.9以上	3.8 × ?	部分的に検出
㉟	8.99~9.02	(3)	ほぼ水平	2.2以上	1.5以上	2.0	?	3.7以上	? × 2.0	

表29 15層水田跡水田区画計測表(3)

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
⑩	9.01~9.05(9.03)	4	南→北	2.3	3.5	2.3	1.8	5.9	2.9×2.1	台形
⑪	9.99~9.07	(8)	東→西	3.23上	2.23上	2.7	?	6.9以上	? × 2.7	
⑫	9.04~9.06(9.05)	2	ほぼ水平	1.8	2.1	2.6	2.6	5.2	2.0×2.6	ややなんだ方形
⑬	9.11	?	?	?	?	0.93上	?	0.2以上	?	部分的に検出
⑭	9.09~9.13(9.11)	4	東→西	2.0	推定 2.5	1.9	推定 2.1	推定 4.4	2.3×2.0	台形
⑮	9.05~9.10(9.07)	5	北京→南北	推定 3.8	3.2	1.6	1.8	6.0	3.5×1.7	台形
⑯	9.13~9.14	(1)	?	2.1以上	0.43上	2.9	?	3.81上	? × 2.9	
⑰	9.10~9.13(9.12)	3	ほぼ水平	1.6	2.1	2.4	2.8	5.1	1.9×2.6	
⑱	9.06~9.10(9.08)	4	ほぼ水平	4.7	推定 3.9	1.4	2.2	8.0	4.3×1.8	台形
⑲	9.12~9.15(9.13)	3	ほぼ水平	推定 2.8	2.7	2.6	推定 2.7	推定 7.3	2.8×2.7	
⑳	9.10~9.12(9.10)	2	北→南	2.2	2.1	2.6	2.4	5.5	2.2×2.5	
㉑	9.07~9.10(9.08)	3	ほぼ水平	2.6	2.6	2.2	2.4	6.2	2.6×2.3	
㉒	9.04~9.07(9.06)	3	西北→南東	1.7	1.3	2.0	2.2	3.2	1.5×2.1	
㉓	9.11	?	?	?	1.33以上	推定 1.6	?	0.6以上	? × 1.6	部分的に検出
㉔	9.10~9.11(9.10)	1	ほぼ水平	3.5	3.4	2.2	1.8	7.4	3.5×2.0	
㉕	9.07~9.11(9.09)	4	東→西	1.2	1.3	2.6	2.3	3.9	1.3×2.5	
㉖	9.06~9.09(9.07)	3	東→西	3.2	2.1	3.6	2.4	8.1	2.7×3.0	ややなんだ方形
㉗	9.11	?	?	?	?	1.23上	?	?	?	部分的に検出
㉘	9.08~9.10(9.09)	2	ほぼ水平	推定 5.3	5.2	1.9	推定 2.1	推定 10.3	5.3×2.0	
㉙	9.05~9.09(9.08)	4	北→南	2.6	2.7	2.1	2.0	5.7	2.7×2.1	
㉚	9.05~9.11	(6)	西→東	?	4.83上	3.2以上	?	8.1以上	?	
㉛	9.02~9.07	(5)	西→東	?	1.6	5.43上	3.7以上	7.43上	1.6 × ?	ややなんだ方形
㉜	9.03~9.05	(2)	?	?	1.83上	1.53上	?	1.63上	?	部分的に検出
㉝	9.00~9.04	(4)	北→南	?	4.6	2.43上	1.7以上	10.25上	4.6 × ?	ややなんだ方形?
㉞	8.99~9.00	(1)	ほぼ水平	?	2.0	2.03上	2.43上	4.43上	2.0 × ?	ややなんだ方形?
㉟	8.98~9.02	(4)	東→西	?	3.1	3.1以上	2.23上	8.63上	3.1 × ?	
㉟	8.87~8.99(8.98)	2	ほぼ水平	3.9	3.4	2.8	1.9	8.7	3.7×2.4	ややなんだ方形
㉟	8.96~8.99(8.97)	3	東→北西	3.2	4.1	1.9	3.3	10.6	3.7×2.6	やんぐんだ方形
㉟	8.98~8.99(8.98)	1	ほぼ水平	1.2	—	2.0	1.7	1.2	—	三角形
㉟	8.99~9.01	(2)	ほぼ水平	?	3.9	1.43上	0.63上	4.23上	3.9 × ?	
㉟	8.99~9.01	(2)	ほぼ水平	?	3.3	2.1以上	1.6以上	6.83上	3.3 × ?	
㉟	8.99~9.00	(1)	ほぼ水平	?	2.0	2.33上	1.0以上	4.23上	2.0 × ?	
㉟	?	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出
㉟	9.02~9.05	(3)	東→西	3.1	?	1.2以上	1.7以上	5.23上	3.1 × ?	
㉟	9.03~9.05	(2)	ほぼ水平	1.7	?	1.63上	1.4以上	2.93上	1.7 × ?	
㉟	9.02~9.04	(2)	北→南	2.0	?	2.2以上	1.9以上	4.53上	2.0 × ?	
㉟	9.03~9.05	(2)	北→南	2.0	?	2.63上	2.4以上	4.73上	2.0 × ?	
㉟	9.03~9.05	(2)	東→西	1.2	?	2.83上	2.6以上	4.13上	1.2 × ?	
㉟	9.02~9.05	(3)	北→南	2.0	?	3.5以上	3.3以上	6.13上	2.0 × ?	
㉟	9.00~9.03(9.02)	3	ほぼ水平	2.3	2.2	3.6	3.9	8.9	2.3×3.8	ややなんだ方形
㉟	9.00~9.03(9.01)	3	東→西	2.4	推定 2.8	推定 2.9	3.7	推定 8.3	2.6×3.3	ややなんだ方形
㉟	9.00~9.02	(2)	東→西	1.1	?	2.2以上	2.8以上	3.03上	1.1 × ?	
㉟	8.99~9.02	(3)	東→西	2.3	?	1.1以上	2.2以上	4.63上	2.3 × ?	
㉟	9.02~9.05(9.03)	3	ほぼ水平	2.2	2.8	3.9	2.9	8.8	2.5×3.4	やんぐんだ方形
㉟	9.03~9.05(9.04)	2	ほぼ水平	1.4	1.3	0.8	0.8	1.1	1.4×0.8	
㉟	9.04~9.05(9.04)	1	ほぼ水平	1.3	1.4	0.8	0.9	1.2	1.4×0.9	
㉟	9.04~9.05(9.05)	1	ほぼ水平	1.7	1.9	1.9	1.9	3.4	1.8×1.9	
㉟	9.05~9.06(9.05)	1	ほぼ水平	2.0	2.0	1.7	1.6	3.5	2.0×1.7	
㉟	9.05~9.08(9.06)	3	ほぼ水平	1.8	1.5	2.1	2.2	3.7	1.7×2.2	
㉟	9.03~9.05(9.04)	2	ほぼ水平	2.2	1.8	2.4	2.3	4.9	2.0×2.4	
㉟	9.03~9.04(9.04)	1	ほぼ水平	2.0	1.9	2.0	2.1	4.3	2.0×2.1	
㉟	9.01~9.03(9.02)	2	南北→北西	2.3	2.5	2.2	1.9	5.0	2.4×2.1	ややなんだ方形
㉟	9.02~9.03(9.02)	1	ほぼ水平	1.3	1.0	2.1	2.2	2.6	1.2×2.2	ややなんだ方形
㉟	9.02~9.05(9.03)	3	東→西	1.5	2.3	3.0	3.2	6.2	1.9×3.1	ややなんだ方形
㉟	9.04~9.05(9.04)	1	ほぼ水平	1.5	1.4	1.4	1.5	2.3	1.5×1.5	
㉟	9.07~9.08(9.07)	1	ほぼ水平	1.6	1.6	1.7	1.8	2.9	1.6×1.8	
㉟	9.06~9.07(9.07)	1	ほぼ水平	3.2	2.2	1.9	2.1	4.6	2.2×2.0	
㉟	9.06~9.08(9.07)	2	北京→南北	1.6	1.6	1.5	1.5	2.5	1.6×1.5	
㉟	9.05~9.07(9.05)	2	北京→南北	2.1	2.1	0.9	1.0	2.2	2.1×1.0	

表30 15層水田跡水田区画計測表(4)

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
⑨	9.04~9.05(9.05)	1	ほぼ水平	1.8	2.0	0.8	0.9	1.8	1.3×0.9	
⑩	9.02~9.04(9.03)	2	南北→北西	2.3	2.4	1.0	1.3	2.8	2.4×1.2	
⑪	9.02~9.03(9.02)	1	ほぼ水平	1.3	1.4	0.8	1.1	1.4	1.4×1.0	
⑫	9.02~9.04(9.02)	2	ほぼ水平	2.7	2.6	2.0	2.3	6.1	2.7×2.2	
⑬	9.04~9.05(9.05)	1	ほぼ水平	1.4	1.5	2.5	2.5	3.8	1.5×2.5	
⑭	9.05~9.07(9.06)	2	ほぼ水平	1.7	1.6	2.2	2.2	3.7	1.7×2.2	
⑮	9.06~9.07(9.07)	1	ほぼ水平	2.2	2.2	1.8	2.1	4.6	2.2×2.0	
⑯	9.05~9.07(9.06)	2	ほぼ水平	1.3	1.4	1.9	1.9	2.7	1.4×1.9	
⑰	9.04~9.06(9.05)	2	ほぼ水平	2.3	2.0	1.9	1.9	4.1	2.2×1.9	
⑱	9.02~9.04(9.03)	2	ほぼ水平	2.0	2.0	4.0	4.0	8.0	2.0×4.0	
⑲	9.02~9.04(9.03)	2	ほぼ水平	1.9	2.1	3.0	2.7	5.9	2.0×2.9	
⑳	9.02~9.06(9.04)	4	北→南	1.0	1.2	3.2	3.0	3.5	1.1×3.1	やや畠んだ方形
㉑	9.01~9.03(9.02)	2	東→西	1.2	1.7	2.0	1.9	3.1	1.5×2.0	やや畠んだ方形
㉒	9.03~9.04(9.03)	1	ほぼ水平	1.5	1.4	1.2	1.3	1.9	1.5×1.3	
㉓	9.02~9.05(9.03)	3	北東→南北	2.8	2.9	2.9	3.3	9.1	2.9×3.1	畠んだ方形
㉔	9.05~9.06(9.06)	1	ほぼ水平	1.0	1.1	1.5	1.6	1.8	1.1×1.6	
㉕	9.02~9.06(9.04)	4	東→西	2.0	1.9	1.6	1.6	3.4	2.0×1.6	
㉖	9.05~9.06(9.06)	1	ほぼ水平	2.1	2.1	2.1	1.7	3.9	2.1×1.9	やや畠んだ方形
㉗	9.04~9.06(9.05)	2	ほぼ水平	推定 1.1	1.2	推定 1.7	2.2	推定 1.9	1.2×2.0	
㉘	9.02~9.06(9.04)	4	北→南	2.4	2.4	2.0	1.9	4.7	2.4×2.0	
㉙	9.01~9.03(9.02)	2	北→南	1.7	1.8	1.2	1.3	2.4	1.8×1.3	
㉚	9.04~9.05(9.05)	1	ほぼ水平	1.9	1.7	2.7	2.6	4.9	1.8×2.7	
㉛	9.02~9.04(9.03)	2	北東→南北	2.3	2.5	2.2	2.3	5.3	2.4×2.3	
㉜	9.05~9.07(9.06)	2	東→西	2.0	2.6	1.4	1.5	3.6	2.3×1.5	畠んだ方形
㉝	9.08~9.10(9.09)	2	ほぼ水平	1.5	1.5	2.3	2.2	3.4	1.5×2.3	
㉞	9.08~9.10(9.09)	2	東→西	1.8	1.4	2.1	2.4	3.7	1.6×2.3	
㉟	9.07~9.10(9.08)	3	ほぼ水平	1.9	1.9	2.5	2.5	5.0	1.9×2.5	
㉟	9.07~9.08(9.08)	1	ほぼ水平	1.3	0.9	2.5	2.6	2.9	1.1×2.6	やや畠んだ方形
㉟	9.05~9.08(9.06)	3	北東→南北	2.4	2.7	3.0	3.1	8.1	2.6×3.1	畠んだ方形
㉟	9.05~9.07(9.06)	2	東→西	2.1	2.0	2.2	1.9	4.4	2.1×2.1	
㉟	9.04~9.08(9.07)	4	東→西	1.6	2.0	1.7	2.0	3.6	1.8×1.9	畠んだ方形
㉟	9.03~9.05(9.05)	3	ほぼ水平	2.0	2.2	2.1	1.9	4.1	2.1×2.0	
㉟	9.07~9.08(9.07)	1	ほぼ水平	—	1.2	3.3	3.5	2.5	—	三角形
㉟	9.07~9.09(9.08)	2	ほぼ水平	2.2	2.1	3.0	3.2	6.7	2.2×3.1	やや畠んだ方形
㉟	9.07~9.09(9.06)	2	ほぼ水平	1.2	1.3	2.7	3.0	3.8	1.3×2.9	やや畠んだ方形
㉟	9.08~9.10(9.09)	2	ほぼ水平	1.2	1.6	2.5	2.6	3.8	1.4×2.6	やや畠んだ方形
㉟	9.09~9.11(9.10)	2	東→西	2.0	1.5	2.7	2.7	4.8	1.8×2.7	畠んだ方形
㉟	9.08~9.10(9.09)	2	ほぼ水平	1.7	2.3	2.4	2.8	5.2	2.0×2.6	畠んだ方形
㉟	9.06~9.08(9.07)	2	ほぼ水平	1.7	2.3	推定 5.8	5.8	11.5	2.0×5.8	畠んだ方形
㉟	9.06~9.09(9.07)	3	ほぼ水平	推定 1.1	1.3	推定 6.0	推定 5.8	6.3	1.2×5.9	
㉟	9.06~9.08(9.06)	2	ほぼ水平	2.0	1.9	1.7	1.8	3.6	2.0×1.8	やや畠んだ方形
㉟	9.06~9.08(9.06)	2	ほぼ水平	—	1.6	3.7	3.2	3.3	—	三角形
㉟	9.07~9.10(9.09)	3	東→南北	2.4	4.6	3.7	3.0	11.4	3.5×3.4	畠んだ方形
㉟	9.08~9.09(9.08)	1	ほぼ水平	1.1	1.1	1.2	1.0	1.3	1.1×1.1	やや畠んだ方形
㉟	9.10~9.12(9.10)	2	西→東	2.8	2.4	2.0	1.5	4.4	2.6×1.8	
㉟	9.06~9.09(9.08)	4	北→南	1.5	1.4	2.5	2.1	3.3	1.5×2.3	やや畠んだ方形
㉟	9.05~9.06(9.06)	1	ほぼ水平	1.5	1.5	1.7	2.1	3.2	1.5×1.9	やや畠んだ方形
㉟	9.06~9.07(9.07)	1	ほぼ水平	1.2	1.0	1.7	1.6	1.9	1.1×1.7	やや畠んだ方形
㉟	9.07~9.08(9.08)	1	ほぼ水平	1.1	1.3	1.6	1.6	2.2	1.2×1.6	やや畠んだ方形
㉟	9.04~9.07(9.06)	3	北→南	1.7	1.7	1.2	1.2	2.2	1.7×1.2	
㉟	9.08~9.09(9.08)	1	ほぼ水平	—	2.1	2.2	2.8	3.0	—	三角形
㉟	9.06~9.08(9.07)	2	北西→南北	2.0	1.7	1.6	2.2	3.8	1.9×1.9	畠んだ方形
㉟	9.05~9.07(9.06)	2	ほぼ水平	1.4	1.4	1.5	1.5	2.2	1.4×1.5	
㉟	9.06~9.07(9.07)	1	ほぼ水平	1.0	1.3	1.6	1.8	2.0	1.2×1.7	
㉟	9.06~9.07(9.07)	1	ほぼ水平	1.2	1.2	2.0	1.9	2.4	1.2×2.0	
㉟	9.04~9.07(9.06)	3	ほぼ水平	1.1	1.3	2.9	3.7	10.7	3.2×3.3	やや畠んだ方形
㉟	9.06~9.08(9.07)	2	ほぼ水平	3.3	3.1	2.9	3.7	—	1.2×?	
㉟	9.00~9.01(1)	1	ほぼ水平	1.2	?	1.1以上	1.6以上	1.7以上	1.2×?	
㉟	8.97	?	?	1.7	?	?	?	0.5以上	0.8以上	1.7×?
㉟	8.96	?	?	1.1	?	?	?	0.1以上	0.1以上	1.1×?

表31 15層水田跡水田区画計測表(5)

%	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m ³)	備考
⑩	8.99~9.00(8.99)	1	ほぼ水平	0.8	1.0	2.0	1.9	1.9	0.9×2.0	
⑪	8.97~9.00(8.98)	3	東→西	1.7	1.7	2.8	3.0	5.1	1.7×2.9	
⑫	8.96~8.99(8.98)	3	北東→西	1.2	1.3	2.8	2.9	3.8	1.3×2.9	
⑬	8.95~8.98	(3)	北→南	2.7	?	2.7以上	3.1以上	8.8以上	2.7×?	
⑭	8.92~8.96	(4)	ほぼ水平	4.1	?	2.5以上	2.6以上	11.3以上	4.1×?	
⑮	8.92~8.94	(2)	ほぼ水平	3.2	?	2.3以上	2.6以上	8.1以上	3.2×?	
⑯	8.90~8.92	(2)	ほぼ水平	3.9	?	2.1以上	2.3以上	8.4以上	3.9×?	
⑰	8.88~8.91	(3)	北東→南西	3.4	?	1.3以上	2.0以上	7.5以上	3.4×?	
⑱	8.99~9.01(9.00)	2	北→南	1.3	1.4	3.0	3.4	4.4	1.4×3.2	
⑲	8.96~9.01(9.00)	3	北東→南西	3.5	3.8	3.1	3.2	12.1	3.7×3.2	
⑳	8.97~8.99(8.98)	2	ほぼ水平	1.3	1.4	3.3	3.2	4.4	1.4×3.3	
㉑	8.95~8.98(8.97)	3	東→西	3.9	4.3	3.2	3.4	13.3	4.1×3.3	
㉒	8.93~8.94(8.94)	1	ほぼ水平	3.2	3.1	1.0	0.9	3.3	3.2×1.0	
㉓	8.92~8.93(8.92)	1	ほぼ水平	2.2	3.4	1.9	1.3	5.3	3.3×1.6	やや盛んだ方形
㉔	8.90~8.92(8.91)	2	ほぼ水平	3.3	3.4	2.2	2.0	7.1	3.4×2.1	
㉕	?	?	0.4以上	?	?	1.7以上	0.5以上	?	部分的に検出	
㉖	8.9~8.97(8.96)	3	北東→南	3.7	3.6	2.4	2.5	9.4	3.7×2.5	
㉗	8.93~8.94(8.93)	1	ほぼ水平	2.4	2.8	2.4	2.3	6.3	2.6×2.4	
㉘	8.92~8.94(8.92)	2	ほぼ水平	3.2	2.9	2.4	2.2	7.5	3.1×2.3	
㉙	8.92~8.91	(1)	ほぼ水平	1.0以上	0.5以上	?	2.5	2.2以上	?	2.5
㉚	9.00~9.02(9.00)	2	ほぼ水平	1.3	1.2	2.9	2.8	3.7	1.3×2.9	
㉛	9.00~9.02(9.01)	2	ほぼ水平	2.1	2.5	2.9	3.0	6.7	2.3×3.0	やや盛んだ方形
㉜	8.97~9.00(9.00)	3	ほぼ水平	2.0	2.3	2.8	2.9	6.5	2.2×2.9	
㉝	8.96~8.97(8.97)	1	ほぼ水平	2.7	3.2	2.7	2.7	8.4	3.0×2.7	やや盛んだ方形
㉞	8.95~8.97(8.96)	2	ほぼ水平	3.7	3.7	2.4	2.3	8.8	3.7×2.4	
㉟	8.94~8.96(8.95)	2	ほぼ水平	2.2	2.4	2.3	2.5	5.6	2.3×2.4	
㉟	8.93~8.95(8.95)	2	ほぼ水平	3.0	3.0	1.8	2.3	6.4	3.0×2.1	
㉟	8.94~8.97	(3)	北東→南西	1.4以上	1.1以上	?	1.9	2.7以上	?	1.9
㉟	9.02~9.04(9.03)	2	ほぼ水平	1.0	1.2	2.0	2.1	2.5	1.1×2.1	
㉟	9.02~9.01(9.02)	1	ほぼ水平	1.9	1.9	1.5	1.9	3.2	1.9×1.7	
㉟	9.01~9.02(9.02)	1	ほぼ水平	1.9	2.0	1.1	1.4	2.6	2.0×1.3	
㉟	8.97~8.99(8.98)	2	ほぼ水平	2.4	2.9	2.9	3.3	8.3	2.7×2.1	やや盛んだ方形
㉟	8.96~8.98(8.97)	2	ほぼ水平	2.6	2.5	2.9	2.8	7.5	2.6×2.9	
㉟	8.97~8.99(8.97)	2	ほぼ水平	1.5	1.6	2.7	2.9	4.6	1.6×2.8	
㉟	8.95~8.97(8.96)	2	ほぼ水平	0.9	0.8	2.3	2.6	2.2	0.9×2.5	
㉟	8.94~8.96(8.95)	2	ほぼ水平	2.9	3.5	2.8	2.6	8.5	3.2×2.7	やや盛んだ方形
㉟	8.94~8.96	(2)	北東→南西	2.5以上	1.6以上	?	2.8	5.9以上	?	2.8
㉟	9.04~9.03(9.04)	1	ほぼ水平	1.1	1.0	1.3	1.2	1.4	1.1×1.3	
㉟	9.04~9.03(9.03)	1	ほぼ水平	2.0	2.0	1.4	1.3	2.7	2.0×1.4	
㉟	8.96~8.99(8.98)	4	北→南	1.6	1.6	1.0	0.9	1.7	1.6×1.0	
㉟	9.03~9.04(9.04)	1	ほぼ水平	椎定 1.2	1.2	0.7	0.9	1.0	1.2×0.8	
㉟	8.98~9.02(9.01)	4	北→南	1.6	2.1	1.2	0.9	2.0	1.9×1.1	盛んだ方形
㉟	8.97~9.00(8.98)	3	北→南	4.1	3.9	1.8	1.3	5.8	4.0×1.6	
㉟	8.97~8.98(8.98)	1	ほぼ水平	2.4	2.6	1.2	1.3	3.5	2.5×1.3	盛んだ方形
㉟	8.97~8.98(8.97)	1	ほぼ水平	1.5	1.5	1.5	1.1	1.9	1.5×1.3	
㉟	8.96~8.97(8.97)	1	ほぼ水平	0.6	0.9	2.0	2.0	1.8	0.8×2.0	
㉟	8.94~8.95(8.95)	1	ほぼ水平	2.8	2.8	2.0	2.2	5.9	2.8×2.1	
㉟	8.92~8.95	(3)	南→北	3.2以上	2.4以上	?	2.9	8.4以上	?	2.9
㉟	9.00~9.02(9.01)	2	ほぼ水平	4.4	4.1	1.9	2.1	8.1	4.3×2.0	盛んだ方形
㉟	8.99~9.00(8.99)	1	ほぼ水平	3.2	3.3	0.7	2.1	4.6	3.3×1.4	盛んだ方形
㉟	8.96~8.98(8.97)	2	ほぼ水平	1.8	2.0	1.7	1.7	3.2	1.9×1.7	やや盛んだ方形
㉟	8.97~8.98(8.97)	1	ほぼ水平	1.4	1.6	1.8	1.8	2.8	1.5×1.8	やや盛んだ方形
㉟	8.96~8.97(8.96)	1	ほぼ水平	0.8	0.6	1.7	1.8	1.3	0.7×1.8	やや盛んだ方形
㉟	8.94~8.96(8.95)	2	ほぼ水平	2.9	2.6	2.4	2.0	6.2	2.8×2.2	やや盛んだ方形
㉟	8.92~8.97(8.95)	5	東→西	3.0	3.3	2.8	2.7	9.3	3.2×2.8	
㉟	8.98	?	?	0.6以上	?	?	1.4以上	0.62以上	?	部分的に検出
㉟	8.97~9.02(8.99)	5	北西→南東	7.9	8.3	3.4	2.2	16.1	8.1×2.8	盛んだ方形
㉟	8.96~8.99(8.98)	3	ほぼ水平	3.0	2.4	2.4	2.4	6.4	2.7×2.4	やや盛んだ方形
㉟	8.94~8.96(8.95)	2	ほぼ水平	4.4	5.4	2.5	2.5	12.2	4.9×2.5	やや盛んだ方形

表32 15層水田跡水田区画計測表(6)

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
⑩	8.96~8.98(8.97)	2	ほぼ水平	2.7	3.0	3.8	3.8	10.9	2.9×3.8	
⑪	8.93~8.97	4	北→南	2.6	1.0以上	?	3.8	7.5以上	2.6×3.8	
⑫	8.96~8.99(8.97)	3	ほぼ水平	8.0	8.1	2.2	3.1	20.7	8.1×2.7	直線大方形
⑬	8.95~8.99(8.97)	4	西→東	2.5	3.0	2.6	2.6	7.6	2.8×2.6	
⑭	8.91~8.97(8.94)	6	西→東	4.0	4.3	2.4	3.2	11.6	4.2×2.8	
⑮	8.90~8.95(8.94)	5	南→北	推定 5.8	5.6	3.4	推定 2.1	16.0	5.7×2.8	
⑯	8.94~8.97	(3)	?	2.1以上	?	?	3.8以上	3.7以上	?	部分的に検出

表33 15層水田跡水田区画計測表(7)

大区画Bでは南北畦畔は長く延びるものが多く、その中でもNo38・43が屈曲が少なく直線的に延びしかも直交する畦畔がこれらによって分断される場合が認められることからこれらを基準の畦畔と考え、南北に細長い3区画(B1~3)の中区画を想定した。規模は幅が8~15mで長さは不明である。なお、B1・2の区画内にはSD-14が走ってこれを分断しているが、この両側の畦畔は方向がやや乱れるもののつながりが認められるので、SD-14は中区画の境界とは考えず、中区画内を流れるものとして捉えている。

大区画G・Hでは東西畦畔に長く延びるものが多く認められ、その中でNo136・142・170・177が屈曲が少なく直線的に延びるので、これらと大畦畔No.5を基準の畦畔と考え、6区画(G1~3、H1~3)の中区画を想定した。これらのうちG2・3、H1・2の中区画は長さは不明であるが、共に幅10m前後の長方形を呈すると推定され、B1~3と同様の平面形である可能性がある。なお、SD15に隣接するG1は上記の1区画を設置する際に不整形な箇所を分離したような形で区画されている。

小区画の平面形は方形を基調としているが、SD14・15に近い区画の中には直線的なや三角形のものが認められる。特に大区画Aの南東部に位置する②・③は細長い溝状の区画であり、他とは形態的に大きく異なっている。すぐ南側に並列してさらに細長い溝状の窪みがあり、これは水口と考えて水田Naは付けなかったが、配列からすると②・③も水田区画ではなく、水口の機能を有するものである可能性もある。区画の大きさは最小か0.8×1.2m、最大が5.3×8.8mでかなりばらつきがあるが、大体短辺が1~3m、長辺が1~4mのものが大部分を占める(第68図)。なお、大区画Cの内部とその周辺、およびSD15の周辺に大きな区画が認められ、大区画Bの南部とGに小さい区画が集中している。

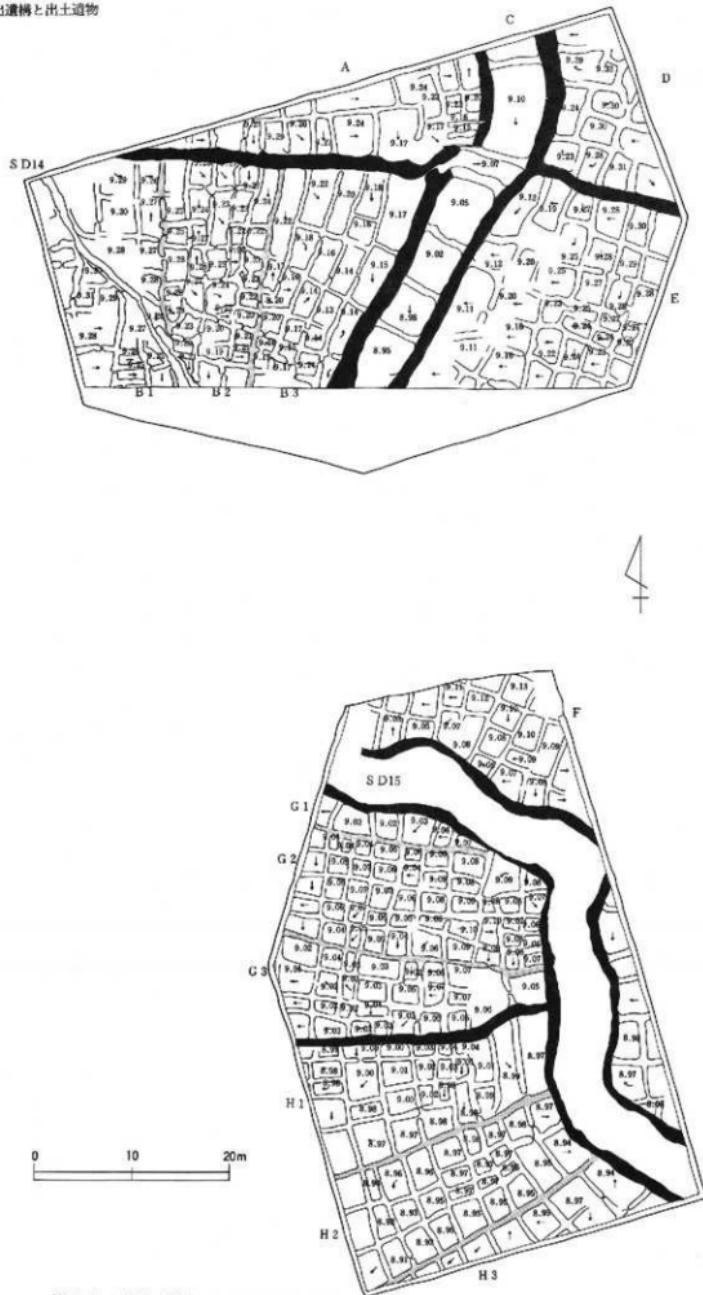
(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は北から南へ緩やかに傾斜している。IV・V区の西方からII区へかけては浅い谷が入り込んでおり、さらにこの谷の支谷のような形でごく浅い谷状の微地形がII区の南部から北西方向に向かって認められる。また、IV・V区の東側にも南方からのごく浅い谷が認められる他、V区の南部にも西方から入り込む谷状の地形があり、全体的に微妙な起伏が認められる。水田面の標高は8.88~9.33mで、勾配はI~III区で約7cm/10m、IV・V区で約4cm/10mである。

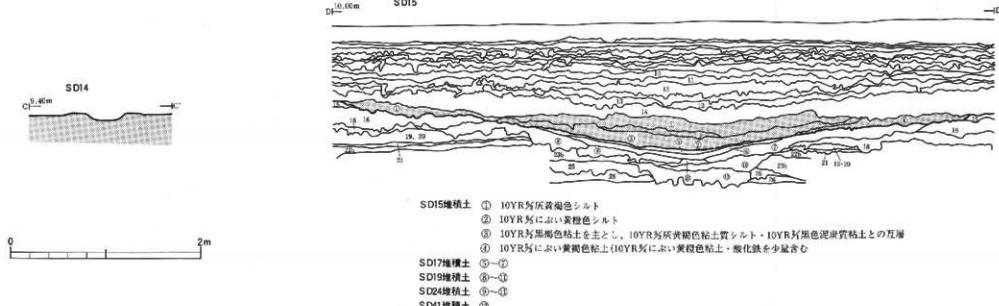
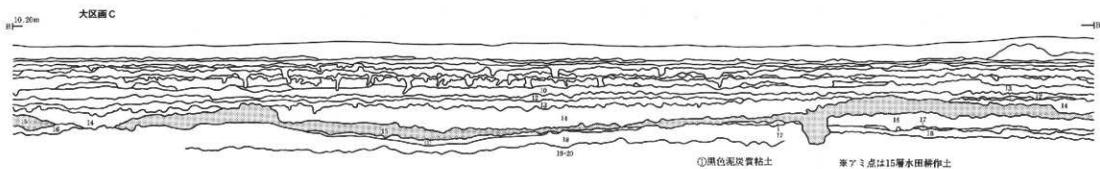
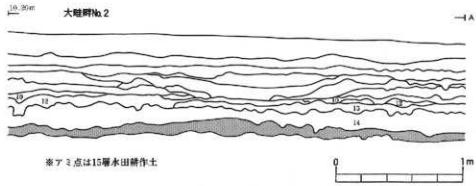
区画内の傾斜はほぼ全体的な傾斜と一致するが、約半数の区画が水田面に凹凸は認められるものの一定の傾斜は認められず、ほぼ水平になっている。また、区画内の比高差はNo112~118が7~15cmあるが、その他は1~10cmで、全体を検出できた270区画の平均値は約2.5cmとごくわずかである。

各大区画内において隣接する小区画間の比高差は0~9cmで、大畦畔をはさんだ小区画間の場合も、大区画Cに係わる区画を除けば同じ状況である。なお、この比高差の大区画ごとの平均値はAが3.3cm、Bが1.7cm、Cが3cm、Dが3.7cm、Eが2.2cm、Fが1.6cm、Gが1.3cm、Hが1.3cmで、A・C・Dがやや大きい。全体の平均値は1.6cmである。

なお、各小区画の水田面の傾斜方向はある程度用水の流れる方向を反映していると考えられるので、これと各水田面の平均標高を図に示し(第69図)、これによって用水の流れを推定してみた。



第69図 15層水田跡水田面の平均標高と傾斜



第70図 15層水田跡大畦畔(No.2)、大区画C、SD14-15断面図

I～III区を見ると、各大区画同士は大畦畔によってほぼ完全に他と切り離されているが、Aの南東部とBの北東部にCに通じる水口が設置されている（後述する）ように部分的につながっていて、A→C、B→Cに用水が流れたことが見てとれる。D・EとCとの関係については不明である。各大区画内の用水の流れは、A・C→Eについては大体地形に沿って流れていることが判る程度で詳細は不明であるが、Bについてはやや詳しく推定できた。BのSD14の西側では西方からSD14に向かって水田面が傾斜していることから、さらに西方から取水してSD14に排水したことが推定される。また、SD14の東側ではSD14から取水して東方と南方に流したと考えられるが、その流れは直線的ではなく、微地形に沿って曲折したものであったと推定される。

IV・V区を見ると、Fの南部は調査区が狭いので詳細は不明であるが、北部では大体南に向かって傾斜しているので、北方から供給された用水をSD15に排水したことが窺える。ただし、調査区内ではこれに係わる水口は検出できなかった。Gでは北西部に位置する区画⑩にSD15から取水し、ここを起点として南方と西方に配水したと考えられるが、取水のための水口は検出できなかった。Hでは、Hの中で最も標高が高い区画は⑩と⑪であるが、畦畔5にはこれらの区画に給水するための水口が確認されていない。またG3とH1の東端部は耕作土の厚さが他と比べて極端に薄かったことから、この付近は14層の堆積時に耕作土上部が流出している可能性もある。したがってG3とHに関しては東側のSD15から直接用水が供給されたことも考えられる。

(4) 水口

畦畔が途切れる部分が84箇所認められ、これらを水口とした。このうち55箇所が大区画Bに集中しているが、これが本来の状況を示すのか、畦畔の遺存状況の悪い部分までも水口と誤認してしまったのか、あるいは他の区画で存在した水口を確認できなかつたのか断定できないが、一応検出したままの数で捉えている。

大部分の水口は小畦畔に伴っているが、区画⑪・⑫・⑬の東辺に取りつく3箇所の水口のみは大畦畔No.3を切っており、このうち⑪と⑫を結ぶ水口と⑪と⑬を結ぶ水口は細長い溝状の形態を呈し、底面のレベルはそれ自体と⑬へ向かって低くなっている。他の水口は大体上端幅20～50cm、下端幅10～40cmで、底面のレベルは大部分が周囲の水田面とほぼ同じであるが、水田面よりも1～4cm程度低いものも若干認められる。これらの水口はすべての区画には認められず、一区画における数も一辺のみに認められるものから四辺すべてに認められるものまで様々で、中には⑤の西辺のように一辺に2箇所認められるものもある。また、その位置も区画の一辺のほぼ中央に位置するものとコーナーに近く位置するものとの両者が認められ、規格性は認められない。

(5) 溝跡

SD14（第66・70図）

I区に位置する。北西から南東方向に延び、途中でやや屈曲するが全体的には直線的である。断面形は緩やかな「U」字状を呈し、両岸に土手（小畦畔27・35）を伴うが、これらの土手は部分的に検出できたのみであった。検出した長さは約26mで、上端幅24～98cm、下端幅10～68cm、土手の上端からの深さは約7cmで、水田面からの深さは約5cmである。底面は比較的凹凸が少なく、底面のレベルは南側が低くなってしまい、調査区内における比高差は約10cm、勾配は4cm/10mである。堆積土は溝独自のものは認められず、水田を覆っている14層が入り込んでいた。溝の性格は、畦畔54が位置するような谷心線を通らずに、北西から南東方向に舌状に張り出した微高地部分を走っていること、また全体的に直線的であることなどから人為的に掘り込まれた水路で、給・排水の両方の機能を有していたと考えられる。

SD15（第67・70図）

IV区北西部からV区の南東部にかけて、蛇行しながら調査区を縦断している。断面形は緩やかな「U」字状を呈し、両岸に土手（大畦畔116・117）を伴う。検出した長さは約70mで、上端幅4.0～5.8m、下端幅0.45～1.1m、土手の上端からの深さは大体40～50cmで、水田面からの深さは約40cmである。底面は比較的平坦で、底面のレベルは

南側が低くなっている。調査区内における比高差は約20cm、勾配は約3cm/10mである。堆積土は4層に分かれるが、最下層には粘土とシルトが薄い互層になった水成堆積層が認められ、肩から壁際には15層の耕作土が流入していた。

この溝は25層段階から継続して使用されてきた水路の埋没途中のものであるが、断面観察では下層の古い堆積土を切るような状況が認められることから、15層水田の開田時あるいは経営期間中に再掘削・改修が行われたことが推定される。なお、機能としては給・排水用の両方が考えられる。

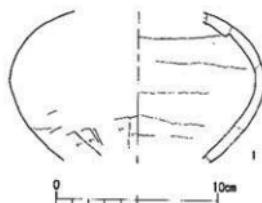
(6) 水田面の状況

区画⑩・⑪を中心とした大区画C内の水田面には長さ25cm前後、幅10cm前後で直上の14層が入り込んだ人の足跡が多數検出された(写真69・70)。一方、他の区画には全面に径10~20cm、深さ2~5cm前後で14層が入り込んだ円・楕円または不整形の窪みが無数に認められたが、これらは不規則に連続する場合が多く、明確に人の足跡と断定できるものは認められなかった。これらは足跡の形が崩れたもの、あるいは耕作痕等である可能性もあるが性格については断定できない。

なお、足跡が検出された区画は周囲よりも一段低い区画であるが、他の区画で検出された窪みが仮に足跡でないとすると、足跡が付いた時点では低い区画の水田面のみが柔らかく、他の水田面はやや乾燥して硬い状況であったと推定される。

3. 出土遺物

遺物は土師器および土師器と推定される破片が29点出土したが、接合した結果は27点となった。すべて非クロロ調整の土師器で、固化できたのは1点(第71図1、写真122)のみである。これは比較的小型の壺で大蛙群3の北端部から出土した破片が接合したものである。体部はやや偏平な球形を呈している。調整は外面がヘラケズリ後ナデ、内面はナデが施されているが外面上半部と内面は磨滅が激しいためや不明瞭である。なお、内面には積み上げ痕が明瞭に残っており、頸部に近い部分には積み上げ時の段が形成されている。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	基種	保存度	法線(cm)	色調	特	備
1	122	A-6、15層 土師器	壺	瓦	15.6	15.6	灰白色、外面ヘラケズリ→ナデ?	(磨滅のため不明瞭) 内面ナデ?	

第71図 15層水田跡出土遺物

(註1) この部分は25~22層段階まで継続する溝(SD34・30・22)が完全に埋没せずにごく浅い窪みとなって残存した部分である。

(註2) 検出した361区画のうち、調査面積が狭いため傾斜方向が不明な区画が30区画あるが、これを除いた331区画中、水山面がほぼ水平なものが177区画認められた。

(註3) 大区画Cは、前述したようにその立地の関係で周辺よりも低いため群群4・5を挟んで隣接するA・B・D・E内の小区画との比高差は5~19cmで、他の場合よりもやや大きい。

第14節 16層水田跡

16層上面では畦畔を確認できなかったが、層下部で擬似畦畔Bを確認したことと層相から水田耕作土と考えられるためこれを16層水田跡とした。時期は弥生時代後期～古墳時代前期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

畦畔は確認できなかったが、擬似畦畔Bと水路2条を検出した。

(2) 検出・遺存状況

擬似畦畔Bは耕作土を削り込んだ16層中で確認したが、IV区で部分的に確認できたのみで、遺存状態は悪い。畦畔を検出できなかったのは、上層の15層水田の耕作によって攪乱された結果と推定されるが、擬似畦畔Bが部分的にしか遺存しない理由については明らかにすることはできなかった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層16層で、灰黄褐色の粘土である。耕作土の厚さは3~36cmで一定せず、平均は15cm程度である。下面は凹凸が激しく、17層を広範囲に攪乱する場合が多い。下層への食い込みの一部は19層中にまで達する。

(4) 水田域

畦畔は一部で検出できたのみであるが、耕作土は調査区全面に認められるので、水田域も同様であると推定される。

2. 遺構の状況

(1) 擬似畦畔B

IV区SD17の北側で部分的に認められ、直下の自然堆積層(17層)が帶状に盛り上がっていた。擬似畦畔Bは3条認められ、「Y」字状に接続する。確認面における幅(上端幅)は約60~90cmでこれは、大体畦畔の幅に近似すると考えられる。なお、この場合は特に掘り込みをしなかったため高さ・下端幅については不明であるが、上端幅から^(註1)すると小畦畔に伴う可能性が高い。

(2) 水田区画

①~③まで確認できたのみで、しかも全体を検出できた区画がないため詳細については不明である。ただ、③については南側のSD17との関係から南北長が約1.5m程度と推定でき、小区画の水田であった可能性が考えられる。

No.	方 向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	高さ (cm)
1	N-65°-E	20.4以上	53~74(62)	?	?
2	N	9.6以上	83~96(89)	?	?
3	N-65°-W	27.8以上	58~66(62)	?	?

表34 16層水田跡擬似畦畔B計測表

No.	標 高 (m)	比高差(cm)	傾 斜 方 向	東 迂 (m)	西 迂 (m)	南 迂 (m)	北 迂 (m)	面積 (m ²)	推 定 横 幅 (m)	推 定 長 度 (m)	備 考
①	?	?	?	1.05以上	?	2.31以上	?	?	?	?	部分的に検出
②	?	?	?	?	1.21以上	2.61以上	?	?	?	?	部分的に検出
③	?	?	?	?	1.93以上	?	2.1以上	?	?	?	部分的に検出

表35 16層水田跡水田区画計測表

(3) 水田面の標高と傾斜

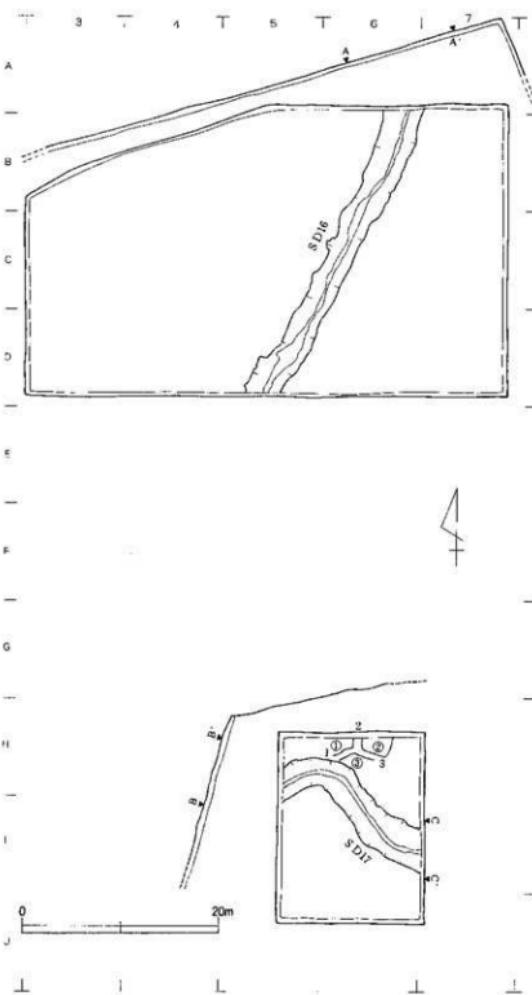
16層上面で遺構を検出できなかつたため標高的計測は行わなかつた。

このため詳細なデータはないが調査区周囲の断面から推定すると全体的な傾斜は北から南へ緩やかに傾斜し、勾配は約4cm/10mである。また検出した水田区画の標高や傾斜についても、擬似畦畔Bを検出する際に耕作土上部を除去したため測定することはできなかつた。

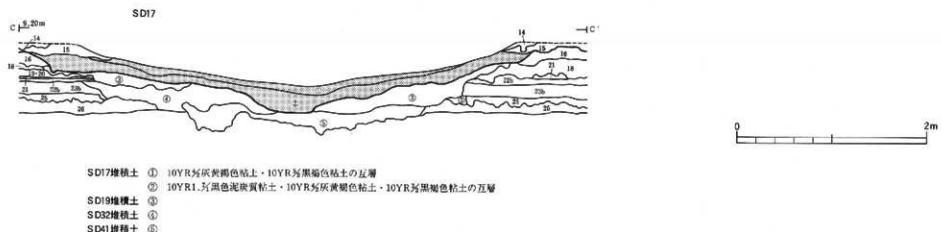
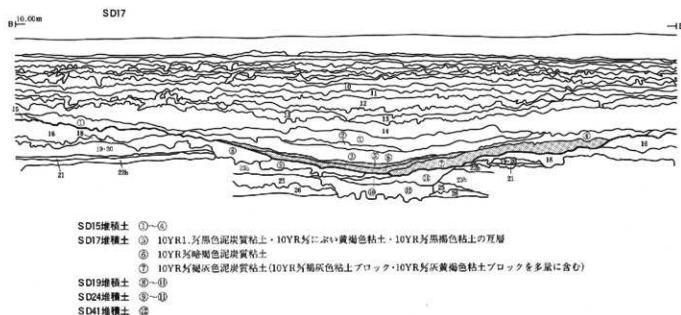
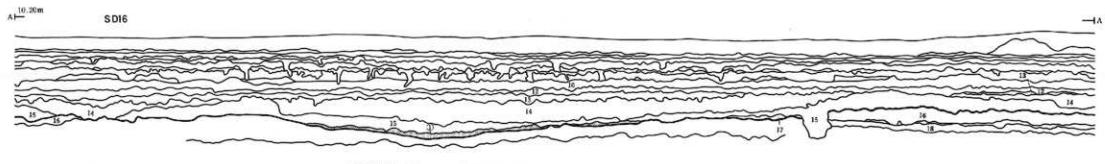
(4) 溝跡

SD16 (第72・73図)

II・III区に位置し、直線的に延びる。方向はN-22°Eである。検出した長さは約34mで、上端幅4.6~5.3m、下端幅0.6~1.2m、深さ26~34cmで、断面形はゆるやかな「V」字状を呈する。堆積土は上層が15層水田の耕作土となっているが、壁面下部から底面にかけては、黒色の泥炭質粘土が1~7cmの厚さで認められた。この黒色泥炭質粘土中には径2~3mm前後の多数の種子が含まれており、星川清親・庄司胸男両氏の鑑定によると、種子は、ヤノネグサ(タデ科)、ミチヤナギ(タデ科)、ホタルイ(カヤツリグサ科)、アキノウナギツカミ(タデ科)、アマコノシリヌグイ(タデ科)、イシミカラ(タデ科)の6種類(写真123-2~6)で、すべて湿地性の植物の種子であるとのことである。この溝は18層段階の水路(SD18)の埋没途中の窪みで、水路として利用されたと考えられる。ただし、15層水田跡の項で記述したように堆積土の黒色泥炭質粘土層が15~18層のどの段階に対応するのか判断できないが、この堆積土が本層に伴うとすれば、湿地性の植物の種子が多量に含まれていたことから、溝にはこれらの植物が繁茂していてほとんど水流は認められない状況であったと考えられる。



第72図 16層水田跡全体図



第73図 SD16・17断面図

SD17 (第72・73図)

IV区に位置し、蛇行しながら北西～南東方向に走る。調査区を縮小したため部分的な検出に留まっているが25層段階の水路 (SD41) の埋没過程の窪みである。上端幅2.7～4.0m、下端幅約40cm、深さ約50cmで、断面形は緩やかな「V」字状を呈する。底面のレベルは南西側がやや低いが、調査区の両端部における高低差は約4cmとごくわずかである。堆積土は2～3層に分層され、最下層に16層の流入土が認められる箇所もあるが、大部分は泥炭質粘土の細かい互層となっているので、水流はごく緩やかであったと推定される。なお、断面形が緩やかであることからすると、人為的な改変は行われていない可能性が高い。

(5) 水田面の状況

耕作土上面は15層水田の耕作によって荒れており、特に痕跡等は認められなかった。

3. 出土遺物

耕作土中から弥生土器、土師器等の破片23点と石器1点が出土したが、弥生土器の大部分は18層出土の破片と接合するかあるいは同一個体と考えられることからこれらは下層から巻き上げられた可能性が高い。16層に伴う可能性があるのは土師器壺1点、甕1点、石器1点のみであるが、これらも確実に本層に伴うとは断定できず、上下層からの混入の可能性も否定できない。このうち図化できたのは石器1点のみである。

(1) 石器

アメリカ式石鏃が1点出土した (第74図1、写真123-1)。両側の抉りは比較的はっきりした「U」字状で、基部は弧状を呈している。なお、側面のカーブに比較して先端部が急激に狭まっていることから、破損したものを造り直している可能性もある。



No.	写真回数	出土地点・層位	種類	直徑(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	備考
1	123-1	J-5, 16層	石器・石鏃	定形	2.65	1.35	0.45	後頭部鋒、直角約1g、アメリカ式石鏃	

第74図 16層水田跡出土遺物

(註1) 擬似畦畔Bは概して大畦畔直下に認められる場合が多いが、小畦畔下に認められることもある。

第15節 18層水田跡

18層上面では18層水田跡を検出した。時期は弥生時代後期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

大畦畔と小畦畔によって造られた多数の小区画と水路から構成されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は17層を削り込んでいく過程で確認した。17層は自然堆積層であるので17層が遺存する箇所では畦畔や耕作土の遺存状況は比較的良好であったが、大部分は16層水田の耕作土によって17・18層共に擾乱されている。I～III区では比較的多数の畦畔を検出できたが、一部のブランが不明瞭になる場合が多く、特にSD18の西側ではその傾向が顕著である。なお、IV・V区では畦畔を全く確認できなかった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層18層で、灰黄色の粘土である。厚さは1～28cmで一定せず、平均10cm程度である。下面は凹凸が激しいが、下層への食い込みは19層が比較的厚いため、大部分が19層中で止まっている。ただし、部分的に23b層にまで達する場合がある。

(4) 水田域

IV・V区では畦畔を確認できなかったが、耕作土は調査区全域に認められるので、水田域も同様に調査区全域に広がっていると推定される。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～47まで検出したが、このうちNo.23・24はSD18に伴う土手である。規模

No.	方 向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	高さ (cm)	備考
1	N-61°-W	21.5以上	72~183(133)	130~220(175)	1~5	大畦畔・脇畠
2	N S	0.4以上	33~64(47)	79~105(92)	1~2	部分的に検出
3	N-86°-E	2.4以上	104~146(116)	130~190(158)	1~3	部分的に検出
4	N-84°-W	1.0以上	114~115(115)	147~150(149)	1~4	部分的に検出
5	N-32°-W	3.4	44~80(57)	68~120(88)	1~3	
6	N-56°-E	2.9以上	28~68(51)	73~183(123)	3~4	
7	N-30°-W	1.4以上	?	?	1~3	段差・部分的
8	N-46°-E	4.9以上	25~37(32)	53~70(61)	1~6	
9	E W	3.4以上	36~50(42)	73~95(80)	2~4	
10	N-87°-E	4.9以上	28~72(47)	68~117(87)	3~7	
11	N-55°-W	3.0以上	28~43(34)	55~80(68)	2~6	
12	N-50°-W	3.9以上	78~97(87)	113~122(119)	2~6	
13	N-83°-E	2.0以上	109~138(125)	149~177(158)	2~7	部分的に検出
14	N-33°-E	3.5以上	44~63(53)	93~102(96)	1~6	
15	N-27°-E	3.6	28~57(42)	71~89(80)	3~7	
16	N-6°-W	3.4以上	24~36(29)	58~76(64)	1~7	
17	N S	2.3以上	20~79(54)	63~116(93)	1~3	
18	N-86°-W	3.3以上	6~74(35)	64~105(75)	1~8	
19	N-46°-W	0.9以上	52~57(54)	92~105(100)	5~6	部分的に検出
20	N-62°-E	0.6以上	35~38(37)	65~73(69)	3	部分的に検出
21	N S	8.2以上	5~44(22)	43~81(64)	1~9	
22	N-83°-W	1.9以上	29~64(49)	86~94(90)	3~4	部分的に検出
23	N-16°-E	6.8以上	36~75(59)	287~346(307)	3~31	SD18の土手
24	N-26°-E	33.2以上	95~233(152)	203~450(268)	3~28	SD18の土手
25	N-35°-E	22.4以上	3~450(150)	44~496(194)	1~16	
26	N-45°-E	12.5以上	20~124(64)	62~170(108)	2~7	
27	N-54°-E	2.3	35~48(42)	69~80(73)	1~3	
28	N-29°-E	3.9	48~88(67)	105~133(116)	1~6	
29	N-41°-E	13.7以上	16~48(30)	53~79(62)	1~6	
30	N-42°-E	2.6以上	41~130(86)	88~174(120)	4~6	
31	N-50°-E	10.3以上	14~50(32)	56~93(76)	2~6	
32	N-74°-W	4.3以上	20~55(29)	60~121(78)	2~10	
33	N-55°-W	1.6以上	?	?	2~10	段差
34	N-46°-W	7.2以上	32~78(52)	68~116(95)	1~10	
35	N-55°-W	2.7	4~42(24)	50~88(71)	6~10	
36	N-45°-W	10.9以上	18~39(31)	32~88(64)	1~6	
37	N-46°-W	2.5	29~42(29)	66~95(76)	5~8	
38	N-46°-W	4.0	12~56(34)	44~92(72)	2~8	
39	N-53°-W	5.0	53~216(90)	71~262(144)	1~8	
40	N-72°-W	1.3	43~66(54)	85~100(94)	4~7	
41	N-87°-W	1.8	24~65(41)	71~106(87)	3~5	
42	N-48°-W	6.8以上	25~94(50)	69~150(96)	2~5	
43	N-54°-W	1.9	90~100(84)	96~138(123)	3~7	
44	N-34°-W	2.2以上	30~46(36)	82~102(89)	3~6	
45	N-56°-W	0.8以上	28~36(32)	64~72(67)	4~5	部分的に検出
46	N-51°-W	3.3以上	27~56(41)	64~92(76)	3~6	
47	N-38°-W	4.1以上	15~42(30)	60~82(67)	1~5	

表36 18層水田跡畦畔計測表

は下端幅の平均値が61～307cmと差があることから、大畦畔と小畦畔に区別できると考えられる。大畦畔として捉えられるのはNo.1で、他の畦畔に比べて比較的長くのびる。その他は、幅の広い畦畔でも長さが短いものや部分的に幅広であるのみがあるので、これらは一応大畦畔からは除外して考えたい。

大畦畔No.1はSD18とほぼ直交して北西方向にのび、途中で西方に屈曲するものである。地形との関係をみると南側が下層の水路（SD22）の影響でやや低くなってしまっており、この部分と北側部分とを画するような位置にある。^(註1)

小畦畔は、基本的にSD18と直交または平行する位置に造られているが、SD18の西侧ではかなり不規則な配置となっている。

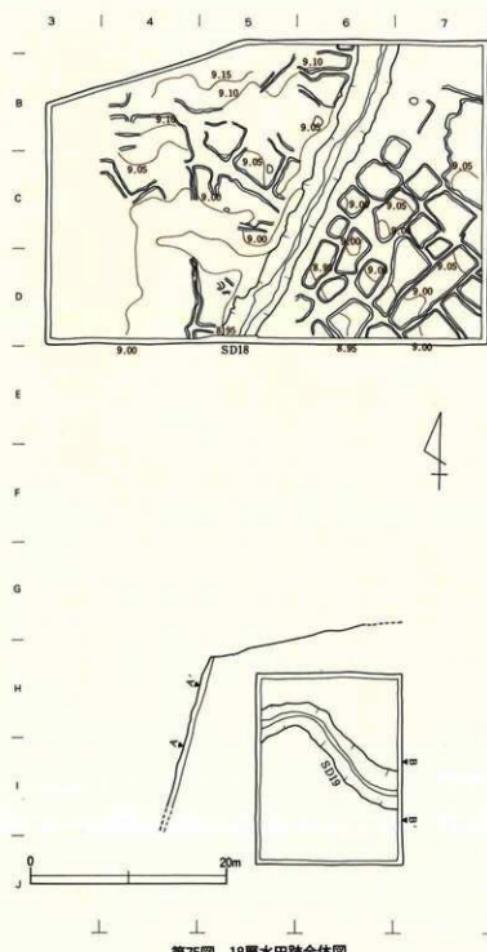
No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考	
①	9.12～?	?	?	1.63以上	?	1.51以上	?	?	?	部分的に検出	
②	9.10～?	?	?	1.5	?	0.93以上	1.51以上	?	1.5×?	部分的に検出	
③	?	?	?	?	?	?	?	?	?	詳細不明	
④	9.10～9.20	(10)	北→南	2.05以上	?	2.95以上	?	?	?	分岐される可能性あり	
⑤	?～9.11	?	?	?	1.5	?	3.8	?	1.5×?		
⑥	9.01～?	?	?	?	4.0	?	?	?	4.0×?		
⑦	?	?	?	3.43以上	?	?	?	?	?		
⑧	?	?	?	15.61以上	?	?	3.0以上	?	?	詳細不明	
⑨	9.13～?	?	?	0.43以上	0.33以上	1.4	?	?	?	2×1.4 部分的に検出	
⑩	9.10～9.13(9.12)	3	北→南	1.2	推定 1.2	5.6	推定 5.4	推定 7.5	1.2×5.5		
⑪	9.04～9.10(9.05)	6	西→東	3.2	推定 1.0	推定 6.0	推定 5.8	推定 10.1	2.1×5.9 混んだ方形		
⑫	9.03～9.11(9.06)	8	西→東	4.8	推定 3.7	推定 7.5	推定 6.6	推定 28.1	4.3×7.1		
⑬	9.06～9.10(9.06)	4	北→南	3.5	2.0	2.5	4.0	9.3	2.8×3.3 混んだ方形		
⑭	9.03～9.08(9.05)	5	東→西	3.6	推定 3.6	4.0	推定 3.3	推定 14.2	3.6×3.7		
⑮	9.02～9.08(9.05)	6	北西→南東	推定 3.9	3.7	推定 1.2	推定 1.2	推定 4.6	3.8×1.2		
⑯	7～9.02	?	?	2.53以上	3.33以上	?	1.7	?	?	?	
⑰	8.99～9.02(9.01)	3	北→南	推定 1.1	推定 3.5	推定 5.3	推定 6.9	推定 17.6	2.3×6.1 混んだ方形		
⑲	8.92～?	?	?	?	?	3.0以上	?	?	?	詳細不明	
⑳	8.96～8.98(8.97)	2	ほぼ水平	—	3.2	推定 2.4	推定 3.0	推定 2.5	—	三角形?	
㉑	8.96～8.99(8.97)	3	西→東	推定 3.5	推定 2.2	推定 2.6	推定 2.8	推定 6.1	2.9×2.3		
㉒	8.96～?	?	?	?	0.63以上	?	1.83以上	?	?	部分的に検出	
㉓	?	?	?	?	?	4.33以上	?	?	?	詳細不明	
㉔	?～9.11	?	?	推定 3.7	?	?	0.83以上	?	3.7×?	詳細不明	
㉕	8.89～9.02(9.00)	3	ほぼ水平	2.3	2.2	1.7	1.8	4.3	2.3×1.8		
㉖	9.01～9.03(9.02)	2	ほぼ水平	3.0	2.5	3.3	3.4	9.9	2.8×3.4		
㉗	9.00～9.04(9.02)	4	ほぼ水平	2.1	2.2	2.0	1.7	4.4	2.2×1.9		
㉘	8.96～9.06(8.98)	4	東→南西	1.8	1.7	1.1	1.0	2.2	1.8×1.1		
㉙	8.93～8.97(8.96)	4	東北→南西	4.9	4.8	1.0	1.6	7.2	4.9×1.3		
㉚	8.92～8.94(8.93)	2	東北→南西	2.4	推定 2.2	推定 1.3	1.4	推定 3.6	2.3×1.4		
㉛	9.01～9.09	(8)	?	9.2	4.13以上	1.93以上	?	?	?	詳細不明	
㉜	9.07～9.08(9.06)	1	ほぼ水平	2.6	2.7	2.1	2.2	5.8	2.7×2.2		
㉝	8.96～9.04(9.03)	6	東北→南西	5.0	3.4	3.0	2.7	12.2	4.2×2.9 混んだ方形		
㉞	9.00～9.04(9.02)	4	北→南	3.0	4.5	1.9	2.2	7.3	3.8×2.1 混んだ方形		
㉟	8.95～8.98(8.97)	3	東北→南西	2.9	3.0	1.2	0.9	3.8	3.0×1.1 植内形に近い		
㉟	9.05～9.07(9.06)	2	東北→南西	推定 3.0	2.3	推定 4.5	3.8	推定 11.6	2.7×4.2		
㉟	9.02～9.03(9.02)	1	ほぼ水平	2.5	1.9	2.2	2.2	4.9	2.2×2.2		
㉟	9.02～9.03(9.03)	1	ほぼ水平	2.1	1.6	1.2	1.3	2.5	1.9×1.3		
㉟	8.98～9.01(9.00)	3	ほぼ水平	6.7	7.3	1.5	3.5	14.5	7.0×2.5 混んだ方形		
㉟	8.97～9.02(8.99)	5	北東→南西	3.5	2.9	1.8	1.6	5.6	3.2×1.7 やや混んだ方形		
㉟	8.93～8.98(8.95)	5	北東→南西	推定 3.8	3.2	推定 3.0	2.1	推定 10.0	3.5×2.6		
㉟	8.92	?	?	?	0.6	1.0以上	2.13以上	2.03以上	?	部分的に検出	
㉟	9.06～9.11	(5)	?	?	0.63以上	2.53以上	?	?	?	部分的に検出	
㉟	8.98～9.05(9.02)	8	北東→南西	10.2	10.3	1.4	2.5	24.5	10.3×2.0		
㉟	8.98～9.01	(3)	?	?	1.9以上	1.0以上	2.13以上	3.23以上	?	部分的に検出	
㉟	9.03	?	?	?	?	?	?	?	?	部分的に検出	
㉟	8.99～9.01	(2)	?	?	1.8	2.9以上	1.2以上	4.1以上	1.8×?		
㉟	9.00～9.02	(2)	?	?	1.5	4.43以上	3.63以上	9.23以上	1.5×?		
㉟	8.96～9.03	(7)	?	?	?	3.9	0.61以上	3.83以上	8.7以上	3.9×?	

表37 18層水田跡水田区面計測表

(2) 水田区画

水田区画は①～⑩まで認められたが、区画の一部分しか検出できなかったものや、畦畔が部分的にしか遺存しないために全体像が不明なものが約半数ある。なお、大畦畔No.1等によって大区画が造られている可能性もあるが、区画が明確ではないので、可能性を指摘するに留めておきたい。

各区画の平面形は方形を基調としているが、かなり亞んだものも認められる。特にSD18の西側の区画(①～②)は東側に比べて不整形なものが大部分である。大きさはばらつきがあるが大体短辺1～3m、長辺2～4mの区画が最も多い(第76図)。



第75図 18層水田跡全体図

(3) 水田面の標高と傾斜

IV・V区では畦畔を確認できなかったため、標高の測定を行わなかった。このためIV・V区の地形は不明である。I～III区ではII区の南方から谷が入り込み、さらにその支谷のような凹みがII区の南部から北西に向かって認められる。

I～III区の水田面の標高は8.92～9.20mで、勾配は8～11cm/10mである。各水田面の傾斜は地形の傾きと一致するが、傾斜がほとんどなくほぼ水平な区画も8区画認められた。

区画内の比高差は1～8cmで、平均すると約4cmである。なお④は調査区内の部分だけで10cmの比高差があるが、この区画は細分される可能性があるので、10cm以下になると考えられる。

隣接する各区画間の比高差は0～8cmで、平均は3cmである。また、大畦畔をはさんだ区画間の比高差も4～6cmで、ほぼ同様な状況といえる。

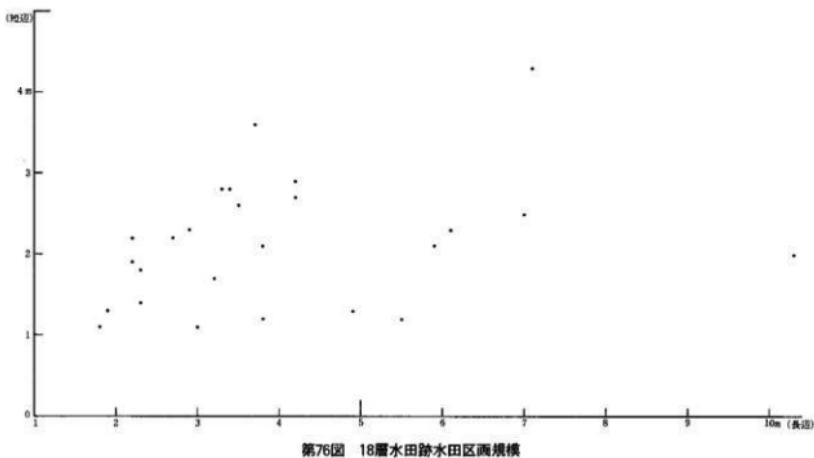
(4) 水口

数ヶ所で畦畔が途切れる箇所が認められたが、16層によって搅乱された部分と区別がつかないために水口とは断定できなかった。

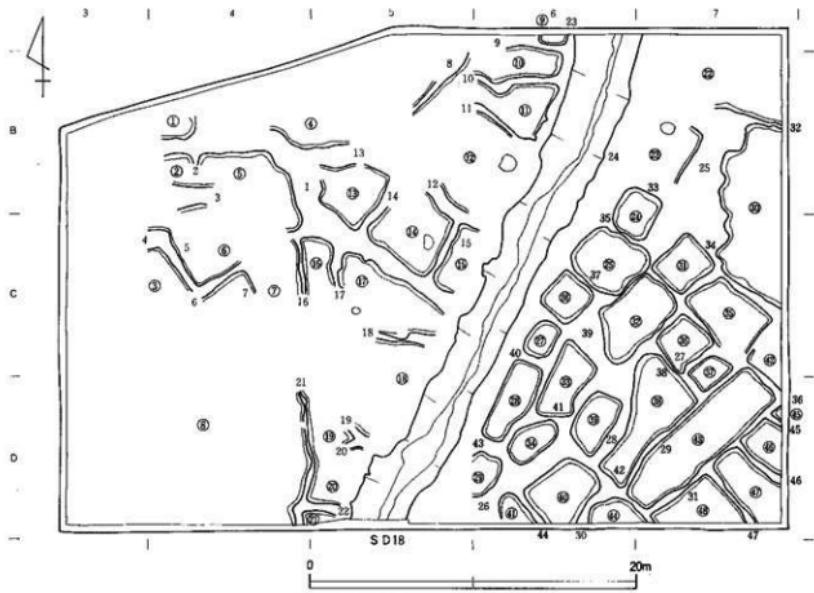
(5) 溝跡

SD18(第77図)

II・III区に位置して直線的に延び両岸に土手(畦畔23・24)を伴っている。方向はN-22°-Eである。検出した長さは約34mで、上端幅2.45～3.9m、下端幅



第76図 18層水田跡水田区面規模



第77図 18層水田跡I～III区全体図

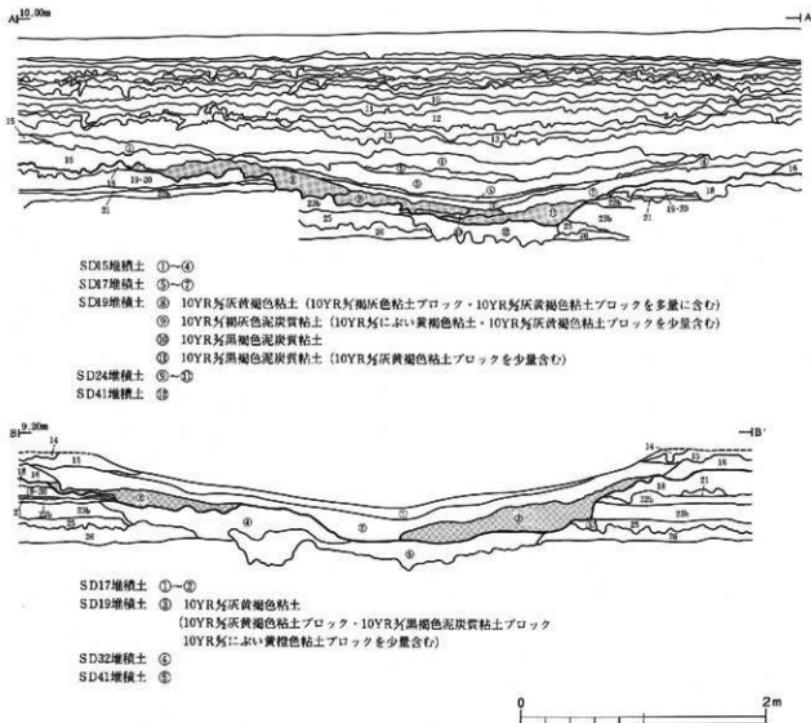
0.15~1.85mで、断面形は緩やかな「V」字形を呈する。深さは土手の上面からは約30cm、水田面からは約25cmで、底面は比較的凹凸が少ない。底面のレベルは南側に向って低くなっているが、調査区内における高低差は20cm、勾配は約6cm/10mである。堆積土は泥炭質粘土層であるが、15層水田跡及び16層水田跡 SD16 の項目で記述したように、この堆積土が15~18層の内どの段階のものか明確ではない。なお、溝の性格は排水路と推定される。

SD19 (第75・78回)

IV区に位置し、蛇行しながら北西~南東方向に走る。上端幅2.4~3.8m、下端幅約40cm、深さ約30~40cm、断面形は緩やかな「U」字形を呈する。底面は比較的凹凸が少ない。底面のレベルは南東側が低くなっているが、調査区の両端部における比高差は約3cmとごくわずかである。堆積土は直下の SD24 のものと明確には区別できないが、(表2)一応基本層18層と考えられる流入土のみがこの溝の堆積土と推定される。この溝は25層段階の水路 (SD41) の埋没途中の窪みであるが、底面や壁面に凹凸や段差が認められることから改修・再掘削がなされている可能性が高い。

(6) 水田面の状況

16層による搅乱が及ばない部分は比較的平坦で、耕作痕や足跡等は検出できなかった。



第78図 SD19断面図

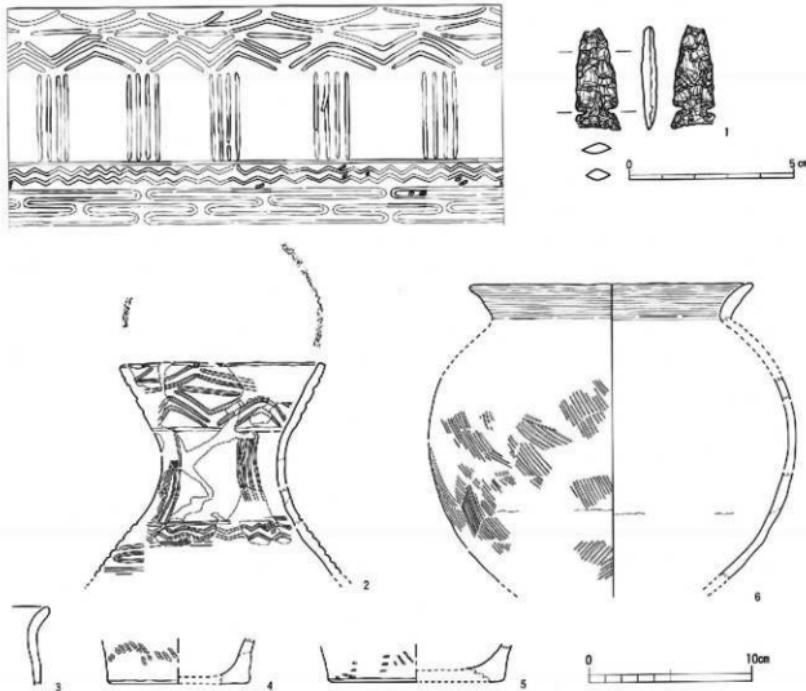
3. 出土遺物

耕作土中から弥生土器・土師器の破片315点と石器1点が出土したが、接合した結果大部分の破片は同一個体と判明した。土器の固体数は弥生土器4点と土師器3点と推定される。下層との関係からすると遺物が下層から巻き上げられた可能性は少ないと考えられるが、上層から混入した可能性もあるので、遺構に伴う遺物を限定することはできなかった。

(1) 弥生土器

弥生土器は4点全部が復元できた(第79図2~5、写真124-1~8)。

2の壺はV区K-6グリッドから集中して出土した破片が接合したもので、一部は16層中から出土した破片も接



No.	写真図版	出土地點・層位	種別	直形壺	足径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特 徴	表
1	1-6、18層	石器・土器	一足丸壺	残存3.1	残存1.3	0.45		珠貝真岩、重試61.5g、アメリカ式石器	
<hr/>									
<hr/>									
<hr/>									
No.	写真図版	出土地點・層位	種別	直形壺	直存度	法 上 下 底 壁 高	直 底 壁 高	色 調	特 徴
2	124-1	K-6、16・18層	弥生土器	壺	上半分	(12.6)	?	?	に赤い黄褐色
3	124-2	K-6、18層	弥生土器	壺	小片	?	?	?	に赤い褐色
4	124-6-7-6	K-6、18層	弥生土器	壺か甕	底部汚	?	(8.8)	?	灰褐色
5	124-9-4-5	L-5、18層	弥生土器	壺か甕	底部汚	?	(10.8)	?	に赤い黄褐色
6	124-10	I-6、16・18層	土師器	甕	(17.4)	?	?	?	に赤い黄褐色

第79図 18層水田跡出土遺物

合している。器形は頸部が緩やかに屈曲し、外面の頸部と口縁部との境には軽い段が認められる。口縁部は直線的に外傾し、口唇部は面取りされて平坦面が造り出されている。

口縁部には弧文や山形文などで構成された不整な重菱形文のような文様が沈線で描かれており、口唇部にはL R 繩文が施された後に刺突が施されている。刺突は口唇部が部分的にしか遺存していないので一ヶ所確認できたのみであるが、丁度口縁部に描かれた不整な重菱形文の頂部に位置している。頸部は上端が軽い段、下端が横方向の1本の沈線で画されており、1本単位で描かれた4本1組の綫文の沈線が計5組認められた。体部上半部には頸部との境の横方向の沈線の下に1本単位で2重の山形文が描かれている。その下の文様は明確ではないが、わずかに遺存する箇所から推定すると変形工字文のようになると考えられる。なお、体部上半部にはわずかに斜行あるいは横走するL R 繩文が部分的に認められるが、大部分は磨り消されたものと推定される。

3は壺の口縁部で、磨滅のために文様は不明である。

4・5は壺あるいは壺の底部で、4はL R 繩文、5はL撚糸文が横走または斜走している。底面は4は木葉痕が認められるが、5は磨滅のために不明である。

(2) 土師器

土師器のうち図化できたのは1点のみである。

6(写真124-10)はSD19南側から集中して出土した破片が結合したものである。破片は16層中から出土したものも接合したが、破片数は18層のものが圧倒的に多い。したがってこの土器のみの出土状況から見て、一応本層の遺物としておくが、他の遺物との関係からすると16層から混入した可能性が高いと考えられる。口縁部と体部とは接合しなかったが、同一固体と思われるため図上復元した。単口縁の壺で、頸部が「く」字状に屈曲し、体部は球形を呈する。調整は口縁部がヨコナデ、体部外面がハケ目、体部内面にナデが施されている。

SD19南側の耕作土中からアメリカ式石鏃が1点出土した(第79図1、写真124-9)。比較的全長が長く、両側の抉りが深い「U」字状を呈している。基部は一部が欠損しているため明瞭ではないが、ごく緩やかな弧状を呈すると推定される。

(註1) 自然堆積層19・20層を挟んだ下層の22層水田跡も似たような地形であるが、この22層水田跡で検出された大畦畔に伴うと考えられる擬似畦畔Bも畦畔1とほぼ同じ方向・場所に設けられている。

(註2) 第79図上図の⑥層と下図の③層がほぼ確実にSD19の堆積土と推定されるが、上図の⑨～⑩層については22層水田跡のSD24の堆積土である可能性もある。

(註3) 直下の19・20層は比較的厚い泥炭質粘土層で、18層の食い込みも大部分がこの中に止まっている。調査では19・20層からは遺物が全く出土しなかったので、これらの層から巻き上げられた遺物は皆無に近いと考えられる。ただ、最密には18層の一部は23b層に連しているので、22a・23a層(水田耕作土)から巻き上げられている可能性も否定はできない。

第16節 22層水田跡

22層は22a層・22b層に細分される。水田跡は22a層で検出し、22b層の分布域は非耕作域となっている。時期は弥生時代後期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

耕作域と非耕作域とに分かれている。畦畔は検出できなかったが、畦畔の痕跡1条と溝跡5条を検出した。溝跡のうち1条は水田域を画する施設である可能性がある。

(2) 検出・遺存状況

I～IV区では直上を泥炭質粘土層や粘土層(19～21層)が覆っているため、層上面は比較的良好に遺存していたが、畦畔は検出できなかった。畦畔の痕跡は22a層を削り込む過程で確認している。V区は層の遺存状態が悪く、特に南北部では直上の21層の搅乱によってほとんど遺存しない。

(3) 耕作土

耕作土は基本層22a層で、22b層(泥炭質粘土層)を搅拌して形成された灰黄褐色の粘土である。厚さは2～17cmで、平均はI～III区が約12cm、V区が約5cmである。下面は凹凸があるがそれほど激しくはない。ただ下層への食い込みは母材である22b層を完全に搅拌して、その下の23a層または23b層中にまで達している。このため22b層は22a層下には遺存せず、22a層の分布域外にのみ広がっている。

(4) 水田域

水田域は耕作土である22a層が分布する範囲で、I～III区では大体SD22とSD23に挟まれた北側とSD20の東側、及びV区である。それ以外の箇所は22b層が遺存しており、非耕作域となっている。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

層上面で畦畔は検出できなかったが、I・II区で畦畔の痕跡を検出した。これは22a層下部において22b・23b層のブロックがあまり分解されず帯状に連続していたものである。この状況は自然堆積層の盛り上がりである擬似畦畔Bと類似しているが、この場合は直下に溝状の掘り込み(SD21)を伴っていることから、擬似畦畔Bとは区別して考えたい。方向はほぼSD22に平行し、SD23に直交する。掘り込みをしなかったため高さや下端幅等は不明であるが、上端幅が広いことからすると大畦畔の痕跡である可能性が高い。なお、V区では直下で23層水田跡の畦畔が確認されているが、この畦畔は22a層による搅乱をあまり受けていないことから、22層水田跡の畦畔が23層水田跡と同じ場所に造られていた可能性もある(第85・87図)。

No.	方 向	長さ (m)	上堆積 (cm)	下堆積 (m)	高さ (cm)	備 考
1	N-62°-W	22.9以上	43-91(64)	?	?	大畦畔の痕跡?

表38 22層水田跡畦畔計測表

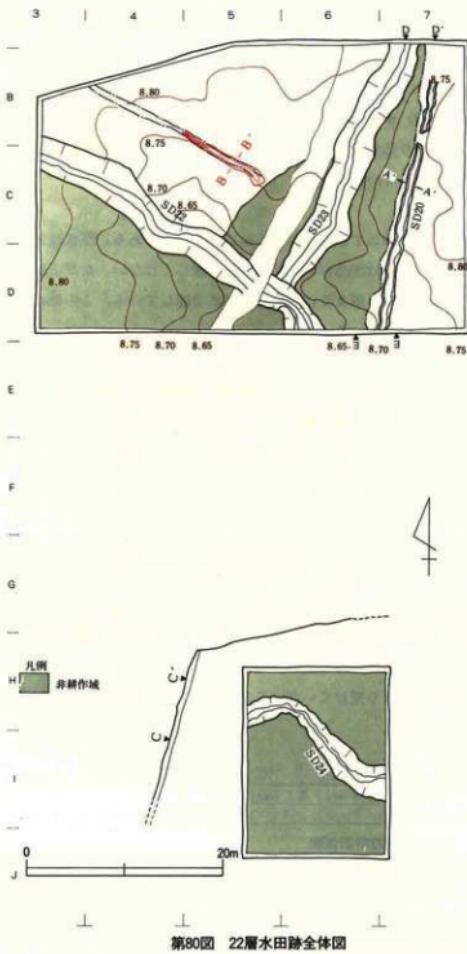
No.	標 高 (m)	比高差 (m)	傾 斜 方 向	東 迂 (m)	西 迂 (m)	南 迂 (m)	北 迂 (m)	面積 (m ²)	推定規模 (m)	備 考
①	8.78～8.83	(5)	北→南	16.0以上	?	22.6以上	?	?	?	東側が非耕作域
②	8.65～8.83	(18)	北西→南東	6.5	?	21.1以上	23.0以上	?	6.5×?	東・南側が非耕作域
③	8.70～8.82	(12)	東→西	?	29.1以上	?	?	?	?	西側が非耕作域

表39 22層水田跡水田区画計測表

(2) 水田区画

水田区画は①～③まで3区画認められた。全体を検出できた区画はなく、区画①の東辺は18層水田跡のSD18によって切られている。各区画の平面形は方形を基調すると考えられる。規模は区画②の東辺が3.5mと判明しているが、その他は20m以上と推定されるのみで詳細は不明である。ただ、上層の18層水田跡や下層の24・25層水田跡では一辺1～4mの小区画となっていることや、本層で検出できたのが大畦畔と考えられる痕跡のみであったことなどから、本層で検出できた区画が最終区画であるとは断定できず、本来は小区画の水田であった可能性がある。

(3) 水田面の標高と傾斜



(3) 水田面の標高と傾斜

I～III区では南側から谷が入り込んでいたために南側中央部が最も低く、周辺に向って高くなる。耕作域は低い場所を避けるように広がっており、水田面の標高は8.65～8.83m、勾配は約8cm/10mで、勾配については非耕作域もほぼ同じである。各区画内の傾斜は全体的な地形と一致する。区画内の比高差や各区画間の比高差についても全体を検出できた区画がないため不明である。なお、IV・V区画については標高を計測しなかったために詳細は不明である。

(4) 溝跡

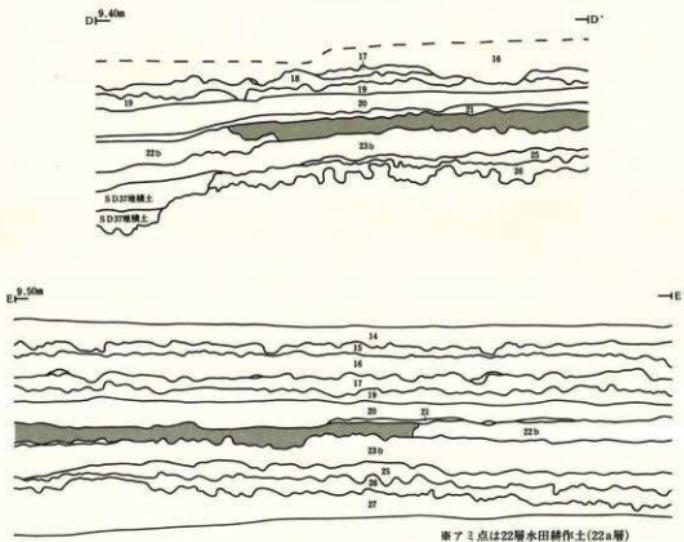
溝跡はSD20～24まで検出した。SD20・21は水田に伴うものであるが、その他のは時期および機能面において確実に水田に係わるとは断定できない。

SD20（第81・83図）

III区に位置し、プランは22a層下部～23b層上面で確認した。途中一箇所途切れる部分があるが、本来は一本の溝であったと考えられる。方向はN-12°-Eである。底面は比較的起伏があるが、全体的な底面のレベルは地形同様に南側に向かって下がっている。溝自体の堆積土は認められず、22a層が落ち込んでいる。位置的には本層水田跡の区画③の西辺を画るように区画の内側に沿っている。溝の脇に畦畔は確認できなかったが、V区の23層水田跡では非耕作域との境に畦畔と溝が検出されているので、SD20に沿って畦畔が存在した可能性もある。



第81図 22層水田跡I～III区全体図



第82図 22層水田跡耕作域・非耕作域断面図

SD21(第81・83図、写真75)

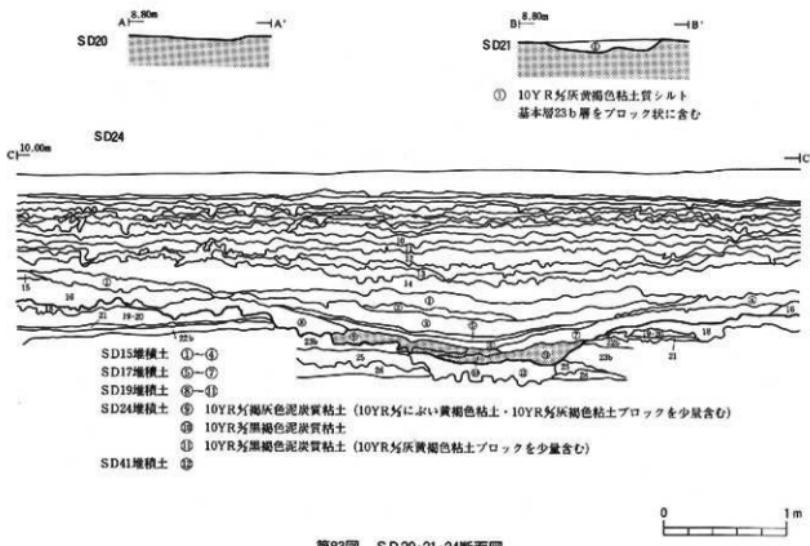
II区で検出した畦畔の直下に位置し、プランは直下の23b層上面で確認した。平面形は西端が先細りになる。断面形は緩やかな「U」字状を呈し、底面はほぼ平坦である。堆積土は直上の畦畔を形成するやや分解された基本層があり込んでおり、溝自体の堆積土は認められなかった。また、底面から細い枝状の自然木が数点出土している。溝の性格は不明であるが、畦畔の直下に位置することから、掘り込まれた直後には埋め戻されたと考えられる。なお、樹木は畦畔の沈下防止のために埋め込まれた可能性もある。

SD22(第81図)

22b層上面の検出であるが、西半部の北側は耕作域になっているため、この部分は22a層上面で検出した。畦畔の南側に約7m離れてほぼ平行して走る規模の大きな溝である。断面形は緩やかな「U」字形を呈する。底面は起伏があるが、全体的な底面のレベルは周囲の地形同様に南東に向かって徐々に低くなっている。調査区内における高低差は約13cmである。溝自体の堆積土は認められず、上層20・21層がそのまま落ち込んでいる。この溝は25段階の水路(SD34)の埋没途中の窪みで、断面形が緩やかであることから人工的な改修はなされていないと考えられる。また、水成堆積層が全く認められないことから、22段階では恒常的な水路としての機能は失っていたと推定される。

No	検出長(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)
SD20	26.2	44~128	25~90	1~4
SD21	9.2	72~120	16~52	6~9
SD22	34.0	244~417	32~80	16~36
SD23	27.5	220~450	38~95	11~23
SD24	17.3	140~359	13~55	21~33

表40 22層検出溝跡計測表



第83図 SD20-21-24断面図

SD23 (第81図)

II・III区の22b層上面で検出し、SD22に直交するように接続する。断面形は緩やかな「U」字形を呈し、底面はやや起伏がある。底面のレベルは周囲の地形同様南に向かって低くなるが、その勾配は周囲よりも緩やかで、南北両端のレベル差はわずかに3cm前後、勾配は1cm/10mである。堆積土はSD22と同様に上層の20・21層が落ち込んでいるだけで、性格についてもSD22と同様と考えられる。

SD24 (第83図)

IV区に位置し、25段階階の水路 (SD41) の埋没途中の水路である。断面形は緩やかな「U」字形を呈し、底面は比較的起伏がある。18層水田跡 SD19の項で述べたように、この溝に対応する堆積土は確定できないが、SD19の下部層 (第78・83図⑨～⑪層) がこの溝の堆積土である可能性がある。これらは主に粘土ブロックが混じった泥炭質粘土層である。

(5) 水田面の状況

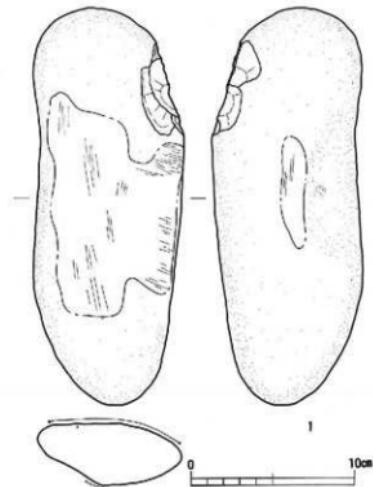
I～III区の水田面は比較的平坦であるが、V区は直上の21層による擾乱を受けているために水田面は荒れた状況であった。なお、両地区ともに足跡等の痕跡は検出されなかつた。

3. 出土遺物

遺物は石器が1点出土したのみである。

(1) 石器

砾石器が1点、SD23と区画②との間 (C-6グリッド) の非耕作域上面 (22b層上面) から出土した (第84図1、写真125)。偏平で細長い穂で、比較的平坦な面に広い磨面、やや丸味を帯びた面には狭長な磨面が認められる。磨面は平滑でやや光沢を帶びており、細かい擦痕が認められる。なお、側面には一箇所敲打痕が認められる。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	遺存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴	備考
1	125	C-6, 22b層上面	砾石器	完形	24.5	8.8	3.8	石英安山岩、2面に擦痕、側面に敲打痕、重量1364g	

第84図 22層水田跡出土遺物

(註1) 21層は自然堆積層と考えられるが、V区においてのみ水田耕作土の可能性がある。

第17節 23層水田跡

23層は23a層、23b層に細分される。水田跡は23a層で検出し、23b層の分布域は非耕作域となっている。時期は弥生時代後期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

耕作域と非耕作域に分かれており、耕作域では「T」字状に交わる大畦畔2条を検出した。その他に溝跡を9条検出したが、1条は水田域を画するものである。

(2) 検出・遺存状況

I～III区では、直上の22層水田跡の耕作域（22a層分布域）にあたる箇所は22a層の擾乱を受けており、畦畔は確認できなかったが、23b層上面で溝跡を確認した。一方、V区も同様に22a層の擾乱を受けているため遺存状態はあまり良好ではなかったが、大畦畔2条と溝跡1条を検出できた。なお、畦畔は22a層を除去する過程で確認し、溝跡は23a・23b層上面で確認している。

(3) 耕作土

耕作土は基本層23a層で、23b層（泥炭質粘土層）を搅拌して形成された黒褐色の泥炭質粘土である。厚さは1～8cmで、平均約4cmである。下面は凹凸があるがそれほど激しくなく、下層への食い込みは母材層である23b層の上半部を搅拌する程度に留まっている。したがって23b層は23a層下と23a層の分布域外に認められる。

(4) 水田域

水田域は耕作土である23a層が分布する範囲でIII区東部とV区の南西部に認められた。III区東部における水田域は上層の22層水田跡の水田域とほぼ重なるが、西側が2～3mほど狭く、北側はSD29で画されている。なお南側はSD25で画されているように見えるが、調査区外にも耕作域が広がっている可能性もある。ただIV区は非耕作域であるので南側にはそれほど広がらないと推定される。V区では調査区北部を斜めに横ぎる畦畔1を境にして北側が非耕作域、南側が耕作域となっている。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

V区で「T」字状に直交する2本の畦畔（No.1・2）を検出した。No.1は耕作域と非耕作域とを画し、No.2は耕作域内を区画する畦畔である。このうちNo.1は畦畔の上面と北側の非耕作域上面とのレベルがほとんど同じであるために実際には盛り上がりはほとんど認められず、北側にSD33があるために見かけ上の畦畔となっている状況で、

No.	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-53°-W	17.9以上	43-122(90)	80-168(106)	2-7	大畦畔、水田域を画する
2	N-34°-E	9.8以上	28-56(41)	80-107(92)	3-7	大畦畔

表41 23層水田跡畦畔計測表

No.	標 高 (m)	比高差(cm)	傾 斜 方 向	東辺(m)	西辺(m)	南 辺(m)	北 辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m ²)	備 考
①	8.62-8.74	(12)	北東→南西	?	25.0以上	2.5以上	2.4以上	?	25.0× ?	大区画、さらに細分？
②	7.44-7.53	(9)	北東→南西	10.1以上	?	?	16.6以上	?	?	大区画、さらに細分？
③	7.46-7.48	(2)	?	?	9.4以上	?	2.1以上	?	?	大区画、さらに細分？

表42 23層水田跡水田区画計測表

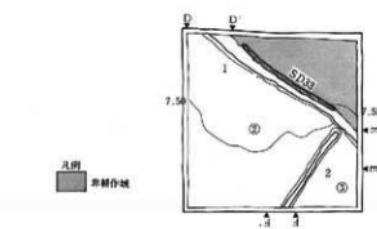
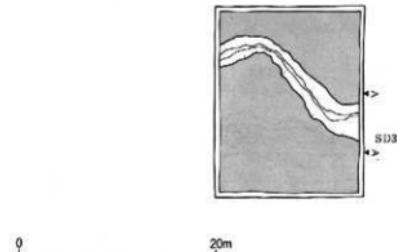
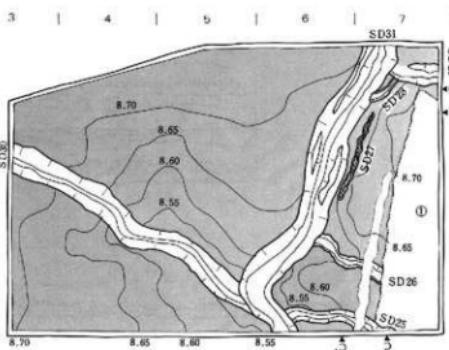
南側の水田面との境の段が検出されただけであるが、これは直上の22a層によって搅乱された結果と推定される。No.1・2の幅はほぼ同じであるがNo.1の方がわずかに大きい。これらは、他に比較対象の畦畔がないため大・小畦畔の区別がつかないが、近接する時期の24・25層の畦畔と比較すると大畦畔であると考えられる。これらは基本的に耕作土を盛り上げて造られているが、非耕作域に接するNo.1はこれに沿ったSD33を掘削した際に23b層も同時に盛り上げている可能性もある。なお、畦畔下には断面観察では自然堆積層(23b層)の盛り上がり(擬似畦畔B)が認められた(第86図、写真82)が、平面的には擬似畦畔Bの上面には耕作土(23a層)が入り込んだ凹凸が認められた。

(2) 水田区画

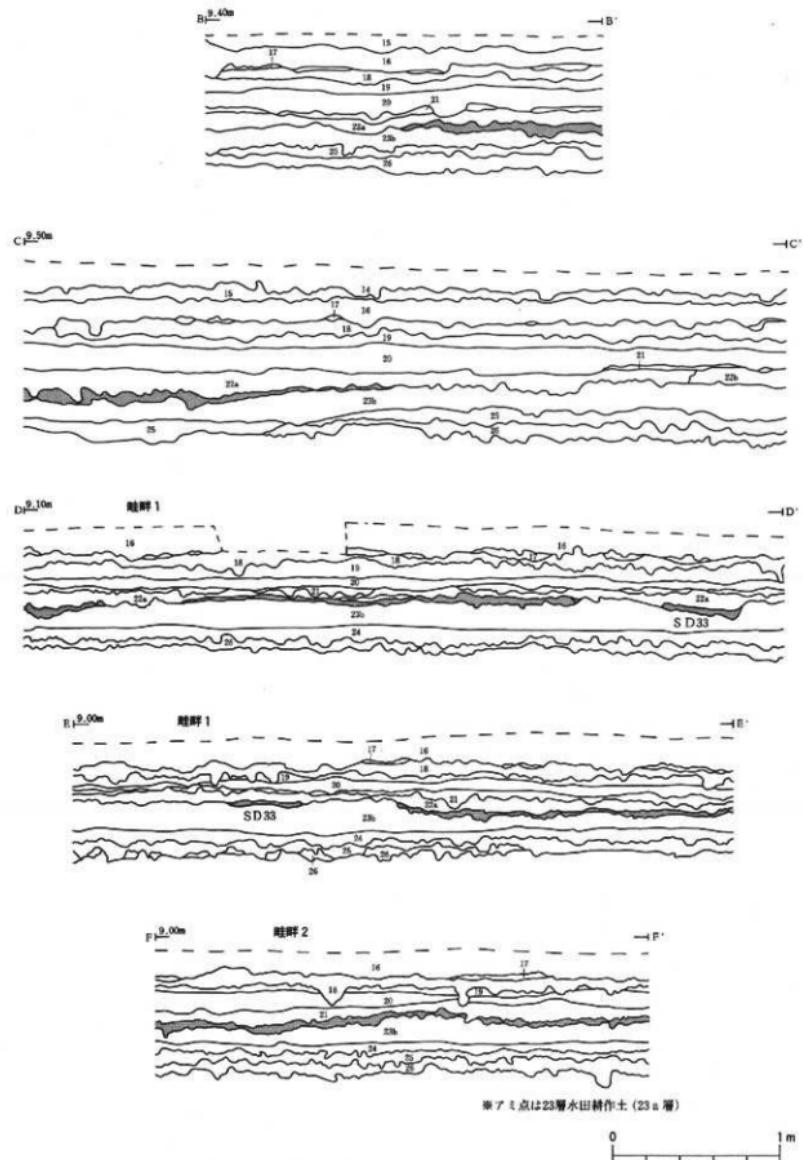
水田区画は①～③まで認められたが、全体を検出できた区画はない。III区について畦畔が検出されなかったため、耕作域全部を便宜的に①とした。区画の平面形は方形を基調としていると推定され、規模は検出面積が最も広い②を基準とすると一辺18m以上と考えられる。ただ、検出できた区画は大畦畔のみによって造られており、小畦畔は検出されていないことや、上層の18層・下層の24・25層などは小畦畔によって小区画が造られていることなどから、本層で検出された区画が最終区画であるとは断定できず、本来は小区画水田であった可能性がある。

(3) 水田面の標高と傾斜

I～III区では南側から北方向に向かって谷が入り込んでおり、調査区の周辺部が高くなっている。IV・V区は部分的な調査で、しかもIV区の非耕作域はレベルを計測しなかったため全体的な地形は不明である。I～III区における水田面の標高は8.62～8.74



第85図 23層水田跡全体図



第86図 23層水田跡耕作域・非耕作域、畦畔1・2断面図

mで、勾配は水田面・非耕作面共に8~14cm/10mである。V区の水田面の標高は7.44~7.53mで、勾配は水田面・非耕作面共に約7cm/10mである。

区内の比高差や各区画間の比高差については全体を検出できた区画がないため不明であるが、区画②の調査区内における比高差は9cmあるので区内の比高差はそれ以上あると考えられる。なお、III区では水田面と非耕作域上面はほぼ同じレベルで連続しているが、V区では畦畔1をはさんで水田面の方が約5cm低くなっている。これは開田時あるいは水田が機能していた期間中に本来の傾斜面をより水平に近く造り替えた結果とも考えられるが、水田面は上層の21~22a層によって搅乱されている可能性があるので、断定はできない。

(4) 溝跡

溝跡はSD25~33まで9条検出したが、確実に23層水田に伴うものはSD33のみである。その他のSD25~32は、直下の25層水田跡に伴う水路の埋設途中の凹みであるが、水性堆積層が全く認められないことから、恒常的な水路として機能していたとは考えにくい。したがってこれらは水田と同時期ではあるが、水田に係わるものとは断定できない。

SD25 (第85図)

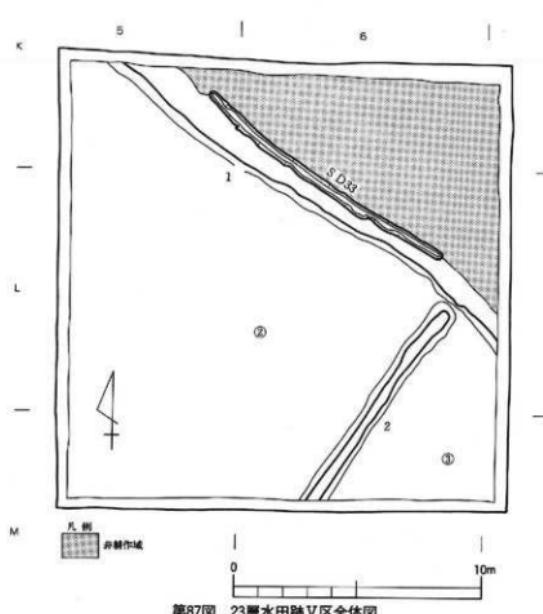
III区南端部の23b層上面で確認したが、東半部の北側は耕作域になっているのでこの部分の肩は23a層上面の確認である。ほぼ東西に走り、西端はSD31に接続するが、一部が22層水田跡のSD20によって切られている。断面形は緩やかな「U」字状を呈する。底面はやや凹凸があるが、全体的な底面のレベルは西側に向かって徐々に低くなっている。溝自体の堆積土ではなく、直上の22a・22b層がそのまま落ち込んでいる。

SD26 (第85図)

III区南部の23b層上面で確認した。北西~南東方向に蛇行しながら走り北西部はSD31に接続し、一部が22層水田跡のSD20によって切られている。東側の耕作域では確認できなかったので、東側は23層水田の耕作によって破壊されたと推定される。断面形は緩やかな「U」字状を呈し、底面はやや凹凸があるが、全体的には北西方向に向かって徐々に低くなっている。溝自体の堆積土ではなく、直上の22b層がそのまま落ち込んでいる。

SD27 (第85図)

III区の23b層上面で確認した。SD31の東側にこれと平行して走る。断面形は「U」字状を呈し、底面はやや凹凸



第87図 23層水田跡V区全体図

があるが、全体的には南に向かって徐々に低くなっている。堆積土はSD26と同様である。

SD28（第85図）

III区北部の23b層上面で確認し、SD29と31を繋ぐ形で北東～南西方向に延びる。断面形は緩やかな「U」字状を呈しており、底面は凹凸が少なく、底面のレベルは南西に向かって徐々に低くなっている。堆積土はSD26と同様である。

SD29（第85図）

III区北東部の23b層上面で確認したが、東半部の南側は耕作域となっており、この部分の肩は23a層上面で確認している。断面形は「U」字状を呈しており、底面はわずかに凹凸があるが、ほぼ平坦である。堆積土はSD25と同様に22a・22b層がそのまま落ち込んでいる。

SD30（第85図）

I・II区の23b層上面で確認した。北西～南東方向にほぼ直線的に延びる規模の大きな溝で、南東端はSD31に接続する。断面形は緩やかな「U」字状を呈しており、底面は凹凸がほとんど認められない。底面のレベルは南東に向かって徐々に低くなっている、両端部における比高差は約9cmである。堆積土はSD26～28と同様に直上の22b層が落ち込んでいるのみで、溝自体の堆積土は認められなかった。

SD31（第85図）

II・III区の23b層上面で確認した。やや蛇行しているが、SD30と直交するように延びる。断面形は緩やかな「U」字状を呈しており、底面は多少の起伏がある。全体的な底面のレベルは南に向かって徐々に低くなっている、両端部における高低差は約11cmである。堆積土はSD30と同様である。

SD32（第85・88図）

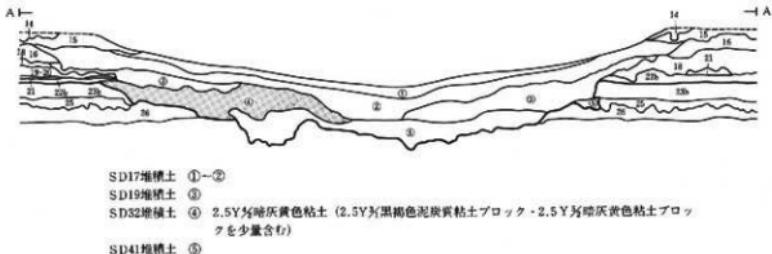
IV区23b層上面で確認した規模の大きな溝で、断面形は緩やかな「U」字状を呈し、底面は比較的の起伏がある。底面のレベルの両端部における高低差は約20cmである。堆積土は北側の壁下部から底面にかけて部分的に認められ、壁の崩落土と推定される。

SD33（第85～87図、写真83・84）

V区の畦畔1の北辺に接しており、南側の耕作域（23a層）と北側の非耕作域（23b層）とを画する位置にある。なお、平面では両端が切れる形となっているが、断面観察では畦畔1の北側に沿って延びることが判明している（第86図）。断面形は緩やかな

No.	縦長(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	深さ(cm)
SD25	11.1	104～150	31～69	2～5
SD26	7.7	72～150	18～82	2～4
SD27	9.5	32～58	6～29	1～5
SD28	3.4	56～92	24～54	2～8
SD29	4.7	195～224	48～73	7～13
SD30	26.1	208～325	36～75	6～22
SD31	31.5	310～420	31～203	7～29
SD32	17.0	145～302	15～83	31～33
SD33	11.7	29～50	6～27	2～4

表43 23層検出溝跡計測表



「U」字状を呈し、底面は比較的起伏があるが、全体的なレベルはほぼ水平である。堆積土は23a層で、これは畦畔1の盛り土が流入したものと推定される。なお、溝の性格は畦畔1の構築の際に土盛りのための土を取った痕跡とも考えられるが、あるいは地形が南に向かって傾斜していることからすると、北側の非耕作域から流入する水の排水路としての機能も考えられる。

(5) 水田面の状況

耕作域となっている場所はすべて直上の22層水田の耕作域内であるために耕作による搅乱を受けている。このため足跡等の痕跡は認められなかった。

3. 出土遺物

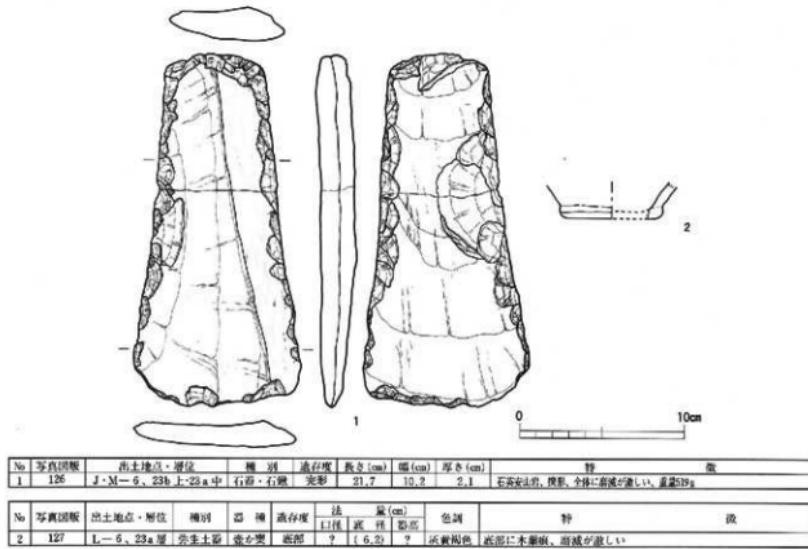
23a層中および23b層上面から弥生土器1点、石器（石鋸）1点が出土したのみである。弥生土器は上層からの混入の可能性もあるが、石器については出土状況から水田に伴うものと考えられる。

(1) 弥生土器

V区、SD33の北側の非耕作域（23b層）上面から出土した（第89図2、写真127）。底部から体部下端にかけての破片で、内外面共に磨滅が激しい。底部には木葉痕が認められる。

(2) 石器

打製の石鋸で、中央からやや基部寄りの箇所で2つに割れており、それぞれ別な地点から出土した（第89図1、写真126）。基部側はIV区南壁際の非耕作域上面、刃部側はV区畦畔2の盛り土の中からの出土である。全体は揆形で、側刃部がやや内側に湾曲した形態である。表面は全体的に磨滅が激しいが、特に破断部付近から基部にかけての側刃部の摩耗が著しい。



第89図 23層水田跡出土遺物

第18節 24層水田跡

24層上面では24層水田跡を検出した。時期は弥生時代中期～後期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

「T」字状に交わる大畦畔2条によって大区画が造られ、その中を小畦畔によって分割している。

(2) 検出・遺存状況

水田跡はV区でのみ確認している。水田跡を覆っている層は23層水田跡の耕作土23a層と母材層である23b層で、畦畔はこれらを除去する過程で確認した。畦畔や耕作土の遺存状態は23a層下でも23b層下でもあまりよくなく、比較的良好に遺存していたのは大畦畔のみであった。しかし、大畦畔の南東部ではプランがやや不明確であったため、この部分では検出に失敗している。小畦畔はプランが不明確になる箇所があり、全体を確認することはできなかった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層24層で、暗灰黄色の泥炭質粘土である。厚さは2~18cmで、平均は約7cmである。下面是凹凸が激しい。下層への食い込みはV区の北部では26層中にまで及ぶが、他の箇所では25層中で止まっている。なお、大畦畔下部には灰黃褐色粘土と黒色泥炭質粘土との互層が擬似畦畔として認められており、主にこれが本層水田耕作土の母材層であったと考えられる。

(4) 水田域

水田域は耕作土(24層)が分布するV区のみである。I~IV区では24層は認められず、23a・23b層の下は直接25層となっており、V区で部分的に認められた24層の母材層も認められなかった。この母材層の本来の分布範囲は限定できないが、I~IV区の23b層最下部がこれに相当する可能性もある。水田域はV区付近からさらに南方に広がっていたと推定される。

No	方 向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備 考
1	N-66°-W	8.7以上	?	30~46(37)	?	痕跡のみ確認
2	N-32°-E	6.8以上	?	30~54(42)	?	痕跡のみ確認
3	N-51°-W	17.7以上	56~125(93)	100~152(125)	1~5	大畦畔
4	N-57°-E	4.7以上	108~140(128)	148~177(164)	1~2	大畦畔、痕跡か?
5	N-52°-W	8.3以上	?	30~46(37)	?	痕跡のみ確認
擬1	N-51°-W	20.8以上	72~112(92)	?	?	疑似畦畔B
擬2	N-23°-E	2.3以上	94~117(102)	?	?	疑似畦畔B

表44 24層水田跡畦畔計測表

No	標 高 (m)	比高差(cm)	傾 斜 方 向	東辺(m)	西 辺(m)	南 辺(m)	北 辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備 考
①	8.41~8.44	(3)	?	?	?	5.5以上	?	?	?	部分的に検出
②	8.40~8.44	(4)	?	?	?	2.7以上	?	?	?	
③	8.34~8.41	(7)	北東→南西	8.1	?	8.0以上	5.7以上	?	8.1×?	
④	8.34~8.44	(10)	北→南	?	8.2	12.0以上	2.5以上	?	8.2×?	
⑤	8.31~8.36	(5)	北東→南西	推定 5.1	?	9.2以上	15.9以上	?	5.1×?	
⑥	8.27~8.33	(5)	?	?	?	?	8.3以上	?	?	
⑦	8.29	?	?	?	1.8以上	?	2.8以上	?	?	部分的に検出

表45 24層水田跡水田区画計測表

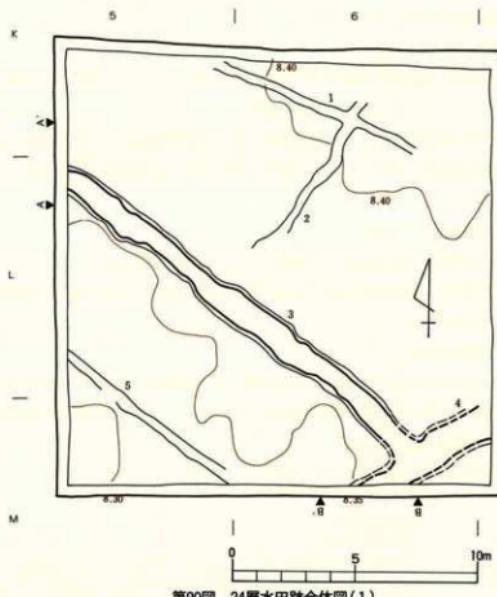
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

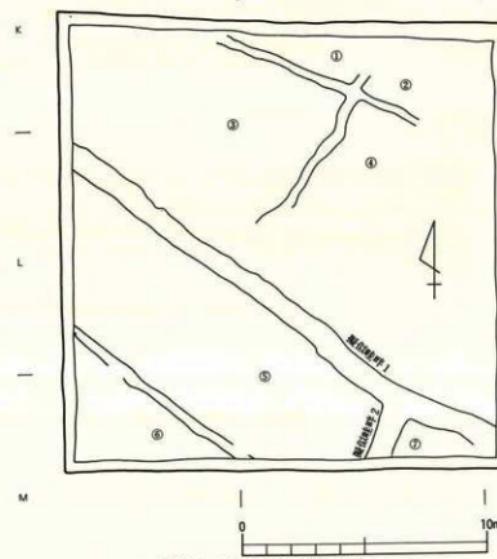
No.1～5まで検出したが、このうち3・4は大畦畔で、下端幅が他の畦畔の3～4倍ある。当初の平面調査では3の東端部と4はプランがやや不明確であったが（第90図点線部分）、一応畦畔3が4によってさえぎられる形で検出できた（第90図、写真85）。しかし畦畔3・4を除去したところ、ほぼ水田面と同じレベルで、前述したような自然堆積層が帶状に遺存した（図11）擬似畦畔Bを確認したが、このプランは当初確認したプランとは異なり、畦畔3は調査区南東コーナーにまで延び、これの南側に別の畦畔が取り付く形となっていた（第91図、写真86）。両者のプランが異なる理由としては畦畔の造り替えが行われたことも考えられるが、その場合は擬似畦畔のうち新たに水田区画内となった部分は耕作によって攪乱されるはずであるが、そのような状況は認められなかった。したがって、このことと、畦畔の確認時においてこの部分のプランが他の部分に比べて不明確であったことを考慮すると、畦畔3の東端部と4は水田面の微細な高まりを畦畔と誤認したもので、本来は擬似畦畔Bのように接していた可能性が高い。

小畦畔は1・2・5の3条確認しているが遺存状態が悪く、畦畔の最下部の痕跡を確認できたのみであった。上端幅は40cm前後で、すべて同規模である。

なお、畦畔の配列は等高線に対



第90図 24層水田跡全体図(1)



第91図 24層水田跡全体図(2)

して直交または平行している。

(2) 水田区画

水田区画は7区画認められたが、畦群の項で述べたように大畦群3の東端部と4は調査時に誤認した可能性が高いため、一応この部分に関しては擬似畦群によって確認された区画に置き換えて考えたい。区画の平面形は方形を基調としていると考えられる。規模は③・④の南北長が約8m、⑥の南北長が約5mあるが、他は不明である。なお、区画の方法は大畦群によって大区画を設けた後、小畦群によって細分したと考えられるが、大区画については不明な点が多い。

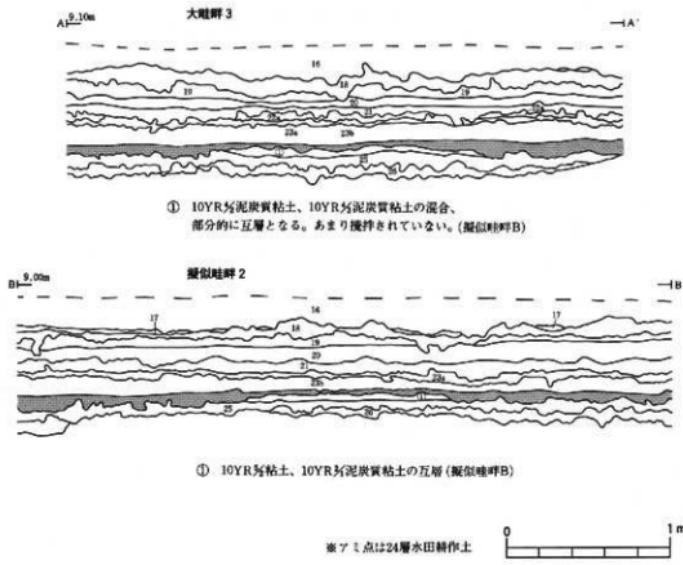
(3) 水田面の標高と傾斜

V区の全体的な地形は北東から南西へ向かって緩やかに傾斜しており、水田面も同様である。水田面の標高は8.27~8.44mで、勾配は約7cm/10mである。区画内および各区画間の比高差については全体を検出できた区画がないため不明である。

(4) 水田面の状況

22層水田の耕作域の直下に位置する箇所では22a層による擾拌を受けており、水田面は荒れた状況であった。一方、22b層下にあたる箇所は比較的平坦であったが、どちらの箇所でも耕作痕等は確認できなかった。

なお、遺物は皆無であった。



第92図 24層水田跡大畦群3・擬似畦群2断面図

(註1) 普通擬似畦群Bは直下の自然堆積層の帯状の盛り上がりとして検出されるが、この場合は自然堆積層が薄かったために水田区画に相当する部分が完全に擾拌され、その結果畦群下の部分だけが帯状に遺存したと考えられる。

第19節 25層水田跡

25層上面では25層水田跡を検出した。時期は弥生時代中期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

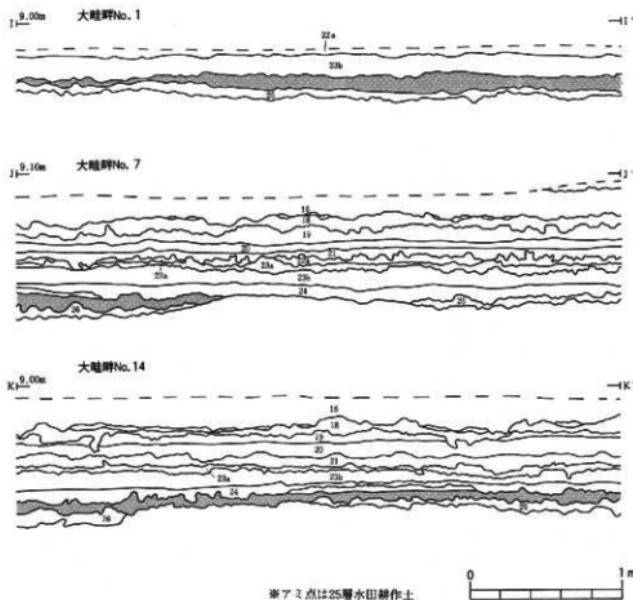
大畦群によって造られた大区画とその中を小畦群によって分割した小区画から構成され、給・排水路と考えられる水路を伴っている。

(2) 検出・遺存状況

畦群はI～III区では23a・23b層を除去する過程で確認し、V区では24層を除去する過程で確認しているが、IV区では畦群は確認できなかった。遺存状況はV区の南西部は比較的良好であったが、I区北半部とIII区を中心とした範囲は耕作土（25層）の盛り上がりは認められるものの明確な畦群のプランは確認できなかった。

(3) 耕作土

耕作土は基本層25層で、灰黄褐色の泥炭質粘土である。厚さは1～16cm、平均は約7cmで、下面は凹凸が激しい。下層への食い込みの大部分は直下の26層中で止まっているが、部分的に26層を完全に攪拌して27層中にまで達する場合がある。



第93図 25層水田跡大畦群（No.1・7・14）断面図

(4) 水田域

畦畔が認められなかった箇所もあるが、耕作土は調査区全面に認められるので水田域も同様に調査区全面に広がると推定される。

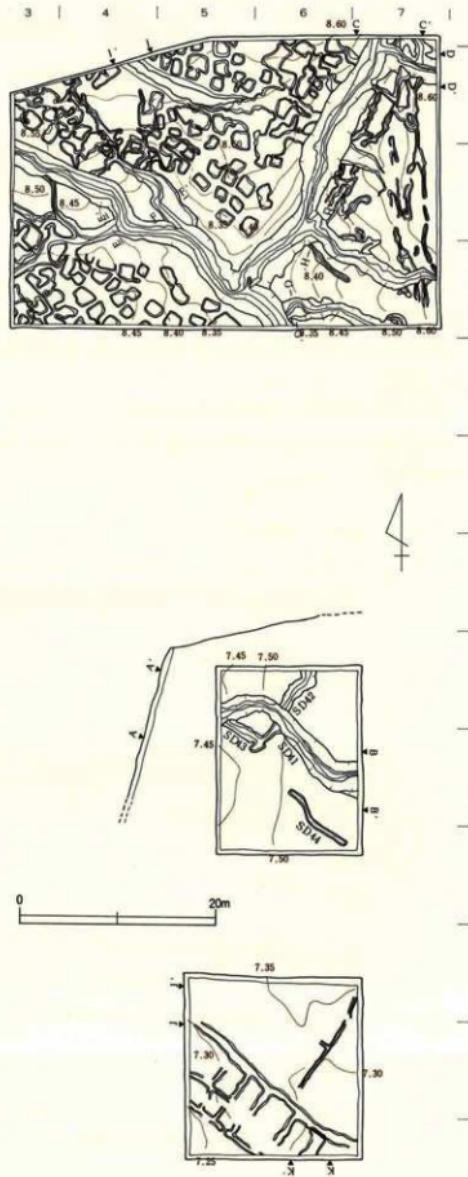
2. 遺構の状況

(1) 畦畔

畦畔は耕作土を盛り上げて造られており、No.1～16まで検出した。I～III区では畦畔状の盛り上がりが多数認められたが、これらは平面プランが不明瞭で立ち上がりもごく緩やかであることから崩落・流出した畦畔の痕跡であると推定され、本来の形態を留めていない可能性が高い。したがって、I～III区においては不明瞭なものには畦畔No.は付けず、幅広で直線的なもののみを畦畔とした。

大畦畔として考えられるのはNo.1～7・14である(第93図)。1・7・14は水田内を画するもので、2～6は主に水路の土手としての機能を有している。規模は2～6がかなり大きい。1・7・14の方向は等高線に対して平行または直交しているが、1はさらに水路の方向に影響されていることも考えられる。なお、7の盛土を除去したところ、東側の畦畔中から幹の部分と思われる樹木2本と樹木の痕跡1ヶ所を検出した(第97図、写真94)。遺存していた樹木は長さ2.2mと2.7m、幅は13～16cmで、樹木の痕跡の方は長さ3.2m、幅約23cmあり、樹木には加工痕は認められなかった。これらは完全に畦畔の内部に入った状態であったことから、畦畔の沈下防止の目的で埋め込まれた自然木であると考えられる。

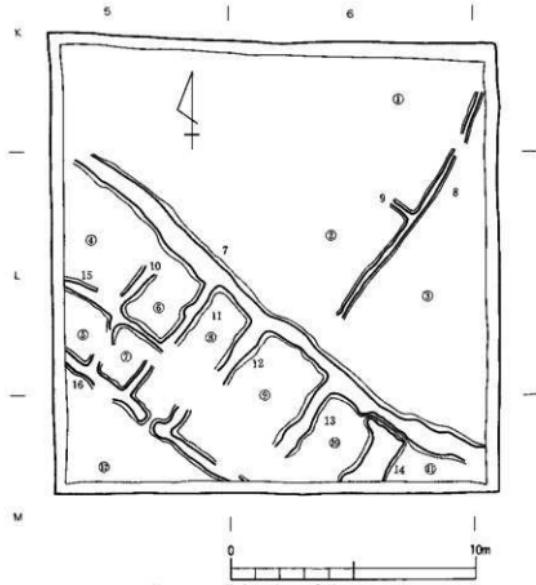
小畦畔は8条検出している。規模は大体上端幅50cm、下端幅75cm程度と推定され、方向は大畦畔に対して直交または平行している。



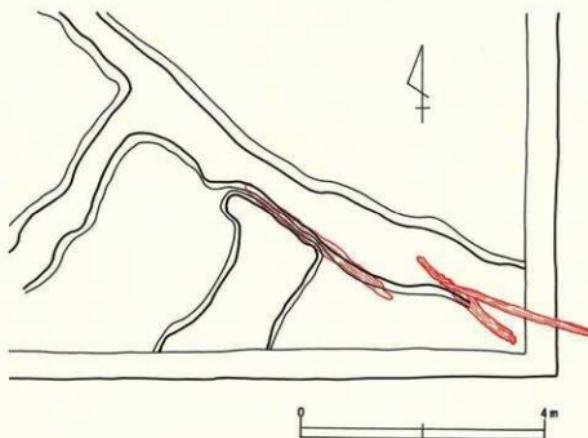
第94図 25層水田跡全体図



第95図 25層水田跡I~III区全体図



第96図 25層水田跡V区全体図



第97図 25層水田跡大畦畔 (No.14) 部分図

No.	方向	長さ (m)	上端幅 (cm)	下端幅 (cm)	高さ (cm)	備考
1	N-72°-W	12.0以上	22~140(82)	64~242(162)	1~8	大畦畔
2	N-60°-W	17.8以上	42~268(184)	160~385(283)	7~28	大畦畔、SD34の土手
3	N-34°-W	10.8	63~310(197)	88~400(233)	1~5	大畦畔、SD34の土手
4	N-24°-E	14.5	158~335(235)	287~400(348)	1~2	大畦畔、SD37の土手
5	N-62°-W	10.4以上	36~288(209)	158~453(324)	2~35	大畦畔、SD34の土手
6	N-62°-W	17.8以上	88~284(200)	194~328(281)	1~3	大畦畔、SD34の土手
7	N-53°-W	20.6以上	48~110(73)	75~142(102)	1~3	大畦畔、やや屈曲
8	N-32°-E	10.9以上	16~24(20)	29~41(35)	1	
9	N-54°-W	1.0以上	17~22(19)	35~41(37)	1~2	部分的に検出
10	N-33°-E	5.6	31~51(41)	55~72(65)	1~2	
11	N-39°-E	5.6	32~49(40)	63~82(73)	1~3	
12	N-43°-E	5.6	40~75(57)	74~104(90)	1~3	
13	N-38°-E	5.0	42~68(54)	73~106(84)	1~3	
14	N-28°-E	2.4以上	109~173(128)	127~191(148)	1~2	大畦畔
15	N-57°-W	4.7以上	17~51(36)	41~74(58)	1~3	
16	N-54°-W	8.9以上	27~50(41)	50~73(60)	1~3	

表46 25層水田跡畦畔計測表

(2) 水田区画

水田区画は大畦畔によって画された大区画とその内部を小畦畔によって細分された小区画があるが、I～IV区では明確な小区画は確認できなかったため区画No.はV区にのみ付けている。

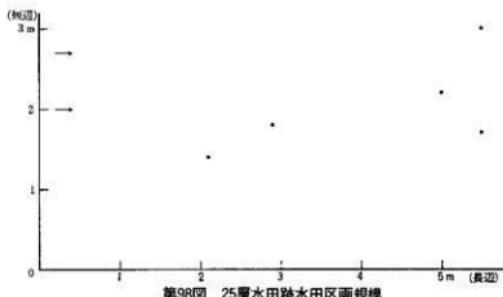
大区画はI～III区では畦畔1の北側、畦畔1と2・3の間、畦畔5・6の南側の3区画、V区では畦畔7の北側、14の東側と西側の3区画、計6区画が認められた他、III区 SD37の東側やIV区 SD41の南北両側も何らかの大区画に含まれると考えられる。区画の平面形は方形を呈すると推定され、I～III区ではSD34・37も区画の基準の一つと考えられるが、これらは本来自然流路と考えられるため、大区画の平面形や規模の規格性については明確ではない。

小区画はV区において12区画認められた。なお、前述したようにI～III区では明確な畦畔のプランを検出できず、このため水田区画と溝状あるいは不整形な窪みとの区別がつけ難い状況であった。区画の平面形は方形を基調とす

るが、その中でも正方形に近いものも認められる。規模は $1.5 \times 2 \sim 3\text{m}$ 前後のものと $2 \times 5\text{m}$ 前後の2種類が認められるが、検出できた区画が少ないため確実ではない。

No	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	7.33~	?	北→南	5.5以上	?	?	?	?	?	詳細不明
②	7.30~?	?	北東→南西	6.1	?	?	?	?	6.1×?	詳細不明
③	7.36~7.34	(7)	北→南	?	12.5以上	7.7以上	?	?	?	詳細不明
④	7.28~7.32	(4)	北西→南東	2.7	?	2.4以上	5.4以上	12.9以上	2.7×?	
⑤	7.28	?	?	2.0	?	1.1以上	2.2以上	3.5以上	2.0×?	
⑥	7.30 (7.30)	0	水平	2.8	2.9	1.9	1.6	5.1	2.9×1.8	
⑦	7.29 (7.29)	0	水平	2.1	2.1	1.2	1.5	3.1	2.1×1.4	やや歪んだ方形
⑧	7.29~7.31 (7.30)	2	北東→南西	5.3	5.6	1.6	1.7	9.3	5.5×1.7	南北に分割される?
⑨	7.29~7.31 (7.30)	2	ほぼ水平	5.3	5.6	3.1	2.8	16.8	5.5×3.0	南北に分割される?
⑩	7.30~7.31	(1)	ほぼ水平	2.9以上	推定5.0	?	2.2	7.6以上	5.0×2.2	南北に分割される?
⑪	7.23	?	?	?	1.8以上	?	3.5以上	3.6以上	?	部分的に検出
⑫	7.24~7.28	(4)	北東→南西	?	?	?	?	8.0以上	14.4以上	?

表47 25層水田跡水田区画計測表



第98図 25層水田跡水田区画規格

(3) 水田面の標高と傾斜

全体的な地形は、IV・V区の西方からI～III区に向かって入り込んだ谷がそれぞれ北西方向と北東方向に分岐している。I～III区の水田面の標高は8.31～8.60m、勾配は10～20cm/10mで、場所によってややばらつきがある。V区の水田面の標高は7.24～7.34m、勾配は約8cm/10mでやや緩やかである。

区画内の傾斜は大体全体的な地形と一致するが、水田面に凹凸はあるものの一定の傾斜は認められず、ほぼ水平な区画もある。

また、区画内の比高差は4cm以内と推定され、各区間の比高差については⑥・⑦・⑧・⑨の間がそれぞれ比高差がないか、あるいは1cm程度であるが、他の区画については不明である。

(4) 溝跡

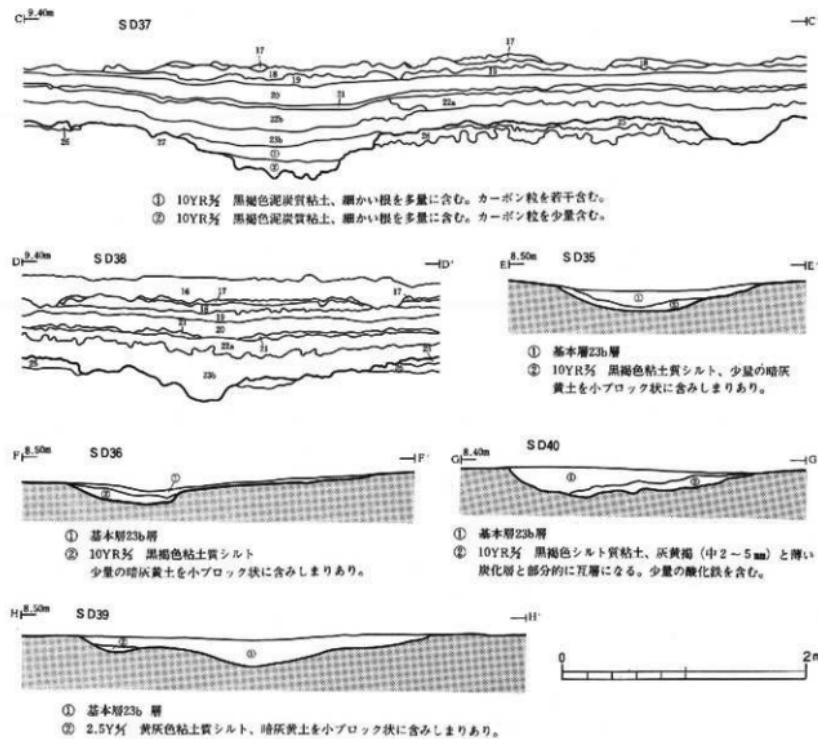
溝跡はSD34～44まで11条検出した。ただし、水田面の状況(後述する)からすると、すべての溝跡が水田に伴うとは断定できず、これらの中には水田廃絶後の洪水等による自然流路が含まれている可能性がある。ここでは一応、明確な土手を伴うかあるいは断面形からみて人工的に掘り込まれたと推定されるSD34・37・41を確実に25層水田に伴うものとし、その他は水田に伴う可能性があるものとして捉えておきたい。なお、これらは基本的には自然の流路を改修して利用していると推定される。

SD34 (第95図)

I・II区を北西から南東方向に蛇行しながら走り、両岸に規模の大きな土手を伴っている。検出した長さは約33m、上端幅2.2~3.0m、下端幅10~50cm、深さ40~50cmで、断面形は全体的に緩やかな「U」字状を呈するが、途中でわずかに段を有する。底面はやや凹凸があるが全体的には南東に向かって徐々に低くなっている。検出した両端部における底面の高低差は約18cmで勾配は5~6 cm/10mである。堆積土はSD37と同じで、下層に黒褐色泥炭質粘土が堆積し、上層には23b層がそのまま落ち込んでいる。規模が大きく、II区南部から北西に入り込む小さな谷の谷心線上に位置することから水田に伴う基幹的な排水路と考えられる。ただ、水成堆積層が認められず泥炭質粘土が堆積していたことから、水流はごく緩やかであったと推定される。

SD35 (第95・99図)

II区の南西部から北東方向に延び、SD34に合流する。両岸には小規模な土手状の盛り上がりが認められるが、人为的に盛られたものとは断定できない。検出した長さは約12mで、上端幅0.8~1.4m、下端幅15~50cm、深さ約3cmで、断面形は緩やかな「U」字状を呈し、底面は比較的平坦である。底面のレベルは北東に向かって徐々に低く



第99図 SD35~40断面図

なり、検出した両端部の高低差は約30cmである。溝自体の堆積土は認められず、基本層23層がそのまま落ち込んでいた。溝の性格は水田に伴う給・排水路とも考えられるが、水田廃絶時あるいは廃絶後の自然流路である可能性が高いと推定される。

SD36 (第99図)

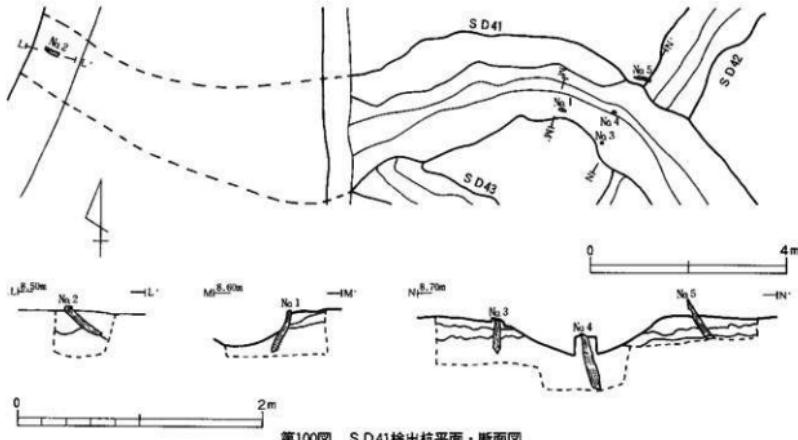
II区の北西部から南東方向に蛇行しながら延び、SD34に合流する。両岸の一部には土手状の盛り上がりがあるが、土手とは断定できない。検出した長さは約18mで、上端幅0.2~2.3m、下端幅10~40cm、深さ約5cm、断面形は緩やかな「U」字状を呈し、底面はわずかに凹凸がある。底面のレベルは南東に向かって徐々に低くなり、検出した両端部における高低差は約40cmである。堆積土はSD35と同様で、性格もSD35と同様と考えられる。

SD37 (第95・99図)

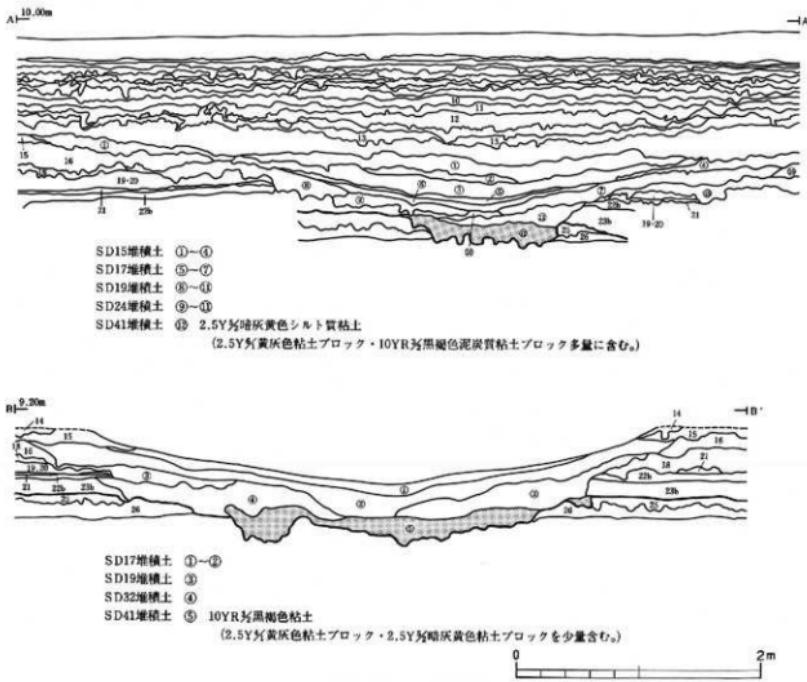
III区北東部から南西方向へやや蛇行しながら走り、SD34に接続する。西岸には規模の大きな土手を伴っているが、東側では確認できなかった。検出した長さは約28mで、上端幅1.8~4.2m、下端幅20~30cm、深さ約40~50cm、断面形は緩やかな「U」字状を呈するが、途中にわずかな段を有する。底面は凹凸があるが、底面のレベルは全体的には南西側に向かって徐々に低くなっている。検出した両端部における高低差は約20cmで、勾配は約7cm/10mである。堆積土は場所によって異なるが、大体下層には泥炭質粘土層が堆積し、上層には23b層がそのまま落ち込んでいた。溝の性格は、規模が大きく、II区南部から北東方向に入り込む小さな谷の谷心線上に位置していることから、SD34と同様な基幹排水路であったと推定される。なお、堆積土の状況からSD34と同じく流れはごく緩やかで水量は少ない状況であったと考えられる。

SD38・39・40 (第95・99図)

いずれもIII区の東側から西方に向かって延び、SD37に接続する。断面形はSD38のみが中央部がやや深い「U」字状を呈するが、他は緩やかな「U」字状である。底面はやや凹凸があるが、底面のレベルは全体的に西方に向かって徐々に低くなってしまっており、検出した両端部における高低差はSD38が約10cm、SD39が約42cm、SD40が約29cmである。溝自体の堆積土は最下部にわずかに認められる程度で、大部分は直上の23b層がそのまま落ち込んでいた。性格はSD35・36と同様と考えられる。



第100図 SD 41検出杭平面・断面図



第101図 SD41断面図

SD41 (第94・101図)

IV区を蛇行しながら走る。検出した長さは約16mで、上端幅1.4~3.2m、下端幅10~50cm、深さ約35cm、断面形は逆台形あるいは緩やかな「U」字状であるが、底面はかなり凹凸がある。底面のレベルはほぼ水平である。堆積土は壁の崩落土あるいは25層水田耕作土の流入したものが認められたのみで、水成堆積層は認められなかったが、この溝は後の時期も継続して使用されていることから、24層あるいは25層の時期に底ざらい等の掘削を受けている可能性もある。なお、堆積土の上面で杭5本を確認した(第100図、写真95~97)。1本は層断面観察のための側溝内から出土したが、他の4本は集中しており、このうち3本は溝跡を横断する形になっている。検出状況からはどの層から打ち込まれたのかは不明である。溝の性格は、これに伴う土手等は検出できなかったが、一応25層水田に伴う水路と考えておきたい。なお、給・排水路の区別はできない。

SD42・43 (第94図)

いずれもIV区で部分的に検出し、SD41に接続する。断面形はごく浅い「U」字形で、底面は凹凸が少ない。底面のレベルはSD42は北側が低く、SD43は西側が低いが、部分的な検出であるので詳細は不明である。溝自体の堆積土ではなく、直上の23b層が落ち込んでいた。

SD44（第94図）

IV区の南東部に位置し、SD41とほぼ平行している。断面形は浅い「U」字状で、底面のレベルは西側がやや低い。堆積土は23b層である。単独で検出したため一応溝として捉えているが、形態からすると、III区のSD37の東側で多数認められた溝状の凹み（後述する）と同様の性格のものとも考えられる。

（5）水口

畦畔の遺存状況が悪いために確実に水口とは断定できなかった地点もあるが、明確な水口は区画⑧と⑫の間、⑩と⑪の間の2箇所確認できた。⑧の南辺のものは、中央からやや東寄りに設けられており、小区画間の配水用であるが、⑩と⑪の間のものは大畦畔7と14の接する箇所に溝状に掘り込まれたもので、大区画と大区画とを結んでいる。

（6）水田面の状況

水田面の状況はI～III区、IV区、V区でそれぞれ異なっていた。

I～III区はIII区の東端部のみが直上層が耕作土（23a層）であったので、層上面が搅乱を受けており、やや荒れた状態であったが、他の部分の層上面自体は比較的良好に遺存していた。しかしSD37の西側では水田区画のような窪みや水田区画が不規則に連続したような窪みが全面に認められたものの、明確な水田区画は検出できなかった。一方SD37の東側では区画が存在したような形跡が全く認められず、細長い溝状の窪みが連なるのみであった。SD37の西側の水田区画の窪みについては本来あった区画が水流等によって崩された結果形成されたものと考えられる。

IV区は直上層が自然堆積層（23b層）であったため層上面は搅乱を受けておらず、比較的平坦であったが、V区は直上の24層水田耕作土による搅乱を受けており、水田面には細かな凹凸が認められた。

なお、足跡や耕作痕等は確認できなかった。

3. 出土遺物

耕作土中とSD41から石器6点、杭5点が出土した他、前述したように畦畔7中から自然木が出土している。石器は本層水田跡に伴うと考えられるが、杭についてはどの層から打ち込まれたのか不明であり、所属層を限定することはできなかった。

（1）石器

石鐵4点（第103図1～4、写真129）と大形の剝片1点（第103図5、写真128-1）、疊石器1点（第103図6、写真128-2・3）がある。

石鐵はI～III区の大畦畔1・6の上面とSD36北側の耕作土中、およびV区北西部の耕作土中から出土した。すべて有茎式で、基部の抉りがはっきりしたもの（1・2）と抉りが緩やかなもの（3・4）に分類できる。このうち1は側辺が先端に近い部分で角度が変化していることから、再加工されている可能性がある。

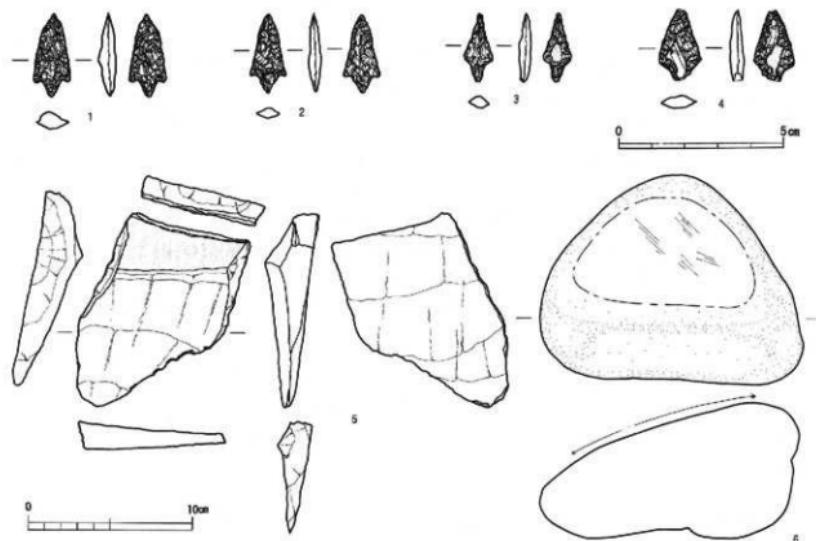
大形の剝片はV区の区画④北辺部の耕作土中から出土した。いわゆる「大形板状安山岩製石器」（斎野：1987）で、縁片部に微細剝離痕と幅4～5mmの光沢面が認められる。

疊石器はIV区のSD41底面から出土した。やや偏平な自然疊で、一方の平坦面がやや磨滅して光沢があり、細かい擦痕が認められる。

（2）杭

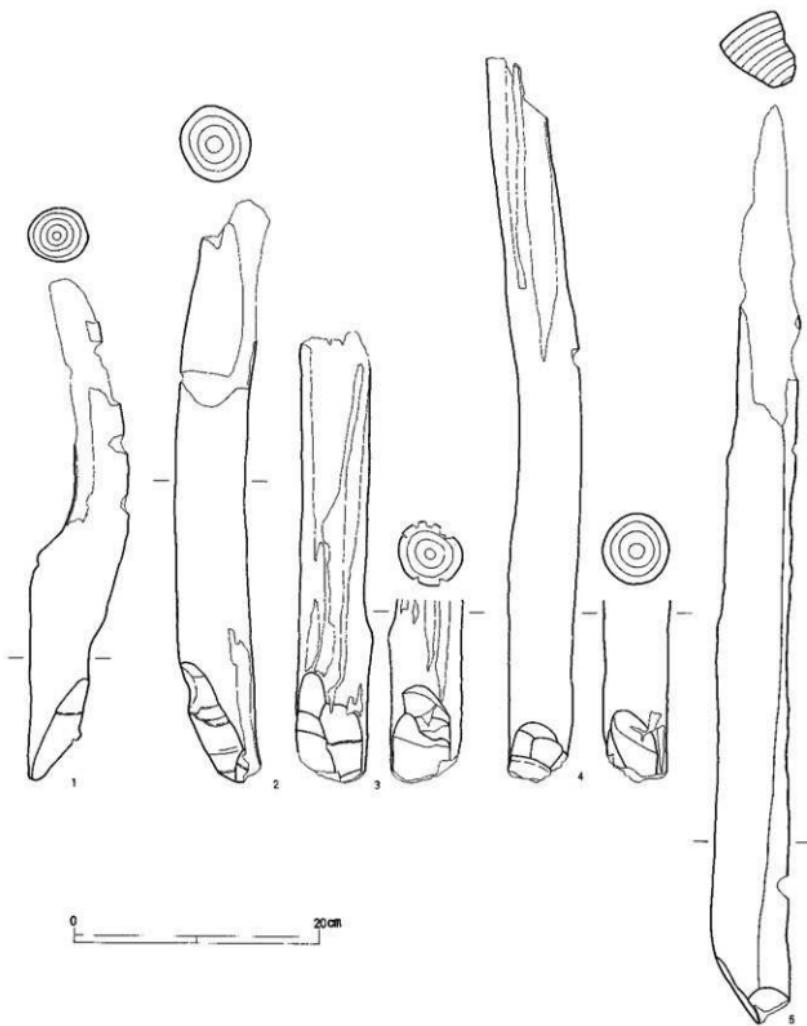
5本出土したが、いずれもIV区SD41の堆積土上面で確認した。このうち3本（第100・102図3～5）はSD41を横断するような杭列を形成しているが、1本（第100・102図1）は杭列のやや西側、他の1本（第100・102図2）はさらに西に離れた側溝中から出土した。素材は1～4が丸木、5が割り材で、頭部が腐植しているため長さは不

明であるが、径（幅）はほぼ同じものを使用している。先端加工は1・2が1方向から、3・4が対面する2方向から、5が3方向から施されている。また、1・2は加工の角度が鋭く、1～2回の打撃で切断しているが、その他は角度もやや鈍く、複数回の打撃痕跡が認められる。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	直存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
1	129-1	B-5、25層大粒中	石器・石器	完形	2.55	1.1	0.5	玉髓、先端部再加工か？ 重量約1g
2	129-2	C-4、25層	石器・石器	完形	2.4	1.1	0.3	珪化凝灰岩、全体的に麻溝、重量約0.5g
3	129-3	K-5、25層	石器・石器	完形	2.1	0.9	0.35	玉髓（鉛石器）、一部に自然面が残る、重量約0.5g
4	129-4	D-4、25層大粒上	石器・石器	一部欠損、直存	2.2	1.25	0.4	珪質頁岩、先端部と基部欠損、重量約1g
5	128-1	L-5、25層大粒中	石器・大型の剝片	完形	11.9	10.7	3.3	石英安山岩が流散者、大型板状安山岩製石器、重量約20g
6	128-2-3	H-5、SD4底面	礫石器	完形	15.9	12.7	8.3	安山岩、1面に挫削、重量2118g

第102図 25層水田跡出土遺物(1)



No.	出土場所・層位・種別	長さ(cm)	径・幅(cm)	素材形状	先端加工	質	考
1	H-6, SD41 稲	通存47.6	5.7-6.3	丸木	1方向から複数回数の打撃、角度はやや鋭い	頭部腐食、先端部一部欠損	
2	H-5, SD41 稲	通存41.0	4.3-6.5	丸木	1方向から1-2回の打撃、角度は鋭い	頭部腐食	
3	H-6, SD41 稲	通存36.8	5.2-5.9	丸木	2方向から複数回数の打撃、角度は鋭い	頭部・表面が腐食、先端部欠損	
4	H-6, SD41 稲	通存59.2	5.0-5.8	丸木	2方向から複数回数の打撃、角度は鋭い	頭部腐食、先端部欠損	
5	H-6, SD41 稲	通存75.4	5.2-6.0	分割材	3方向から複数回数の打撃、角度はやや鋭い	頭部腐食、先端部一部欠損	

第103図 25層水田跡出土遺物(2)

第20節 26層水田跡

26層上面では26層水田跡を検出した。時期は弥生時代中期と考えられる。

1. 水田の構成と概要

(1) 水田の構成

大畦畔によって造られた大区画によって構成されている。

(2) 検出・遺存状況

畦畔は25層を除去する過程で確認したが、検出できたのはI～III区のみである。ただ、畦畔2の東部と4の遺存状況が極端に悪いため高まりをほとんど確認できず、わずかに畦畔の最下部を検出できたのみであった。一方IV・V区では層上面において畦畔は確認できなかったが、V区では断面観察によって畦畔の存在を推定している。なお、No.1～4の畦畔を除去したところ、耕作土上面とほぼ同じレベルで擬似畦畔Bを確認している。

(3) 耕作土

耕作土は基本層26層で、直下の27層(泥炭質粘土層)を母材とした灰黃褐色の泥炭質粘土層である。厚さは1～16cm、平均約6cmで、下面是凹凸が激しい。下層への食い込みは直下の27層中で止まっている。

(4) 水田域

明確な畦畔はI～III区で確認できたのみであるが耕作土は調査区全域に認められるので、水田域も同様に調査区全域に広がると推定される。

2. 遺構の状況

(1) 畦畔

I～III区で4条(No.1～4)確認した他、V区では断面観察によってNo.5・6の存在が推定できた。2と4は「T」字状に接しており、1・2も同様と推定される。2・3は上層の25層水田の水路(SD37)によって切られているため一応それぞれ別なNo.をついたが、本来は同一の畦畔であったと考えられる。なお、これらの畦畔下には前述したようにすべて擬似畦畔Bが認められたが、固化しなかったためその幅などについては不明である(写真100・101)。

5・6は平面では確認できなかったが、断面観察では擬似畦畔Bが認められたため(第105図)その存在を想定できるものである。規模はNo.1・2がほぼ同じで、3がやや小さい。4は下端幅が1・2の約1.5倍であるが、この畦畔は直上の25層水田の耕作によってかなり崩れていると考えられるので、本来は1・2とほぼ同規模であったと推定される。これらの畦畔は他に比較する畦畔がないので、大畦畔・小畦畔の区別はつけ難いが、最も小さいNo.3でも下端幅が116cmあることと、畦畔下に擬似畦畔Bが認められたことなどから大畦畔である可能性が高い。また、畦畔の位置はNo.2が25層水田跡の大畦畔No.1とややずれるものの大体その直下にあり、No.5・6も同様に25層水田跡の大畦畔No.7・14の直下にある

No.	方向	長さ(m)	上端幅(cm)	下端幅(cm)	高さ(cm)	備考
1	N-16°-E	11.6以上	86～124(111)	135～165(149)	3～8	大畦畔
2	N-63°-W	19.2以上	72～123(98)	126～176(147)	1～8	大畦畔・3と同一か?
3	N-65°-W	9.4以上	72～102(88)	100～127(116)	1～4	大畦畔・2と同一か?
4	N-27°-E	8.7以上	?	164～253(230)	?	大畦畔

表48 26層水田跡畦畔測定表

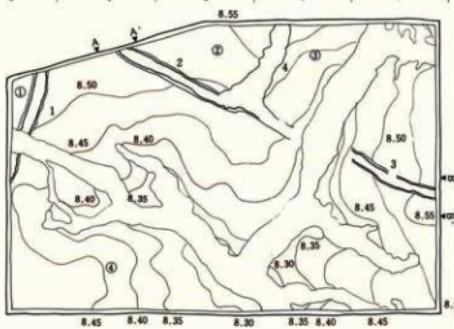
と推定される。

No.	標高(m)	比高差(cm)	傾斜方向	東辺(m)	西辺(m)	南辺(m)	北辺(m)	面積(m ²)	推定規模(m)	備考
①	8.49～8.51	(2)	?	8.3以上	?	?	?	?	?	部分的に検出
②	8.50～8.56	(6)	?	9.0以上	?	10.0以上	?	?	?	
③	8.45～8.57	(12)	北東→南西	?	8.5以上	19.8以上	?	?	?	
④	8.30～8.53	(23)	北→南	?	16.0以上	?	42.0以上	?	?	

表49 26層水田跡水田区面積測定表

(2) 水田区画

水田区画はI～III区において①～④まで認められたが全体を検出できた区画はない。IV・V区については不明確なため区画Noは付けなかった。区画の平面形は方形を基調としていると考えられる。規模は最も大きな④の北辺が42m以上と推定されるが、ほとんど詳細は不明である。なお、これらの区画は大畦畔のみによって造られているが、直上の25層水田跡の大畦畔が26層の大畦畔を踏襲するものが多いことから、水田区画も25層水田同様に、小畦畔によって小区画に細分されていた可能性もある。



(3) 水田面の標高と傾斜

I～III区の地形はII区南部から北東・北西方向へそれぞれ谷が入り込んでいる。IV・Vは層上面の標高を測定しなかったため、微地形は不明であるが、I～V区の全体的な地形は直上の25層と同様と推定される。I～III区の水田面の標高は8.30～8.57mで、勾配は約12cm/10mである。全体を検出できた区画がないため、区画内の比高差および各区画間の比高差は不明である。ただ、④内部の比高差が20cm以上あることから「水田区画」の項で述べたように本来はこれらの区画がさらに小畦畔によって細分されていた可能性が高い。

なお、直上の25層水田跡に伴う水路の痕跡は本層上面でも明瞭に認められているが、一方で大畦畔が確認されたにもかかわらず、水路の土手が検出されなかったことから、一応本層には水路は伴わないとい推定している。ただし、層上面で比較的明瞭な谷が認められることからすると流路が存在した可能性も考えられ、どちらとも断定はできない。

(4) 水田面の状況

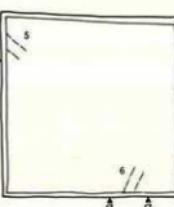
水田面は25層水田の耕作による搅拌のため、荒れた状態であった。なお足跡や耕作痕等の痕跡は特に認められなかった。

3. 出土遺物

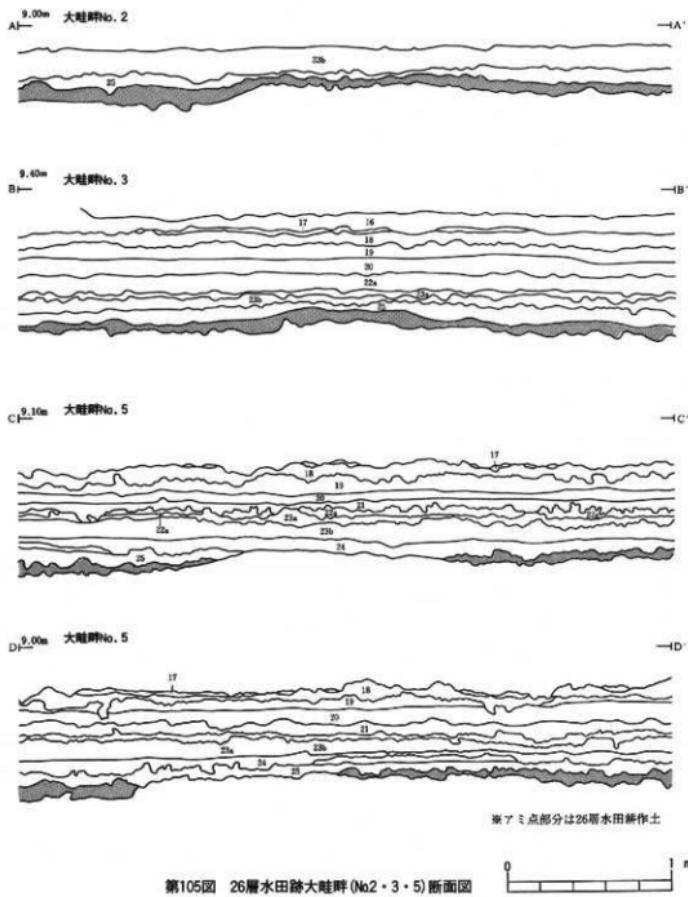
遺物は石器が2点の他種子が出土している。

(1) 石器

石器が2点（第106図、写真130-1・2）出土しており、1は畦畔3の上面、2は畦畔2脇の水田面から出土したもので、本層水田に伴うと考えられる。2点共に有茎で、基部の



第104図 26層水田跡全体図



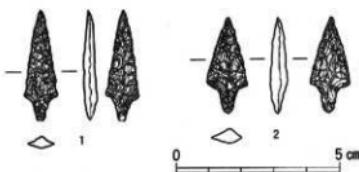
第105図 26層水田跡大畦畔(No.2・3・5)断面図



抉りは比較的緩やかである。

(2) 種子

区画②の耕作土中から數十点まとめて出土した（写真130-3）。星川清親・庄司駒男氏の鑑定によればすべてカラスノゴマである。



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	遺存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特徴
1	130-1	C-7、26層大畦上	石器・石縄	ほぼ完形	遺存 3.4	1.0	0.4	玉縄、基部一部欠損、重量約0.5g
2	130-2	B-5、26層	石器・石縄	完形	2.9	1.2	0.5	玉縄(鉄石系)、一面に自然面が残る、重量約1g

第106図 26層水田跡出土遺物

第21節 下層の調査

1. 調査の概要

I～III区の26層水田跡の調査終了後、調査区周囲の断面観察では27層以下に水田土壤は確認できなかった。このためさらに下層の遺構・遺物の有無を確認するためC-4グリッドを試掘区として掘り下げを実施した。

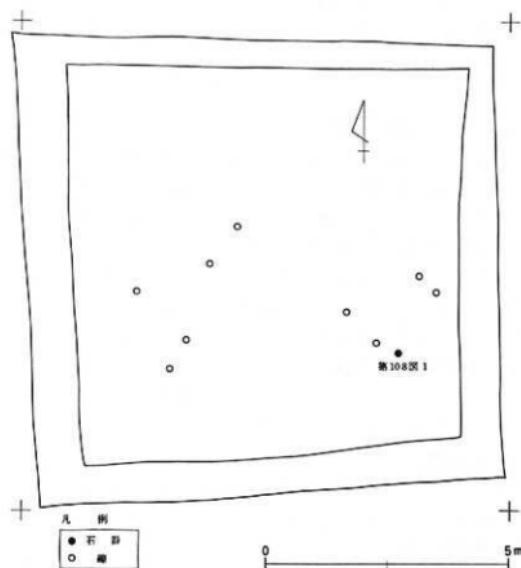
27層以下の基本層序は第2章に述べた通りで、27～34層までが泥炭質粘土(厚さ約1.4m)、35～42層までが粘土(厚さ約1.5m)、43層が砂、44層が砂疊層である(第104図)。

調査は27層～34層までを重機で除去した後、各層の上面を精査しながら44層(砂疊層)上面まで掘り下げたが遺構は皆無であった。

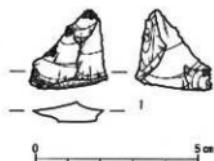
2. 出土遺物

41層上面及び層中から剝片1点(第108図1、写真131)と罐9点が出土したが、特に集中地点は認められなかつた。試掘区から西方に約120m離れた第

15次調査V-E区32a層からは縄文時代早期末～前期初頭と考えられる遺物の集中地点が認められており、生活面の存在が指摘されている。当調査区の遺物が出土した41層は大体この32a層に相当する可能性があるが、出土状況からは生活面を明らかにすることはできなかった。



第107図 41層上面遺物出土状況図



No.	写真図版	出土地点・層位	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特
1	131	C-4, 41層	剝片	2.4	2.35	0.6	珪質灰岩、重量2.9g、微細剝離痕あり

第108図 41層出土遺物

第22節 その他の遺構・遺物

1. 1・2層の遺構

3層上面で13基の土坑を検出したが、堆積土や出土遺物からするとこのうちSK9・11～13が1層段階、SK8が2層段階と推定される(第3章第1節参照)。性格は不明であるが、1層は現代の水田耕作土、2層が近世～近代の水田耕作土と推定されるので、いずれも水田に伴う土坑と推定される。

2. 1・2層の遺物

1・2層の遺物については1・2層の大部分を重機で除去したため、取り上げることのできた遺物は全体のごく一部であると考えられる。取り上げは1点ごとの地点を記録せずに区別に行い、出土層位も1・2層を厳密に区別しなかったため平面的、層別の分布状況は不明である。

破片総数は368点であるが層中及び他層出土の破片との接合関係によって修正すると345点(表57)になる。内訳は土師器60点、赤焼土器2点、須恵器7点、種別が特定できない素焼の土器53点、かわらけ8点、陶器122点、磁器70点、灰釉陶器1点、瓦6点、金属製品13点、土製品3点である。これらのうち、土師器・赤焼土器・須恵器・灰釉陶器と陶・磁器の一部は明らかに下層から巻き上げられたものと考えられる。

(1) 種別不明の素焼土器

小片のため種別が特定できないもので、の中には中・近世の土師質土器の他、土師器・赤焼土器等も含まれている可能性がある。図化できるものはない。

(2) かわらけ

8点のうち1点(第110図・写真132-1)が図化できた。ロクロ成形で、比較的薄手のものである。口縁部はわずかに外反し、底部には回転糸切痕が残る。年代は特定できない。

(3) 陶器・磁器

陶器122点、磁器70点のうち年代がある程度判明したものは98点で、中世から明治以降のものまで混在しているが、近世のものが大部分である。このうち、陶器は15点(第110図2～16、写真132-2・7～9・11～18・21)、磁器は10点(第110図17～26、写真133-1・2・5・10～14・16・19)が図化できた。

なお、陶器・磁器の他の層も含めた全体的な出土状況については第5章第1節IIで述べた。

(4) 瓦

瓦は全て焼瓦片で、図化できるものはない。年代も不明である。

(5) 金属製品

鉄製品6点、銅製品2点、古銭5点が出土した。このうち図化できたのは鉄製品3点(第110図28～30、写真134-1～3)、銅製品2点(第111図1・2、写真134-4・5)、銅銭5点(第111図3～7)である。

(6) 土製品

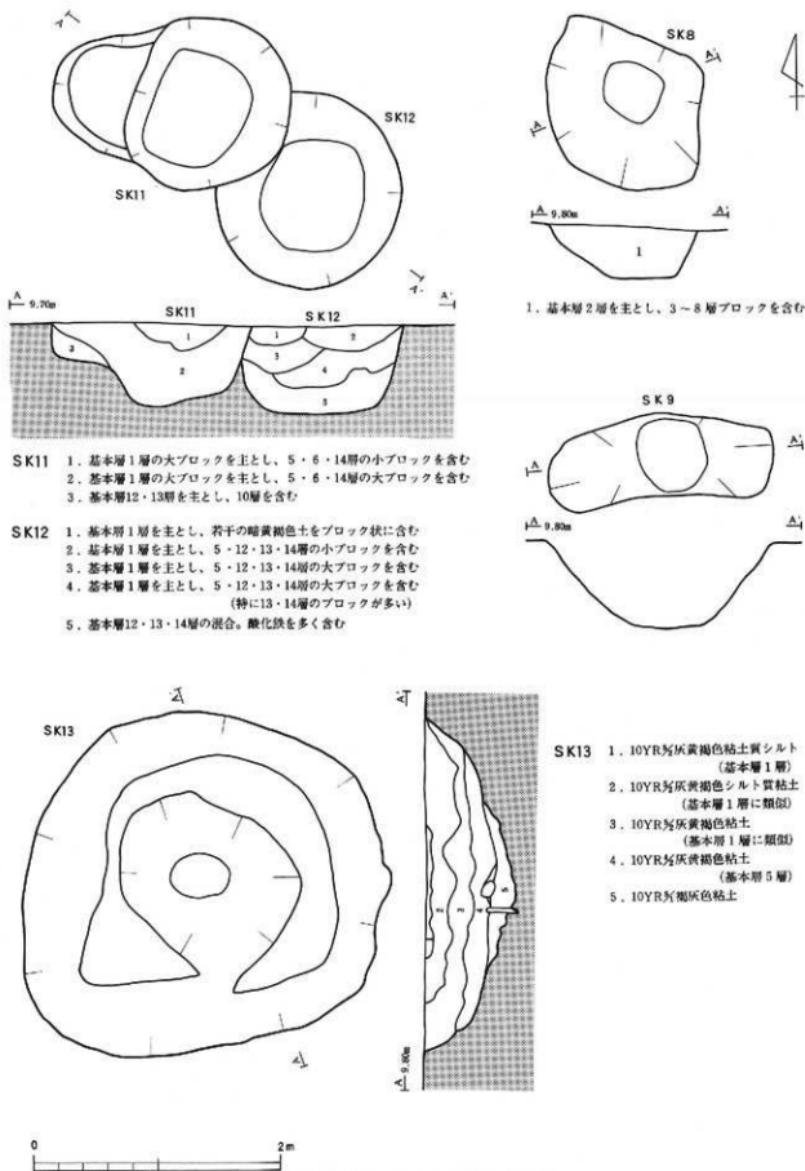
フイゴの羽口1点、土鈴1点、灯明立てと推定されるもの1点が出土したが、図化はできなかった。年代も不明である。

(7) 土師器・赤焼土器・須恵器・綠釉陶器

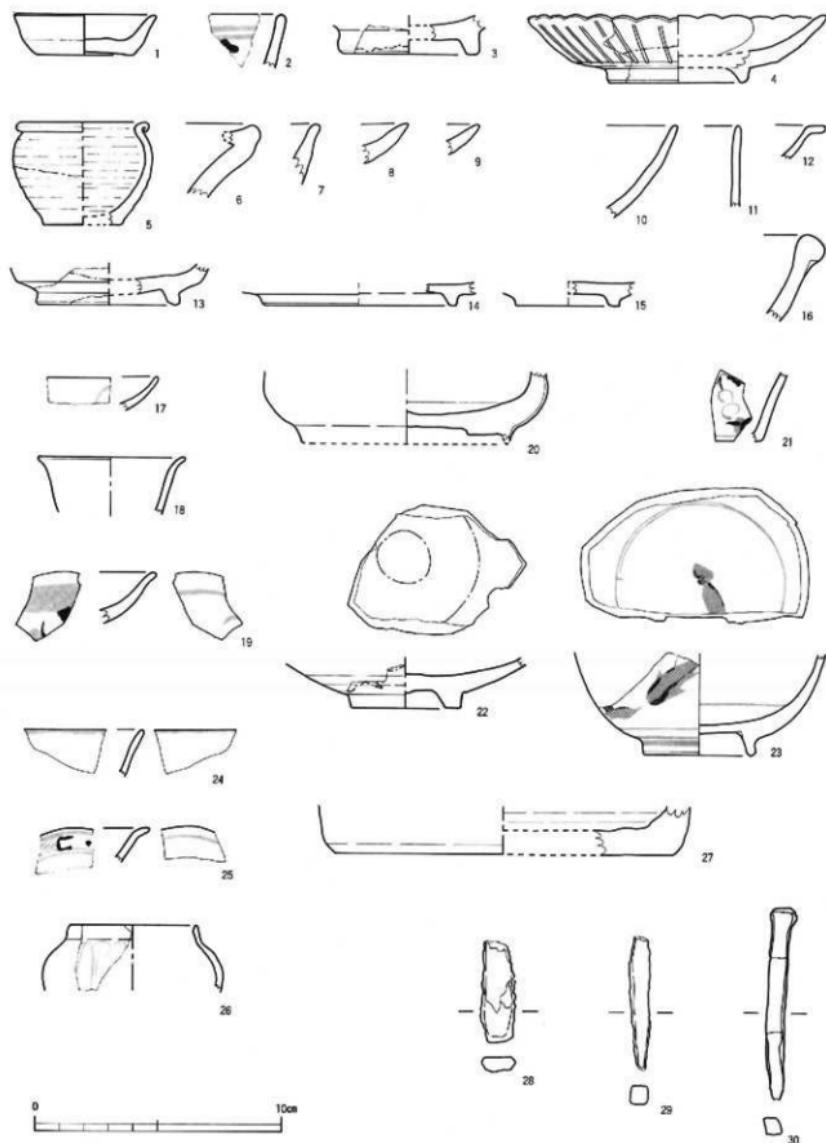
全て細片のため図化はできなかったが、綠釉陶器(写真134-6)は稜碗で、猿投窯K-90窯式に比定される。^(註1)

3. その他の出土遺物

側溝中から出土したために層位が不明な遺物が37点あるが、図化できたのは陶器1点(第110図27、写真135)の

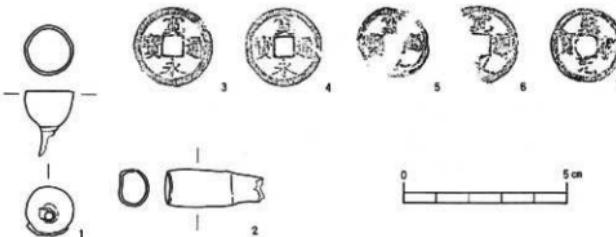


第109図 SK 8・9・11~13平面・断面図



第110図 その他の出土遺物(1)

No.	陶・磁器 No.	写真(図版)	出土地点・層位	種別	目 種	遺存度	法 直(cm)			産 地	特 徴	年 代	
							口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)				
1	—	132-1	Ⅲ区 2層	かわらけ	小皿	?	5.8	4.0	1.7	—	ロクロ、圓軸切り無調盤	17世紀?	
2	I-1	132-2	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	碗?	口縁小片	?	?	?	肥前	陶器灰付	17世紀?	
3	I-9	132-7	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	碗?	底部のみ	?	5.8	?	肥前?	長石釉系の鉢	17世紀	
4	I-13	132-9	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	灰皿	?	12.2	5.8	2.8	美濃	外曲灰船、内曲灰船と綠移	17世紀前半～中葉	
5	I-15	132-8	S K 9	陶器	小皿	片	5.0	3.2	4.2	肥戸・美濃	灰移、底部切	江戸	
6	I-18	—	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	鉢?	口縁小片	?	?	?	肥戸・美濃	17世紀?		
7	I-29	—	Ⅳ区 1・2層	陶器	?	口縁小片	?	?	?	肥戸	網目紋	江戸初期	
8	I-30	132-11	Ⅰ-Ⅲ区 1層	陶器	丸皿	口縁小片	?	?	?	志野	長石柱	17世紀前半	
9	I-31	132-12	Ⅳ区 1・2層	陶器	皿	口縁小片	?	?	?	志野	長石柱	17世紀前半	
10	I-52	132-13	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	片	?	?	?	相馬	青釉流し	幕末～明治	
11	I-59	132-14	S K 13	陶器	笠灰碗	片	?	?	?	相馬	灰船	幕末～明治	
12	I-61	132-15	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	口縁小片	?	?	?	相馬	灰船、折縫の茎	江戸?	
13	I-49	132-16	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	底部片	?	5.9	?	相馬	鉄錆と灰船のかけわけ	幕末～明治	
14	I-60	132-17	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	底部片	?	7.8	?	相馬	灰船	江戸～明治	
15	I-66	132-18	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	底部片	?	4.2	?	相馬	白毫輪	?	
16	I-67	132-21	Ⅳ区 1・2層	陶器	鉢	片	?	?	?	相馬	復武船	幕末～	
17	J-15	133-1	Ⅰ-Ⅲ区 1層	陶器	灰皿	口縁小片	?	?	?	肥前	染付	17～18世紀	
18	J-27	123-11	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	小皿	片	6.0	?	?	肥前	染付	18世紀	
19	J-20	133-2	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	皿	口縁小片	?	?	?	肥前	染付	18世紀	
20	J-31	133-12	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	灰皿	片	8.5	?	?	肥前	吉備、絞り目口四脚高台	17世紀～18世紀	
21	J-14	133-5	Ⅳ区 1・2層	磁器	側面片	底部小片	?	?	?	肥前	染付	江戸	
22	J-21	133-13	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	皿	片	?	4.5	?	肥前	白磁・見込みに乾ノ目脚ハギ	17世紀中葉	
23	J-10	133-10	S K 13	2層	陶器	鉢	片	?	4.6	?	肥前	染付	18～19世紀
24	J-51	133-14	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	病	口縁小片	?	?	?	肥戸・美濃	1上紅(呉須)	幕末	
25	J-60	133-16	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	皿	口縁小片	?	?	?	中国	染付・纏足の組	16世紀	
26	J-62	133-19	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶器	小皿	片	5.2	?	?	白磁	?	?	
27	J-74	135	側溝	陶器	鉢	底部片	?	13.6	?	古窯跡	鉢	14～15世紀	



No.	写真(図版)	出土地点・層位	種 別	遺存度	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	特 徴
1	134-4	Ⅰ-Ⅲ区 2層	陶製品・キセル	埋部欠損	遺存 2.0	径 1.5	?	火薬
2	134-5	Ⅳ区 1層	陶製品・キセル?	埋部欠損	遺存 3.0	径 1.2	?	吸口か?
3	—	Ⅰ-Ⅲ区 2層	鉢	完形	—	—	—	寛永通宝、表面一部剥離
4	—	Ⅰ-Ⅲ区 2層	鉢	完形	—	—	—	寛永通宝
5	—	Ⅳ区 1層	鉢	完形	—	—	—	寛永通宝、鏡による劣化が激しい
6	—	Ⅰ-Ⅲ区 2層	鉢	約片	—	—	—	寛永通宝
7	—	Ⅳ区 1層	鉢	完形	—	—	—	細邊元宝?、鏡による劣化が激しい

みである。

(註1) 富山大学 前川要氏の御教示による。

第4章 プラント・オパール分析

第1節 I～III区におけるプラント・オパール分析

古環境研究所

1. はじめに

この調査は、プラント・オパール分析を用いて、富沢遺跡（第35次調査I～III区）における稻作跡の検証および探査を試みたものである。以下に、プラント・オパール分析調査の結果を報告する。

2. 試料

試料は、遺跡調査の担当者によって容量50m³の採土管を用いて採取され、当研究所に送られてきたものである。調査地点は、No.1、No.2、No.3、No.4の4地点、試料数は計30点である。

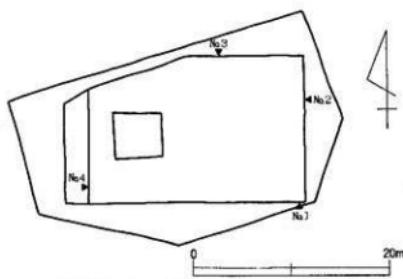
3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原：1976）」をもとに、次の手順で行った。

- (1) 試料上の絶乾（105°C・24時間）、仮比重測定
- (2) 試料土約1gを秤量、ガラスピース添加（直径約40μm、約0.02g）
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- (3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- (4) 超音波による分散（150W・26KHz・15分間）
- (5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥
- (6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- (7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピース個数が300以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピース

個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。また、この値に試料の仮比重と各植物の換算計数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算計数は、イネは赤米、ヨシ属はヨシ、タケア科はゴキダケの値を用いた。その値は、それぞれ2.94（稭実重は1.03）、6.31、0.48である（杉山・藤原：1987）。



第112図 I～III区における試料採取地点

4. 分析結果

プランツ・オパール分析の結果を表50、表51、表52および第113図に示す。なお、稻作跡の検証および探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ、ヨシ属、タケ亞科、ウシクサ族(ススキやチガヤなどが含まれる)、キビ族(ヒエなどが含まれる)の主要な5分類群に限定した。

仙台市、宮沢35次 No.1地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(総量) t/10a	ヨシ属 個/g	タケ亞科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
14	16	12	1.00	2,500	3.09	800	4,200	0	0
15	28	3	0.97	2,600	0.77	0	7,800	0	0
16	31	16	0.97	3,600	5.60	5,400	5,400	0	0
18	49	7	0.92	2,500	1.59	800	10,800	0	0
19	56	7	0.85	0	0.00	7,600	8,400	0	0
20	63	7	0.80	900	0.50	3,800	11,400	0	0
22a	70	17	0.85	800	1.05	0	18,700	0	0
23a	87	3	0.70	700	0.12	3,100	6,200	0	0
23b	90	6	0.74	0	0.00	3,100	10,800	0	0
25	96	6	0.72	2,600	1.11	1,700	16,800	0	0
26	102	10	0.73	1,700	1.24	0	10,500	0	0
27	112	—	0.67	0	—	0	16,100	0	0

No.2地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(総量) t/10a	ヨシ属 個/g	タケ亞科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
20	51	12	0.90	0	0.00	14,600	7,300	0	0
22a	67	8	0.88	1,700	1.24	1,700	16,700	0	0
23a	75	5	0.75	1,700	0.62	800	14,700	0	0
23b	80	8	0.77	0	0.00	9,400	15,400	0	0
25	88	8	0.72	8,300	4.94	900	7,300	0	0
26	96	—	0.75	0	—	0	7,500	0	0

No.3地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(総量) t/10a	ヨシ属 個/g	タケ亞科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
19	48	15	0.96	0	0.00	6,700	9,600	0	0
22a	63	8	0.88	1,700	1.15	1,700	17,100	0	0
23b	71	14	0.83	800	0.87	0	12,800	0	0
25	85	7	0.77	7,400	4.11	2,700	16,700	0	0
26	92	4	0.80	7,100	2.31	0	9,800	0	0
27	96	—	0.79	0	—	0	16,700	0	0

No.4地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(総量) t/10a	ヨシ属 個/g	タケ亞科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
19	54	16	0.87	1,700	2.31	2,600	14,000	0	0
22b上部	70	6	0.81	0	0.00	0	15,700	0	0
22b下部	76	6	0.77	0	0.00	0	3,400	0	0
23b	82	21	0.87	900	1.08	5,500	7,400	0	0
25	103	4	0.73	4,100	1.19	4,900	18,200	800	0
26	107	6	0.73	800	0.31	0	7,000	0	0

表50 プランツ・オパール分析結果

5. 考察

(1) 水田跡の検証

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1 gあたりおよそ 5,000 個以上と高い密度で検証された場合に、稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、富沢遺跡の場合は、これまでの調査の結果、プラント・オパール密度が 3,000 個/g 程度の場合でも水田遺跡が検出されていることから、判断の基準となる数値を 3,000 個/g とした。この判断基準に基づいて検討を行い、各地点、各層位における稲作の可能性を○、△、×の 3 段階に区分して表 2 に示した。

15 層、16 層、18 層、22a 層、23a 層、25 層、26 層の各層は、土層断面の観察結果などから、水田耕作土とされていた層である。分析の結果、これらのすべての層位でイネのプラント・オパールが検出された。このうち、16 層および 25 層では、ほとんどの地点でプラント・オパール密度が 3,000 個/g 以上と比較的高い値であり、明瞭なピークが認められた。したがって、これらの層で稲作が行われていた可能性は高いと判断される。

その他の層では、プラント・オパール密度がおおむね 3,000 個/g 未満と比較的低い値であり、26 層の一部地点ではまったく検出されなかった。したがって、26 層で稲作が行われた可能性は考えられるものの、上層もしくは他所からの混入である危険性も比定できない。仮にこれらの層で稲作が行われていたとするとき、その期間は比較的短期間であったものと考えられる。

(2) 水田跡の探査

上記以外でイネのプラント・オパールが検出されたのは、14 層・No.4 地点の 19 層、No.1 地点の 20 層、No.3 および No.4 地点の 23b 層である。これらの層では、プラント・オパール密度が 800～2,500 個/g と低く、検出される地点も限られていることから、稲作が行われた可能性は考えられるものの、上層からの混入である危険性も否定できない。

層位	No.1 地點	No.2 地點	No.3 地點	No.4 地點	縦 考 考 名 (考古学的所見)
14	△				
15	△				
16	○				水田耕作土
18	△				水田耕作土
19	×		×	△	水田耕作土
20	△	×	△		
22a	△	△	△		水田耕作土
22b				×	
23a	△	△			水田耕作土
23b	×	×	△	△	水田耕作土
25	△	○	○	○	水田耕作土
26	△	×	○	△	水田耕作土
27	×	×	×		

（記号説明）

○……3,000 個/g 以上（稲作の可能性が高い）

△……3,000 個/g 未満（稲作の可能性がある）

×……検出されない

表 51 I～III 区におけるイネのプラント・オパールの検出状況と稲作の可能性

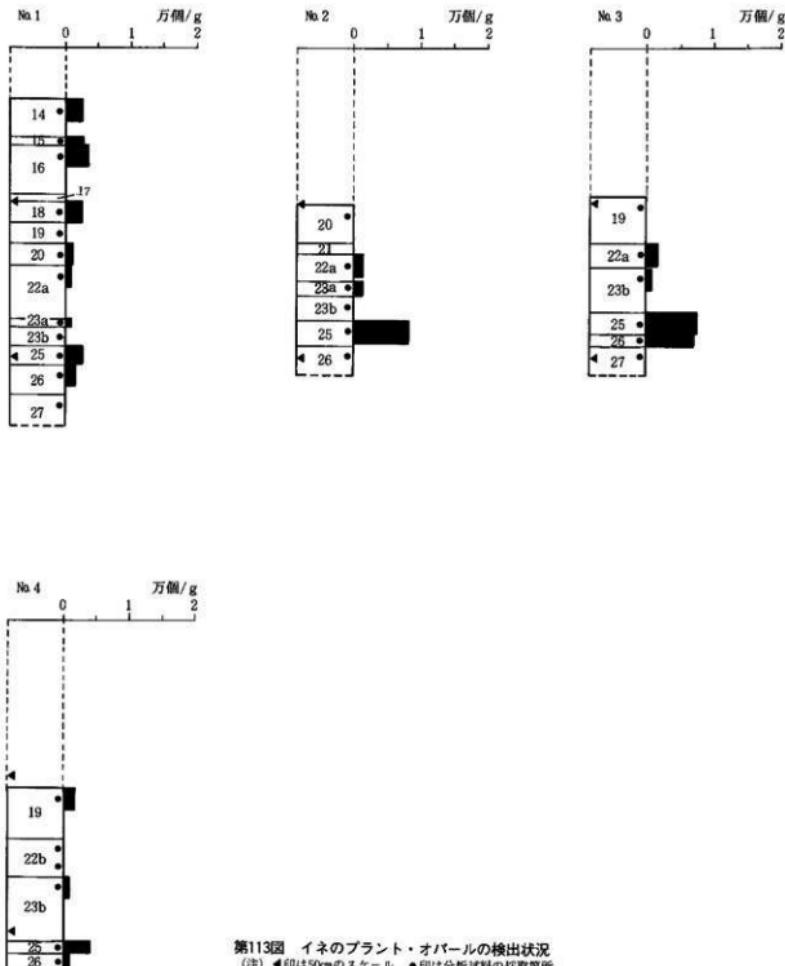
層位	No.1 地點	No.2 地點	No.3 地點	No.4 地點	平均
15	0.8	—	—	—	0.8
16	5.6	—	—	—	5.6
18	1.6	—	—	—	1.6
22a	1.1	1.2	1.2	—	1.2
23a	0.1	0.6	—	—	0.4
25	1.1	4.9	4.1	1.2	2.8
26	1.2	—	2.3	0.3	1.3

表 52 各水田耕作土層における稻穀生産量の推定値
(単位: t/10a)

(3) 稲穀生産量の推定

水田耕作土もしくはこの可能性があるとされていた各層について、そこで生産された稲穀の総量を算出した（表52）。その結果、16層では面積10aあたり5.6t、25層では2.8t、その他の層では1.0t前後と推定された。当時の稲穀の年間生産量を面積10aあたり100kgとするとき、稲作が営まれた期間は、15層では50数年間、23層では30年間弱、その他の層では数年から10数年間と比較的の短期間にあったものと推定される。

なお、以上の値は、収穫が總刈りで行われ、稻わらがすべて水田内に還元されたことを前提として求められている。ここで推定した稲穀の生産総量ならびに稲作期間は、あくまでも目安として考えられたい。



第2節 IV・V区におけるプラント・オパール分析

古環境研究所

1. はじめに

この調査は、富沢遺跡（第35次調査）で検出された古墳時代の水田跡（15層）について、イネの生産総量の推定およびイネ科植物の分布状況の検討を試みたものである。

2. 試料

1989年10月20日に現地調査を行い、15層水田跡の各水田区画から65箇所を選んで土壤試料を採取した（第114図）。また、A地点とB地点では、同水田層について上下方向に1～2cm間隔で採取した。試料数は計77点である。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原：1976）」をもとに実行した。手順は第1節で記述した通りであるが、超音波による分散のみは300W・42KHz・10分間で行った。

4. 分析結果

プラント・オパール分析の結果を表53、表54および第115～119図に示す。なお同定および定量は、イネ、ヨシ属、タケ亞科、ウシクサ族（ススキやチガヤなどが含まれる）、キビ族（ヒエなどが含まれる）の主要な5分類群に限定した。巻末に各分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

（1）イネの分布状況について

古墳時代とされる15層水田跡は、直上を洪水による砂層で覆われており、場所によって耕作土の土質や区画の大きさに差異が見られた。同遺構検出面について、第114図に示す65地点で分析を行った結果、これらのすべてからイネのプラント・オパールが検出された。密度は、試料1gあたり平均3,600個/gであるが、高いところでは10,000個以上、低いところでは1,000個未満と地点によってかなりのばらつきが見られた。

第117図は、プラント・オパール密度から植物体量を推定し、その値の大小を4段階に区分して示したものである。これを見ると、植物体量



第114図 15層水田跡(IV・V区)における試料採取地点

仙台市、富沢35次 14層水田面

試料名	深さ cm	厚 cm	仮比重	イ 桶 升 /g	(桶 総量) kg/m ³	ヨシ 個/g	タケ 葉 個/g	ウシ サ 旗 個/g	キビ 旗 個/g
No 1	0	3	1.00	3,000	0.93	2,000	7,000	2,000	0
No 2	0	1	1.00	2,700	0.28	900	3,600	0	0
No 3	0	4	1.00	3,300	1.36	1,400	2,300	0	0
No 4	0	4	1.00	6,700	2.76	1,900	5,700	0	0
No 5	0	3	1.00	3,800	1.17	3,800	8,700	0	0
No 6	0	4	1.00	12,800	5.27	8,500	12,800	0	0
No 7	0	4	1.00	12,600	4.54	900	9,700	0	0
No 8	0	4	1.00	5,900	2.13	2,900	4,900	900	0
No 9	0	3	1.00	6,700	2.07	900	5,800	0	0
No 10	0	3	1.00	1,800	0.56	2,700	6,400	0	0
No 11	0	3	1.00	3,800	0.98	900	2,800	0	0
No 12	0	3	1.00	4,500	1.39	3,600	6,300	0	0
No 13	0	2	1.00	5,300	1.09	800	3,500	0	0
No 14	0	2	1.00	4,600	0.95	900	5,600	0	0
No 15	0	2	1.00	6,900	1.42	6,900	10,900	0	0
No 16	0	3	1.00	4,600	1.42	900	5,600	1,800	0
No 17	0	3	1.00	3,100	0.80	700	3,100	0	0
No 18	0	2	1.00	700	0.11	700	700	0	0
No 19	0	2	1.00	4,200	0.87	1,000	3,100	1,000	0
No 20	0	2	1.00	2,700	0.56	2,700	8,300	0	0
No 21	0	2	1.00	1,900	0.39	900	7,900	0	0
No 22	0	1	1.00	1,700	0.18	1,700	6,100	0	0
No 23	0	—	1.00	1,800	—	900	4,600	0	0
No 24	0	—	1.00	1,900	—	1,900	15,700	0	0
No 25	0	1	1.00	2,000	0.10	2,000	6,000	0	0
No 26	0	3	1.00	3,200	0.99	3,200	8,600	0	0
No 27	0	3	1.00	3,800	1.17	7,700	11,500	0	0
No 28	0	4	1.00	3,600	1.30	1,400	5,000	2,100	0
No 29	0	4	1.00	3,700	1.52	700	2,200	0	0
No 30	0	4	1.00	3,400	1.40	4,200	1,700	0	0
No 31	0	5	1.00	4,800	2.22	3,800	1,900	0	0
No 32	0	5	1.00	3,500	1.80	2,600	3,500	0	0
No 33	0	3	1.00	1,700	0.53	800	3,500	0	0
No 34	0	3	1.00	3,400	1.05	800	6,900	0	0
No 35	0	—	1.00	1,700	—	800	3,400	0	0
No 36	0	1	1.00	1,900	0.10	2,900	4,900	0	0
No 37	0	1	1.00	1,000	0.05	3,000	13,000	1,000	0
No 38	0	1	1.00	1,800	0.19	2,700	4,500	0	0
No 39	0	2	1.00	5,500	1.13	2,700	1,800	1,800	0
No 40	0	4	1.00	1,900	0.78	4,700	7,600	1,900	0
No 41	0	4	1.00	2,800	1.01	900	5,700	0	0
No 42	0	3	1.00	800	0.25	2,600	800	800	0
No 43	0	5	1.00	1,500	0.70	2,300	8,400	0	0
No 44	0	5	1.00	4,600	2.13	3,600	3,600	900	0
No 45	0	3	1.00	900	0.23	4,800	3,800	1,900	0
No 46	0	2	1.00	5,500	1.13	1,800	12,000	900	0
No 47	0	3	1.00	2,500	0.77	1,600	10,900	800	0
No 48	0	2	1.00	2,900	0.60	10,700	16,600	1,900	0
No 49	0	2	1.00	1,800	0.37	11,300	10,400	900	0
No 50	0	1	1.00	900	0.05	1,800	5,500	0	0
No 51	0	—	1.00	3,800	—	900	4,800	900	0
No 52	0	—	1.00	900	—	900	5,800	0	0
No 53	0	—	1.00	4,000	—	1,000	12,200	1,000	0
No 54	0	1	1.00	3,800	0.20	900	8,700	1,900	0
No 55	0	—	1.00	800	—	1,700	6,000	800	0
No 56	0	3	1.00	4,000	1.03	2,000	6,000	0	0
No 57	0	5	1.00	1,800	0.93	9	4,500	900	0
No 58	0	6	1.00	3,900	2.21	3,900	11,900	900	0
No 59	0	3	1.00	9,800	3.03	10,800	16,700	1,900	0
No 60	0	3	1.00	2,800	0.87	10,500	2,800	900	1,900

表53 プラント・オパール分析結果(1)

No10水田面

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(概総量) kg/m ²	ヨシ属 個/g	タケ亜科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
1	0	—	1.00	1,700	—	800	6,200	0	0
2	0	1	1.00	4,400	0.23	6,200	12,500	0	0
3	0	1	1.00	6,000	0.62	4,300	7,800	0	0
4	0	1	1.00	4,500	0.23	9,000	9,900	0	0
5	0	4	1.00	5,800	2.39	6,500	4,300	0	0

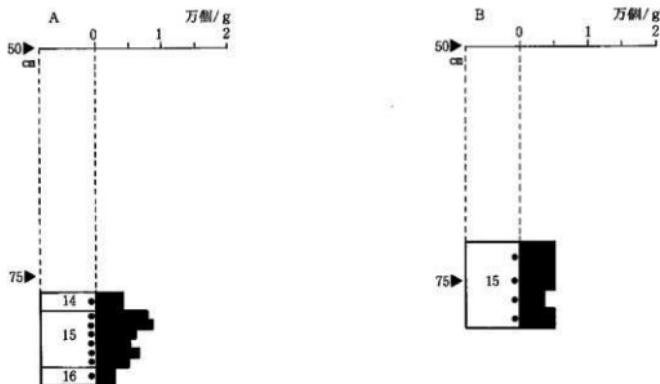
A地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(概総量) kg/m ²	ヨシ属 個/g	タケ亜科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
13	76	2	1.00	4,000	0.82	3,000	6,100	0	0
14-1	78	1	1.00	7,800	0.80	3,400	8,700	0	0
14-2	79	1	1.00	8,600	0.89	5,100	10,300	0	0
14-3	80	1	1.00	6,000	0.62	6,000	13,000	0	0
14-4	81	1	1.00	5,200	0.54	6,100	7,000	0	0
14-5	82	1	1.00	6,400	0.66	1,600	7,200	0	0
14-6	83	1	1.00	4,900	0.50	4,900	13,100	0	0
15	84	2	0.91	2,600	0.47	4,400	7,100	0	800

B地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個/g	(概総量) kg/m ²	ヨシ属 個/g	タケ亜科 個/g	ウシクサ族 個/g	キビ族 個/g
14-1	71	3	1.00	5,200	1.61	1,700	10,500	0	0
14-2	74	2	1.00	5,100	1.05	5,900	5,100	0	0
14-3	76	2	1.00	3,600	0.74	5,400	12,600	0	0
14-4	78	2	1.00	4,900	1.01	1,600	8,200	0	0

表54 プラント・オパール分析結果(2)

第115図 イネのプラント・オパールの検出状況
●印は分析試料の採取箇所

仙台市、富沢35次 15層水田面

試料名	深さ cm	草高 cm	仮比重	イ 木	(総重量) kg/m ³	ヨシ属	タケモ科	ウシクサ族	キビ族
No. 1	0	3	1.00	0.88	0.93	1.39	0.34	0.25	0.00
No. 2	0	1	1.00	0.79	0.28	0.62	0.17	0.00	0.00
No. 3	0	4	1.00	0.97	1.36	0.97	0.11	0.00	0.00
No. 4	0	4	1.00	1.97	2.76	1.32	0.27	0.00	0.00
No. 5	0	3	1.00	1.12	1.17	2.63	0.42	0.00	0.00
No. 6	0	4	1.00	3.76	5.27	5.89	0.61	0.00	0.00
No. 7	0	4	1.00	3.70	4.51	0.62	0.47	0.00	0.00
No. 8	0	4	1.00	1.73	2.13	2.01	0.24	0.11	0.00
No. 9	0	3	1.00	1.97	2.07	0.62	0.28	0.00	0.00
No. 10	0	3	1.00	0.53	0.56	1.87	0.31	0.00	0.00
No. 11	0	3	1.00	1.12	0.98	0.62	0.13	0.00	0.00
No. 12	0	3	1.00	1.32	1.39	2.49	0.30	0.00	0.00
No. 13	0	2	1.00	1.56	1.09	0.55	0.17	0.00	0.00
No. 14	0	2	1.00	1.35	0.95	0.62	0.27	0.00	0.00
No. 15	0	2	1.00	2.63	1.42	4.78	0.52	0.00	0.00
No. 16	0	3	1.00	1.35	1.42	0.62	0.27	0.22	0.00
No. 17	0	3	1.00	0.91	0.80	0.49	0.15	0.00	0.00
No. 18	0	2	1.00	0.21	0.11	0.49	0.03	0.00	0.00
No. 19	0	2	1.00	1.23	0.87	0.69	0.15	0.22	0.00
No. 20	0	2	1.00	0.79	0.56	1.87	0.40	0.00	0.00
No. 21	0	2	1.00	0.56	0.39	0.62	0.38	0.00	0.00
No. 22	0	1	1.00	0.50	0.18	1.18	0.29	0.00	0.00
No. 23	0	—	1.00	0.53	—	0.62	0.22	0.00	0.00
No. 24	0	—	1.00	0.56	—	1.32	0.75	0.00	0.00
No. 25	0	1	1.00	0.59	0.10	1.39	0.29	0.00	0.00
No. 26	0	3	1.00	0.94	0.99	2.22	0.41	0.00	0.00
No. 27	0	3	1.00	1.12	1.17	5.34	0.55	0.00	0.00
No. 28	0	4	1.00	1.06	1.30	0.97	0.24	0.26	0.00
No. 29	0	4	1.00	1.09	1.52	0.49	0.11	0.00	0.00
No. 30	0	4	1.00	1.00	1.40	2.91	0.08	0.00	0.00
No. 31	0	5	1.00	1.41	2.22	2.63	0.09	0.00	0.00
No. 32	0	5	1.00	1.03	1.80	1.80	0.17	0.00	0.00
No. 33	0	3	1.00	0.59	0.53	0.55	0.17	0.00	0.00
No. 34	0	3	1.00	1.00	1.05	0.55	0.33	0.00	0.00
No. 35	0	—	1.00	0.50	—	0.55	0.16	0.00	0.00
No. 36	0	1	1.00	0.56	0.10	2.01	0.24	0.00	0.00
No. 37	0	1	1.00	0.29	0.05	2.08	0.62	0.12	0.00
No. 38	0	1	1.00	0.53	0.19	1.87	0.22	0.00	0.00
No. 39	0	2	1.00	1.62	1.13	1.87	0.09	0.22	0.00
No. 40	0	4	1.00	0.56	0.78	3.26	0.35	0.24	0.00
No. 41	0	4	1.00	0.82	1.01	0.62	0.27	0.00	0.00
No. 42	0	3	1.00	0.24	0.25	1.80	0.04	0.10	0.00
No. 43	0	5	1.00	0.44	0.70	1.59	0.40	0.00	0.00
No. 44	0	5	1.00	1.35	2.13	2.49	0.17	0.11	0.00
No. 45	0	3	1.00	0.26	0.23	3.33	0.18	0.24	0.00
No. 46	0	2	1.00	1.62	1.13	1.25	0.58	0.11	0.00
No. 47	0	3	1.00	0.74	0.77	1.11	0.52	0.10	0.00
No. 48	0	2	1.00	0.85	0.60	7.42	0.80	0.24	0.00
No. 49	0	2	1.00	0.53	0.37	7.83	0.50	0.11	0.00
No. 50	0	1	1.00	0.26	0.05	1.25	0.26	0.00	0.00
No. 51	0	—	1.00	1.12	—	0.62	0.23	0.11	0.00
No. 52	0	—	1.00	0.26	—	0.62	0.28	0.00	0.00
No. 53	0	—	1.00	1.18	—	0.69	0.59	0.12	0.00
No. 54	0	1	1.00	1.12	0.20	0.62	0.42	0.24	0.00
No. 55	0	—	1.00	0.24	—	1.18	0.29	0.10	0.00
No. 56	0	3	1.00	1.18	1.03	1.39	0.29	0.00	0.00
No. 57	0	5	1.00	0.53	0.93	0.00	0.22	0.11	0.00
No. 58	0	6	1.00	1.15	2.21	2.70	0.57	0.11	0.00
No. 59	0	3	1.00	2.88	3.03	7.48	0.80	0.24	0.00
No. 60	0	3	1.00	0.82	0.87	7.28	0.13	0.11	2.32

表55 植物体生産量の推定値(1)

単位 (kg / m² · cm)

Na10水田圃

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ	(根総量) kg/m ²	ヨシ属	タケ草科	ウシクサ族	キビ族
1	0	—	1.00	0.50	—	0.55	0.30	0.00	0.00
2	0	1	1.00	1.29	0.23	4.30	0.60	0.00	0.00
3	0	1	1.00	1.76	0.62	2.98	0.37	0.00	0.00
4	0	1	1.00	1.32	0.23	6.24	0.48	0.00	0.00
5	0	4	1.00	1.71	2.38	4.50	0.21	0.00	0.00

A地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ	(根総量) kg/m ²	ヨシ属	タケ草科	ウシクサ族	キビ族
13	76	2	1.00	1.18	0.82	2.08	0.29	0.00	0.00
14-1	78	1	1.00	2.29	0.80	2.36	0.42	0.00	0.00
14-2	79	1	1.00	2.53	0.89	3.53	0.49	0.00	0.00
14-3	80	1	1.00	1.76	0.62	4.16	0.62	0.00	0.00
14-4	81	1	1.00	1.53	0.54	4.23	0.34	0.00	0.00
14-5	82	1	1.00	1.88	0.66	1.11	0.35	0.00	0.00
14-6	83	1	1.00	1.44	0.50	3.40	0.63	0.00	0.00
15	84	2	0.91	0.68	0.47	2.70	0.31	0.00	0.85

B地点

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ	(根総量) kg/m ²	ヨシ属	タケ草科	ウシクサ族	キビ族
14-1	71	3	1.00	1.53	1.61	1.18	0.50	0.00	0.00
14-2	74	2	1.00	1.50	1.05	4.09	0.24	0.00	0.00
14-3	76	2	1.00	1.06	0.74	3.74	0.60	0.00	0.00
14-4	78	2	1.00	1.44	1.01	1.11	0.39	0.00	0.00

表56 植物体生産量の推定値(2)

単位(kg/m²·cm)

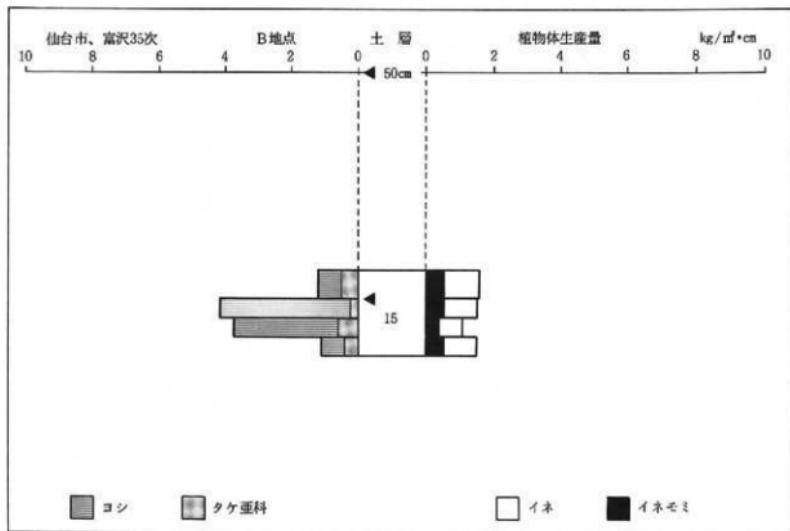
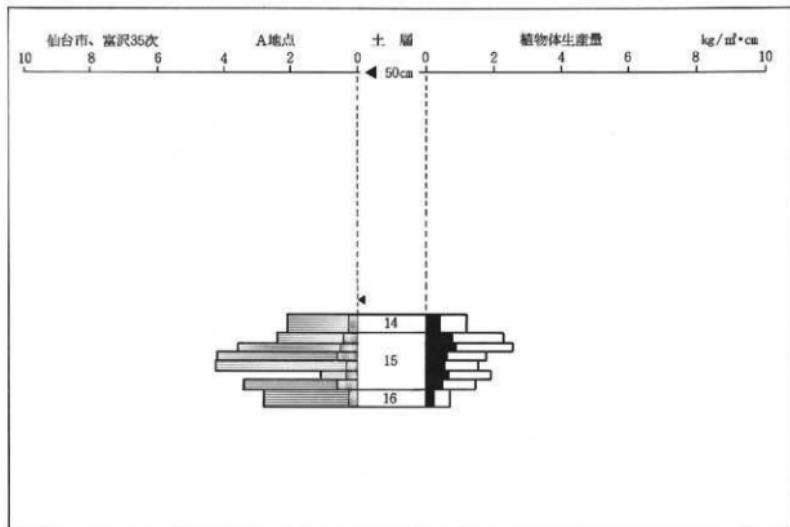
の推定量が低い地点はおもに水路の周辺に分布しており、水路から離れた調査区の南東部一帯などでは比較的高い値となっている。イネの植物体量にこのようなばらつきがあることの原因について、層厚との関係から検討を行った。

15層水田層の層厚は、厚いところで4cm前後、薄いところでは1cm未満であり、同層がほとんど見られないところもあった(第120図)。層厚が薄いところではおもに水路の周辺に分布しており、これらの地点では水田耕作土が砂質になる傾向が見られた。

水田耕作土の層厚とイネの植物体量の関係を見ると、層厚が4cm以上のところでは平均1.4kgと比較的高い値であるが、層厚が3cmおよび2cmのところでは1.1kg、1cm未満のところでは0.5kgと、層厚が薄いほど密度が低くなる傾向が認められた。

A地点では、同水田層について上下方向に細かく分析を行ったが、上部ほどイネのプラント・オパール密度が高く、下部ほど低くなる傾向が見られた。このように、プラント・オパール密度は水田層上面で最大値を示すのが通例である。

以上のことから、水路の周辺では洪水によってイネのプラント・オパール密度の高い水田層上部の土壌が流出したものと推定される。その結果、密度が比較的低い下部の土壌のみが残され、層厚が薄くなるとともにプラント・オパール密度も低くなったものと考えられる。なお、水田区画の大きさと植物体量との間には、明瞭な対応関係は認められなかった。



第116図 おもな植物の推定生産量と変遷
(注) ▲印は25cmのスケール

(2) 同一区画内での比較

Na10水田区画では、水口と水田耕作面および畦畔から採取した5試料について分析を行った。その結果、すべての試料からイネのプラント・オパールが検出された。密度は水口で1,700個／gと低い以外は、耕作面で4,400～6,000個／g、畦畔でも5,800個／gと比較的高い値である。畦畔において耕作面とほぼ同量のプラント・オパールが検出された原因として、①数回にわたる畦畔の作りかえがあったこと、②畔塗りの際に耕作土を盛土したことなどが考えられる。

(3) イネの生産総量について

イネのプラント・オパール密度から、同水田跡で生産された稲穂の総量を推定したところ、面積10aあたり1.0tと算出された。当時の稲穂の年間生産量を面積10aあたり100kgとし、稻わらがすべて水田内に還元されたと仮定すると、同層で稻作が営まれた期間は約10年間と比較的短期間であったものと推定される。もっとも、同水田跡では上述のように表土の流出などが想定されることから、実際に稻作が営まれた期間はこれよりも若干長かったものと思われる。

(4) ヨシ属およびタケ亜科について

イネ以外では、おもにヨシ属やタケ亜科などが見られた。このうち、ヨシ属はほぼ全地点で検出された。植物体量の推定値は平均1.9kgとイネよりも高い値であるが、低いところでは1.0kg未満、高いところでは5.0kg以上と地点によってかなりのばらつきが認められた。イネについては、水路の周辺部で植物体量の推定値が低くなる傾向が認



第117図 15層水田跡におけるイネの推定生産量と分布状況

第118図 15層水田跡におけるヨシ属の推定生産量と分布状況

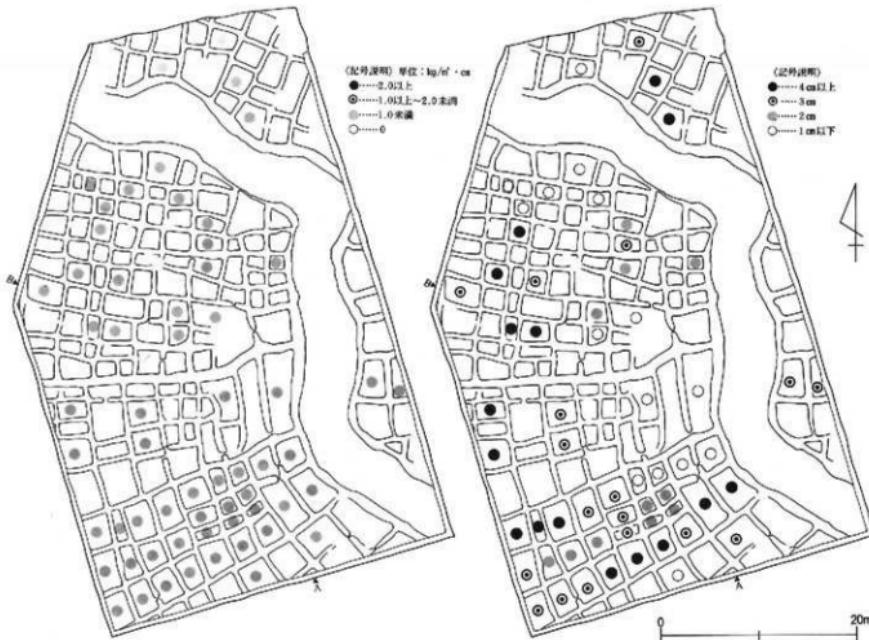
められたが、ヨシ属については分布状況に一定の傾向は認められなかった。

水田跡からヨシ属が多く検出される原因として、①ヨシの繁茂する湿地を開いて水田が造成されたこと、②水路の縁や上流部などにヨシ属が繁茂しており、そこから水田内にプラント・オパールが流れ込んだこと、③水田雜草としてヨシが生育していたことなどが考えられる。

タケア科は全地点で検出されたが、植物体量の推定値はすべて1.0kg未満と少量である。タケア科は比較的乾燥した土壤条件を好みことから、現地で生育していたことは考えにくい。したがって、タケア科についてはその大部分が上流域など他所からの流れ込みと考えられる。

＜参考文献＞

- 杉山真二・藤原宏志。1987. 川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析。赤山一古墳境編一。川口市遺跡調査会報告、第10集、281-298。
- 藤原宏志。1976. プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の硅酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学、9: 15-29。
- 藤原宏志。1979. プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)-福岡・板付遺跡(夜臼式)水田および群馬・日高遺跡(弥生時代)水田におけるイネ(O. sativa L.)生産量の推定-。考古学と自然科学、12: 29-41。
- 藤原宏志・杉山真二。1984. プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-。考古学と自然科学、17: 73-85。



第119図 15層水田跡におけるタケア科の推定生産量と分布状況

第120図 各地点における15層水田層の層厚

第5章 考 察

第1節 出土遺物

I. 遺物の出土状況と問題点

ここでは第3章で触れることのできなかった全体的な遺物の出土状況と種別・層位の認定に関する問題点について述べることとする。

1. 全体的な遺物の出土状況

遺物は1~16・18・22a・23a・23b・25・26・41層からと、層位が不明なもの計3,722点が出土したが、破片の接合結果から修正すると^(付1)2,908点(表57)となる。

これらの遺物(主に土器類)の出土状況の特徴として次の2点があげられる。

- a. 大部分の遺物が細片となっている。これは水田耕作による土壤の攪拌に伴う結果と考えられる。
- b. 同一層に年代の異なる遺物が混在し、複数の層から出土した破片が接合する例も多く認められる。これは水田耕作土が重層的に存在し、特に1~12層(調査は3層から実施)は間層を挟まずに連続しているために、耕作によって下層から巻き上げられた遺物がさらに上層の水田耕作によって巻き上げられたり、逆に踏み込まれて下層に押し込まれる頻度が高いためと推定される。

このため、遺物の種別・器種等の判別と、各層に含まれる混入品を除外して各層の共存遺物を限定するにあたっては多くの制約を受けている。これらすべての問題点を解決することはできなかったが、一応以下の方法を試みてみた。

2. 種別・器種等の判別

土器類は細片となっているものや磨滅しているものが多いため、すべてについて種別・器種・製作技法を判別するのは極めて困難であり、最終的に不明なものが残ることは避けられない状況であった。このため、分類にあたっては推測をなるべく避ける方法をとった。種別については、土師器・赤焼土器・須恵器の可能性があるが断定はできないものをそれぞれの「?」の項目に分類し、全く不明なものを便宜的に「種別不明な素焼土器」とした。器種・調整技法についてもそれぞれ「不明」の項目を設けた他、高台付环と环は口縁部や体部の破片では区別がつかないため、表中ではすべて环に含めている。

3. 出土層位の認定

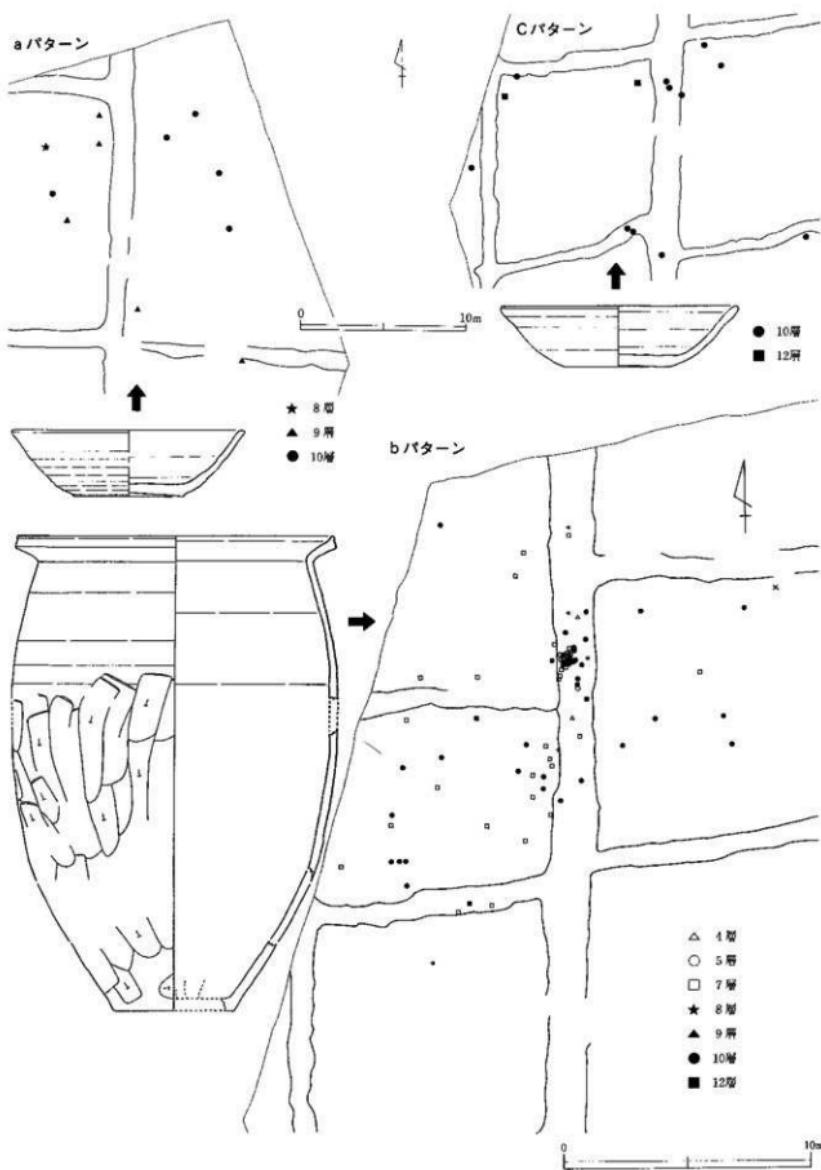
各層に伴う遺物を限定するためには、他層からの混入遺物を除外する必要があり、できればさらにこれらの混入遺物が本来どの層に伴うものかも判断する必要があるが、接合できなかった単独の破片と接合資料とでは条件が異なっている。

他と接合しない破片については、出土状況からだけでは判断できず、本来の所属層についてはある程度の幅を持つた推定に留まらざるを得ない。ただし、陶器・磁器は小片であっても年代が判別できるものもあるため、各層の遺物を総合的に検討して各層に伴う遺物を推定した。

一方、いくつかの破片が接合した資料については接合したすべての破片が同一層からのみ出土している例が約22%あり、この場合はその層に伴う可能性が高いと考えられる。また、接合した破片が異なる層から出土している場合には大別して以下のような3種類のパターンが認められた(第121図)。

- a. 破片の分布する最下層が最も数が多く、上層になるに従って破片数が減少する。固化できた遺物のうちこのパターンが最も多く、約43%を占める。

表57 破片统计表



第121図 遺物の接合パターン

- b. 破片の分布する層のうち中位の層から出土した破片数が最も多く、上・下層になるに従って数が減少する。全体の約14%がこのパターンである。
- c. 上層に含まれる破片数が最も多く、下層が少ない。このパターンはもっとも少なく、全体の約8%認められるのみである。

これらa・b・cのいずれの場合にも基本的に破片数が最も多い層をその遺物の伴う層と推定し、破片数がほぼ同じ場合は、aの例が最も多いことを考慮して、下層を優先した。

なお、破片数が少なくいざれとも判断し難い例が約12%あったが、この場合は破片の大きさも考慮に入れて総合的に判断している。

II. 出土遺物の特徴と年代

出土遺物の編年上の位置や年代を検討するにあたっては次のような問題点がある。

- ① 遺物の数量が少なく、各層によって偏りがある。特に13層以下の遺物が極端に少なく、共伴遺物がほとんど無い。
- ② 12層から上層は比較的遺物の量が多いが、水田耕作土が連続しているため「1」で述べたように他の層からの混入が多い。それに加えて10層水田跡の出土遺物については第3章で述べたように11層水田跡に係わる遺物や、11層水田によって下層から巻き上げられた遺物までも含んでいる可能性がある。
- ③ 一般的に水田跡の存続期間は住居跡等と比べて長いと考えられるため、編年上異なる時期の遺物が混在している可能性がある。

以上のような様々な要因により、出土状況からは各層における確実な共伴関係を捉えることができず、特に12層から上層については②と③の要因が重複することによってますますそれが困難な状況であった。この結果、13層から下層の遺物については大部分が各個体ごとの検討に留まっており、また12層から上層の遺物についても土器群を設定することはできなかったが、破片も含めた出土状況からある程度は各種の遺物が伴う層を推定できるため、個々に考察を加えたもののに、大まかなまとまりの中で総合的に検討したものもある。

1. 強生土器

18・23a層から数点出土しているが、ある程度形態や文様が判別できるのは18層出土の壺（第79図2）1点のみである。これは、口縁部～体部上半が遺存し、沈線によって不整な重菱形文、連続山形文、変形工字文などが描かれていて、特異な文様構成である。類例を求めるのは困難であるが、青森県はりま館遺跡D区（大野他：1990）の出土遺物に文様の一部が類似したものがあり、これらは「天王山式」に比定されている。当調査区の土器は天王山式土器に特有の形態・文様・技法等の諸要素のうちいくつかが欠落あるいは土器の欠損のため不明となっているため断定はできないが、全体的に見てほぼ天王山式に併行する可能性が考えられる。

2. 土器器

土器器の可能性のある破片も含めると1760点出土した。内訳は表57の通りで、非ロクロ土器器（I類）とロクロ土器器（II類）に大別できる。

(1) 非ロクロ土器器（I類）

主に10～18層に認められるが（表57）、10層中のものはすべて細片であるので、これらはすべて下層から巻き上げられた可能性がある。器種は壺、高壺、碗、壺、甕があるが、固化できたものは少なく、特に高壺、碗については細片のため詳細は不明である。

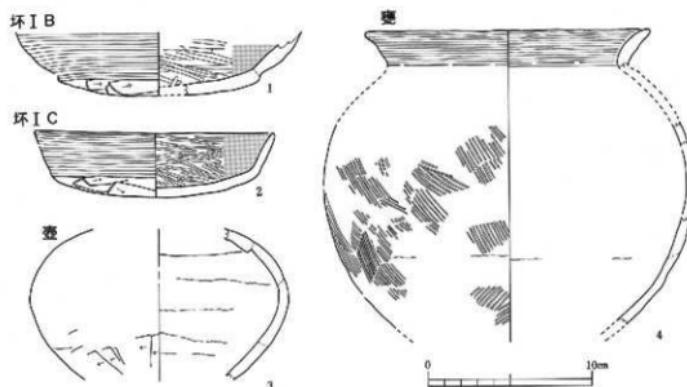
壺 14層最下部（第64図2）、14層上面（第122図1）、12層水田跡（第122図2）から出土した3点のみである。点数は少ないが、すべて異なる特徴を有するため一応分類を行った。

I A類 14層最下部から出土した破片である。口縁部は直立するかやや内傾すると推定され、底部は全く遺存しな

いが、平底になる可能性がある。調整は外面がナデ、内面がハケメ状のヘラナデ後ナデが施される。細片のため断定はできないが、「南小泉式」に認められる平底の坏である可能性がある。

I B類 丸底で外面に段を有しており、内面には明瞭な段や稜は認められないが、わずかに屈曲している。口縁部は欠損しているが、ほぼ直線的に延びると推定される。調整は外面がヨコナデと手持ちヘラケズリ、内面にはヘラミガキ・黒色処理が施されている。口縁部を欠損しているため判然としないが、口縁部が比較的大きく開いて低い器高のものは仙台市栗遺跡（工藤他：1982）III a・III b類、名取市清水遺跡（丹羽他：1981）IV・V群土器に多く認められる器形で、栗圓式（氏家：1957）に相当すると考えられる。なお、清水遺跡の報告では第IV群土器には口縁が外反ぎみのものが多く、第V群土器には直線的なものが多いとされているので、I B類は同遺跡の第V群に相当する可能性がある。清水遺跡の第V群土器は7世紀中葉～後半に位置づけられており、一方、栗遺跡のIII a・III b類（III a・III b期）は下限が7世紀末以前とされているのみで明確にはされていないが、栗圓式を I・II・III a・III b の4期に区分していることから、大体III a・III b期は栗圓式の後半と考えてもよいと思われる。したがって大まかではあるがI B類は栗圓式の後半頃と推定される。なお、内面の段や稜がほとんど認められないと、外面の段が下位にある点は、国分寺下層式（氏家：1957）の特徴の一つともなっており、高清水町観音沢遺跡（加藤・阿部：1980）や仙台市郡山遺跡第43次調査（木村他：1985）SD35上層の土器群とも一部共通している。観音沢遺跡⁽¹²⁾の土器群は国分寺下層式の前半、郡山遺跡 SD35 上層の土器群は7世紀末～8世紀初頭と推定されているので、このことからも I B類が栗圓式の中でも国分寺下層式に近い時期のものである可能性が考えられ、先の推定の傍証になると考えられる。なお、他に明確な共伴遺物がないため、より詳細な年代の検討はできない。

I C類 平底風丸底で、体部と底部との境に軽い稜が形成されている。調整は外面がヨコナデと手持ちヘラケズリ、内面にはヘラミガキ・黒色処理が施されている。このような特徴の坏は志波姫町御駒堂遺跡（小井川・小川：1982）第IV群、清水遺跡第VI群や前述した郡山遺跡 SD35 上層の土器群などに類例がある。御駒堂遺跡第IV群土器は国分寺下層式の後半、清水遺跡第VI群土器はその前半頃、郡山遺跡 SD35 上層の土器群は前述したように7世紀末～8世紀初頭頃と推定されている。これらのことから、この I C類の坏は大体国分寺下層式の初期から後半に至る比較的長期間にわたって存続したと考えられる。したがって国分寺下層式の範囲に含まれることは明らかではあるものの、単独では詳細な年代を推定することはできない。



第122図 土器 I類

壺 15層水田跡から出土した1点(第122図3)のみで、やや偏平な球状の体部を呈する。調整は外面がヘラケズリ後ナデ、内面はナデが施されている。このような小型の壺は塙釜式及び南小泉式(氏家:1957)に認められるが、概して塙釜式の壺は体部外面に丁寧なヘラミガキが施される場合が多く、年代が下るに従ってしだいに粗雑になる傾向がある。当調査区の壺は調整技法からすれば南小泉式に含まれる可能性が高く、14層最下部から出土している坏I A類との関係も矛盾しないと考えられる。

甕 18層水田跡(第122図4)と13層中(第63図1)から出土した2点のみで、前者は単口縁で頸部は「く」字状に肩曲し、体部は球形を呈する。外面調整はハケメである。器形や調整技法の特徴は歲正町大橋遺跡(太田:1980)第1号住居・亘理町宮前遺跡(丹羽:1983)I B群土器の甕に類似することから塙釜式に比定される。なお、宮前遺跡では塙釜式の土器群を段階的にI A・I B・I C群に分類し、大橋遺跡の土器群をI A群に併行する時期と捉えているので、当遺跡の甕の年代はやや幅を持つことになる。他に共伴遺物がないので断定はできないが、おおよそ塙釜期の前半頃のものと推定される。

後者は頸部から口縁部にかけて緩やかに外反するものであるが、細片のため詳細は不明である。

(2) ロクロ土師器(II類)

12層から上層に認められるが、12層中のものはすべて細片で数量もごくわずかであること、また7層段階で数量が激減することから、本来は11~8層に含まれていた可能性が高く、7層についてはどちらとも判断し難い。なお、これららの詳細な年代については赤焼上器・須恵器を加えて総合的に検討した。器種は坏、高台付坏、甕が確認できたのみである。

坏 固化できたものはすべて、底部切離しは回転糸切りで、再調整は一部のものを除いては認められない。このため器形によって4種に大別した。

II A類 10層水田跡から出土した3点(第123図1・2・3)がある。体部がやや膨らみをもって立ち上がり、口縁部が外反する。底径口径比は0.39~0.49である。器高がやや高いものと低いものがある。

II B類 7層水田跡から出土した1点(第123図4)のみである。体部が膨らみをもって立ち上がり、口縁部が比較的強く外反する。底径口径比は0.43である。

II C類 9~10層水田跡から出土した2点(第123図5・6)の他7層水田跡出土の1点(第30図1)も含まれる可能性がある。体部はほぼ直線的に開き、口縁部はわずかに内湾する。底径口径比は0.33~0.38でやや小さい。なお、の中には体部下端に手持ちヘラケズリが加えられるものがある。

II D類 10層水田跡から出土した1点(第123図7)のみである。体部がほぼ直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。底径口径比は0.34と小さい。

高台付坏 固化できたものは8~10層水田跡から出土した2点のみで、しかも全体の器形が判るものはない。8層水田跡のものは断面が三角形の低い高台が付く。

甕 破片数は多いが、固化できたものは8層水田跡(第35図8)、10層水田跡(第46図12・13・14)から出土した4点のみである。大型と小型のものがあり、すべて異なるタイプであるが特に分類は行わなかった。

これらのロクロ土師器(II類)は従来の編年による表杉ノ入式(氏家:1957)に相当する。表杉ノ入式は赤燒土器や須恵器との共伴関係と共に、坏を中心として底部の切り離し技法、再調整の有無と再調整技法、器形(主に底径口径比)を基準として編年の細分が試みられている。^(註4)これらの各要素はそれぞれが関連しつつ徐々に変化していくため、変遷の画期は一律には捉えられないが、この中の再調整の有無については①再調整のあるものが主体の段階→②再調整のあるものと無いものが共伴する段階→③再調整の無いもののみで構成される段階と変遷し、再調整技法は古い段階には回転ヘラケズリが多く、新しい段階には手持ちヘラケズリが多くなる傾向にあること、またこれらの変化と共に底径口径比が小さくなっていくことなどが指摘されている。

県南部においてはこの①から③への変遷は以下のような流れで理解されている。^(註5)

[①段階]

亘理町宮前遺跡第20号住居（宮前第IVA群）……………（丹羽：1983）

↓

白石市青木遺跡第21号住居・大河原町台ノ山遺跡第8号住居……………（小川：1980、阿部・千葉：1980）

↓

[②段階]

藤王町東山遺跡土器窯……………（真山：1981）

↓

白石市家老内遺跡第2号住居・亘理町宮前遺跡第54号住居（宮前第IVB群）………（真山：1981、丹羽：1983）

↓

[③段階]

仙台市安久東遺跡・名取市清水遺跡第9号溝内第1号土坑（清水第VIIIC群）………（土岐山：1980、丹羽：1981）

↓

仙台市（旧泉市）鹿島遺跡第1・4号土坑（鹿島B群）……………（佐々木：1984）

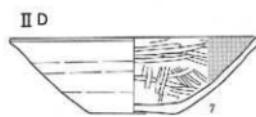
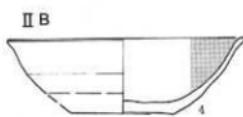
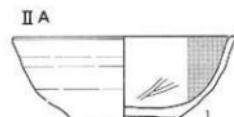
↓

白石市植田前遺跡第2溝状遺構……………（加藤：1981）

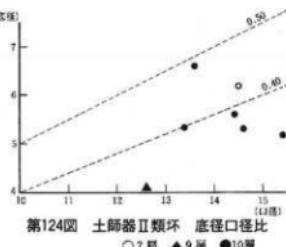
この他のまとめた資料としては清水遺跡第VIIIC群土器がある。報告書中では時期は確定されていないが、回転糸切り無調整のものが主体となることから、家老内や宮前IVB群と同時期か、あるいはこれらと安久東との間に位置づけられよう。

II類として図化できた坏は7・9・10層水田跡から出土している。これらがそのまま各層に伴うとは断定できないため、一応ある程度の年代幅を持った一群として考えを進め、その後で修正を加えたい。まず底部の切り離し技法や再調整技法を見ると、II C類の中に体部下端に手持ちヘラケズリが加えられるものがあるのみで、底部はすべて回転糸切り無調整である。なお、図化できなかった小破片を観察した結果でも、底部に手持ちヘラケズリが加えられているものが若干認められた程度で、他はすべて回転糸切り無調整であった。資料数が少ないためこれらが土器組成（ここでは坏を対象）のすべてを表しているとはかぎらないが、一応II類の坏は大部分が回転糸切り無調整のもので占められ、これに体部下端や底部に手持ちヘラケズリが施されるものがごく少数加わると考えられる。手持ちヘラケズリは回転糸切り無調整のもののみになる段階の前段階に多い技法と考えられているので、調整技法という点から見れば、II類は近接した時期の一群と考えられる。

次にこれらの底径口徑比を見ると、II A類とII B類が0.39～0.49、II C類が0.33～0.38、II D類が0.34でばらつきがある。先に述べたように、一般的には底径口徑比は時期が新しくなるに従って小さくなる傾向にあり、宮前第IVA群（0.6前後）から徐々に減少し、安久東（0.35前後）^(註6)の段階まではスムーズに変遷することが指摘されている。しかし、坏が回転糸切り無調整のもののみで占められる段階の安久東・清水VIIIC群→鹿島B群→植田前という変遷における底径口徑比の平均値はそれぞれ0.36、0.38、0.40で、この段階になると底径口徑比の減少という傾向はあてはまらなくなるようである。言い換えば、おおよそ宮前IVA群（0.6前後）から安久東（0.32～0.45で平均0.35前後）の段階くらいまでは底径口徑比による比較が有効であると考えられる。当調査区のII類をあてはめてみると、II A・II B類（0.39～0.49）がII C・II Dよりもやや古い要素を有していることは窺える。仮にこれらが時期差を示すとすれば、II A・II B類は調整技法からは安久東や清水VIIIC群、底径口徑比からは家老内2号住居や宮前IVB群の段階に相当し、II C・II D類は安久東～鹿島B群の段階と推定することは可能である。ただし、上記各段階の



第123図 土器群II類



第124図 土器群II類底径口徑比

○ 7層 ▲ 9層 ● 10層

土器群の底径口径比はかなりの幅を持っており、単にある一つの土器群内の様相を表すものである可能性もある。なお、7層水田跡から出土したII B類は古い様相を呈している。赤焼土器の項で述べるが、8層から出土した赤焼土器との関係から見て、8層より新しい段階にこのタイプの土器群が認められる例はないことから、このII B類は9・10層から巻き上げられた可能性が高いと考えられる。

以下の点をまとめると、9・10層から出土した土器群II類はこれだけを見るかぎり、異なる時期のものが混在している可能性はあるものの、安久東・清水ⅦC群の時期を中心とし、その前後の家老内2号住居・宮前IVB群と鹿島B群の時期も含めた頃の所産と考えられる。

3. 赤焼土器

赤焼土器の可能性のある破片も含めると463点出土した。出土層位は1~12層であるが、赤焼土器として確実なもののは10層以降に認められる（表57）。下限は明確ではないが、破片の出土状況から見て本来は6・7~10層に伴うと考えられる。器種は壺・高台付壺がある。

壺 器形によって3種に分類した。

A類 8層水田跡から出土した3点（第125図1~3）がある他、さらに8層水田跡の1点（第35図4）と9層水田跡の1点（第39図2）も含まれる可能性がある。体部が膨らみをもって立ち上がり、口縁部が外反する。底径口径比は0.39~0.42である。

B類 8層水田跡から出土した1点（第125図4）がある。体部はやや膨らみを持ち、口縁部は大きく開いて外反する。底径口径比は0.34である。

C類 5層水田跡から出土した1点（第125図5）がある。体部は膨らみを持ち、口縁部はそのまま大きく開く。A・B類に比べて肉厚で、胎土も異なっている。底径口径比は0.41である。

高台付壺 図化できたのは10層水田跡出土の1点（第46図11）のみである。高く張り出した高台が付くが、底部のみの遺存のため全体の器形は不明である。

これらの赤焼土器のうち図化できたものは5点で、このうちC類は5層水田跡から出土しているが、先に述べたように破片も含めた出土状況からすると、赤焼土器は6・7層~10層に伴う可能性が高いことから、これは下層から巻き上げられたものと考えられる。なお、8層水田跡から出土したA・B類は層的にまとまっていることから、

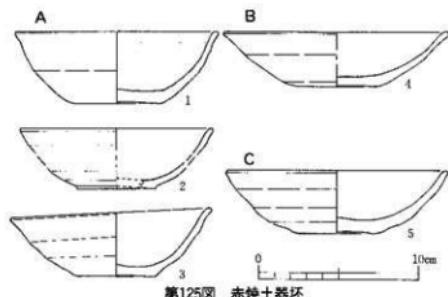
これらはほぼ同時期の所産と考えられる。

赤焼土器については色麻町上新田遺跡（小沢川：1981）においてそれまでの概念規定に対する疑問が提示され、赤褐色を呈する土器がクロコ技術の導入期から存在したことが指摘されており、多賀城市水入遺跡（森：1982）においても同様の指摘がなされている。上新田の時期の赤褐色土器と古代木のいわゆる赤焼土器を同一系統として捉えることには異論^(註10)もありその変遷はまだ明確にはされていないが、当調査区の5・8層から出土した赤焼土器は器形から見て上新田のものとは異なり、従来の概念でいう赤焼土器の範疇に含まれる。

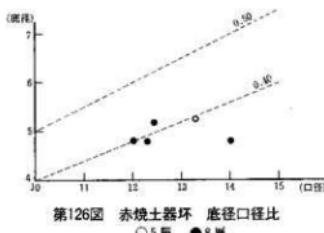
県南部で赤焼土器がまとまって出土しているのは、安久東遺跡、清水遺跡ⅧC群、鹿島遺跡B群、植田前遺跡などの他、量はそれほど多くはないが郡山遺跡第55次調査（木村他：1986）SI776と同84次調査（斎野：1990）II a層水田跡一括出土土器がある。环の器形は植田前のものが肉厚で他と区別されるが、安久東・清水ⅧC群・鹿島B群の変遷に伴う大きな器形変化は認められず、赤焼土器の比率の増大や、赤焼土器小皿の出現・増加等によってその変遷が説明されている。なお、郡山遺跡第84次調査II a水田跡一括出土土器は土師器環2点、須恵器環1点、赤焼土器環3点、同高台付環2点が重なって出土したもので、环はすべて回転糸切り無調整である。底径口徑比は土師器が0.45と0.46、須恵器が0.37、赤焼土器が0.35～0.46で、土師器は家老内遺跡2号住居や宮前遺跡第IV B群土器に類似すること、赤焼土器を半数以上含むことから家老内2号住居や宮前IV B群よりは新しく、安久東や清水ⅧC群よりは古い段階のものと推定される。また郡山遺跡SI776出土土器は土師器の底径口徑比が0.35と0.38と小さく、赤焼土器環に器高が低く皿に近い形態のものを含む点から同II a層水田跡の土器よりは新しいと考えられ、安久東や清水ⅧC群にかなり近い時期と推定できる。^(註11)

当調査区の赤焼土器をあてはめてみると、A・B類は上記の郡山84次II a層水田跡、同SI776、安久東、清水ⅧC群、鹿島B群に認められる。これらの遺跡では前述したように环の器形にそれほどの差異はない。ただ、当調査区で確認できたものはすべて环で小皿が全く含まれていないことから、郡山II a層水田跡～安久東・清水ⅧC群の段階と推定される。一方C類であるが、これは器形的には植田前のものに類似している。先に述べたように破片の出土状況からすると赤焼土器の下限は下っても6層段階と考えられるため、5層には伴わないと推定されるが、6層あるいは7層に伴っていた可能性はある。したがって、やや曖昧ではあるが、A・B類とC類の新旧関係は、器形・層位的に一致すると言える。

なお、赤焼土器A・B類が出土した8層より下層にも量は少ないが赤焼土器片が含まれている。確實に赤焼土器として同化できたのは10層水田跡出土の高台付环1点のみであるが、この他10層水田跡から出土した須恵器底部破片の中において棕色及び淡黄色を示すものがある（第47図9・10）。焼成が他の須恵器と違って軟質であり、断定はできないが、これらが上新田で言う赤褐色土器である可能性はある。



第125図 赤焼土器環



第126図 赤焼土器環 底径口徑比

○ 5層 ● 8層

4. 須恵器

須恵器の可能性のある破片も含めると208点出土した。出土層位は1~12層であるが、層ごとの数量を比較すると(表57)、本来は8~12層に伴うと考えられる。器種は壺、壺蓋、壺、甕がある。

壺 底部の切離し技法・再調整技法によってⅠ~Ⅲ類に大別し、さらに器形によって細分した。

I類 底部の切離し技法は不明であるが、体部下端と底部または底部のみが回転ヘラケズリによって再調整されるもの。

I A類 12層水田跡から出土した1点(第128図1)のみである。体部はやや膨らみを持って立ち上がって直線的に開き、口縁部はわずかに外反する。外面の体部下端には軽い段を有し、体部と底部との境が不明瞭である。底径口径比は0.69とかなり大きい。

I B類 10層水田跡から出土した2点(第128図2・3)がある。体部はやや膨らみを持ち、口縁部はわずかに外反する。底径口径比は0.56~0.66とかなり大きい。

II類 底部が回転ヘラ切りのもの。再調整されないものとナデ調整されるものがある。

II A類 12層から出土した1点(第128図4)がある。体部はやや膨らみを持ち、口縁部はほぼ直線的である。底径口径比は0.56で大きく、底部のほぼ全面にナデ調整が施される。

II B類 12層水田跡から出土した1点(第128図5)のみである。体部から口縁部までわずかに外反しながらも直線的に開く。底径口径比は0.58とかなり大きい。

II C類 10層水田跡から出土した2点(第128図6・7)がある。体部はやや膨らみを持ち、口縁部はごくわずかに外反する。底径口径比は0.44と0.50である。底部に部分的にナデ調整が施されるものがある。

III類 底部は回転系切りで再調整されないもの。

III A類 12層水田跡から出土した1点(第128図8)のみである。体部はやや膨らみを持って立ち上がるが、口縁部まで直線的に開く。底径口径比は0.59とかなり大きい。

III B類 10層水田跡から出土した3点(第128図9~11)がある。体部はやや膨らみを持って立ち上がるが、口縁部まで直線的に開く。III A類に比べて体部の開きが大きいため口径もやや大きい。底径口径比は0.43~0.48でやや小さい。

III C類 10層水田跡から出土した1点(第128図12)のみである。体部は膨らみを持ち、そのまま口縁部に至る。底径口径比は0.46でやや小さい。

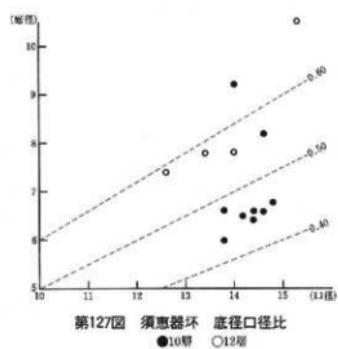
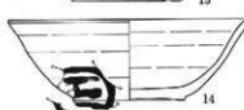
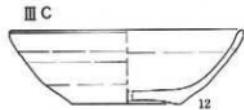
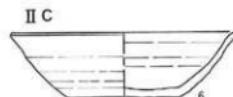
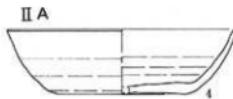
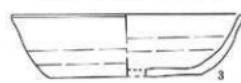
III D類 10層水田跡から出土した2点(第128図13・14)がある。体部は膨らみを持って立ち上がり、口縁部は比較的強く外反する。底径口径比は0.46でやや小さい。

壺蓋・壺・甕 大部分が細片のため分類はできず、詳細は不明である。

次に壺を対象として検討を加えていきたい。壺は10・12層水田跡から出土しているが、同一層から出土したものでも製作技法や器形には多種多様なものがある。このためまず各タイプの新旧関係や共伴関係について検討し、その後全体的な考察を加えることとする。

まず、I A類は他と比べて異質なものであり、明らかに古墳時代に属すると考えられる。郡山遺跡第15次調査(木村他:1982)5層出土遺物に類例が認められるが、遠隔外の出土のため共伴関係や年代は明らかではない。なお、外面に段を有する点は、清水遺跡第V群土器、郡山遺跡第24次調査(木村他:1983)SI261出土遺物に共通するがこれらは段が中位にあり、I A類よりは古いタイプである。したがってI A類は清水V群や郡山SI261よりも新しい段階のものと考えられ、大体7世紀末を中心とする墳の所産と推定される。

次にI B・II・III類であるが、表58は年代がある程度判明している遺跡における各タイプの須恵器の組み合わせを見たものである。各遺跡における土器のセットはI~III類以外にも多くあり、特に当調査区I~III類には切り離



第127図 須恵器環 底径口径比
●10層 ○12層

第128図 須恵器環

し後手持ちヘラケズリを加えるタイプが欠落しているが、その点を考慮に入れながら検討を加えていきたい。

II A類は I B類と同じ器形であるがヘラ切り後にナデ調整を加えるものである。表で II A類としている御駒堂第IV群と東山遺跡のもの（△印）はナデ調整が加えられていないので厳密には II A類とは異なるが、ヘラ切り痕が残る意味では共通するので II A類に含めた。ただし II A類は調整技法の簡略化という流れから見れば I B類と御駒堂第IV群・東山との間に位置する可能性はある。I B・II A類の関係をまとめると、I B類は8世紀代にのみ認められるが、I B・II A類の器形自体は大体9世紀中頃まで存続している。II A類の調整技法はI B類よりは後出的ではあるが、技法の変遷の流れから考えると両者が共存する時期が考えられ、II A類の上限については断定できない。また下限についてもヘラ切り無調整のものよりも遅ると考えられるものの良好な比較資料がなく、東山遺跡と同時期にまで下る可能性があると考えられる。

II B類とIII A類は底部の切り離し技法は異なるが、器形的にはほぼ同じものである。ヘラ切りのII B類は東山遺跡に加えて河南町須江糖塚遺跡（高橋・阿部：1987）II群土器や多賀城市水入遺跡（森：1982）などで認められる他、これの体部下端に手持ちヘラケズリが加わるタイプは清水遺跡第VII群土器などに類似がある。なお多賀城ではA～D群土器（白鳥：1980）に共通して認められており、これらの遺跡においては大体8世紀後半から9世紀前半頃の年代が与えられている。なお、回転糸切り無調整のIII A類は東山遺跡の他に水入遺跡等で認められ、技法はII B類よりも後出的であるが、器形から見てII B類とほぼ同じ時期のものと推測できる。

II C類及びIII B・III C・III D類については複数の出土例があるため、大まかな存続年代を推定することは可能である。II C類が東山遺跡の段階で消失するのに対し、III B・III C・III D類は器形が変化しつつ安久東頃の段階まで存続することが見てとれる。ただ、底径口徑比を見ると、当調査区のIII B・III C・III D類は安久東のものよりも明らかに古いたypである。

以上のように各タイプを概観したが、次に10・12層水田跡におけるあり方にについて検討してみたい。

宮城県内における須恵器环の編年は生産地を基準にしたものと消費地を基準にしたものとでは必ずしも一致しない点があるが、その変遷の概要はほぼ明らかにされている。ここではその詳細までは触れないが概観すると製作技法は回転ヘラ切り後体部下端～底部全面に回転ヘラケズリを加える段階→回転ヘラ切り無調整の段階→回転糸切り無調整の段階と移行し、それに伴って器形も変化している。そして、これらの製作技法や器形の各要素はかなりの長期間に渡って重複しながら徐々に新しいタイプに移行していくことが指摘されている。^(註13)

年代	主な遺跡	タイプ		I			II			III		
		A	B	A	B	C	A	B	C	D		
8世紀前半	観音沢		○ ^(註13)									
8世紀後半	御駒堂22号窯 (第4群)	○ ^(註14)	○ ^(註14)	○ ^(註14)	○ ^(註14)	△ ^(註14) 0.60～0.62						
8世紀末～ 9世紀初頭	吉崎20号窯 (第4群)					○ ^(註15)			○ ^(註15)			
9世紀前半	青木21号住居					○ ^(註15)				○ ^(註15)		
9世紀中葉	東山土器窯			△ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)	○ ^(註15)
9世紀後葉	——											
10世紀前半	——											
10世紀後半	安久東							○ ^(註15) 0.35～0.38	○ ^(註15) 0.34	○ ^(註15) 0.38		

表58 須恵器环の組み合わせ (数字は底径口徑比)

第128図は先の検討とこれらの考え方によって10・12層水田跡出土の須恵器环を見たものである。縦列は同じ技法を示し、横列は類似した形態のものをそろえている。変遷の要素としては技法の変化(左から右へ)と器形の変化(上から下へ)があり、両者が複合しながら変遷していくと考えられる。出土層位は、古い技法であるI・II類は10・12層の両方ではほぼ同数認められるが、新しい技法のIII類は10層において主体的であり、各技法ごとに見るとI・II・III類の技法共に器形的に古い要素を持つものは12層、新しい要素を持つものは10層に認められる。そして各層における構成の多様性は、水田の経営期間の長さと土器の製作技法・器形の変遷過程の過渡期におけるあり方に関わっていると考えられる。

年代的には、12層出土のIA・IIA・IIB・IIIA類を総合すると7世紀末～9世紀中葉頃、10層出土のIB・IIC・IIIB・IIIC・IID類がIB類を除いて大体9世紀代とまとまっている。

IB類のみが8世紀代にのみ認められるタイプであるが、これについては回転ヘラケズリ技法のIB類が9世紀代まで残るのか、下層からの混入であるのか、あるいは10層の上限が8世紀にまで遡るためにか判断し難いが、10層水田跡の他の遺物がすべて9世紀代のものであることと、先に述べたようにIB類は器形的には東山遺跡の段階まで認められることから、このタイプの下限が9世紀代にまで下る可能性を考えておきたい。

[各種遺物の編年位置]

土師器・赤焼土器・須恵器环の各タイプの出土層位と時期的に対応する主な遺跡をまとめると以下のようになる。

12層	土師器I C類	観音沢～御駒堂第IV群
	須恵器I A・II A・II B・IIIA類	(観音沢)～東山
9・10層	土師器II類	家老内2号住居・宮前IVB群～鹿島B群
10層	赤褐色土器?	上新田
	須恵器I B・II C・IIIB・IIIC・IID類	宮前IV A群～東山
8層	赤焼土器A・B類	郡山84次II a層水田跡～安久東・清水VII C群
(5層)	赤焼土器C類	植田前

遺物の年代が限定できない要因としては、水田の経営期間と土器の変遷のあり方にあることは先に述べたが、同一層における各種遺物の年代が必ずしも一致しない原因としては遺物の数量が少なく、土器制作の一部が欠落していることが考えられる。したがって確実な年代を求めるることはできないがおおよその編年位置及び年代を検討してみたい。

まず、12層と10層の遺物については、須恵器の年代観からすると宮前IV A群～東山遺跡の段階が重複しているのに対し、土師器はこの段階のものが両層共に全く出土していない。編年がほぼ確定している土師器が欠落しているため12層の下限と10(11)層の上限については限定できず、大体宮前IV A群～東山段階のある時期と考えておきたい。なおこの頃の土師器が欠落していることから12層と10(11)層の年代が連続しない可能性もある。次に10層と8層の遺物であるが10層の土師器と8層の赤焼土器の年代が重複している。10層の土師器はそれ自体では鹿島B群段階にまで下る可能性があるが、8層の赤焼土器の年代を考慮すると少なくとも安久東・清水VII C群以前と考えられる。なお、10層水田跡は灰白色火山灰降下以降も耕作が続けられたと考えられているのでその下限は郡山第84次II a層水田跡よりは新しいことが明らかである。従って10層出土土器の下限については安久東の直前の時期、すなわち郡山SI776の段階頃と推定され、このことによって8層水田跡の赤焼土器A・B類は大体安久東・清水VII C群段階のものと考えられる。なお9層の遺物(土師器II C類)については10層の遺物の中でも新しい段階と8層段階の両方に認められるため遺物のみでは判断できない。

また赤焼土器C類については前述した通りである。

5. 灰釉・綠釉陶器

灰釉陶器は8層水田跡、綠釉陶器は1・2層から各1点ずつ出土したのみである。

6. かわらけ

かわらけの可能性のあるものも含めると1～5層から破片が21点出土した。図化できたものは2層と4層水田跡から出土した2点のみで、このため詳細は不明である。

7. 陶器・磁器

陶器は、1～7層から無釉陶器と施釉陶器計181点が出土した。無釉陶器には瀬美産の壺、常滑産の壺の他に產地不明の壺などがあり、施釉陶器には瀬戸・美濃・肥前・唐津・大堀相馬・堤窯の碗・皿・鉢・擂鉢など多種多様なものがある。ほとんどが破片資料のため、特に分類は行わなかった。

磁器は1～7層から92点出土したが、本来は1～5層に伴うと考えられる。肥前・瀬戸・美濃等の国内産の他、中国産のものも比較的多い。器種は碗・皿・壺・瓶などさまざまである。陶器と同様に大部分が破片資料のため分類は行わなかった。

表59～63は陶器・磁器すべての破片の観察表であるが、ここから年代がある程度限定できるもののみを抽出し、各層ごとに個々の破片の年代幅を表したのが第129図である。図中の線1本は1つの破片を示し、それぞれの長さは推定できる年代幅を表している。

	拂 図	写真図版	出土地点	層位	產 地	器 種	特 徴	年 代
I - 1	第110図- 2	132- 2	I～III区	2	肥前	碗	陶胎染付	17世紀?
I - 2	—	SK-13	1	肥前	碗	黄褐色和	?	
I - 3	—	132- 3	IV区	1・2	肥前	碗?	陶胎染付	17世紀
I - 4	—	SK-13	1	肥前	蓋	色繪・上繪付	明治～	
I - 5	—	SK-13	1	肥前	?	黄褐色釉	18世紀～	
I - 6	—	IV区	1・2	唐津	碗	ハケ文	18世紀～	
I - 7	—	132- 5	I～III区	2	唐津	碗		17世紀後半～18世紀前半
I - 8	—	132- 4	I～III区	2	唐津	皿	青緑色の釉	17世紀後半～18世紀前半
I - 9	第110図- 3	132- 7	I～III区	2	唐津?	碗?	長石釉系	17世紀
I - 10	—	132- 6	I～III区	2	唐津系?	擂鉢		17世紀前半
I - 11	—	—	I～III区	1	瀬戸	茶碗?	鐵釉天目	?
I - 12	—	132- 10	I～III区	2	美濃	茶碗	天目茶碗	17世紀前葉～中葉
I - 13	第110図- 4	132- 9	I～III区	2	美濃	菊皿		17世紀前葉～中葉
I - 14	—	SK-13	1	瀬戸・美濃	鉢		?	
I - 15	第110図- 5	132- 8	S K - 9	1	瀬戸・美濃	小壺	胎釉・底部切切	江戸
I - 16	—	—	IV区	1・2	瀬戸・美濃	碗?	黄白色の釉	江戸?
I - 17	—	—	IV区	1・2	瀬戸・美濃	?	鐵釉	江戸?
I - 18	第110図- 6	132- 5	I～III区	2	瀬戸・美濃	擂鉢?		17世紀?
I - 19	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	?		17世紀?
I - 20	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	?		?
I - 21	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	?		?
I - 22	—	—	IV区	1・2	瀬戸・美濃?	碗?	黄白色の釉	江戸?
I - 23	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 24	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 25	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 26	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 27	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 28	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃系?		?	
I - 29	第110図- 7	—	IV区	1・2	織部	?	削錆釉	江戸初
I - 30	第110図- 8	132- 11	I～III区	1	志野	丸皿	長石釉	17世紀前半
I - 31	第110図- 9	132- 12	IV区	1・2	志野	皿	長石釉	17世紀前半
I - 32	—	—	I～III区	2	志野	碗?		17世紀

表59 陶器・磁器観察表(1)

	捕 図	写真図版	出土地点	層位	産 地	器 種	特 徴	年 代
I - 33	---	---	I~田区	2	志野	皿?	?	
I - 34	---	---	I~田区	2	志野	皿?	?	
I - 35	---	---	I~田区	2	常滑	甕?	中世	
I - 36	---	---	IV区	1・2	常滑	甕?	中世	
I - 37	---	---	IV区	1・2	常滑	甕?	中世	
I - 38	---	---	I~田区	2	常滑	?	?	
I - 39	---	---	IV区	1・2	窯業?	?	黄褐色釉	江戸(18世紀~)
I - 40	---	---	I~田区	1	相馬	碗	?	幕末~明治
I - 41	---	---	IV区	1・2	相馬	碗	灰釉	江戸?
I - 42	---	---	IV区	1・2	相馬	碗	灰釉	?
I - 43	---	132-19	L - 5	1・2	相馬	碗	灰釉	江戸
I - 44	---	---	IV区	1・2	相馬	碗	灰釉	?
I - 45	---	---	IV区	1・2	相馬	碗	灰釉	?
I - 46 第110図-15	132-16	IV区	1・2	相馬	碗	白濁釉	?	
I - 47	---	---	IV区	1・2	相馬	碗	白濁釉	?
I - 48	---	---	L - 5	1・2	相馬	碗	灰釉と灰釉かけわけ	幕末
I - 49 第110図-13	132-18	IV区	1・2	相馬	碗	铁釉と灰釉かけわけ	幕末~明治	
I - 50 第110図-10	132-13	IV区	1・2	相馬	碗	青釉流し	幕末~明治	
I - 51	---	---	I~田区	2	相馬	碗	白濁釉・端反りの碗	幕末~明治
I - 52	---	---	I~田区	2	相馬	碗	白濁釉	?
I - 53	---	---	I~田区	2	相馬	碗	白濁釉	幕末~明治
I - 54	---	---	I~田区	2	相馬	碗	?	
I - 55	---	---	I~田区	2	相馬	碗	?	
I - 56	---	---	I~田区	2	相馬	碗	?	
I - 57	---	---	I~田区	2	相馬	碗	?	
I - 58	---	---	I~田区	2	相馬	碗	?	
I - 59 第110図-11	132-14	S K - 13	1	相馬	簡茶碗	灰釉	幕末~明治	
I - 60 第110図-14	132-17	IV区	1・2	相馬	皿	灰釉	江戸?~明治	
I - 61 第110図-12	132-15	IV区	1・2	相馬	折線の皿	灰釉	江戸?	
I - 62	---	---	L - 5	1・2	相馬	盤	白濁釉	?
I - 63	---	---	IV区	1・2	相馬	鉢	灰釉	?
I - 64	---	---	IV区	1・2	相馬	鉢	灰釉	?
I - 65	---	---	IV区	1・2	相馬	鉢?	青灰色の釉	?
I - 66	---	132-20	IV区	1・2	相馬	土瓶	鐵繪、山水文	幕末~明治
I - 67	---	---	IV区	1・2	相馬	?	青灰色の釉	?
I - 68	---	---	IV区	1・2	相馬	?	青灰色の釉	?
I - 69	---	---	IV区	1・2	相馬	?	青灰色の釉	?
I - 70	---	---	L - 5	1・2	相馬	?	灰釉	?
I - 71	---	---	IV区	1・2	相馬	?	灰釉	?
I - 72	---	---	L - 5	1・2	相馬	?	灰釉	?
I - 73	---	---	IV区	1・2	相馬	?	灰釉	?
I - 74	---	---	IV区	1・2	相馬	?	灰釉	?
I - 75	---	---	IV区	1・2	相馬	?	白濁釉	?
I - 76	---	---	IV区	1・2	相馬	?	?	
I - 77	---	---	I~田区	2	相馬	?	?	
I - 78	---	---	I~田区	2	相馬	?	?	
I - 79	---	---	I~田区	2	相馬	?	?	
I - 80	---	---	I~田区	2	相馬	?	?	
I - 81	---	---	S K - 13	1	相馬?	急須蓋	灰釉	江戸
I - 82	---	---	IV区	1・2	相馬?	土瓶	灰釉・鉄肌土瓶	幕末~明治
I - 83	---	---	L - 5	1・2	相馬?	碗?	灰釉	?
I - 84	---	---	I~田区	2	相馬?	碗?	白濁釉	幕末~
I - 85	---	---	IV区	1・2	相馬?	?	灰白色の釉	?
I - 86	---	---	I~田区	2	堤	土瓶	?	
I - 87 第110図-16	132-21	IV区	1・2	堤	鉢	海鼠釉	幕末~	
I - 88	---	132-22	L - 5	1・2	堤?	擂鉢	铁釉	江戸?~

表60 陶器・磁器類表(2)

揮 団	写真図版	出土地点	層位	產 地	器 種	特 徴	年 代
I - 89	—	IV区	1・2	疑?	小皿?	鉄輪	?
I - 90	—	IV区	1・2	疑?	?		?
I - 91	—	I～III区	1	?	碗	色繪・上絵付	幕末～
I - 92	—	IV区	1・2	?	碗	灰釉系	江戸
I - 93	—	L - 5	1・2	?	碗?	白陶物	?
I - 94	—	I～III区	2	?	皿?		?
I - 95	—	I～III区	2	?	蓋		?
I - 96	—	I～III区	2	?	急須蓋		?
I - 97	—	I～III区	2	?	香炉		江戸前半
I - 98	—	IV区	1・2	?	香炉?	口縁のみ土灰釉	江戸?
I - 99	—	IV区	1・2	?	香炉?	青灰色の釉	?
I - 100	—	I～III区	2	?	鉢か香炉		?
I - 101	—	SK - 13	1	?	皿	白陶物	江戸後半
I - 102	—	IV区	1・2	?	皿?	鉄輪	江戸
I - 103	—	SK - 13	1	?	小鉢	鉄輪	?
I - 104	—	L - 5	1・2	?	鉢	鉄輪	?
I - 105	—	IV区	1・2	?	鉢	土灰釉	江戸後半～
I - 106	—	IV区	1・2	?	鉢	鉄輪	江戸後半～
I - 107	—	IV区	1・2	?	鉢	鉄輪	江戸?
I - 108	—	IV区	1・2	?	鉢	褐色の釉	?
I - 109	—	SK - 13	1	?	鉢		江戸
I - 110	—	I～III区	1	?	鉢?	灰釉系	?
I - 111	—	I～III区	1	?	擂鉢	内面と外面上半に鉄化粧	17世紀
I - 112	—	L - 5	1・2	?	擂鉢	鉄化粧	17世紀
I - 113	—	IV区	1・2	?	擂鉢	鉄化粧	17世紀
I - 114	—	IV区	1・2	?	擂鉢?	鉄釉	江戸
I - 115	—	L - 5	1・2	?	?	青灰色の釉	江戸?
I - 116	—	L - 5	1・2	?	?	瓦質	江戸～
I - 117	—	III区	2	?	?		江戸
I - 118	—	III区	2	?	?		江戸
I - 119	—	III区	2	?	?	染付	江戸
J - 1	—	I～III区	1	肥前	碗	染付	江戸
J - 2	—	IV区	1・2	肥前	碗	白磁か染付	?
J - 3	—	IV区	1・2	肥前	碗	白磁か染付	?
J - 4	—	133- 3 L - 5	1・2	肥前	碗	染付、網目文	17～18世紀
J - 5	—	IV区	1・2	肥前	碗	染付	江戸
J - 6	—	I～III区	2	肥前	碗	染付	江戸
J - 7	—	133- 8 I～III区	2	肥前	碗	染付	江戸後半
J - 8	—	I～III区	2	肥前	碗	染付	江戸
J - 9	—	133- 7 SK - 13	1	肥前	碗	染付	江戸
J - 10	第110回-23	133-10 SK - 13	1	肥前	碗	染付	18～19世紀
J - 11	—	III区	2	肥前	碗	青磁	江戸
J - 12	—	I～III区	1	肥前	皿?	染付、網目文	17世紀末～18世紀
J - 13	—	I～III区	2	肥前	皿?	青磁	江戸
J - 14	第110回-21	133- 5 IV区	1・2	肥前	碗か鉢	染付	江戸
J - 15	第110回-17	133- 1 I～III区	1	肥前	丸皿	染付	17～18世紀
J - 16	—	L - 5	1・2	肥前	皿	染付	?
J - 17	—	L - 5	1・2	肥前	皿	白磁か染付	?
J - 18	—	IV区	1・2	肥前	皿	染付	江戸
J - 19	—	IV区	1・2	肥前	皿	白磁か染付	江戸
J - 20	第110回-19	132- 2 I～III区	2	肥前	皿	染付	18世紀
J - 21	第110回-22	133- 13 I～III区	2	肥前	皿	白磁、見込みに蛇ノ目粧ハギ	17世紀中葉
J - 22	—	I～III区	2	肥前	皿	白磁・輪花?型打	18世紀かそれ以前
J - 23	—	I～III区	2	肥前	皿	白磁か染付	江戸
J - 24	—	I～III区	2	肥前	皿	染付	江戸
J - 25	—	I～III区	2	肥前	皿?	染付	江戸

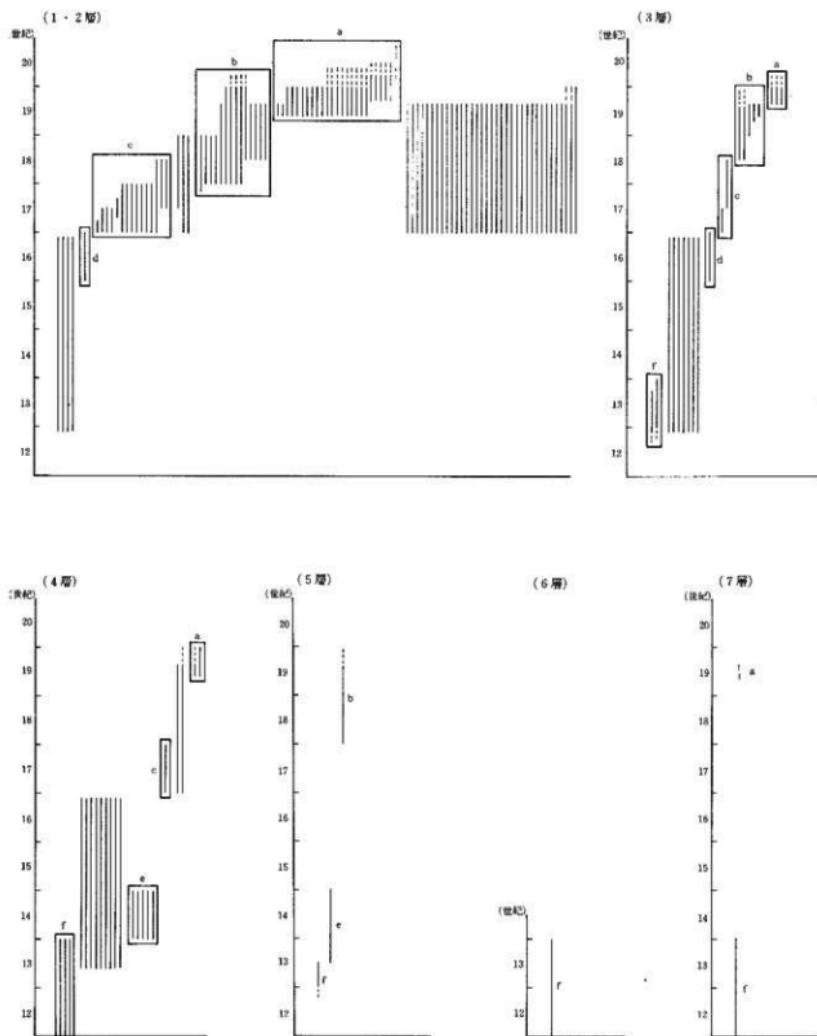
表61 陶器・磁器調査表(3)

押 固	写真図版	出土地点	層位	座 地	審 慎	特 微	年 代
J-26	—	IV区	1・2	肥前	?	白磁か染付	江戸
J-27	第110図-18	133-11	1～III区	2	肥前	小坏	白磁 18世紀
J-28	—	—	1～III区	2	肥前	壺	白磁か染付 ?
J-29	—	133-4	1～III区	1	肥前	壺	染付・焰唐草文 18世紀
J-30	—	133-9	1～III区	2	肥前	壺	染付 江戸
J-31	第110図-20	133-12	1～III区	2	肥前	壺	青磁・蛇ノ目(問形高台) 17世紀後半～18世紀
J-32	—	—	III区	2	肥前	壺か瓶	染付 ?
J-33	—	—	I～III区	2	肥前	壺か瓶	白磁か染付 ?
J-34	—	—	III区	2	肥前	壺か瓶	白磁か染付 ?
J-35	—	—	IV区	1・2	肥前	?	染付 江戸
J-36	—	136-6	IV区	1・2	肥前	?	染付 江戸
J-37	—	—	IV区	1・2	肥前	?	青磁 ?
J-38	—	—	IV区	1・2	肥前	?	白磁か染付 江戸?
J-39	—	—	IV区	1・2	肥前	?	白磁か染付 ?
J-40	—	—	IV区	1・2	肥前	?	白磁か染付 ?
J-41	—	—	III区	2	肥前	?	染付 江戸?
J-42	—	—	I～III区	2	肥前	?	染付 江戸
J-43	—	—	I～III区	2	肥前	?	染付 江戸?
J-44	—	—	I～III区	2	肥前?	小坏	染付 18世紀?
J-45	—	—	I～III区	2	肥前?	?	白磁 ?
J-46	—	—	L-5	1・2	肥前?	?	白磁 ?
J-47	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	碗	染付・波蘿手文 幕末～
J-48	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	碗	染付 明治～
J-49	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	碗	染付 明治～
J-50	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	碗	色絵 現代
J-51	第110図-24	133-14	1～III区	2	瀬戸・美濃	碗	口紅(呉須) 幕末
J-52	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	碗	白磁 幕末～
J-53	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃	皿	白磁・端反りの皿 明治～
J-54	—	133-15	IV区	1・2	瀬戸・美濃	角皿	白磁か染付 幕末～
J-55	—	—	IV区	1・2	瀬戸・美濃	?	白磁か染付 幕末～
J-56	—	—	IV区	1・2	瀬戸・美濃	?	白磁か染付 明治～
J-57	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃?	碗	白磁 幕末～
J-58	—	—	I～III区	2	瀬戸・美濃?	?	染付 幕末～
J-59	—	137-17	1～III区	2	中国	皿	染付 16世紀
J-60	第110図-25	133-16	I～III区	2	中国	皿	染付・端反りの皿 16世紀
J-61	—	133-18	I～III区	2	中国	?	青磁 中世
J-62	第110図-26	133-19	I～III区	2	?	小板	白磁 ?
I-10	第13図-1	105-1	B-7	3	唐津	碗	外面に一部鉄化粧 16世紀末?
I-11	第13図-2	105-2	D-6	3	唐津系	碗	灰釉 17世紀後半～18世紀前半
I-12	—	—	I～III区	3	唐津?	鉢?	灰釉 ?
I-13	第13図-5	105-3	C-2	3	古窯戸?	香炉	緑灰色の釉 ?
I-14	—	—	IV～V区	3	瀬戸・美濃	皿	色絵 明治～
I-15	第13図-3	105-4	D-7	3	志野	皿	?
I-16	—	—	105-5	B-7	3	常滑	?
I-17	—	—	105-6	A-7	3	常滑	山茶碗系 縫合前半かそれ以前
I-18	—	—	105-7	B-6	3	常滑	?
I-19	—	—	105-8	D-6	3	常滑	?
I-20	第13図-6	105-10	S K 1	3	相馬	皿	灰釉、鉄繪 19世紀前葉～中葉
I-21	—	105-9	IV区	3	相馬	鉢?	青白色の釉 18世紀後半～
I-22	—	—	B-2	3	相馬	?	幕末～明治
I-23	—	—	IV～V区	3	相馬?	?	?
I-24	—	—	D-6	3	在地	甕	中世
I-25	—	—	105-11	A-6	3	在地	甕 小世
I-26	—	—	C-3	3	在地	甕	中世
I-27	—	—	105-12	C-2	3	在地	甕 小世
I-28	—	—	A-7	3	在地	甕	中世

表62 陶器・磁器観察表(4)

種類	年号・國原	出土地点	層位	產地	器體	特徴	年代
I-108	—	105-13	D-8	3	各地	甕	中世
I-140	—	—	A-7	3	在地	?	中世
I-141	—	105-14	C-3	3	?	甕	13世紀以前
I-142	—	—	D-3	3	?	?	近世~
I-143	—	—	C-3	3	?	?	近世~
I-144	—	—	C-3	3	?	?	?
I-145	—	—	A-7	3	?	?	?
I-146	—	—	N~V区	3	?	?	?
J-63	—	—	C-4	3	肥前	甕	白磁か染付
J-64	—	—	N~V区	3	肥前	甕?	白磁か染付
J-65	—	—	C-4	3	肥前?	甕	染付・堅打で内面に「く」字の墨書き
J-66	—	—	N区	3	唐津	甕?	18世紀~
J-67	第13回-4	105-15	S K10	3	中国	甕か甌	赤目・輪郭心・底部に放射状の割り線
J-68	—	105-16	C-6	3	中国	?	?
J-69	—	—	D-6	3	?	?	染付・印版
I-167	第17回-1	107-1	L-4	4	瀬戸	灯明皿?	鉄釉
I-168	第17回-2	107-2	J-6	4	瀬戸	?	鉄釉
I-169	—	—	III区	4	瀬戸?	?	鉄釉
I-170	—	107-3	C-5	4	常滑	甕	?
I-171	—	107-4	C-6	4	常滑	甕	中世
I-172	—	107-5	L-8	4	常滑	甕	中世
I-173	—	107-6	H-5	4	常滑	甕	中世
I-174	—	—	K-6	4	常滑?	甕	中世
I-175	—	—	107-8	L-5	4	瀬美	?
I-176	—	—	107-9	H-6	4	瀬美	?
I-177	—	—	I-5	4	相馬	?	白濁釉
I-178	第17回-4	107-9	J-6	4	堺	摘鉢	鉄釉
I-179	—	107-10	M-5	4	堺	?	鉄釉
I-180	—	—	D-6	4	?	?	江戸?
I-181	第17回-3	108-1	H-5	4	?	小鉢	土灰釉
I-182	—	—	I-6	4	?	?	?
I-183	—	—	A-7	4	?	?	?
I-184	—	—	L-5	4	?	?	?
I-185	—	—	L-5	4	?	?	?
I-186	—	—	C-4	4	?	?	?
I-187	—	—	L-5	4	?	?	須恵器系
J-70	—	—	I-7	4	肥前?	甕	白磁
J-71	—	—	L-5	4	肥前?	甕	?
J-72	—	—	K-7	4	肥前?	?	?
J-73	—	108-3	D-5	4	中国	?	青磁
J-74	—	108-4	C-7	4	中国	?	青磁
J-75	—	108-5	B-4	4	中国	?	青磁
J-76	—	108-2	A-5	4	中国	?	白磁
J-77	—	108-6	B-6	4	中国	?	青磁
I-188	—	—	J-5	5	唐津か瀬美	甕?	黄褐色釉
I-189	—	109-1	B-3	5	瀬美	?	18世紀以降
I-190	—	—	J-6	5	?	?	13世紀前半かそれ以前
I-191	—	—	J-6	5	?	?	?
J-78	—	109-2	L-8	5	中国	?	青磁
J-79	—	109-3	B-3	5	中国	?	青磁・龍泉窯系
I-191	—	110-1	L-8	6	瀬美	?	13~14世紀
J-80	—	—	K-7	6	肥前?	紅皿	?
I-172	—	111-3	I-5	7	瀬美	?	12~13世紀
I-173	—	—	J-8	7	相馬	?	?
J-81	—	—	D-2	7	瀬戸・美濃	甕?	染付
I-174	第110回-27	135	I~III区	朝謹	古瀬戸	梅瓶	鉄釉
J-82	—	—	—	側溝	肥前	甕?	白磁か染付

表63 陶器・磁器観察表(5)



第129図 各層における陶器・磁器の年代幅

各層には新旧の遺物が混在していて、全体的には年代の幅が大きいが、個々の遺物の年代の分布を見ると、下層に行くほど年代の古い遺物が増加する傾向にある他、各層においていくつかのまとまり（群）が認められる。各群は各層間において完全に一致するものではなく、中間の範囲のものも存在するが、総合すると大体以下のように集約される。

- a. 幕末以降
- b. 17世紀末～19世紀
- c. 17世紀～18世紀前半
- d. 16世紀
- e. 13世紀後半～14世紀
- f. 12～13世紀

なお、側溝から出土したため層は不明であるが、14～15世紀と考えられる古瀬戸の梅瓶（I-174）が存在するのでd・e間の年代の開きが狭まる可能性はある。

これらa～f群の遺物は数量的に多くはなく、特に5～7層の遺物は極端に少ない。このため断定はできないが、各群は段階的に年代差を有する群であるので、それぞれが特定の層（水田跡）に伴うものである可能性が考えられる。

全体を概観すると、陶器は中世のものは年代が特定できるものが少ないが、瀬戸・美濃・常滑・渥美産で占められている。江戸時代前半は肥前・唐津・瀬戸・美濃等が中心であるが、幕末頃から産地が近い大蔵相馬や堤等が中心となる。磁器は中国産の青磁・白磁が比較的多いが、江戸時代になると国内産のみとなる。国内の産地は肥前が中心で、幕末以降は瀬戸・美濃に変わる。

8. 瓦

38点出土した。5層以降に認められ、3層が最も多い。すべて細片のため分類はできなかった。

9. 石器：

3～5層水田跡から剣片が出土しているが、これらはすべて下層から巻き上げられたもので、本来は16層あるいは18層から下層に含まれると推定される。石器は石鎚8点、石歯1点、大形の剣片1点の他、礫石器2点がある。

このうち石鎚はアメリカ式石鎚が16層水田跡と18層水田跡から各1点ずつ出土している他、有茎式石鎚が25層水田跡から4点、26層水田跡から2点出土している。アメリカ式石鎚は16層水田跡出土のものが18層のものに比べて短いが、これは先端部を再加工している可能性があるため本来の形態の差異であるとは断定できない。一方、有茎式石鎚は大きさはさまざまであるが、基部側面の抉りの形態が緩やかなタイプと比較的はっきりしたタイプがある。前者は25・26層水田跡の両方に認められ、後者は25層水田跡のみに認められる。

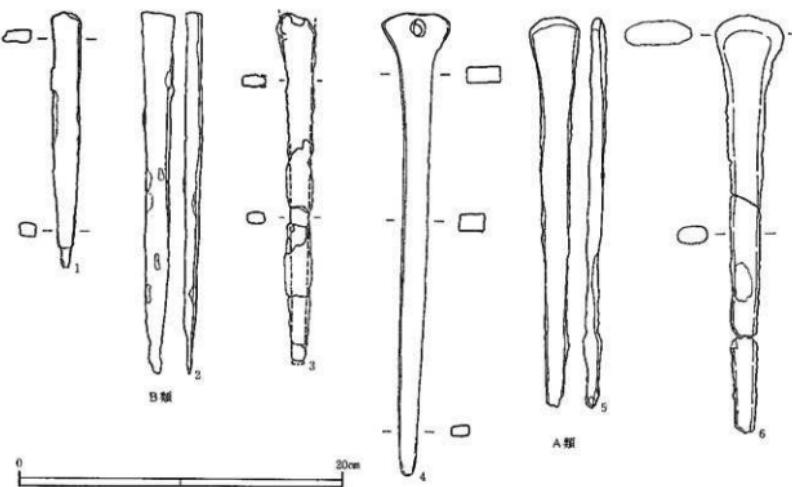
石歯は第3章で述べたように23層水田跡の畦畔中及び非耕作域上面から2つに割れて出土している。これは破損したものを廻収した結果と考えられる。

10. 石製品

10・12層水田跡から7点出土し、10層水田跡の紡錘車を除く他はすべて砥石である。砥石は6点のうち5点が自然砾をそのまま利用したものである。

11. 金属製品

金属製品は1層～12層水田跡から鉄製品16点と銅製品18点、鉛製品1点が出土した。鉄製品は角釘・鉄鎌・刀子の他、やや偏平な棒状のものが4層水田跡（中～近世）、10層水田跡（平安時代）から各1点ずつ出土している。このような形状の鉄製品は富沢遺跡第24次調査III層水田跡（中世）、同V層水田跡（平安時代）、隣接する山口遺跡第12次調査4層（平安時代）、同第13次調査3層水田跡（平安時代）に出土例がある（第130図）。これらはいずれも幅広の端部（便宜上頭部と呼ぶ）が偏平で、もう一方の端部（先端部と呼ぶ）側に向って徐々に厚みを増すのが特徴



第130図 棒状鉄製品集成図

1. 当調査区4層水田跡出土
2. 富沢遺跡第24次調査Ⅱ層水田跡出土
3. 山口遺跡第13次調査3層水田跡出土
4. 山口遺跡第12次調査4層出土
5. 富沢遺跡第24次調査V層水田跡出土
6. 当調査区10層水田跡出土

である。長さは、大体15cm、22cm、24~28cm程度の3種類が認められるが、現在のところ總数が少ないため長さによる分類が有効であるとは断定できない。一方、形体的には頭部が擴張に開くもの（A類—第103図4~6）と比較的直線的でわずかに開くもの（B類—第130図1・2）とに分類可能である。なお3と4とは頭部に穿孔されているが、3は頭部が破損しているためA・B類の分類ができず、このため穿孔とA・B類との関係については不明である。

これらの用途については細かな差異はあるものの、大体類似した形態を呈していることからほぼ同じような用途が考えられ、また平安時代から中・近世にかけての水田跡から出土する例が多いことから（6例中5例）、水田で使用する農具の一部で、しかも平安時代以降形態的な変化があまりなかったものと推定される。ただし、大きさに数種類認められることからすべてが全く同じ用途であるとは断定できない。全国的に類例を求めなかつたため推測ではあるが、可能性のあるものとしては馬歛あるいは人間が人力で使用する地ならし用の農具の歛などが考えられる。この場合、木製の台木に取り付けたと推定されるが、装着方法は偏平な頭部を台木にはめ込んだと考えられる。歛の台木に対する方向がすべて同じであるかどうか不明であるが、頭部に穿孔されている3と4について穿孔部が目釘穴のような用途と考えられるので、平型面を台木に平行にしてはめ込んだと推測される。馬歛は古墳時代後期のものは木製で、歛の長さも60cm以上あるが、平安時代頃までに鉄歛が出現していた可能性もある。また人力で使用する地ならし用の農具は大藏永常が著した『農具便利論』の「地平(ぢならし)」の項に「台は櫛にて製し、鉄の歛のひろめるをうえたる也」との記述があり、その図中の注釈によれば鉄歛の大きさは幅が六分、長さが四寸二

分で当調査区4層水田跡出土のものに大きさが近似している。なお、18世紀末～19世紀初頭の農具をそのまま中世や平安時代の遺物にあてはめることはできないが形態的に見てその系譜がたどれる可能性もあると考えたい。

銅製品は12層水田跡から出土した用途不明の金具2点の他、1・2層のキセル2点、用途不明の容器1点、1～5層の銅鏡13点で、鉛製品は4層水田跡から出土した火縄錠の弾丸である。

12. 鉄滓

鉄滓は3・4層水田跡から計5点出土しており、いずれも鍛冶滓と推定されるものである。鉄滓の性格からすると水田に伴うものではないが、逆にこの種の遺物が存在することは近くに鍛冶作業の場があったことを示唆しているとも言える。

13. 木製品・その他

木製品は25層水田跡の溝跡から杭が5本出土している。加工された先端部の形状が鋭いものと鈍いもの、その中間的なものなどに分類可能であるが、本来打ち込まれた層が不明なため詳細は不明である。また数点の土製品と種子が出土したが、土製品は固化不可能なもので、種子のうち平安時代以降のものについては特に記載はしなかった。

(註1) 接合結果同一個体と判明したものは1つとした。異なる層間で接合した個体の取り扱いについては「3. 出土層位の認定」で述べた。

(註2) 四分寺下層式の年代は東圓式II類(氏家：1967)の認定とも関連して様々な捉え方があるが、同報告書中では四分寺下層式を大まかに奈良時代としている。

(註3) 報文では前半とは明記されてはいないが、前半に比定されている聲音沢遺跡の土器群に近い様相を示すことが指摘されている。

(註4) 白鳥：1980、丹羽：1981・1983など

(註5) 丹羽：1981・1983、佐々木：1984

(註6) 丹羽：1983

(註7) 安久東遺跡出土土器群の底径口径比は0.32～0.45であるが、報告書中のグラフによれば0.35前後に集中している。

(註8) 丹羽：1983

(註9) 底径口径比の大小による新旧関係は各土器群間における比較であり、各土器群内における各タイプの比較ではないが、各土器群内の古い要素を持つ土器を区別する際にも有効であると考えられる。

(註10) 田中：1984

(註11) 佐々木：1984

(註12) 同地点の相対的な年代差については灰白色火山灰のあり方からも検証することができる。84次調査IIa層水田跡は火山灰下の水川であるので火山灰降下以前と確定できる。一方SI776は堆積土下層に火山灰層が認められ、遺物はその上下層で大体同じような様相を示している。したがって火山灰がプライマリーな状態であれば火山灰降下前後、二次堆積であれば降下後のある時期のものと考えられる。なお、SI776の土器はほぼ安久東や清水山C群と同時期とも見てとれるが、火山灰の推定年代と安久東の推定年代から、一応两者には時間差があると考えておきたい。

(註13) 田中・桑原：1974

(註14) 白鳥：1980

(註15) 森：1982

第2節 遺構の年代

I. 第15次調査V区との層位の対応

I～III区の北側は第15次調査区にあたり、1985～87年にかけて調査が実施されている。ここでは広範囲に水田跡が検出されているので、そのうち隣接するV区を中心とした層位の対応を通して問題点を整理してみたい。

第131図は両調査区の基本層序の柱状図、表64は基本層序の対応案である。

まず当調査区（以下35次と略す）の1～10層までを見ると1・2・4～6層についてはスムーズに対応できる。3層は15次調査V区（以下15次と略す）では対応する層が存在しないが、この層は35次においても遺存状況が良くないことから15次ではその2a層によって完全に攪乱された結果確認できなかったのではないかと考えられる。

7～10層に対応するのは15次4b・5a層であるが、このうち10層は灰白色火山灰の在り方から見て15次5a層に対応すると考えられる。^(甲) 35次7～9層と15次4b層との関係は確実ではないが、層の遺存状況からみて35次8層と15次4b層が対応すると考えられる。なお15次では35次7・9層に対応する層が確認されていない。これらの層は連続する耕作上によって大きく攪乱を受けた結果確認できなかった可能性があるが、その他に以下の可能性も考えられる。35次の7・9層水田跡の畦畔は8層水田跡とほぼ同じ場所で検出されている。近接する時期の大畦畔は路襲されることがあるが、頻繁に造り替えが行われる小畦畔が同位置にあることから考えて、7・9層水田跡は別個のものではなく、それぞれ8層水田跡の上部・下部であった可能性もある。しかし、この問題は水田跡の母材層の堆積過程や水田跡の埋没・遺存過程などに關係するため、現段階では検証することが困難である。このためここでは両方の可能性を併記するに留めておきたい。

次に35次11層はIV・V区を中心として認められたのみで、I～III区と15次では確認されていない層である。遺構の状況は直下の12層水田跡と類似していることから7～9層の場合と同様に11層水田跡の下部が12層水田跡である可能性もあるが、このことについては15次5b層の存在から別の推測も可能である。15次5b層は粘土の互層で、その層相から考えて本来はかなり広範囲に分布していたと推定される。ところがこの5b層が35次では全く確認できずそのかわり南部に耕作土11層が分布している。このことから以下の推測が可能である。本来15次5b層は35次調査区も含めた広い範囲で堆積が進み、15次6層・35次12層を覆うこととなるが、35次V区を中心とする箇所においては堆積の過程で水田の修復が重ねられたか、あるいは堆積後に復旧された。この修復あるいは復旧された水田が35次11層水田跡である。したがって35次11層水田は15次5b層を母材としており、35次調査区ではその耕作によって母材である15次5b層を完全に攪拌した結果、15次5b層が遺存していない可能性が考えられる。

なお水田域が15次調査区にも広がっていた（その後15次5a層水田によって完全に破壊された）のか、あるいは5b層堆積後しばらくの間（15次5a層水田の開田時まで）は水田としては利用されなかつたのか、現段階では判断できない。

次に35次12～14層と15次6層について検討したい。

35次12層は水田耕作土、13層は耕作土かどうか不明だが上面で多数の溝を検出し、14層はこれらと層相が全く異なる砂層である。これに対し、15次6層は単一の水田耕作土とされているが、この15次6層には砂粒が多量に含まれ、また6層を削り込んだ段階で溝を検出している。以上のことから15次6層は35次13・14層に相当する層を一部を除いてほぼ完全に攪拌しており、6層上面は35次12層上面と対応すると考えられる。

35次15～18層と15次7a～7c層について35次17層に対応する層が15次で欠落している他は、層相が両調査区で一致している。35次17層については35次でも遺存状況が悪く、部分的にしか遺存していないので、15次においては7b層によってほぼ完全に攪乱された結果認められなかつたと考えられる。なお15次7b・7c層は上面で畦畔が検出されなかつたため水田とは認定されていないが、層相から水田耕作土の可能性が考えられており、この点も

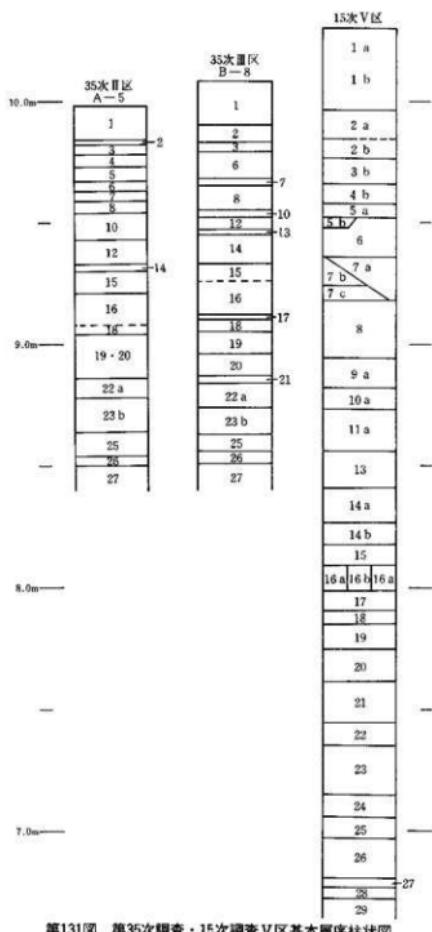
35次の調査結果と矛盾しないと考えられる。

35次19~20層・I~IV区の21層と15次8層は粘土や泥炭質粘土の互層で比較的安定した層である。35次における分層は道構等によるものではなく、上下の耕作土識別のための基準としてあえて分層したもので、両者は同一の層と考えられる。なお35次V区の21層は耕作土の可能性があるが、断定できない層である。耕作土である場合は層相がI~IV区の21層と類似していることから、I~IV区で認められるような21層を母材としていると考えられる。

35次22a層・22b層は15次9a・9b層と対応する。35次22a層と15次9a層はそれぞれ22b・9b層を母材とする耕作土で、両調査区共に母材層は耕作土下には遺存せず、非耕作域のみに分布する点も一致している。

35次 調査					15次 調査 - V区				
層	色調	性質	水田	年代・その他	層	色調	性質	水田	年代・その他
1	灰黄褐	粘土質シルト	○	墓末～現代	1	褐色	シルト質粘土	○	現代
2	灰褐	シルト	○	17c末～19c頃	2a	灰	シルト質粘土	○	
3	暗褐色	シルト質粘土	○	17~18c前半頃	2b	黄灰	粘土	○	
4	暗灰黄	シルト質粘土	○	16c頃	3a	にぶい黄褐色	粘土質シルト	×	13~14c、V区に分布
5	灰黄褐	粘土	○	13c後半～14c頃	3b	黒褐	シルト質粘土	○	13~14c
6	黑褐	粘土	○	12~13c頃	4	11~12c頃			
7	灰黄	粘土	○		4b	褐色	シルト質粘土	○	平安
8	暗灰黄	粘土	○	10c後半(～11c)	5a	黄灰	粘土	○	10c前半、 上部に灰白色火山灰
9	灰黄	粘土	○	10c中葉	5b	灰褐色 黒	粘土	万層	×
10	灰黄褐	粘土	○	9c後～10c中葉頃、 上部～上部に灰白色火山灰	6	褐色	粘土	砂多層に含む	灰白色火山灰降下以前の 平安
11	灰黄褐	粘土	○	9c、V区のみ分布	7a	褐色	粘土	○	南小泉式
12	灰黄褐	粘土	○	8世紀前半～9c前葉頃	7b	黄灰	泥炭質粘土層A	?	上部で堆積～南小泉式、 層中に天王山式土層
13	黒褐	粘土	?	溝・井・クロ土層間隔	7c	褐色	泥炭質粘土層B	?	
14	淡黄 明黄	砂質シルト 砂	混合	上面で岡分寺下層式 下部で南小泉式	8	褐色	泥炭質 粘土層B	互層	
15	黃褐	粘土	○	南小泉式	9a	灰黃褐	泥炭質粘土層A	○	十三年式期
16	灰黄褐	粘土	○	アメリカ式石塚	9b	灰褐色 黒	粘土	互層	9aの分布域外に分布
17	黄	シルト	×						
18	灰黄	粘土	○	天王山式表 アメリカ式石塚 ハケメ施					
19	灰黄	粘土	互層 泥炭質粘土	×					
20	黄灰 灰青 黒	粘土 泥炭質粘土	万層	×					
21	灰黄	粘土	×	V区で本州耕作土の可能性					
22a	灰黄褐	粘土	○	疊石層					
22b	灰青 黒	粘土 泥炭質粘土	互層 泥炭質粘土	×	22aの分布域外に分布				
23a	黒褐	泥炭質粘土	○	石塚・弥生土層					
23b	灰青 黒	粘土質粘土 泥炭質粘土	互層 泥炭質粘土	×					
24	暗灰黄	泥炭質粘土	○	V区のみ分布	10a	黒褐 にぶい黄褐色	泥炭質 粘土層B	互層	
25	灰青 黒	泥炭質粘土	○	V区の24層大時時代のみに 遺存					
26	灰黄褐	泥炭質粘土	○	石塚	11a	灰	泥炭質粘土層A	○	羽形網式期

表64 第35次調査・第15次調査V区基本層序対応表



第131図 第35次調査・15次調査V区基本層序柱状図

次に35次23a・23b層と15次10a層の関係であるが、35次23b層と15次10a層は両者共に粘土と泥炭質粘土の比較的厚い互層で、両調査区の全面に安定して認められることから同一の層と考えられる。35次23a層はこれらを母材としているが、15次調査区では耕作土が全く認められなかったので、この付近は35次調査区で部分的に認められるような非耕作域が広がっていたと考えられる。

35次24層はV区においてのみ認められたがI～IV区と15次では全く確認されていないのでその耕作域は35次V区から南部を中心に広がっていると考えられる。なお、その母材層は泥炭質粘土の互層で擬似畦畔部分にのみ遺存しているが、この層は層相からみて本来広範囲に分布している可能性がある。35次23b層と15次10a層の最下部がそれに相当することも考えられるが現段階では断定できない。

35次25層と15次11a層は層相及び畦畔のあり方・層上面の状況（第132図）から同一の層と考えられる。一方、35次26層に対応する層が15次では確認されていないがこれについては以下のような可能性が考えられる。35次25層は層上面が荒れていたため不明瞭な部分もあるが、直下の26層の大畦畔の中には25層の大畦畔と同じ場合で検出できたものもある。また断面観察では25・26層の層離面が不明瞭な箇所が認められる。このことから25層と26層は7～9層の場合と同様に、同一の層の上部・下部の関係にある可能性と、本来別の層であって15次では35次26層に相当する層が直上の11a層によって搅乱された結果確認できなかった両方の可能性が考えられ

る。これについては現段階では検証することができない。

以上のように両調査区の層位の対応を試みてみた。さらに広範囲に渡る検討や今後の調査結果によっては細部の変更があることも考えられるが、ここでは一応現段階における両調査区の対応案として挙げておきたい。

II. 各層の年代

各層の年代は出土遺物と第15次調査区との層位の対応結果を総合して求めることとした。なお前述したように7～9層が本来同一の層である可能性もあるが、検討段階では一応別の層として取り扱い、最後にまとめるところとする。

(1～7層)

1～7層については各層に伴う遺物を限定できなかったが、総合的に見て陶・磁器が年代差を持つa～f群に分けられることは先に述べた。数量が少ない5～7層については不確定要素が多いが、一応これらを上層から順にあてはめると以下のようになる。

1層——a群（幕末以降）、2層——b群（17世紀末～19世紀）、3層——c群（17世紀～18世紀前半）

4層——d群（16世紀）、5層——e群（13世紀後半～14世紀）、6層——f群（12世紀～13世紀）

また、古代の土器のうち最も年代が新しいと考えられる赤焼土器C類は、前述したように6層あるいは7層に伴う可能性が高く、植田前遺跡との比較から大体11～12世紀頃と推定されるものである。したがってこのことを考慮すると、赤焼土器C類は7層に伴っていた可能性が高く、7層の年代は赤焼土器C類と7層出土の陶器から大体11～12世紀頃と推定される。なお5・6層はそれぞれ15次調査3a・3b層に対応するが、15次3a・3b層の年代は13～14世紀と考えられており、当調査区の遺物の年代とほぼ一致している。

(8～12層)

8～12層の遺物の編年的位置については、先に検討したように8層—安久東・清水ⅢC群、10層—宮前IVA群～郡山SI776、12層—（観音沢）～東山と推定した。

8層は下層の層の年代から見てほぼ上記の段階を中心とすると考えて問題ないと思われるが、8層に対応する15次調査4b層から赤焼土器小皿が若干出土しているので、下限は鹿島B群に近い段階まで下る可能性もある。したがって、年代は10世紀後半を中心としながらも下限は11世紀頃にまで下る可能性があると考えておきたい。

10層の下限を示す遺物が郡山SI776の遺物と同じ様相を示すことは述べたが、10層は耕作土中に灰白色火山灰を含み、SI776は堆積土下層に火山灰層があることからも10層の下限頃とSI776がほぼ同時期（火山灰降下以降）であることは明らかである。厳密には10層下限の具体的な年代を示すことはできないが、火山灰降下時以降で安久東よりもやや古いという観点から大体10世紀中葉頃と考えておきたい。なお10層の下限には9層水田跡が関連している。9層水田跡については15次調査との層位の対応等から、独立した層ではなく8層水田跡の下部である可能性もあるが、9層水田跡が存在したと仮定すると8層と10層の年代観から見てその存続期間はごく短期間で、10世紀中葉～後半の中の一期間にあったと考えられる。

なお、10層の遺物には11層水田跡に係わるものも含まれている可能性がある。したがって10層の遺物の中で最も古いタイプのものは11層の上限を示すものと考えられ、11層の下限と10層の上限については明確にはできない。

11層の上層と12層の下限は前述したように当調査区の土器からは既定できず、宮前IVA群～東山段階のある時期と推定できるのみである。年代はおよそ8世紀末～9世紀前半に相当する。ただ、10・12層はそれぞれ15次5a・6層に対応し、15次調査では遺物量が少ないため詳細な年代は明らかにされていないが、15次6層からは詳細は不明ながらロクロ土師器が出土している。このことから35次12層の下限は少なくともロクロ土師器が出現する8世紀末頃まで下ることはほぼ確定であると考えられ、同時にこのことによって11層の上層は8世紀までは遡らないと推定される。

なお層の対応の頃で、35次11層と15次5b層との関係から、35次12層と11層が直接連続せず、その間に空白期間がある可能性を述べたが、12層と10層共に8世紀末～9世紀初頭の土師器が出土していないこともこの可能性を示唆するものかもしれない。

したがって、12層の年代の下限は8世紀末か9世紀前葉頃、11層の年代の上限は9世紀前半頃であることはほぼ確定であるが、両層の間に想定される空白期間と欠落している土師器の年代に関連があるとすれば、11層の上層は9世紀初頭よりはさらに遅れ、9世紀中葉頃にまで下る可能性がある。

なお12層の上層についてはほぼ8世紀代に収まると考えられるが、須恵器IA類が下層から巻き上げられたものではなく12層に伴うとすれば7世紀末にまで遡る可能性がある。

(13~15層)

13層から下層は前述したように遺物が少なく、また絶対年代を確定できる資料に乏しいことから大まかな時期を推定するに留めておきたい。13層は年代の確定できる遺物はないが、14層上面から出土した土師器壺I B類が13層に近い時期と考えられる。14層は層相から短時間に堆積したと考えられ、14層最下部の土師器壺I A類と15層中の壺はほぼ同時期と考えられる。したがって13層はI B類の年代から栗園式期後半(7世紀後半頃)、15層は壺I A類と壺、さらに対応する15次7a層の年代から南小泉式期(5世紀頃)と推定され、14層は15層の直後の時期と考えられる。

(16~26層)

16層の出土遺物はアメリカ式石鐵1点のみであるが、対応する15次7b層からは層上面で塙釜式~南小泉式の土師器、層中から天王山式の壺が出土している。また18層の出土遺物は天王山式と考えられる壺、アメリカ式石鐵、塙釜式と推定される壺である。16・18層共に確実に伴う遺物を確定できないため、各層の遺物を個々に検討することはできない。したがって時期は限定できないが、両層を総合した遺物の状況と層序関係から考えて大体16層は天王山式期~塙釜式期頃、18層は天王山式期頃と推定される。

22a層以下は年代を推定できる遺物がほとんど無い状態のため15次調査区との対応から年代を推定せざるを得ない。基本層序の対応が確実なのは22a層・25層のみで、それぞれ15次の年代範囲から22a層は十三塙式期、25層は樹形圓式期と推定される。23a層と24層については層序関係から樹形圓式期以降で十三塙式期以前と考えられる。

以上のように各層の年代あるいは編年的位置を求めてみた。重複するがまとめる以下のようなになる。

1層	幕末~現代	11層水田跡	9世紀前半~9世紀後半。上限は9世紀中葉まで下る可能性がある。
2層	17世紀末~19世紀頃	12層水田跡	8世紀前半~9世紀前葉頃。上限は7世紀末にまで遡る可能性がある。
3層水田跡	17世紀~18世紀前半頃	13層上面の遺構	7世紀後半頃
4層水田跡	16世紀頃	15層水田跡	5世紀頃
5層水田跡	13世紀後半~14世紀頃	16層水田跡	天王山式期~塙釜式期
6層水田跡	12世紀~13世紀頃	18層水田跡	天王山式期
7層水田跡	11世紀~12世紀頃	22層水田跡	十三塙式期
8層水田跡	10世紀後半を中心とする。下限は11世紀まで下る可能性がある。	23層水田跡	樹形圓式期~十三塙式期
9層水田跡	10世紀中葉頃	24層水田跡	樹形圓式期~十三塙式期
※7~9層が本来同一の層であると仮定した場合、その年代は10世紀中葉~12世紀頃と推定される。		25層水田跡	樹形圓式期
10層水田跡	9世紀後半~10世紀中葉頃	26層水田跡	樹形圓式期

(註1) 35次7層と9層は直上層によって広範囲に擾乱を受ける箇所があるので対し、8層は層厚も厚く、調査区全面に安定して分布している。

(註2) 伊田前遺跡第2海狀遺構の遺物については報文では12世紀頃とされているが、11世紀代とする見解(田中:1985)もある。

(註3) 安久東2号住居を基準とした安久東の年代の根拠となった灰釉陶器の年代は佐々木氏によって修正されている(佐々木:1982)。

(註4) 火山灰の降下年代については10世紀前半頃の降下も含めて数回の降下があった可能性も指摘されているが(結城:1991)、宮沢地区で認められる火山灰は他の調査地点を統合して考えると、ほぼ10世紀前半頃のものと推定される。

第3節 遺構の特徴と変遷

1. 弥生時代

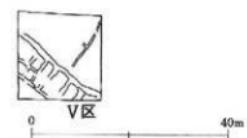
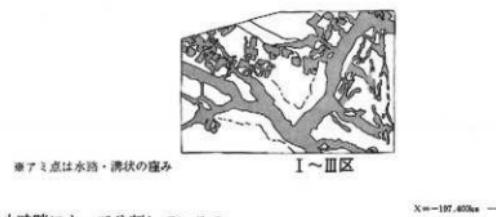
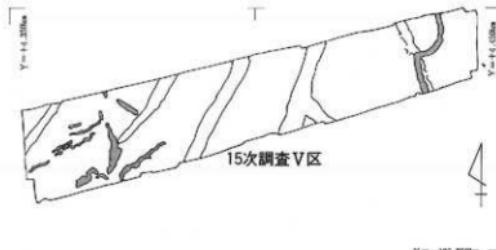
弥生時代の水田跡は16・18・22a・23a・24・25・26層で検出されている。このうち16層水田跡は時期が明瞭でなく古墳時代前期にかかる可能性があること、またV区の21層が水田耕作土の可能性があること、また26層水田跡については25層水田跡の下部である可能性もあることなど不確定要素があるが、ここでは一応16層より下層のものを弥生時代のものと考え、26層水田跡については25層水田跡に含めて記述することとする。

最も古い水田跡は辯形開式期の25・26層

水田跡で、V区の21層を除外すると、16層水田跡まで少なくとも6期の変遷が認められる。なお、水田跡は時期的に連続するものではなく、間に粘土や泥炭質粘土の互層が存在することから、水田經營が何度か中断していることが判る。各水田跡の構造は不明のものが多いが、それぞれの中斷期を挟んだ上下の水田跡では水路・大畦畔・耕作域などに共通性が認められる場合とそうでない場合とがあり、大きく3段階に分けることが可能である。

(1) 25・26層～24層水田跡

25層水田跡は15次調査11a層水田跡に対応し、15次調査V区を含めた水田域は南北175m以上に及んでいる。15次調査と35次I～III区では大畦畔が検出されたのみであるが、V区では大畦畔で区画された中をさらに小畦畔によって分割しているので、本来はこのような小区画水田であったと考えられる(第132図)。なお35次I～III区で検出された大区画は短辺(南北長)7～10m、15次V区の大区画は短辺(東西長)8.9～13.5mであり、ほぼ同規模の長方形と考えられる。長辺は明確ではないが35次と15次調査区を総合すると40m前後と推定される。24層水田跡はV区で認められたのみで、大畦畔はやや位置がずれるものの、ほぼ25・26層水田跡の大畦畔を踏襲しており、両者は密接な関係があると考えられる。24層水田跡の大畦畔下には粘土や泥炭質粘土の互層が擬似畦畔Bとして遺存しており、これが24層水田跡の主な母材層となっていると考えられる。この層はI～IV区では確認できなかったが、層相からは広範囲に分布すると考えられるため、I～IV区では23b層の最下部がこの層に相当する可能性がある。恐らく25層水田跡がこの層に覆われた後、復旧したのが24層水田跡であると推定される。なお調査区内で見るかぎりは25層水田跡に比べて水田域が大幅に縮小しているが、水田域の中心がV区以南に移動している可能性もあり縮小しているとは断定はできない。



第132図
25層水田跡・15次V区11a層水田跡

(2) 23~22層水田跡

24層水田跡はその後23 b層によって完全に埋没するが、この23 b層を母材とするのが23層水田跡である。23層水田跡は24層の大畦畔を踏襲せずに別な場所に新しく大畦畔を造っており、水田域も異なっている。この23層水田跡は22 b層によって埋没し、その後この22 b層を母材として22層水田跡が造られる。22 a層上面では畦畔を検出できなかったため22・23層水田跡における大畦畔の踏襲の有無は不明であるが、耕作域がほぼ重なる部分があることと、V区において23層水田跡の畦畔上面が22 a層によってあまり複雑されていないことから同じ場所に設けられていた可能性はある。水田域はIII区東部ではほぼ23層水田跡と重複するが、I・II・IV区では拡大している。ただこの場合も水田域の中心が移動した結果とも考えられるため、拡大しているとは断定できない。なお22 a・23 a層水田跡共に小畦畔は検出されていないが、前段階の24・25層水田跡、後段階の18層水田跡は小区画であるので、この段階も最終区画は小区画であった可能性がある。なお、水路はI~IV区において前段階の水路が完全に埋没せずに残っているが、これらが22・23層水田において水路として利用されたかどうかは不明である。

(3) 18~16層水田跡

前段階の22層水田跡は21・20・19層の堆積によって水田区画とI~III区の水路は完全に埋没する。18層水田跡の段階においてはIV区の水路は再利用しているが、I~III区には新たに直線的な水路を作り、この水路は16層水田の段階まで踏襲されている。水田域は22層よりもさらに拡大し、調査区全面にまで広がっている。

以上のように弥生時代の水田跡は途中何度か中断しながらも經營が続けられたことが判る。中断の前後で大畦畔の位置や水田域が変化し、新たな水路が造られる事はあるが、基本的な構造は変化がなく、等高線に対して平行・直交する大畦畔で大区画を作り、その中を小畦畔によって細分するものであったと考えられる。また各水田跡が粘土や泥炭質粘土の互層によって覆われていることと耕作土中に酸化鉄斑文が認められないことから、地下水位が高く、低温な環境にあったと考えられる。



15次調査V区



I~III区

第133図
15層水田跡・15次V区 7 a層水田跡

2. 古墳時代

古墳時代の水田跡は15層で検出された。この他16層も古墳時代に含まれる可能性があるが、16層については一応弥生時代の水田跡として前述した。また13層上面で溝跡等の遺構群を検出しているが、水田跡に係わるものかどうかは不明である。

15層水田跡は南小泉式期のものである。地形に沿った大畦畔によって大区画が造られ、その内部を小畦畔によって中区画と小区画に分割されている。大区画・中区画・小区画を有する水田形態は富沢地区の他の調査区における弥生時代の水田跡でも同様に認められており、このような区画方法と地形に大きく影響された区画のあり方は、弥生時代から古墳時代中期にかけて基本的に⁽¹³⁾変化がなかったことが指摘されている。

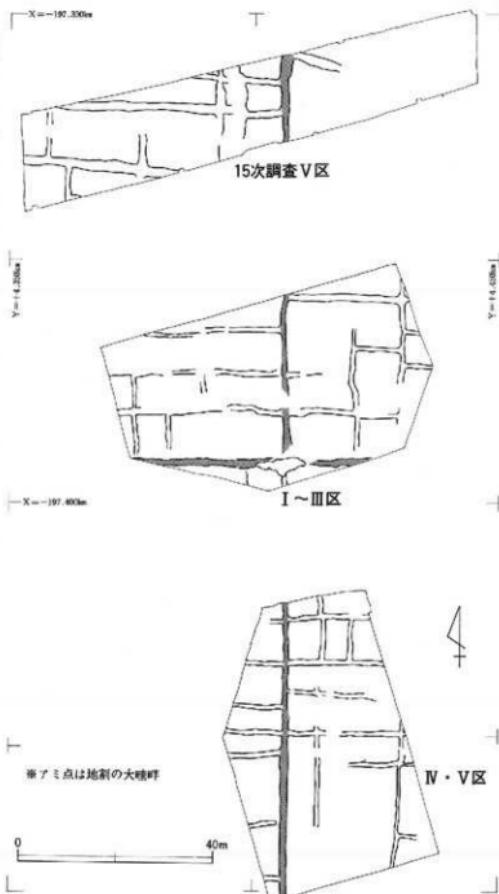
15層水田跡は15次調査7a層水田跡に相当するが(第133図)、両調査区を合わせた水田域は南北約180mに及び、さらに周辺に広がることが予想される。大区画は大畦畔や水路等の土手によって造られており、方形を意識してはいるが水路等の方向によって規制を受けている。水路はV区においては弥生時代からの水路を継続して利用しているが(主に排水路と推定される)、I区では給水機能を持つ水路を新たに設けており、ある程度は給水が必要な水田であったと考えられる。

この水田跡は14層によって完全に覆われるとその後13層上面の段階まで遺構・遺物は認められない。13層は7世紀後半以降に堆積・形成されたと考えられるので、この間はかなり長期間の空白期間があったと推定される。

3. 奈良・平安時代

12層水田跡はほぼ奈良時代、11・10・9・8・7層水田跡は平安時代に相当する。6層水田跡も平安時代にかかる可能性はあるが存続年代の中心は中世と考えられるため中世の項で述べる。なお検出できた水田跡は6期であるが前述したように9・7層水田跡が8層水田跡に含まれるとすれば奈良・平安時代を通して4期の変遷が認められることとなる。

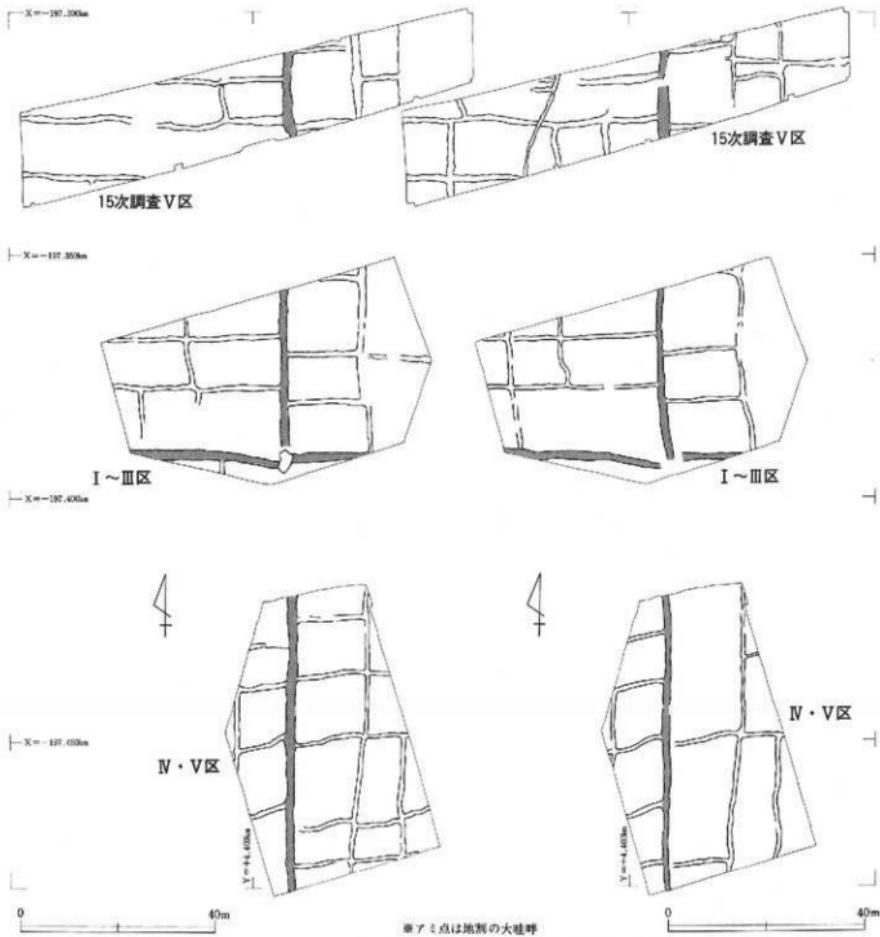
古墳時代中期の15層水田跡の埋没以降、

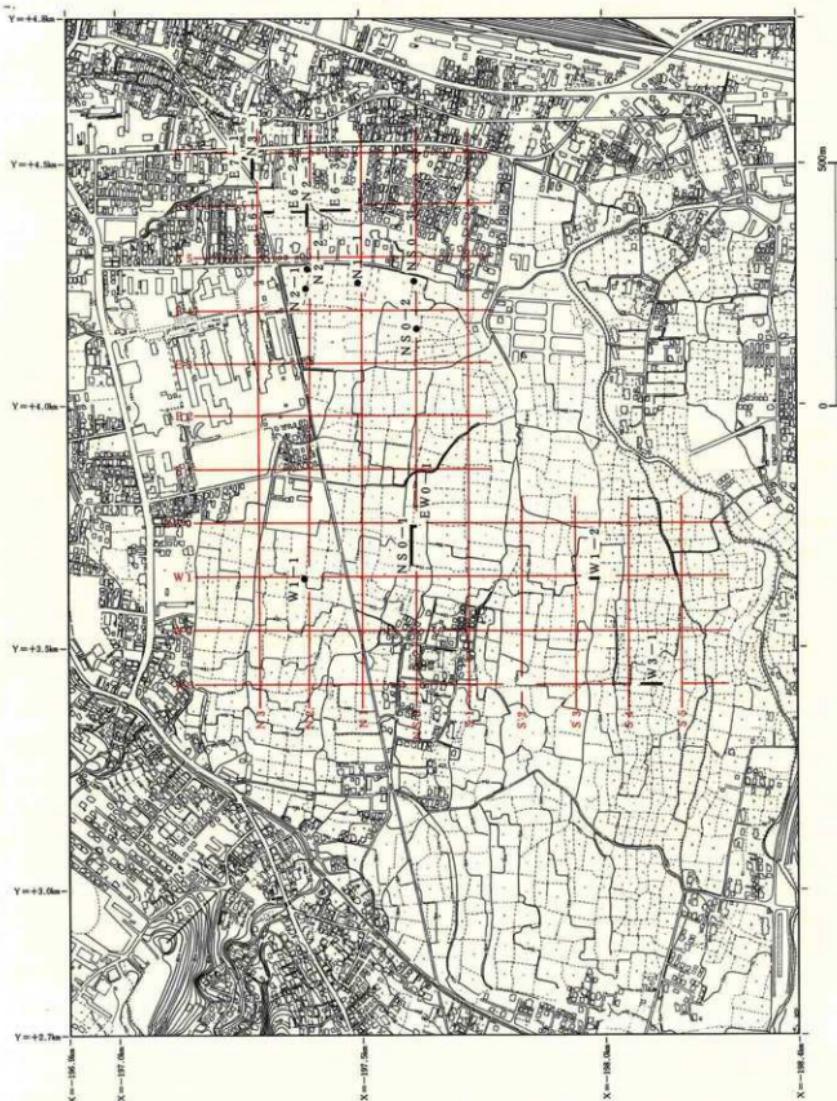


第134図 12層水田跡・15次V区 6層水田跡

水田經營は比較的長期に渡って中断していたが、12層段階になって新たに条里型の水田が造られる。この条里型の水田は12層水田跡と11層水田跡との間で一度中断した可能性はあるが、大体奈良時代以降平安時代を通して継続して認められる。

富沢地区における条里型の土地割については富沢遺跡第30次調査報告書（太田他：1991）において検討を加えたのでここではその詳細には触れないが、第137図・表65で富沢地区で検出された地割の大畦畔の位置を示した。これらは10～8層水田跡に対応する時期の大畦畔で、地割線の方位は真北を基準とし、間隔は107～110mのものが多い。





第137図 条里型土地割の復元（太田他：1991から転載）

方向	地割線と 畦畔N _o	調査 次 数	層位	検出長 (m)	座標 計測点	X 座 標 (km)	Y 座 標 (km)
南北	W3 - 1	山口 2 次	4 A	約47	北端	(-198.072)	(+ 3.420)
	W1 - 1	富沢61次	6	約 3.5	北端	-197.3881	+ 3.6410
	- 2	宮城県教委調査区	6	約19	中央	-197.9800	+ 3.6400
	EW 0 - 1	富沢30次	7	約 5	大畦交点	-197.6662	+ 3.7498
	E 6 - 1	富沢15次	5 a	約18	北端	-197.3880	+ 4.4070
	- 2	富沢35次	10	約33	大畦交点	-197.3911	+ 4.4066
東西	- 3	富沢35次	10	約60	南端	-197.4806	+ 4.4080
	E 7 - 1	富沢15次	5 a	約 7	大畦交点	-197.2833	+ 4.5147
	N 3 - 1	富沢15次	5 a	約41	東端	-197.2833	+ 4.5147
	N 2 - 1	富沢49次N _o 3地点	4 a	断面	-	-197.3873	+ 4.2412
	- 2	富沢12次	5	断面	-	(-197.399)	(+ 4.280)
	- 3	富沢35次	10	約47	大畦交点	-197.3911	+ 4.4066
NS 0 - 1	N 1 - 1	富沢49次N _o 5地点	4 a	断面	-	197.4957	+ 4.2505
	- 2	富沢53次	7	約80	大畦交点	-197.6662	+ 3.7498
	- 3	富沢49次N _o 7地点	4 b	断面	-	-197.6146	+ 4.1545

表65 地割の大畦畔（太田他：1991から転載）

と推定される。なお、当調査区では坪境の大畦畔が「十」字に交わって検出されており、さらに周辺へ延びることが予想される。これまで富沢地区における条里型土地割の初現については明確ではなかったが、12層水田跡の存在から奈良時代以前にまで遡ることが確認できた。ただし、現段階では他の調査区で確実に平安時代以前にまで遡る条里型の水田跡が検出されていないのでこの段階における条里型土地割の広がりは不明である。

第134～136図には12・10・8層水田跡とそれぞれが確実に対応する15次調査V区の6・5 a・4 b層水田跡を示した。12層水田跡と10層水田跡とでは坪内の区画が異なっており、10層水田跡では一区画の面積がやや大きくなっている。これは12層水田跡の地形面がやや複雑な起伏を持っていたのに対し、10層段階になるとより平坦に近くなった結果と推定される。一方10層水田跡と8層水田跡とでは区画に大きな差異は認められないことからこの期間においては地形面の大きな変化がなかったと理解しておきたい。

なお水路が検出されていないため給水方法は明らかではないが、坪境の大畦畔の交点が途切れていることから、各坪内を巡った用水は坪のコーナーから隣接する坪に供給されたと推定される。

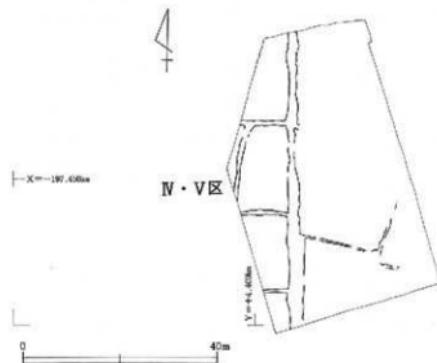
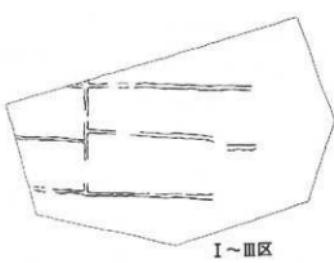
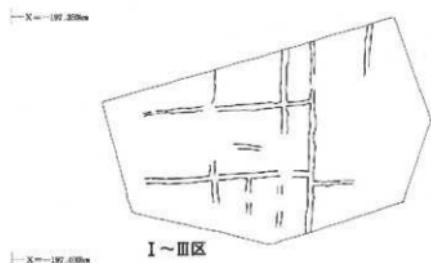
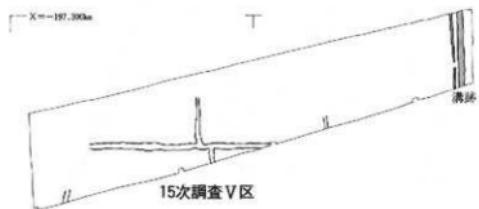
4. 中世

中世に相当するのは6・5・4層水田跡である。ただ、6層水田跡は前述したように上限が平安時代に含まれる可能性がある。

6層水田跡の段階では奈良・平安時代を通して認められる条里型土地割の大畦畔を一部で踏襲している。しかし大畦畔によって造られた明確な坪は認められず（第138図）、この時期には大畦畔から地割線の機能は失われていたと考えられる。そしてその後5層水田跡の段階になると条里型土地割は完全に消失し、小畦畔のみによって造られたほぼ同じ規格の区画によって構成されるようになる。ただこの時期に從来の条里型土地割に代わる別の地割りが存在したかどうかは確認できない。なお4層水田跡は遺構の遺存状況が悪いため、この時期についての詳細は不明である。各水田跡共に水路が検出されていないため給・排水システムは不明であるが、基本的には区画ごとに懸け流されたと考えられる。

なお、5・6層水田跡はそれぞれ15次調査3 a層・3 b層水田跡に対応する。15次3 b層の時期は同調査区V区は水田として利用されているが、V区の東端部にある溝を境にして東側のIV区を中心とする区域は居住域となっており。この居住域は第40次調査（平間：1989）においてさらに北方に広がることが確認されており、比較的規模の

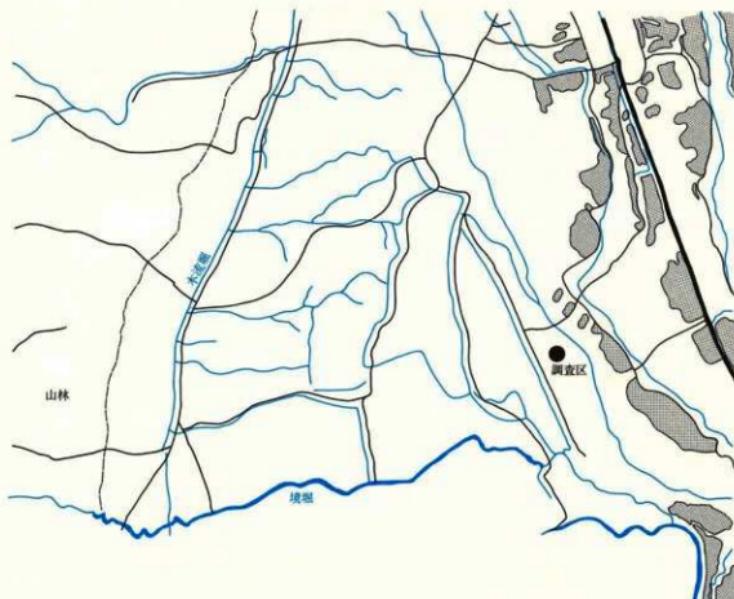
大きな「屋敷」の存在が予想されている。当調査区の遺物には中国産の青磁、白磁、染付等をはじめとして通常の農民層が所有していたとは考えにくいものが比較的多いことから、当調査区付近の水田はこの「屋敷」と密接な関係があったことが推測できる。また4層水田跡から鉄滓が出土しているが、これが他層からの混入ではないと仮定した場合、「屋敷」と係わりがあるとは断定はできないものの、少なくとも付近に鍛冶に関する施設があったことを示唆するものと考えられる。



第138図 6層水田跡・15次V区3b層水田跡



第139図 5層水田跡



第140図 近世の富沢地区 来アミ点は畠、黒線は道路、青線は河川・水路

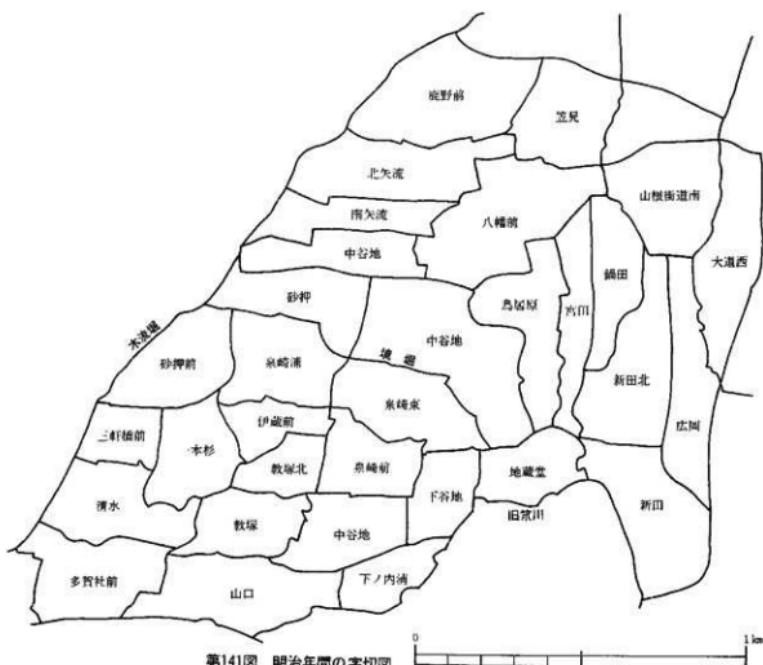
5. 近世

近世に相当するのは2・3層であるが、検出したのは3層水田跡である。3層水田跡は畦畔も部分的に検出できたのみであり、水路も検出できなかったためその構造については大部分が不明である。ただ層下面に薄い酸化鉄の集積層が認められるので地下水位はそれほど高くはなく、給水を必要とする水田であったと推測される。

第140図は文正5年に描かれた「名取郡北方根岸村・平岡村入合絵図」(仙台市博物館蔵)の中から道路・水路・河川・畠のみを抜き出したものであるが、図中の道路・水路・河川の位置・方向などを明治年間の字切図(第141図)と比較すると、ほぼ字境と一致していることが判る。ただ第141図では、図中東寄りにある鍋田と新田北の字境は北東から南西方向に延びているのに対し、古絵図ではこのラインに相当する道路又は水路がなく、この部分の境界が一致しない。

当調査区はI～III区が旧字鍋田、IV・V区が新田北に位置しているので、この対応させにくい地点にあるが、古絵図上での大体の位置を推定することは可能であった(第140図●印)。これによると西側には道路と水路、北側には道路、東側には水路が認められ、比較的の道路が集中する地区ではあるものの、調査区は丁度水田域にかかっていることが判る。なお、東側の水路を挟んだ東側には畠が記されており、微高地縁辺の状況をよく示しているといえる。

なお、第140図南端の水路は通称「境堀」と呼ばれており、江戸時代には北側の平岡村と南側の富沢村との村境となっていた。第141図では木流堀から分流し、「砂押」「中谷地」の南側から「地蔵堂」の北側を通って旧荒川に注ぐ



第141図 明治年間の字切図

かたちとなる。この水路は第30次調査（太田他：1991）で確認されている他、第34次調査ではこの「境堀」に接続すると考えられる水路も検出されている。

(註1) この水路の下限については第3章第13節で述べたように15筋水田跡の段階にまで下る可能性もある。

(註2) 富沢遺跡第28次調査10d層水田跡（佐藤：1987）、富沢遺跡第15次調査13b層水田跡（齋野他：1987）

(註3) 齋野他：1987

(註4) 12層の水田跡の上限は7世紀末まで遡る可能性はあるが存続時期は大体奈良時代を中心とする。

第4節 まとめ

調査の結果、3～12・15・16・18・22a・23a・24～26層上面で水田跡が検出された。3層は近世、4～5層は中世、6層が平安時代から中世、7～11層が平安時代、12層が大体奈良時代、15層が古墳時代、16層が弥生～古墳時代、18～26層が弥生時代である。またV区の21層も水田耕作土の可能性がある。なお13層上面では溝跡等の遺構が検出された。水田跡以外の個々の遺構としては溝跡44条、土坑18基、掘立柱建物跡1棟、性格不明遺構4群がある。調査成果及び問題点をまとめると以下のようになる。

1. 弥生時代から近世までの水田跡が重層的に検出された。水田跡の変遷を追うことによって各時期における土地利用のあり方も解明でき、隣接する第15次調査区の成果と総合すると富沢遺跡北東端における状況がかなり明らかになった。
2. 弥生時代以降古墳時代中期（26・25・24・23・22・18・16・15層水田跡）までは地形に影響された水田構造となつておらず、基本的構造にあまり変化は認められない。
3. 弥生時代の水田跡は何度か中断期があるが、中断の前後で大畦畔（大区画）を踏襲する場合と、別の場所に大畦畔を造り替える場合がある。なお弥生時代の水田跡は遺存状態の悪いものが多く、このため細部の構造については不明のものが多い。
4. 古墳時代の水田跡（15層水田跡）は遺存状況が良好で、区画方法もある程度明らかにすることができた。
5. 7世紀末～8世紀前半には条里型の水田が造られる（12層水田跡）。条里型土地割は一時期中断した可能性はあるものの、平安時代末期頃まで継続して（12～7層水田跡）認められる。調査区内には坪境の大畦畔の交点があり、条里プランの復元のための良好なデータを得ることができた。なお、坪内の区画には規格性は認められない。
6. 平安時代末～中世初頭の頃（6層水田跡）には条里型土地割が一部残存はしているが、新たに別な地割も認められてくる。その後の5層水田跡の段階になると条里型土地割は完全に姿を消し、大畦畔で造られる「坪」は認められなくなる。
7. 平安時代の7～9層水田跡、弥生時代の25・26層水田跡はそれぞれ同一の水田跡の上部～下部を分離して検出した可能性もある。水田跡が重層的に検出される場合における分層と水田跡の認定については、各水田跡の主なる母材層の堆積要因と堆積過程、水田跡の埋没・遺存過程等に密接に関係している。しかしながら、これらの基本的事項については必ずしも解明されているとは言えず、上記水田跡の認定も含めて今後の課題と言えよう。
8. 遺跡内の他の調査地点に比べて奈良・平安時代の遺物の量が多い。調査区は遺跡の北東端部に位置し、沖積地の中でも東側の自然堤防に近い場所であり、このことと遺物の量に関連があるとは断定できないが、この時期の居住域が近くに存在することを示唆している可能性はある。なお、中世の段階では近くの15次調査IV区や40次調査区で居住域が確認されており、この付近は水田域の端に相当することが判明している。
9. 各水田跡の年代は遺物の絶対量が少ない状況の中で類推したものもある。したがって年代については今後の調査によって検証していく必要があると考えられる。

引用・参考文献

- 荒井 格 1984 「富沢水田遺跡」[仙台市高連道関係遺跡調査報告Ⅱ] 仙台市文化財調査報告書第69集 仙台市教育委員会
- 伊藤博美 1990 「陸奥国における黒色土器—その展開と終焉」[東国土器研究 第3号] 東国土器研究会
- 氏家利典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」[歴史] 第14輯 東北史学会
- 氏家和也 1967 「陸奥岡分寺跡出土の丸底杯をめぐって」[佐久亮吉教授退歎記念論文集]
- 大越誠也 1990 「能登遺跡」[東北機械自動車道遺跡調査報告Ⅹ] 福島県文化財調査報告書第242集 福島県教育委員会・福島県文化センター
- 太田昭夫 1980 「大橋遺跡」[東北自動車道遺跡調査報告書IV] 宮城県文化財調査報告書第71集 宮城県教育委員会
- 太田明大 1991 「富沢遺跡第30回調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第149号] 仙台市教育委員会
- 大野重信 1990 「はりま遺跡発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書第192集 秋田県埋蔵文化財センター
- 小笠原好彦 1976 「東北地方における平安時代の土器についての二つの問題」[東北考古学の諸問題] 東北考古学会
- 岡田茂弘・桑原温郎 1974 「多賀城周辺における古代吉形土器の変遷」[研究紀要 1] 宮城県多賀城調査研究所
- 小川詔一 1980 「青木遺跡」[東北自動車道遺跡調査報告書IV] 宮城県文化財調査報告書第71集 宮城県教育委員会
- 加藤道男・阿部博志 1980 「駒音沢遺跡」[東北新幹線関係遺跡調査報告書V] 宮城県文化財調査報告書第72集 宮城県教育委員会
- 加藤道男 1981 「植田前遺跡」[東北自動車道遺跡調査報告書V] 宮城県文化財調査報告書第81集 宮城県教育委員会
- 加藤道男 1989 「宮城県における土師器研究の現状」[考古学論叢 II]
- 今森安季 1984 「富沢水田遺跡」[年報5] 仙台市文化財調査報告書第66集 仙台市教育委員会
- 毛森安季 1984 「富沢水田遺跡」[下ノ内浦地区]「仙台平野の遺跡群Ⅱ」仙台市文化財調査報告書第65集 仙台市教育委員会
- 金森安季 1987 「富沢遺跡—東北地方建設省町村宿舎建設工事に伴う発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第104集 仙台市教育委員会
- 木村浩二 1981 「郡山遺跡」[仙台市文化財調査報告書第29号] 仙台市教育委員会
- 木村浩二 1982 「郡山道路Ⅱ」[仙台市文化財調査報告書第38号] 仙台市教育委員会
- 木村浩二 1983 「郡山道路Ⅲ」[仙台市文化財調査報告書第45号] 仙台市教育委員会
- 木村浩二 1985 「郡山遺跡Ⅴ」[仙台市文化財調査報告書第74号] 仙台市教育委員会
- 木村浩二 1986 「郡山遺跡Ⅵ」[仙台市文化財調査報告書第86号] 仙台市教育委員会
- 木本元治・福島県営便 1988 「善光寺遺跡」[国道113号バイパス遺跡調査報告 JV] 福島県文化財調査報告書第192集 福島県教育委員会・福島県文化センター
- 工藤将司他 1982 「栗道跡」[仙台市文化財調査報告書第43号] 仙台市教育委員会
- 工藤将司他 1984 「富沢水田遺跡—病院建設に伴う泉崎前地区の調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第67集] 仙台市教育委員会
- 工藤将司・太田房夫 1988 「富沢遺跡—第24次調査 富沢中学校地区発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第113号] 仙台市教育委員会
- 森原源郎 1976 「須恵器系土器について」[東北考古学の諸問題] 東北考古学会
- 経済企画庁 1967 「地形、表層地質、土じょう 仙台」
- 小井川和夫 1983 「上新田遺跡」[宮城県文化財調査報告書第78集] 宮城県教育委員会
- 小井川和夫・小川淳一 1982 「御胸堂遺跡」[本北自動車道遺跡調査報告書VII] 宮城県文化財発掘調査報告書第83集 宮城県教育委員会
- 高野裕彦・荒井 格 1983 「鳥居原遺跡」[仙台市高連道関係遺跡調査報告Ⅱ] 仙台市文化財調査報告書第56集 仙台市教育委員会
- 高野裕彦 1984 「富沢水田遺跡・鳥居原地区」[仙台平野の遺跡群Ⅱ] 仙台市文化財調査報告書第65集 仙台市教育委員会
- 高野裕彦 1985 「富沢水田遺跡」[仙台市高連道関係遺跡調査概要JV] 仙台市文化財調査報告書第82集 仙台市教育委員会
- 高野裕彦 1987 「富沢—富沢遺跡第15次発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第98集] 仙台市教育委員会
- 高野裕彦 1990 「富沢—泉崎浦・山口遺跡」[仙台市文化財調査報告書第145集] 仙台市教育委員会
- 佐々木和博 1984 「鹿島遺跡—竹之内遺跡」[宮城県文化財調査報告書第101号] 宫城県教育委員会
- 佐藤 錄 1983 「泉崎浦遺跡」[年報4] 仙台市文化財調査報告書第57集 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 1987 「富沢遺跡第28次発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第114号] 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 1988 「富沢・泉崎浦・山口遺跡」[仙台市文化財調査報告書第128集] 仙台市教育委員会
- 佐藤甲二 1990 「富沢・泉崎浦・山口遺跡②」[仙台市文化財調査報告書第135号] 仙台市教育委員会
- 佐藤 洋 1981 「山口遺跡—発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第33号] 仙台市教育委員会
- 佐藤 洋 1987 「前小泉遺跡第112次発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第109号] 仙台市教育委員会
- 佐藤 洋 1988 「富沢遺跡—第34次発掘調査報告書」[仙台市文化財調査報告書第118号] 仙台市教育委員会
- 佐藤 洋 1991 「富沢・山口遺跡」[仙台市文化財調査報告書第152号] 仙台市教育委員会
- 渡谷孝雄 1980 「泉崎浦遺跡試掘調査報告」[年報1] 仙台市文化財調査報告書第23集 仙台市教育委員会

- 主浜光明 1988「常沢遺跡－第33次発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第117集 仙台市教育委員会
- 主浜光明 1988「泉崎鴻遺跡－発掘調査報告書」仙台市文化財調査報告書第119集 仙台市教育委員会
- 庄子貞雄・山田一郎 1989「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城市－昭和54年度発掘調査報告』宮城県多賀城跡研究所
- 白島良一 1980「多賀城跡出土土器の変遷」[研究紀要 VII] 宮城県多賀城跡調査研究所
- 高橋勝也 1983「中谷地遺跡」[仙台市高遠鉄道関係遺跡調査概報II] 仙台市文化財調査報告書第56集 仙台市教育委員会
- 高橋勝也・阿部寛 1987「須江猪俣遺跡」河南町文化財調査報告書第1集 河南町教育委員会
- 田中則和他 1988「山口遺跡II」仙台市文化財調査報告書第61集 仙台市教育委員会
- 田中則和 1988「宮沢水田遺跡」[仙台平野の遺跡群IV] 仙台市文化財調査報告書第75集 仙台市教育委員会
- 田中則和 1985「山口遺跡」[仙台平野の遺跡群IV] 仙台市文化財調査報告書第75集 仙台市教育委員会
- 土岐山武 1980「安久東遺跡」[東北新幹線関係遺跡調査報告書IV] 宮城県文化財調査報告書第72集 宮城県教育委員会
- 鶴島正幸 1987「宮沢遺跡周辺の地形と土地条件の変遷」[常沢・宮沢遺跡第15次発掘調査報告書] 仙台市文化財調査報告書第96集 仙台市教育委員会
- 会員
- 中野裕平・佐藤被幸 1990「須江間ノ入遺跡」河南町文化財調査報告書第4集
- 丹羽 茂他 1981「清水遺跡」「東北新幹線関係遺跡調査報告書V」[宮城県文化財調査報告書第77集] 宮城県教育委員会
- 丹羽 茂 1983「古前遺跡」[宮城県文化財調査報告書第96集] 宮城県教育委員会
- 平間亮輔 1988「平安時代の条里型土地区分について」[日本における稻作農耕の起源と展開－日本考古学協会設立40周年記念シンポジウム・資料集] 日本考古学協会静岡大会実行委員会・静岡県考古学会
- 平間亮輔 1989「富沢遺跡とその周辺における条里型土地区分について」[条里制研究 第5号] 条里制研究会
- 平間亮輔 1989「富沢遺跡第40次調査」[宮沢・泉崎浦・山口遺跡] 仙台市文化財調査報告書第128集 仙台市教育委員会
- 松本清一 1987「宮沢遺跡」[仙台平野の遺跡群VI] 仙台市文化財調査報告書第97集 仙台市教育委員会
- 真山 信 1981「東山遺跡」「東北自動車道遺跡調査報告書V」[宮城県文化財調査報告書第81集] 宮城県教育委員会
- 真山 信 1981「家原内遺跡」「東北自動車道遺跡調査報告書V」[宮城県文化財調査報告書第81集] 宮城県教育委員会
- 真山 信他 1988「宮沢遺跡－泉崎前地区」[宮城県文化財調査報告書第129集] 宮城県教育委員会
- 宮崎 明 1988「宮沢遺跡(1) 第31次発掘・(2) 第32次発掘」[年報9] 仙台市文化財調査報告書第122集 仙台市教育委員会
- 森 實喜 1982「水入遺跡発掘調査報告書」[宮城県文化財調査報告書第84集] 宮城県教育委員会
- 結城廣一 1991「宮城県における古代山火炎の年代観について」[仙台市博物館調査研究報告 第11号]
- 横倉英一他 1982「口高遺跡(IV)」[高崎市文化財調査報告書第34集] 高崎市教育委員会
- 吉岡恭平 1983「泉崎浦遺跡」[仙台市高遠鉄道関係遺跡調査概報II] 仙台市文化財調査報告書第56集 仙台市教育委員会
- 吉岡恭平 1986「宮沢水田遺跡鳥居原地区」[仙台市高遠鉄道関係遺跡調査概報V] 仙台市文化財調査報告書第89集 仙台市教育委員会
- 吉川秀享 1990「大森内遺跡」[柏崎開拓遺跡調査報告II] 福島県文化財調査報告書第234集 福島県教育委員会・福島県文化センター
- 渡辺 誠 1986「宮沢水田遺跡」[年報7] 仙台市文化財調査報告書第94集 仙台市教育委員会
- 渡辺 誠 1986「宮沢水田遺跡」[仙台平野の遺跡群V] 仙台市文化財調査報告書第87集 仙台市教育委員会
- 渡辺弘美 1987「宮沢遺跡発掘調査」[年報8] 仙台市文化財調査報告書第107集 仙台市教育委員会
- 1984「衆具便利論」「日本農業全集15」農山漁村文化協会
- 1999「第3回東日本の水田跡を考える会－資料集－」東日本の水田跡を考える会
- 1999「[天王山式をめぐって]」の検討会 記録集「弥生時代研究会

写 真 図 版



調査区(I～III区)及びVI・V区の調査前の状況(南から)

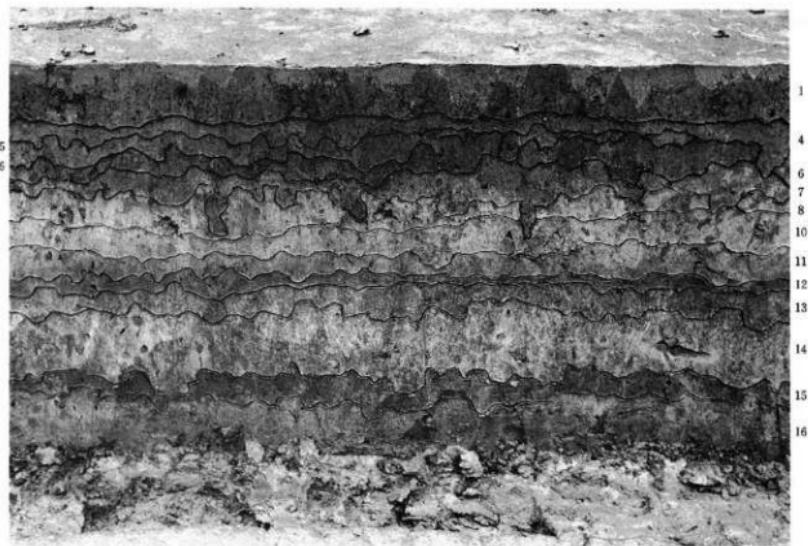


写真1 V区東壁断面(L-8、1~15層)

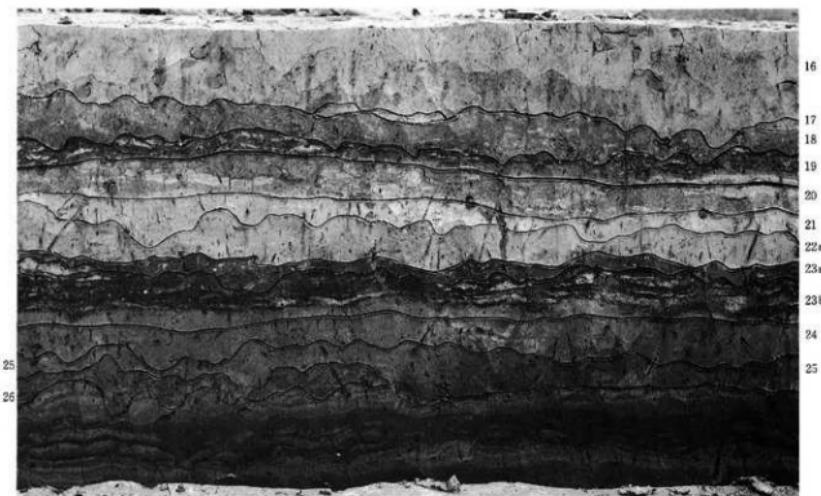


写真2 V区東壁断面(L-7、16~26層)



写真3 3層水跡検出状況(Ⅲ区、北から)

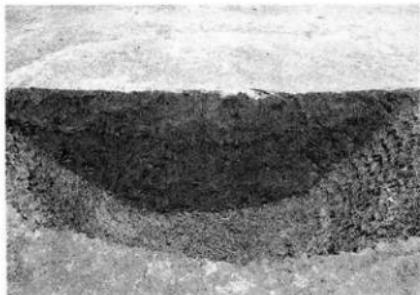


写真4 SK 1断面

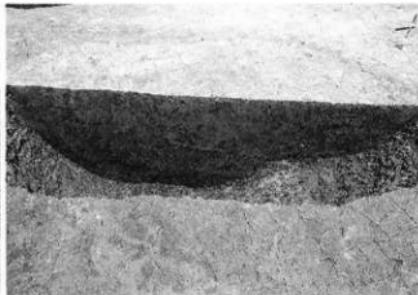


写真5 SK 2・3断面(左侧がSK 2)

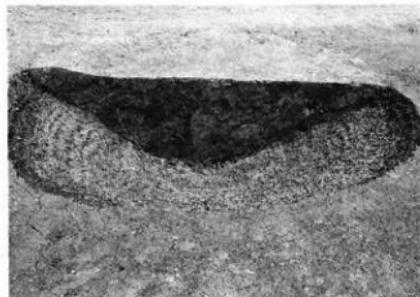


写真6 SK 4断面



写真7 SK 5断面

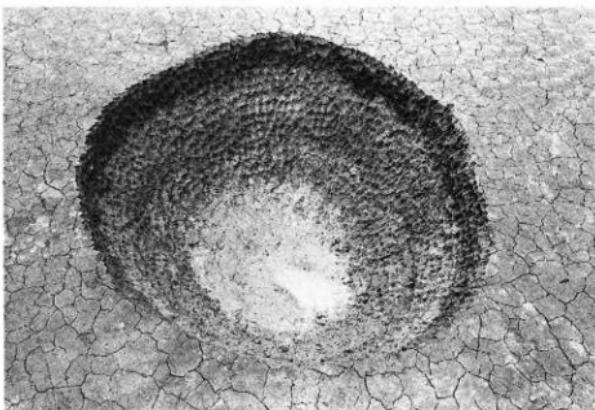


写真8 SK 6完掘状況



写真9 SK 7完掘状況

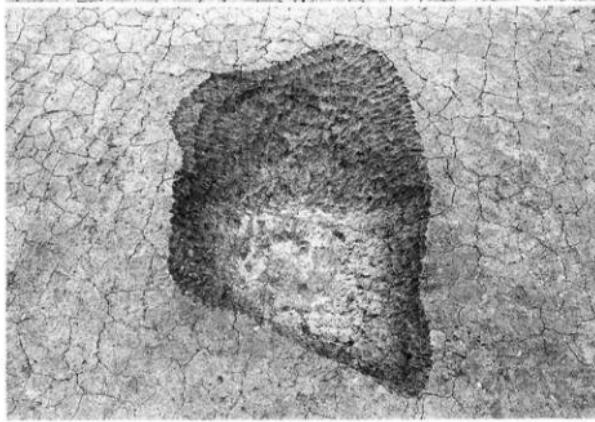


写真10 SK 10完掘状況



写真11 4層水田跡検出状況(II区、北から) 中央はセクションベルト



写真12 4層水田跡検出状況(IV区、東から)



写真13 SD3 完掘状況

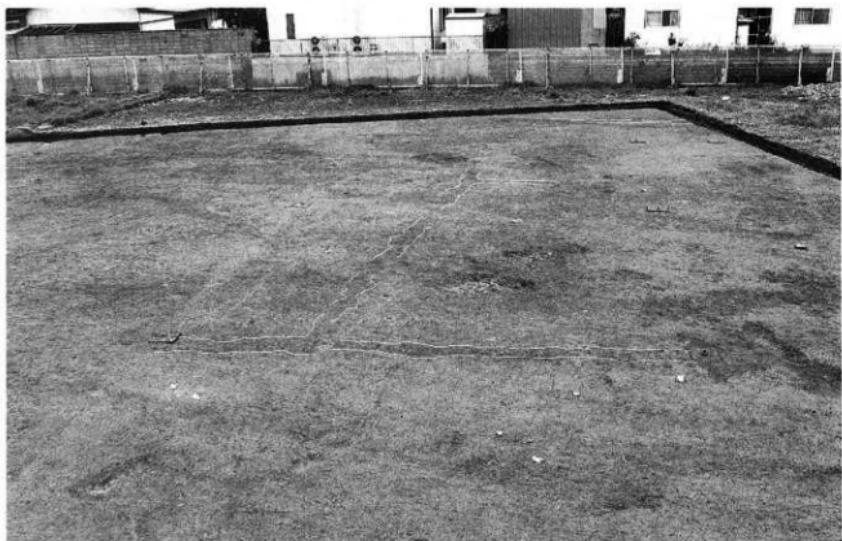


写真14 5層水田跡確認状況(IV区、東から)

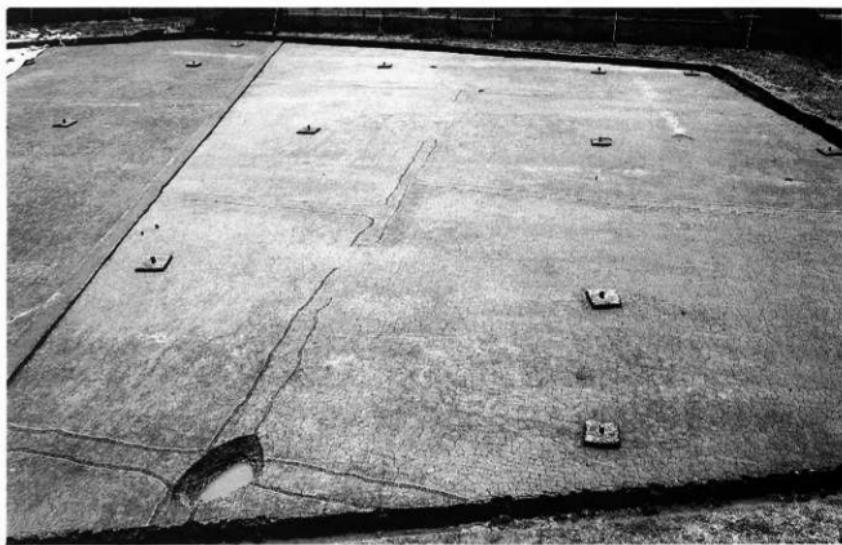


写真15 5層水田跡検出状況(I区、北から) 右奥にはすでに8層水田跡の畦畔上面が白っぽく見えている。



写真16 6層水田跡確認状況(I区、北から)



写真17 6層水田跡検出状況(I区、北から) 带状に白く見えるのはもろ着水田跡の畦畔上面



写真18 6層水田跡検出状況(II区、北から) 帯状に白く見えるのは8層水田跡の畦畔上面



写真19 6層水田跡検出状況(V区、南から)

大畦畔の中央部には、7層水田跡の

大畦畔上面が露出している

(白っぽく見える部分)

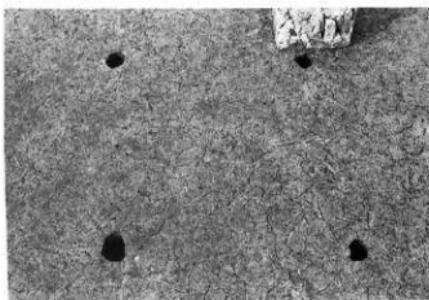


写真20 SB1完掘状況(南から)



写真21 7層水田跡確認状況(Ⅲ区、北から)



写真22 7層水田跡検出状況(Ⅱ・Ⅲ区、北から)右側が大時町N.1



写真23 7層水田跡確認状況(V区、南から) 左側が大咲町No17



写真24 7層水田跡検出状況(V区、南から)



写真25 7層水田跡検出状況(IV・V区、北から) 右側が大咲町No17



写真26 8層水田跡確認状況(I区、北から)



写真27 8層水田跡検出状況(I区、北から)



写真28 8層水田跡確認状況(Ⅱ区、北から)



写真29 8層水田跡検出状況(Ⅱ区、北から) 耕作土上面には6層水田跡の耕作土がピット状に食い込んでいる
左側が大畦畔No.5



写真30 8層水田跡検出状況(II・III区、北から) 右側が大塙町No.5。水田面には7層水田時の耕作土が入り込んだ細い溝状のプランが認められる



写真31 8層水田跡検出状況(IV・V区、北から) 右側が大塙町No.19



写真32 9層水田跡確認状況(I区、北から)



写真33 9層水田跡検出状況(I区、北から)



写真34 9層水田跡検出状況(Ⅱ区、北から) 左側が大垣町No.5



写真35 9層水田跡検出状況(Ⅱ・Ⅲ区、北から)



写真36 10層水田跡確認状況(I区、北から)

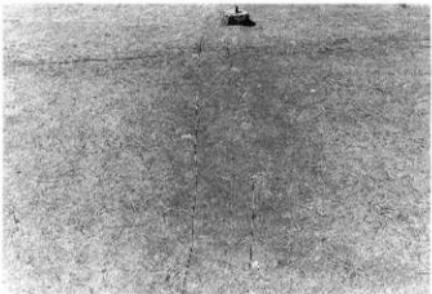


写真37 10層水田跡確認状況
(畦畔No.9、東から)

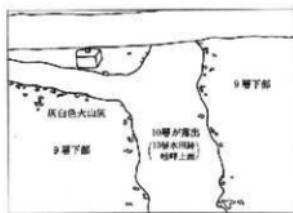


写真38 10層水田跡確認状況
(畦畔No.8・11、南から)



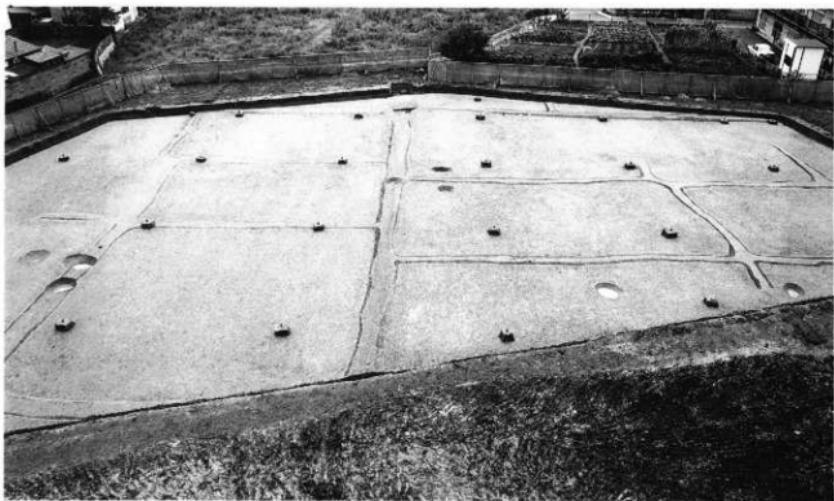


写真39 10層水田跡検出状況(I～III区、北から) 中央が大畦畔No.7

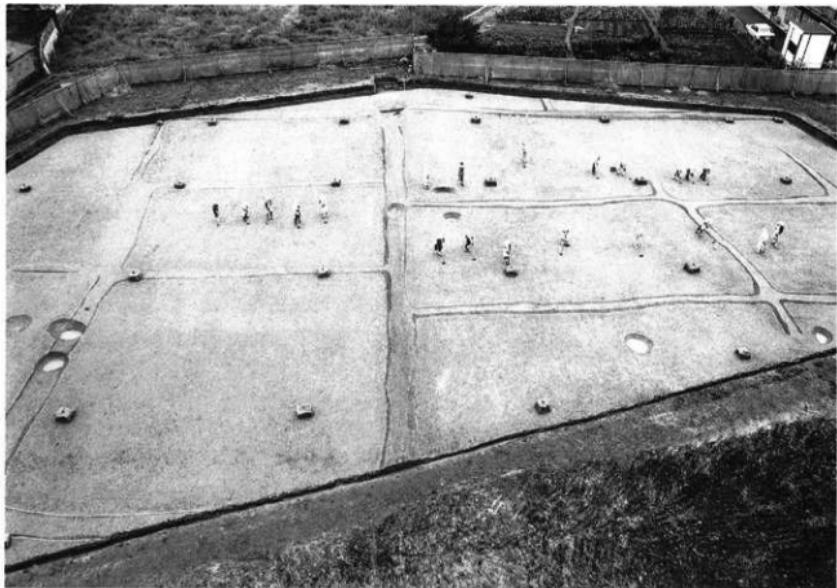


写真40 10層水田跡検出状況(I～III区、北から)



写真41 10層水田跡検出状況(IV・V区、北から) 右側が大畦畔No.22

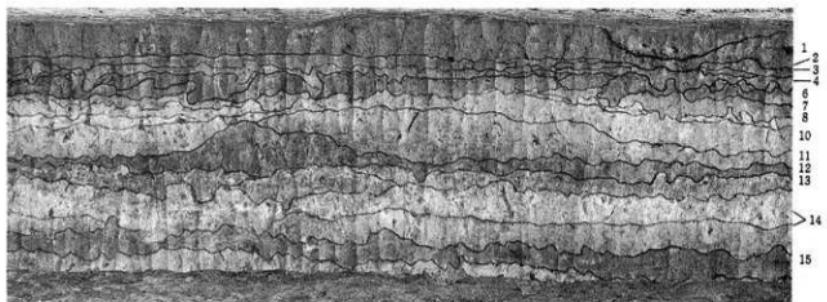


写真42 6～12層水田跡大畦畔断面(IV区H—5 北壁)

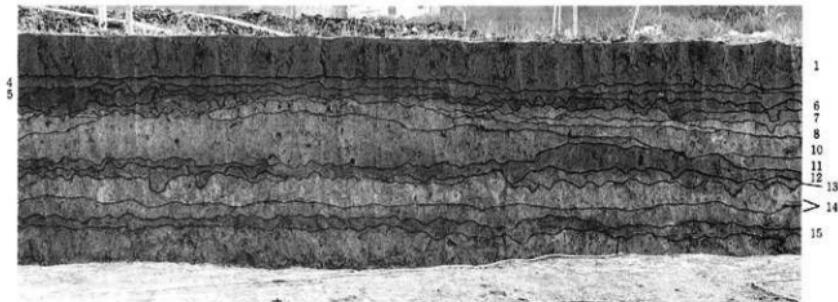


写真43 6～12層水田跡大畦畔断面(V区N—5 南壁)



写真44 水田面の状況
(V区、北から)

主に灰白色火山灰が入
り込んだ細い溝状のブ
ランが多数認められる



写真45 水田面の足跡
(区画⑩、東から)

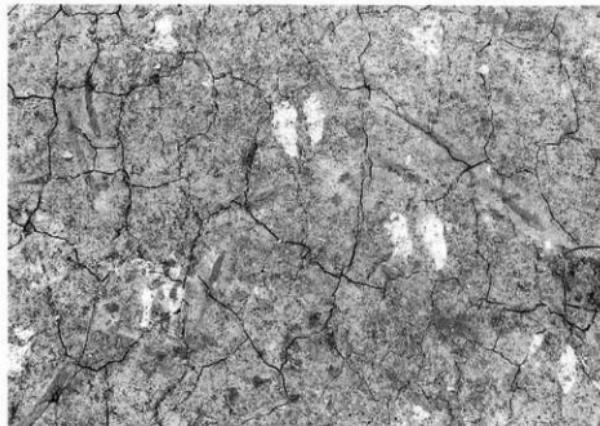


写真46 水田面の足跡
(区画⑪、東から)

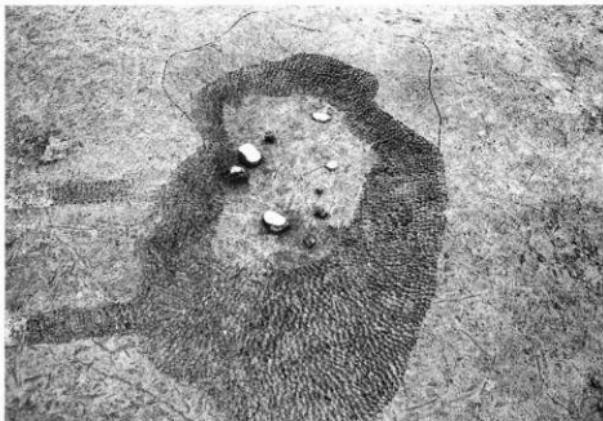


写真47 SK 14発掘状況
(南から)

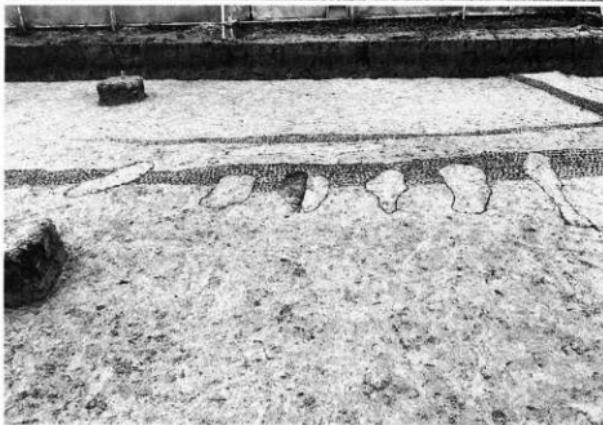


写真48 SX 1群確認状況
(一部半裁、北から)



写真49 10層水田跡断面、
灰白色火山灰の状況
(II区南壁)



写真50 12層水田跡検出状況(I区、北から)

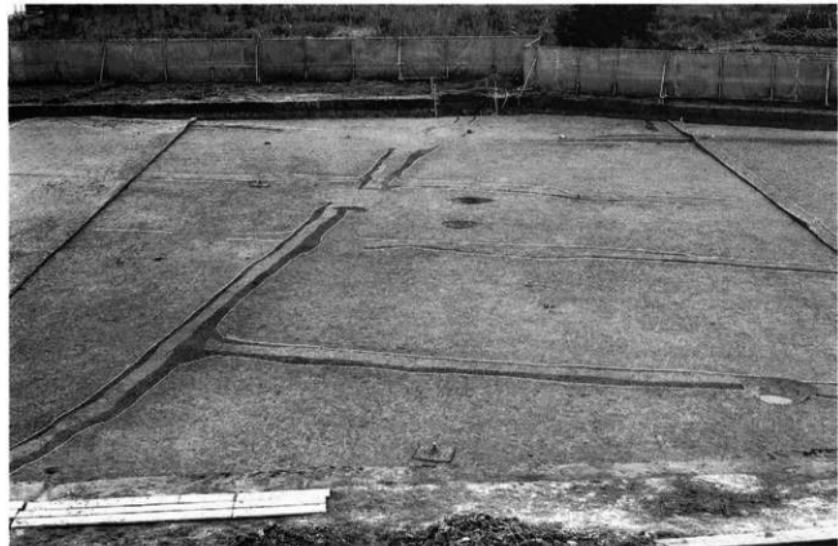


写真51 12層水田跡検出状況(II区、北から) 中央左寄りが大粒町No.8



写真52 12層水田跡確認状況(Ⅲ区、北から)



写真53 12層水田跡検出状況(Ⅲ区、北から)



写真54 12層水田跡検出状況(IV・V区、北から)

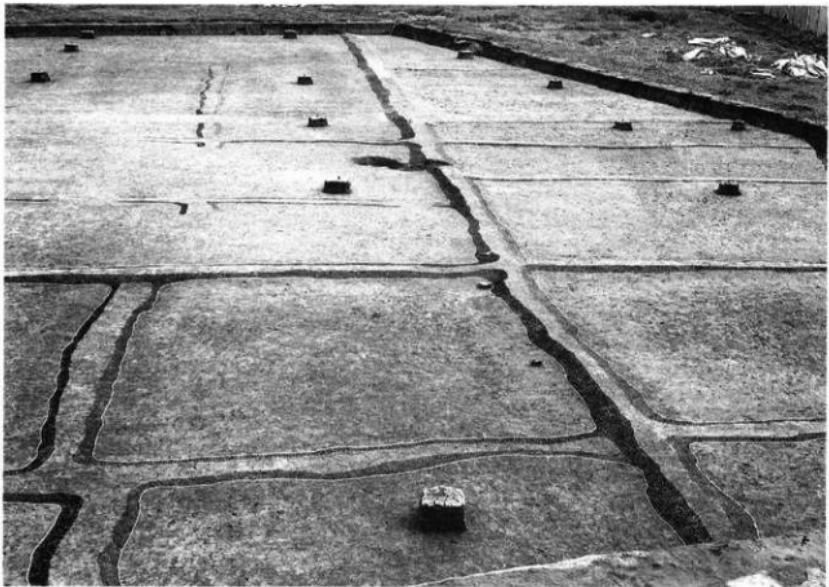


写真55 12層水田跡検出状況(IV・V区東部、北から) 中央右寄りが大蛇#No30



写真56 12層水田跡大畦畔
(No19、東から)



写真57 SK 16完掘状況
(東から)



写真58 SK 17完掘状況
(南から)



写真59 15層水田跡検出状況(I～III区、北から)



写真60 15層水田跡検出状況(IV・V区、北から)

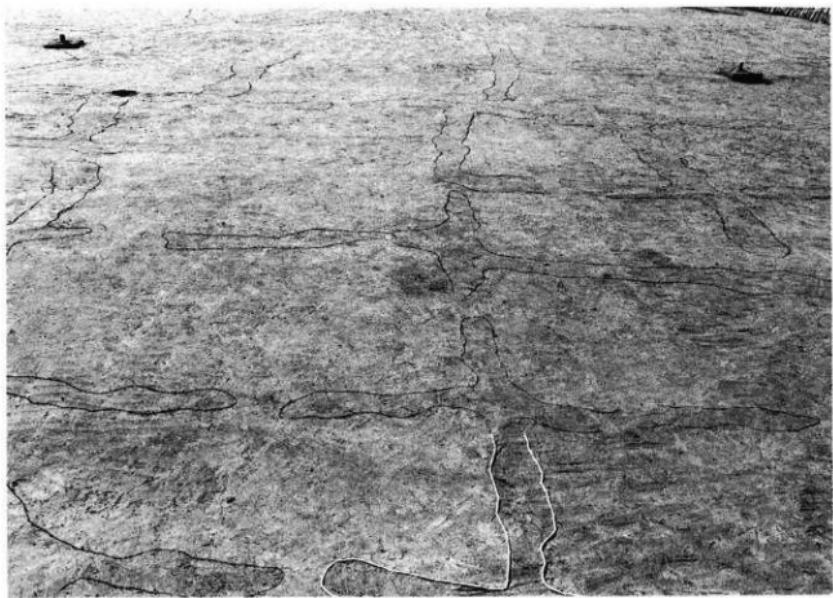


写真61 15層水田跡確認状況(I区・C-3、東から)

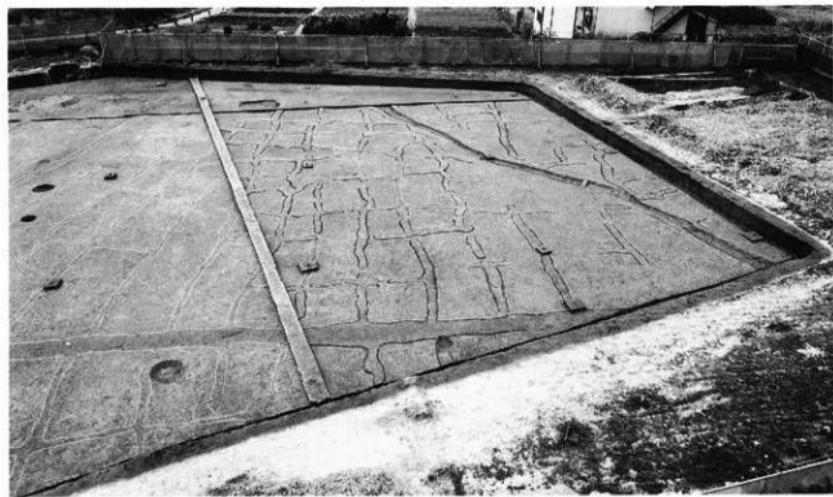


写真62 15層水田跡検出状況(I区、北から) 左側のⅢ区は確認状況



写真63 15層水田跡確認状況(Ⅱ区、北から) 右側の1区は検出状況

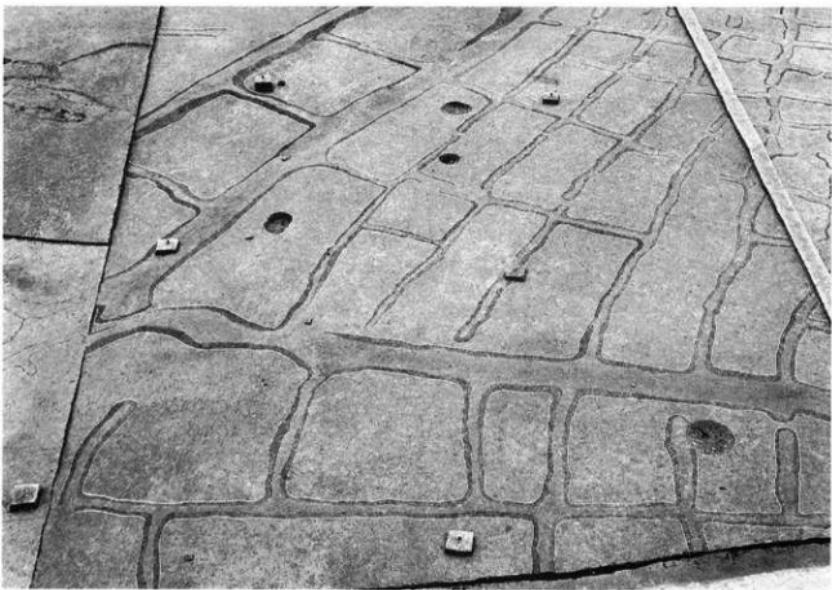


写真64 15層水田跡検出状況(Ⅱ区北部、北から)

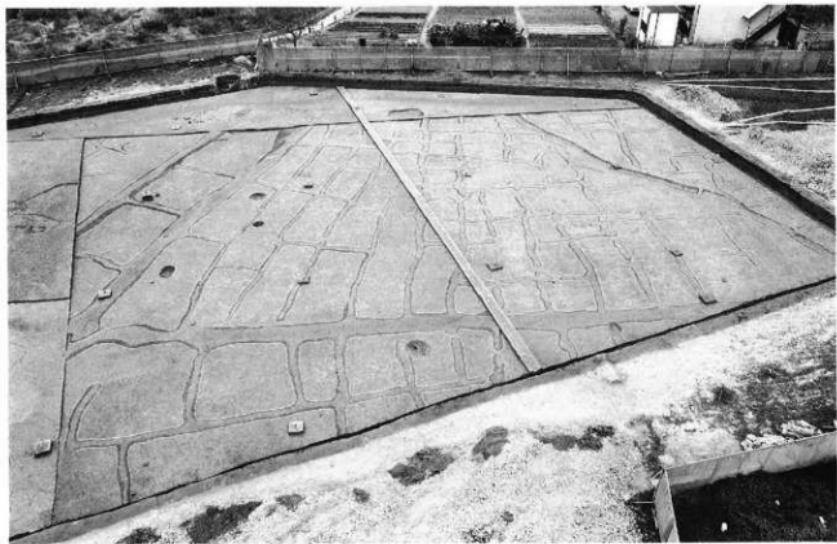


写真65 15層水田跡検出状況(I・II区、北から)

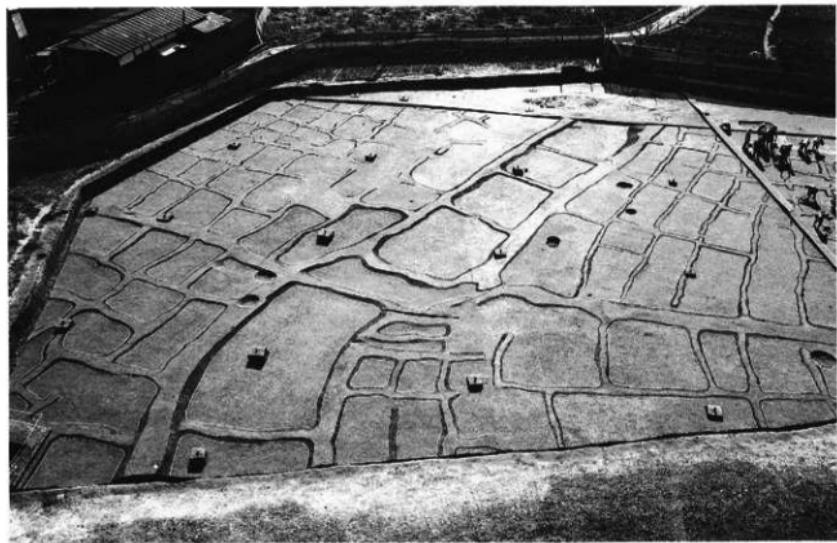


写真66 15層水田跡検出状況(II・III区、北から)



写真67 15層水田跡検出状況(IV・V区、大区画G・H、北から)



写真68 15層水田跡検出作業(IV・V区、北から)

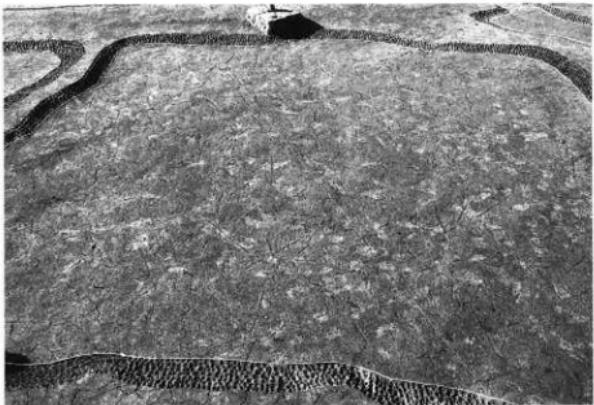


写真69 水田面の状況
(区画⑤、東から)

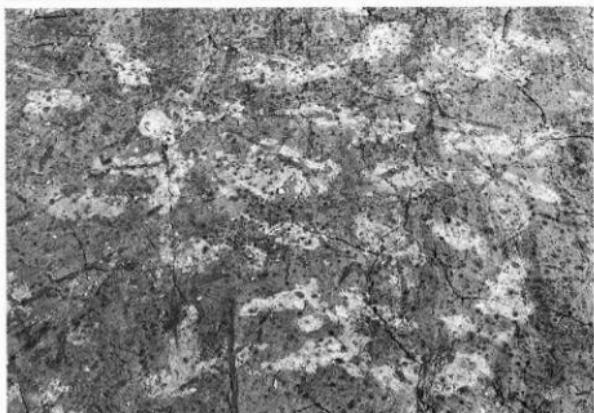


写真70 水田面の状況
(区画⑤)

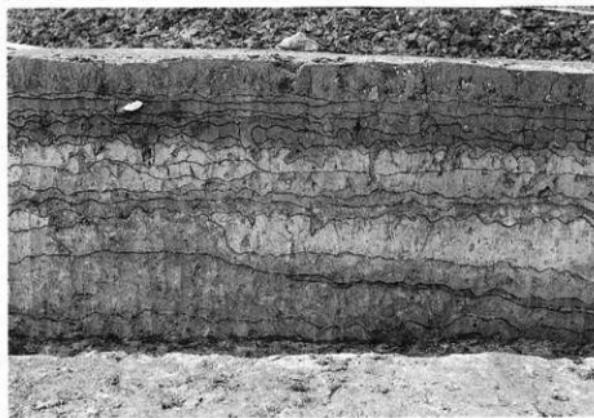


写真71 大畦畔No.3、
大区画C断面
(A—5北壁)



写真72 18層水田跡確認状況(II・III区、北から)



写真73 18層水田跡検出状況(II・III区、北から)



写真74
22層水田跡検出状況
(Ⅱ・Ⅲ区、北から)



写真75 SD21完掘状況
(東から)



写真76 22層水田跡耕作域・
非耕作域断面
(Ⅲ区D-6南壁、
区画③西端)



写真77 23層水田跡確認状況（V区、東から）右側が非耕作域

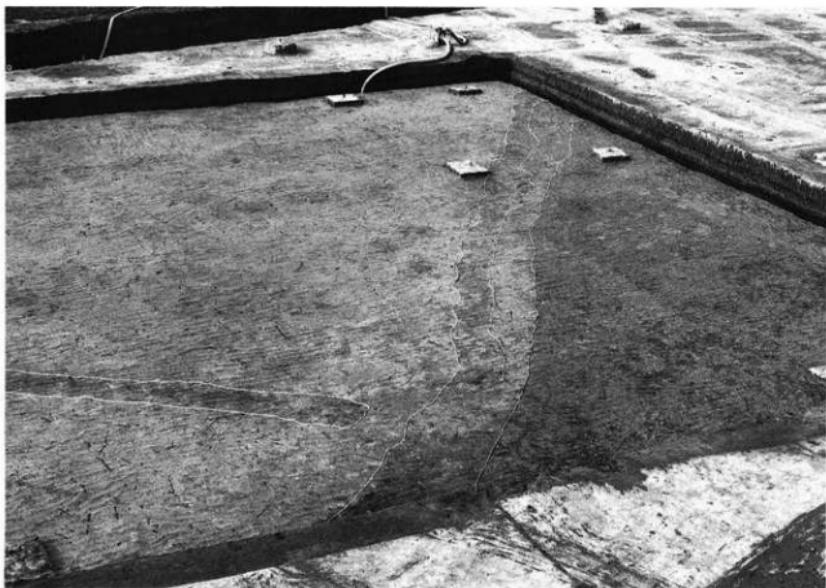


写真78 23層水田跡確認状況（V区北部、東から）



写真79 23層水田跡検出状況(V区、南から) 手前側が耕作域

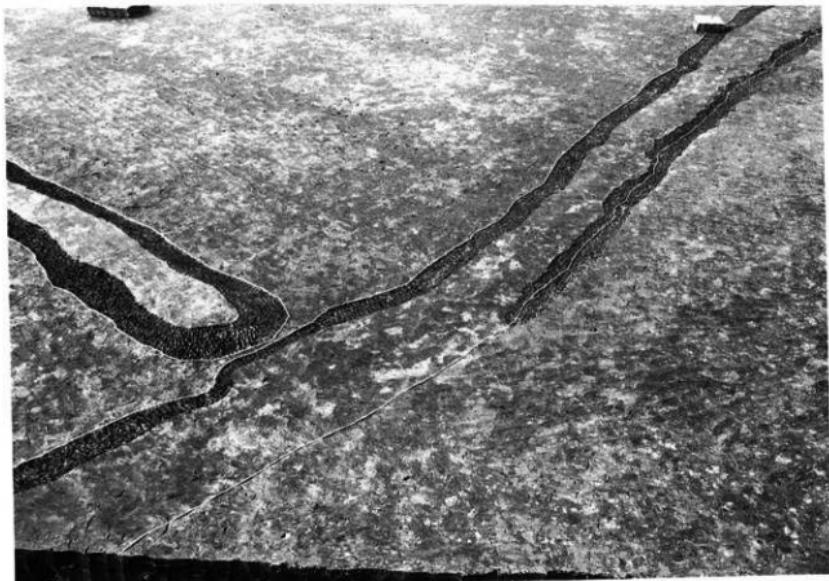


写真80 23層水田跡耕作域・非耕作域(V区、東から)

畔から左側に分布する灰色の土が23a層(耕作域)で、右側に分布する黒い土が23b層(非耕作域)。上面は耕作域・耕作域共に底上の22a層(白っぽい土)による擾乱を受けている。



写真81 23層水跡耕作域・非耕作域断面(Ⅲ区D—7南壁、区画①西端)

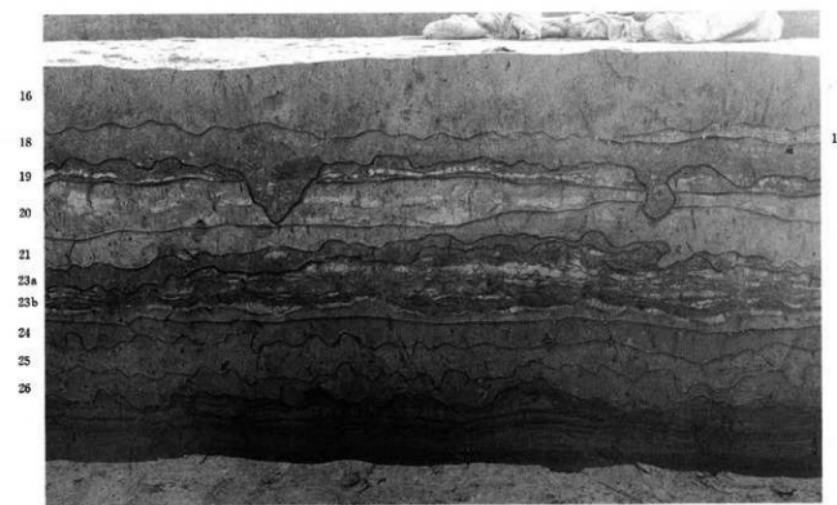


写真82 23層水跡畦畔No.2断面(V区M—6南壁)



写真83 23層水田跡畦群 1・S D 33断面 (V区 K—5 北壁) S D 33の右側は非耕作域



写真84 23層水田跡畦群 1・S D 33断面 (V区 L—7 東壁) S D 33の左側は非耕作域

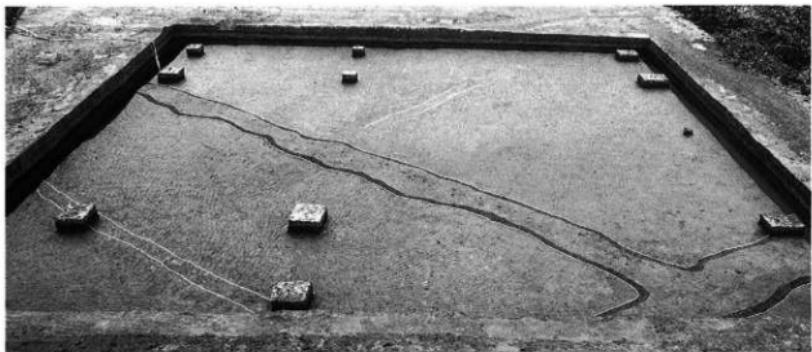


写真85 24層水田跡検出状況(V区、南から)



写真86
24層水田跡擬似畦畔B確認
状況(V区、南東から)

18
19
20
21
23a
23b
24
25

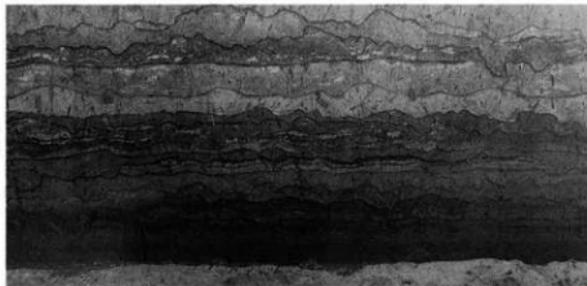


写真87
24層水田跡擬似畦畔B断面
(V区M-6南壁)



写真88 25層水田跡検出状況(I～III区、北から)



写真89 25層水田跡上面の状況(II区・部分、北から)

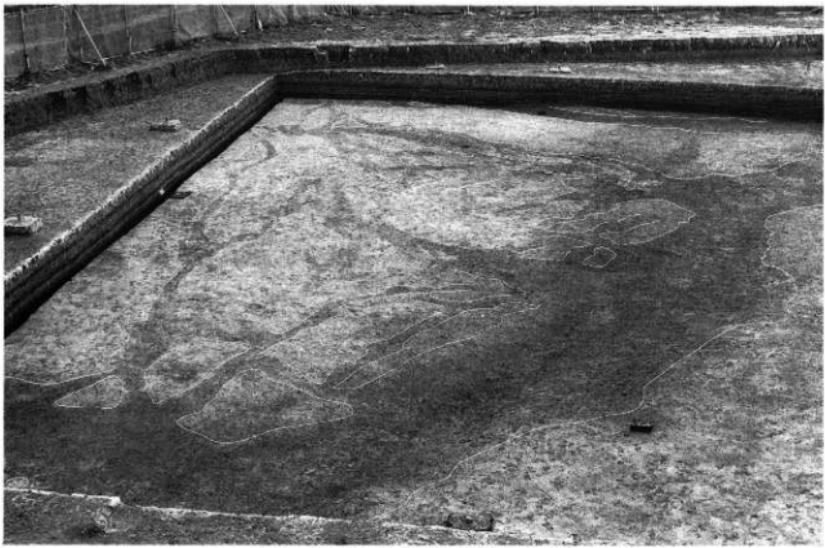


写真90 25層水田跡溝跡確認状況(Ⅲ区、北から)

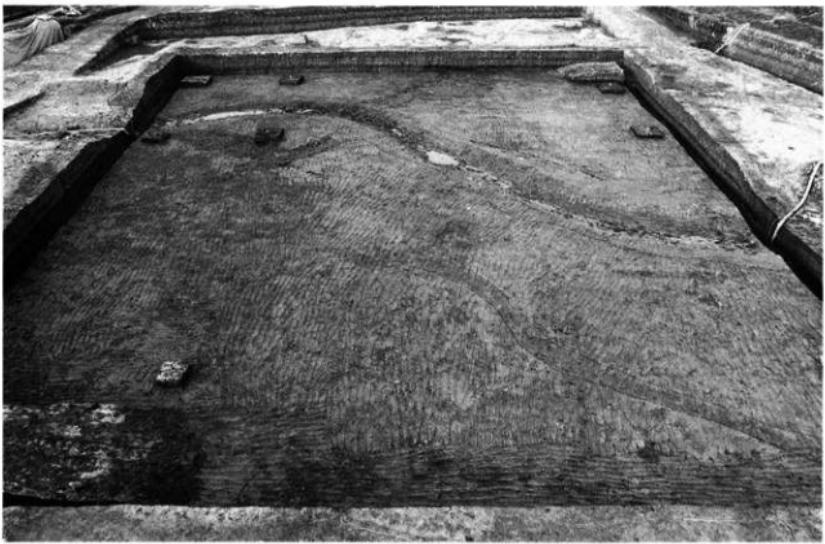


写真91 25層水田跡溝跡確認状況(Ⅳ区、南から)

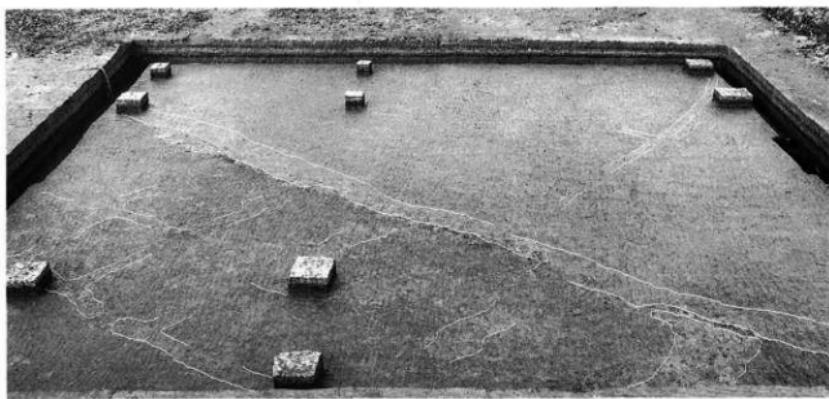


写真92 25層水田跡確認状況(V区、南から)

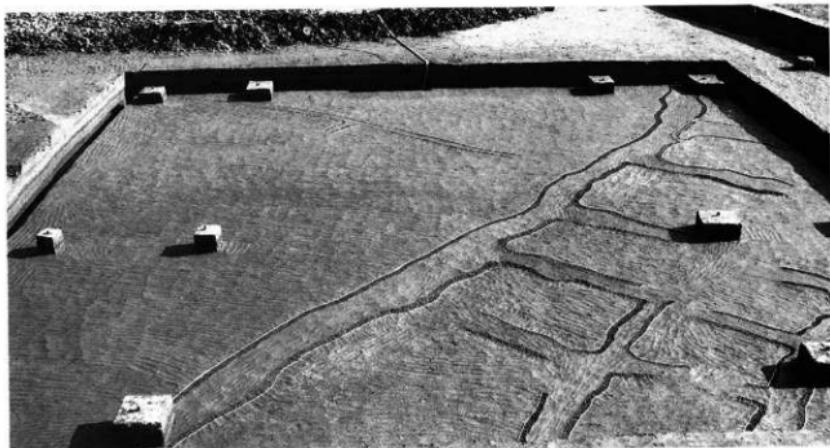


写真93 25層水田跡検出状況(V区、西から)



写真94
25層水田跡
畦畔中の樹木出土状況(V区、南東から)



写真95
25層水田跡検出杭断面
(No. 1、西から)



写真96
25層水田跡検出杭断面
(No. 3・4、東から)



写真97
25層水田跡検出杭断面
(No. 4・5、東から)



写真98 26層水田跡検出状況(I～III区、北から)



写真99 26層水田跡検出作業(I～III区、西から)



写真100 26層水田跡畦畔B確認状況(II区畦畔No.2下、南西から)

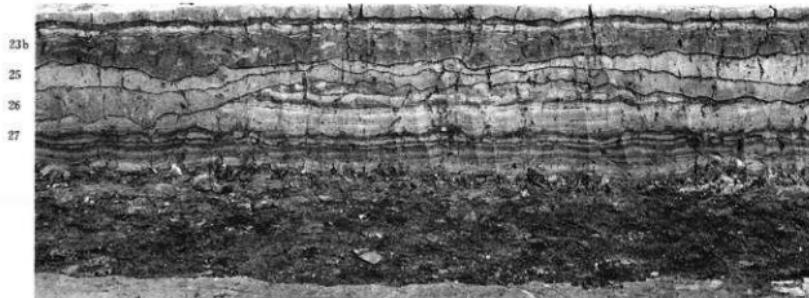


写真101 26層水田跡畦畔No.2断面(I区B-4、北壁)

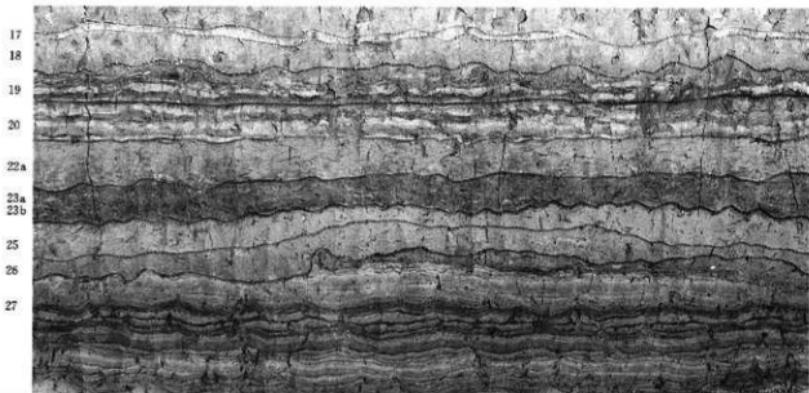


写真102 26層水田跡畦畔No.3断面(II区C-7、東壁)

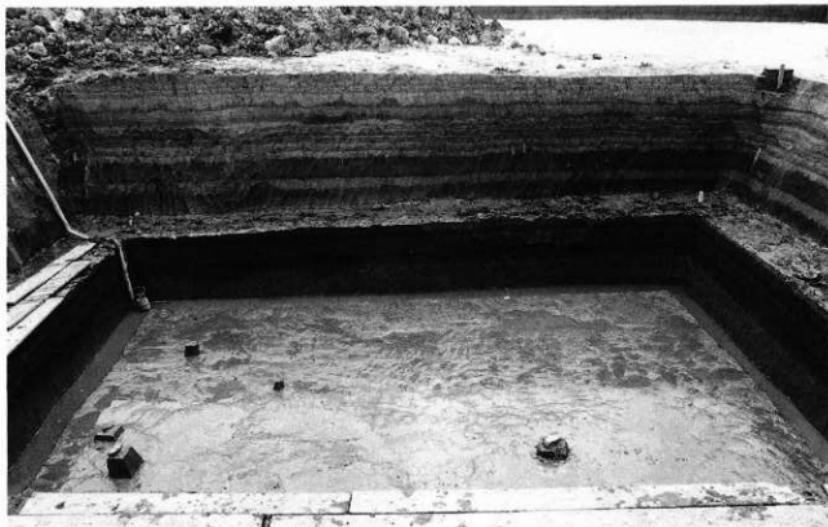


写真103 下層試掘区全景(北から)

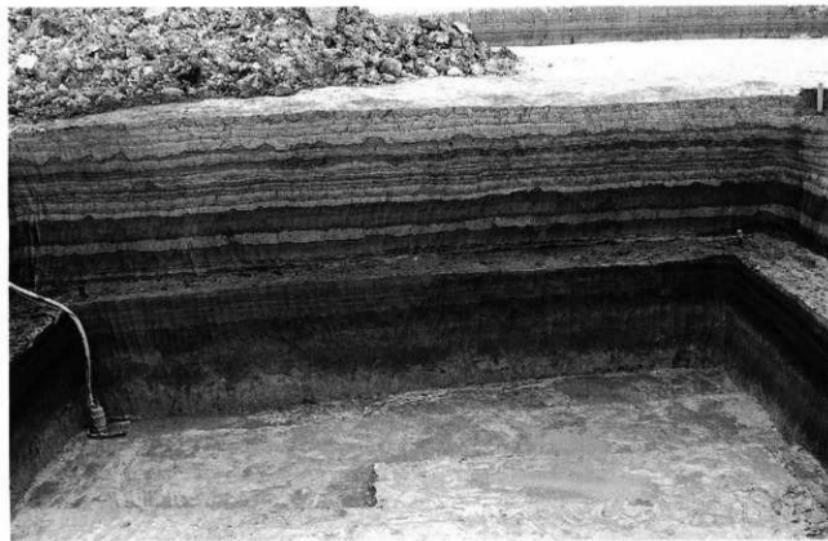


写真104 下層試掘区断面(北から)
壁際には疊層上面が露出している。

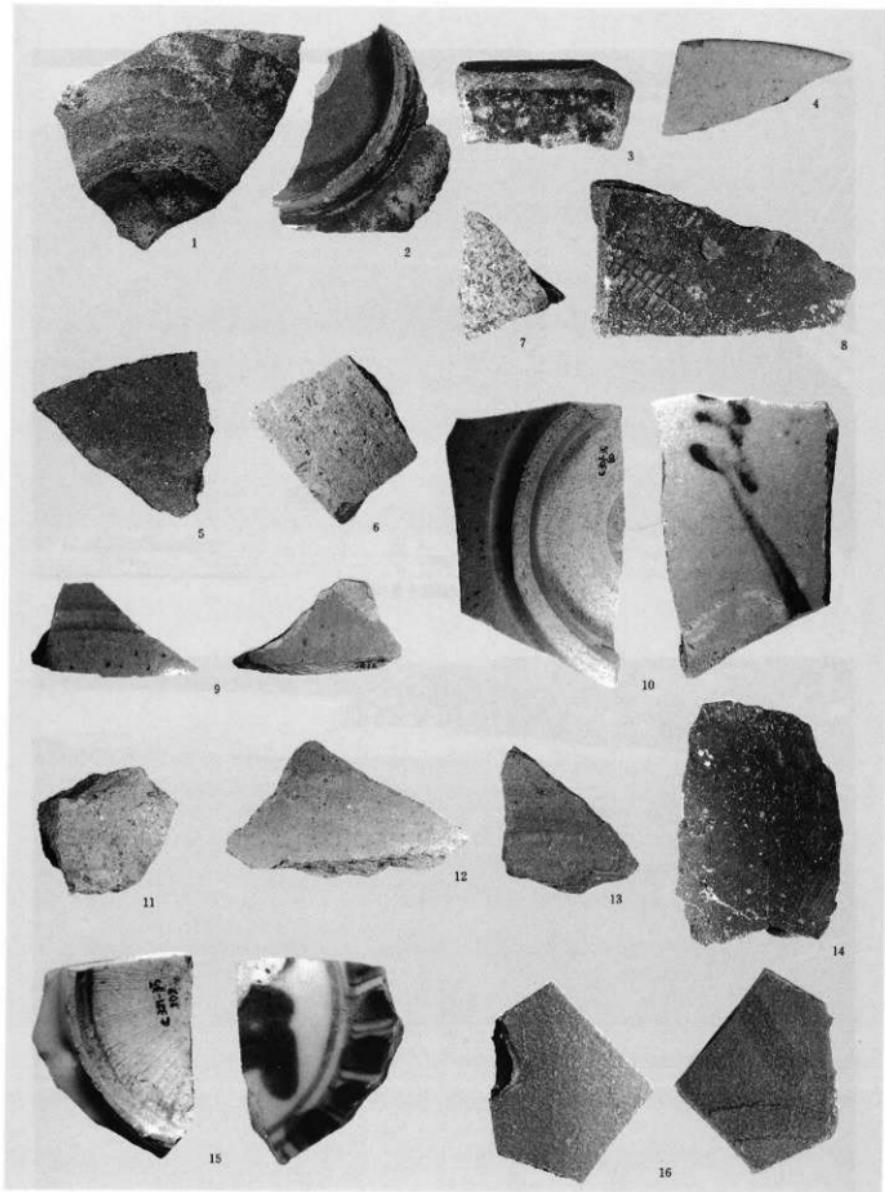


写真105 3層水田跡出土遺物 (1) 1～14. 陶器 (1・2唐津・唐津系、3古瀬戸、4志野、5～8常滑)
(9・10相馬、11～13在地、14産地不明)

15・16. 磁器(中国)

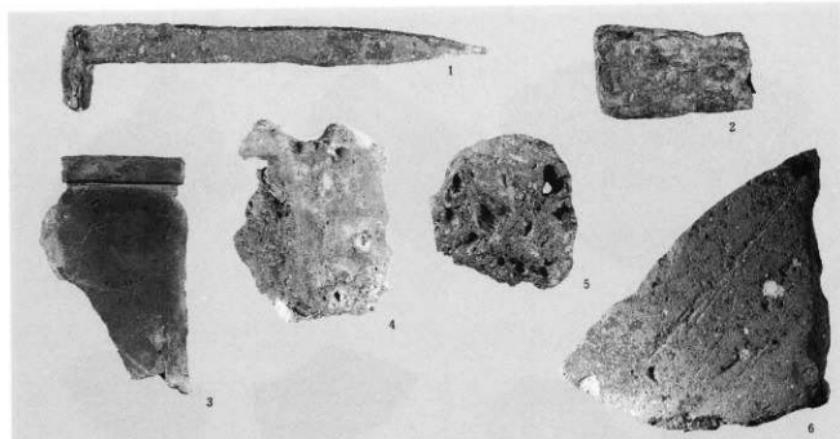


写真106 3層水田跡出土遺物(2) 1・2鉄製品、3銅製品、4・5鉄盆、6銅器

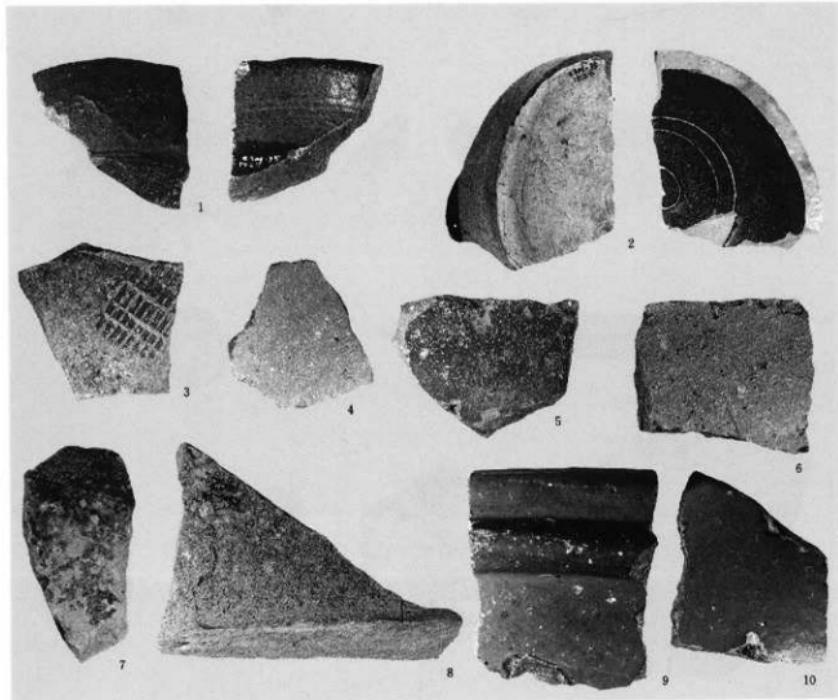


写真107 4層水田跡出土遺物(1) 陶器(1・2漬戸、3～6常清、7・8深甕、9・10甕)

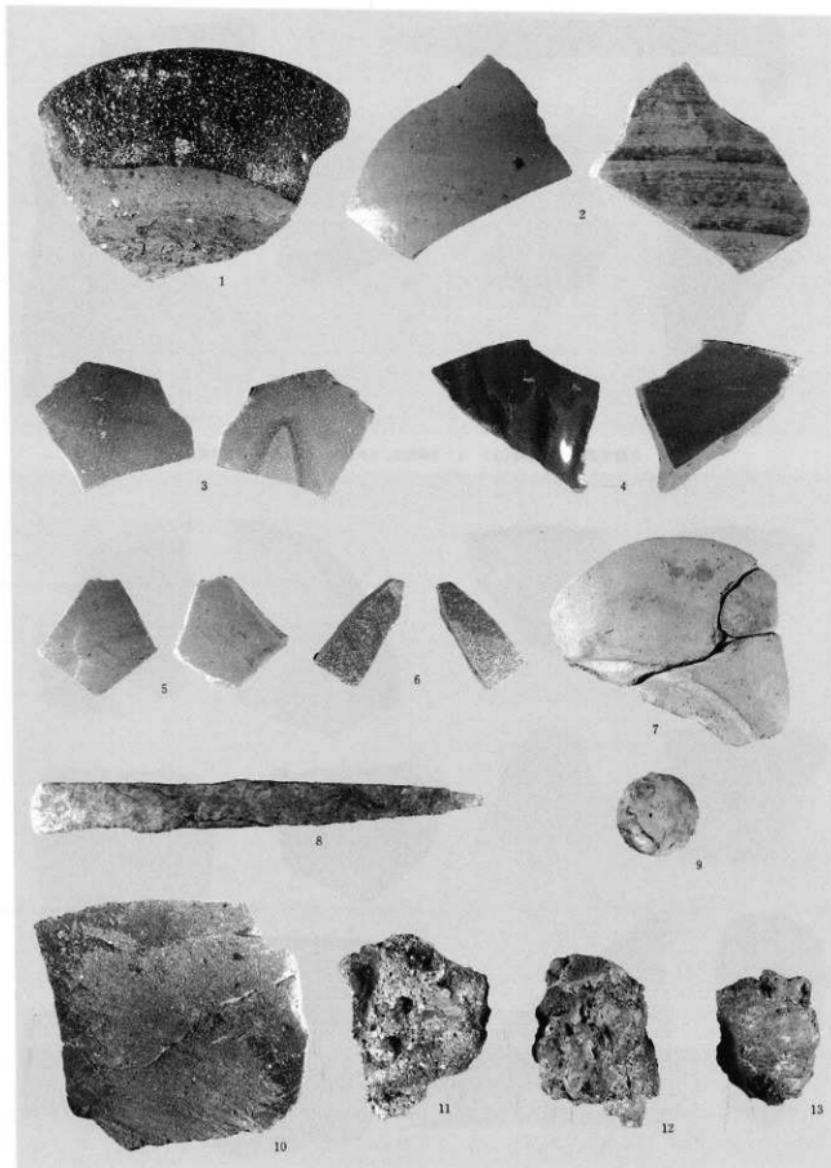


写真108 4層水田跡出土遺物(2) (1陶器(底地不明)、2~6磁器(中国)、7かわらけ、8鉄製品)
(9形製品、10頭蓋器、11~13鉄津)

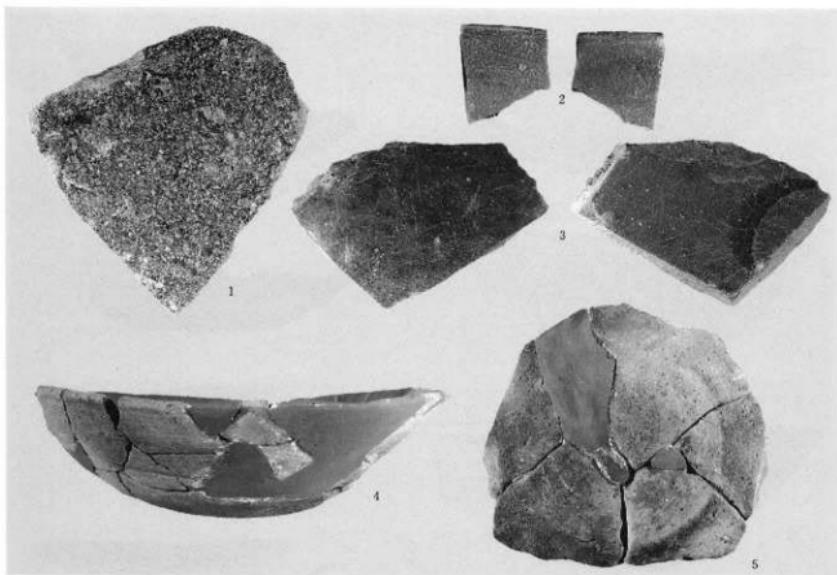


写真109 5層水田跡出土遺物 1陶器(深美)、2・3 磁器(中国)、4 赤曉土器、5 土師器



写真110 6層水田跡出土遺物
1陶器(深美)、2・3 鉄製品

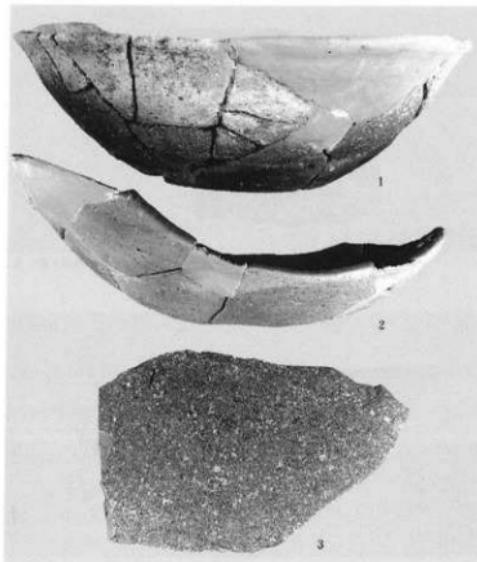


写真111 7層水田跡出土遺物 1・2 土師器、3 陶器(深美)

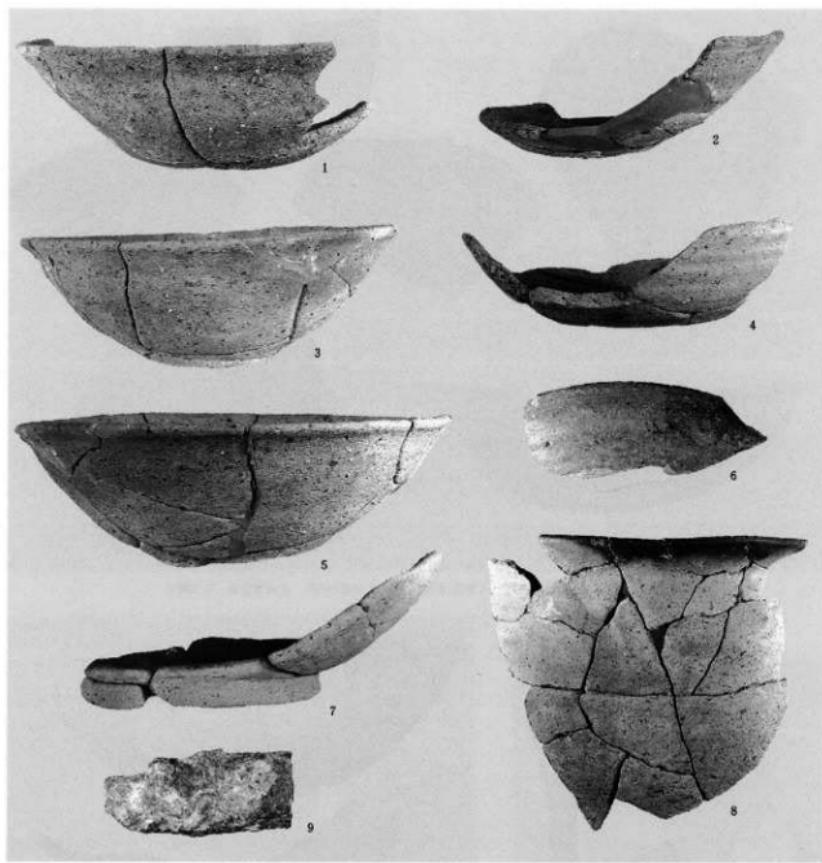


写真112 8層水田跡出土遺物 1～5 赤陶土器、6 土軸胸器、7・8 土器、9 鉄製品

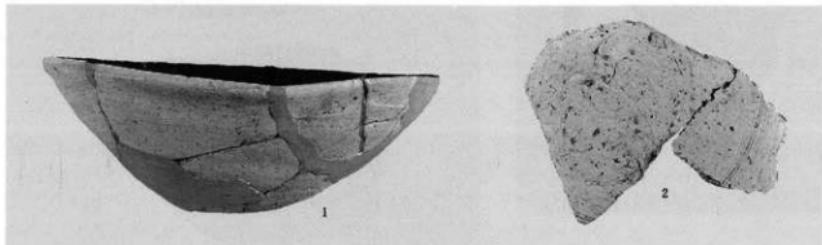


写真113 9層水田跡出土遺物 1 土器、2 赤燒土器

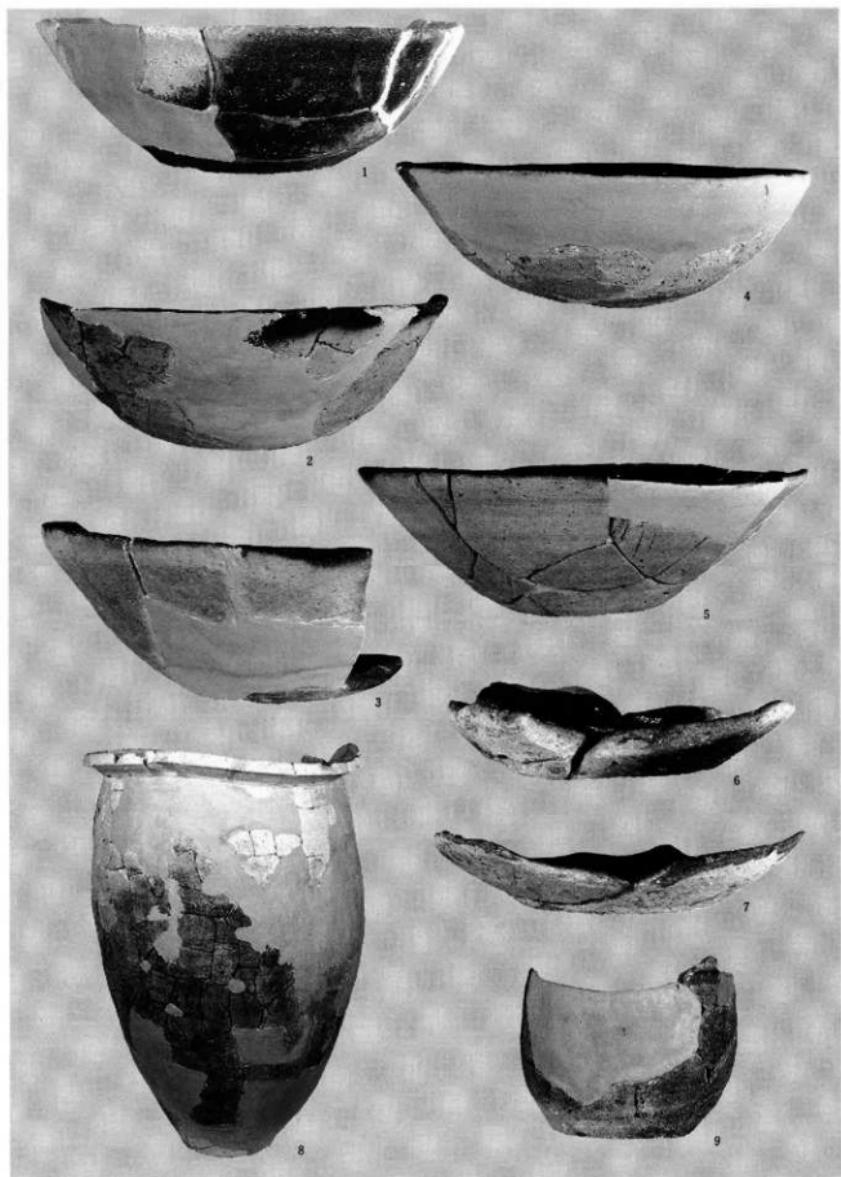


写真114 10層水田跡出土遺物(1) 土師器

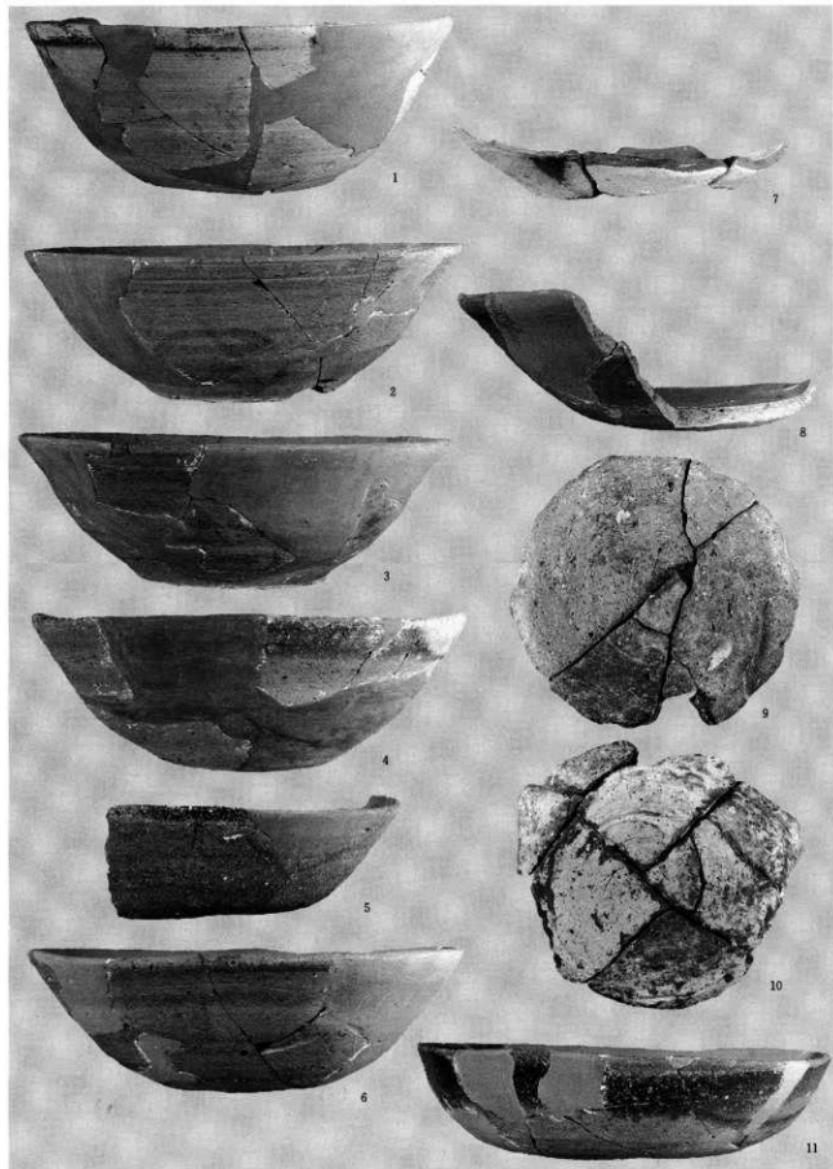


写真115 10層水田跡出土遺物(2) 須恵器(2・3は同一個体の両側面)

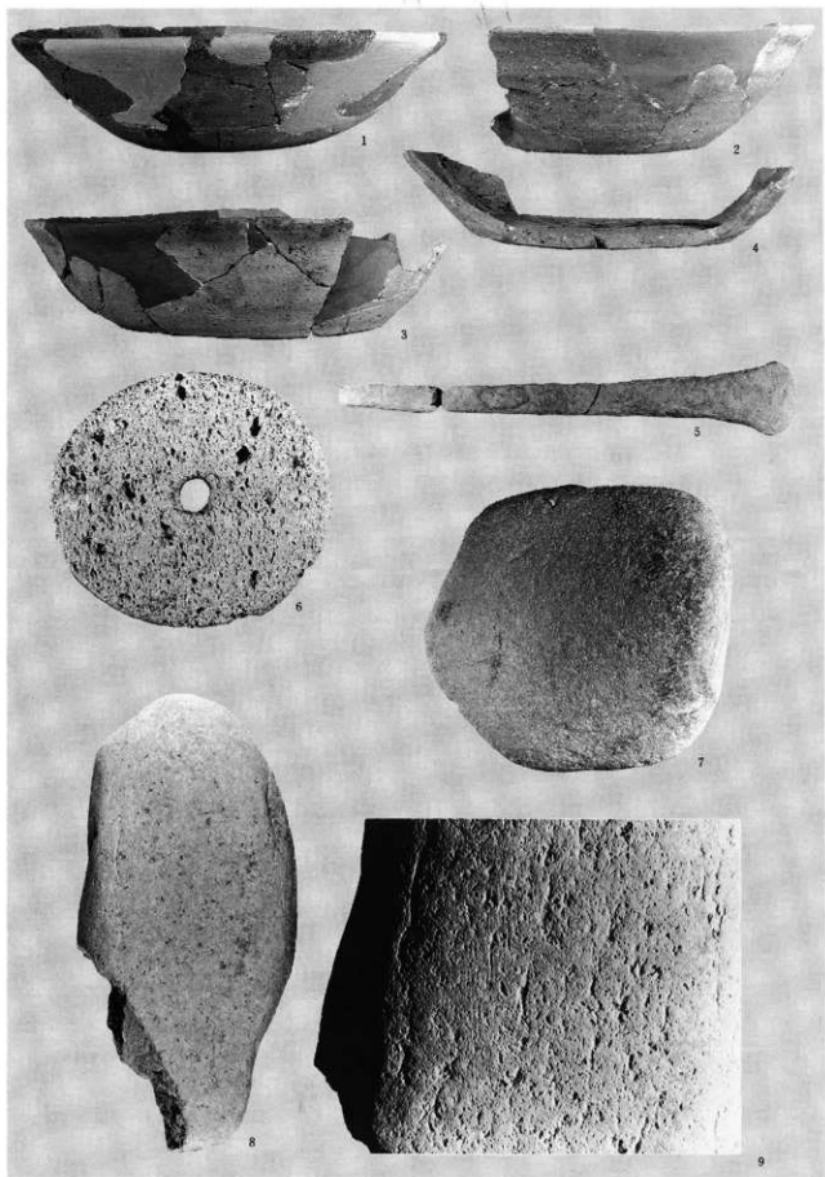


写真116 10層水田跡出土遺物(3) 1～4 鉄器、5 骨製品、6～8 石製品(9は8の部分拡大)

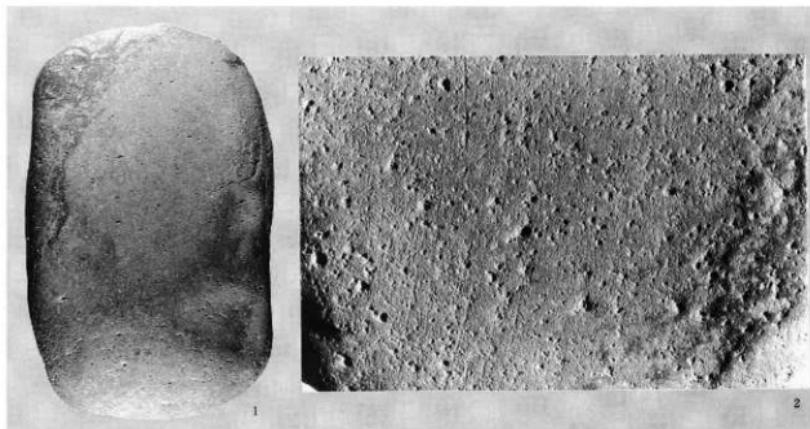


写真117 10層水田跡出土遺物（4）石製品（2は1の部分拡大）

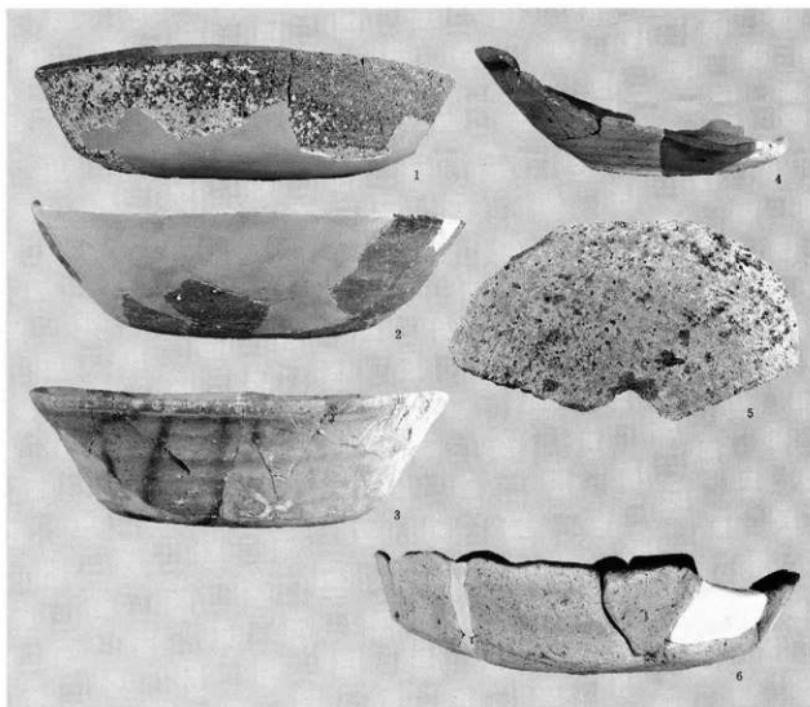


写真118 12層水田跡出土遺物（1） 1～5 繪文器、6 土師器

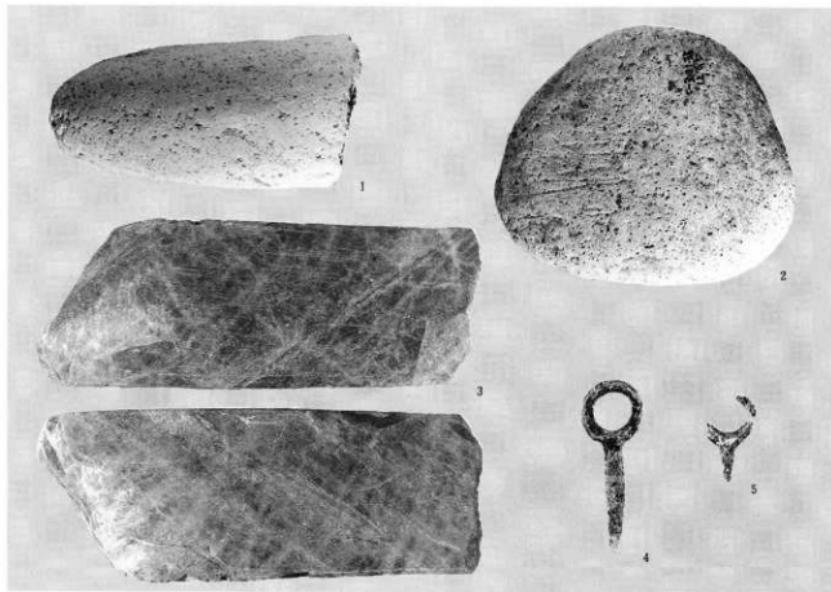


写真119 12層水田跡出土遺物（2） 1～3 石製品、4・5 銅製品

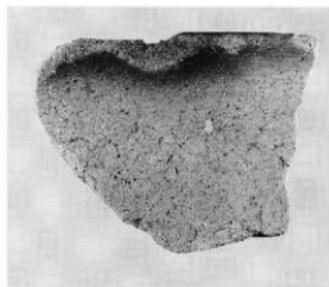


写真120 13層出土遺物 土師器



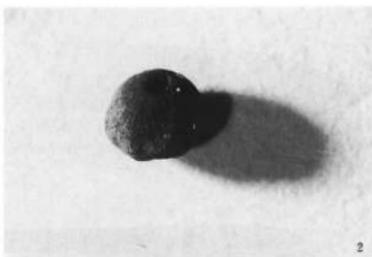
写真121 14層出土遺物 土師器



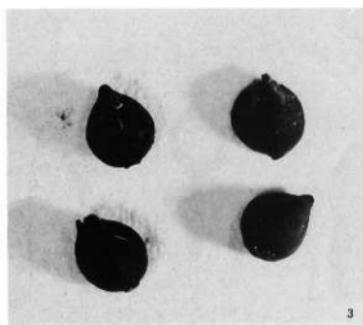
写真122
15層水田跡出土遺物
土師器



1



2



3



4



5



6

写真123 16層水田跡出土遺物 1石器、2～6種子(2アマコノシリヌグイ、3ホタルイ
4上アキノウナギツカミ、4下イシミカワ
5ヤノネグサ、6ミチヤナギ)

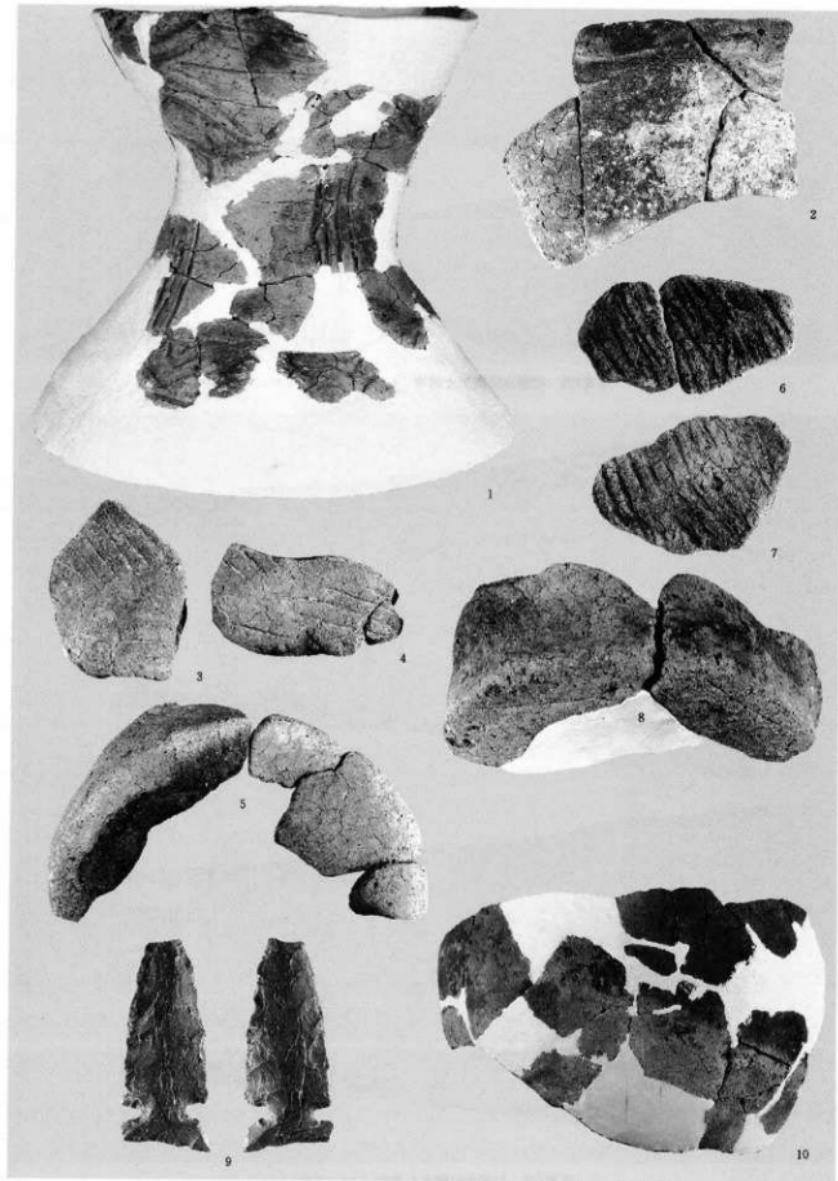


写真124 18層水田跡出土遺物 1～8 弥生土器(3～5、6～8はそれぞれ同一個体)
9 石器、10 土器

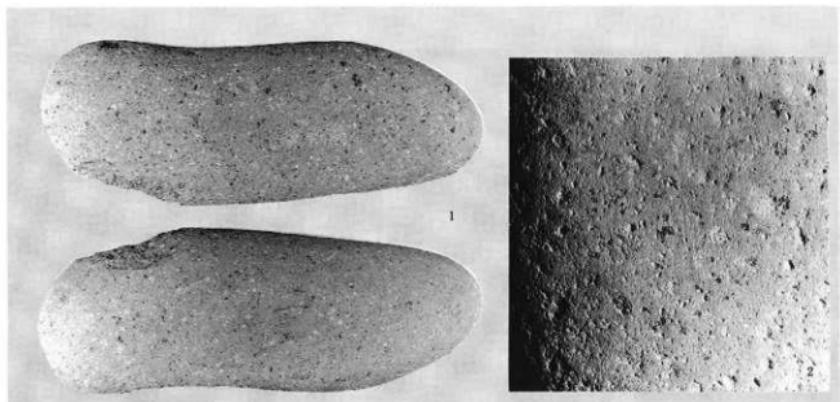


写真125 22層水田跡出土遺物 石器(2は1の部分拡大)

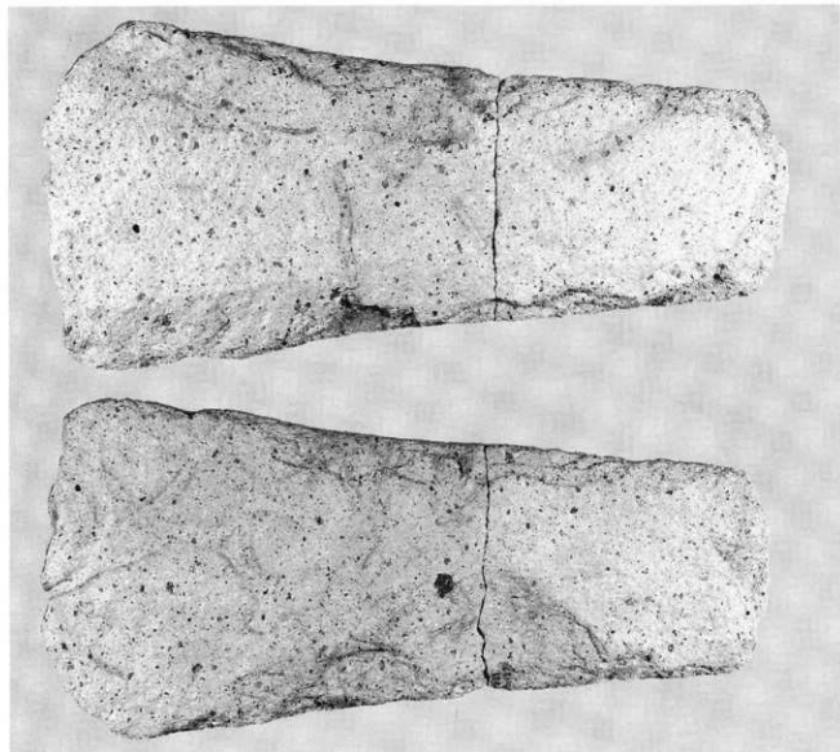


写真126 23層水田跡出土遺物(1) 石器

写真127
23層水田跡出土遺物（2）
共生土器

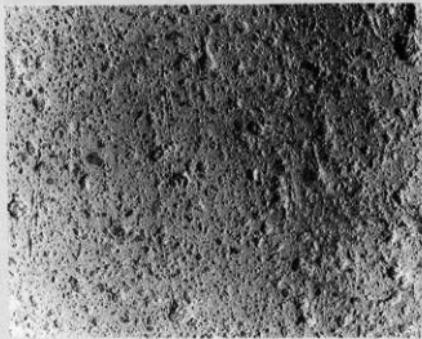
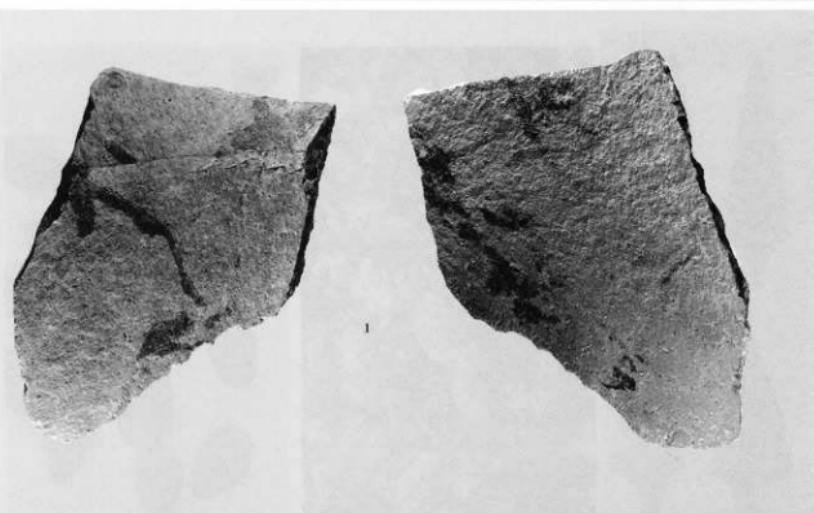
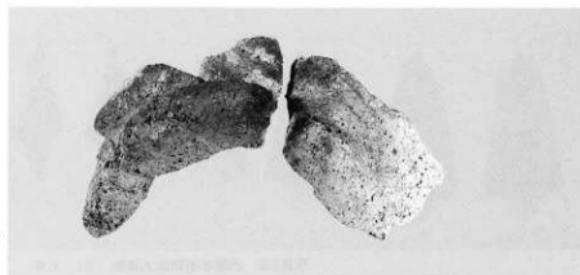


写真128 25層水田跡出土遺物（1） 石器（3は2の部分拡大）

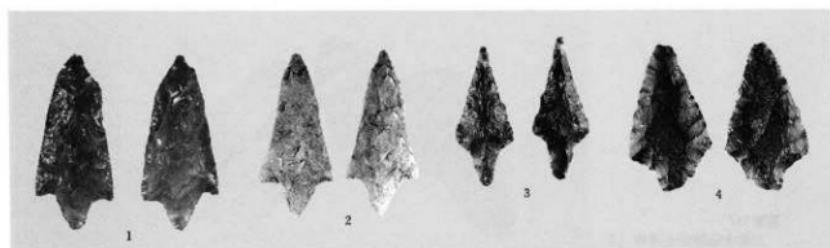


写真129 25層水田跡出土遺物（2）石器

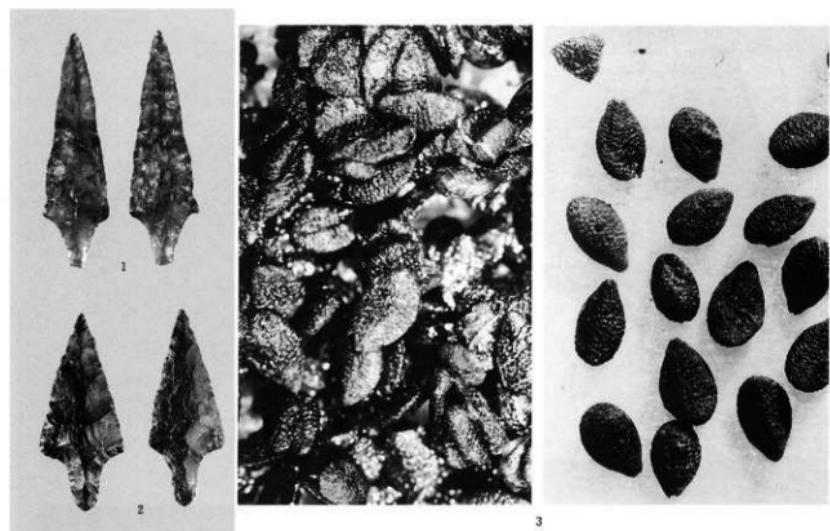


写真130 26層水田跡出土遺物 1・2 石器、3 種子（カラスノゴマ
（右側は個別に取り出して撮影したもの）

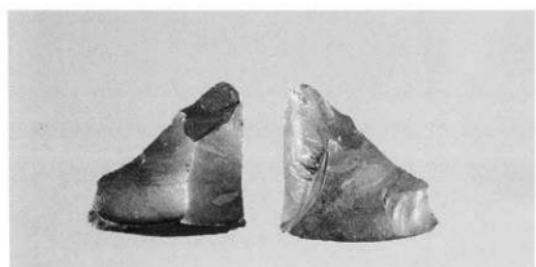


写真131 41層出土遺物 石器

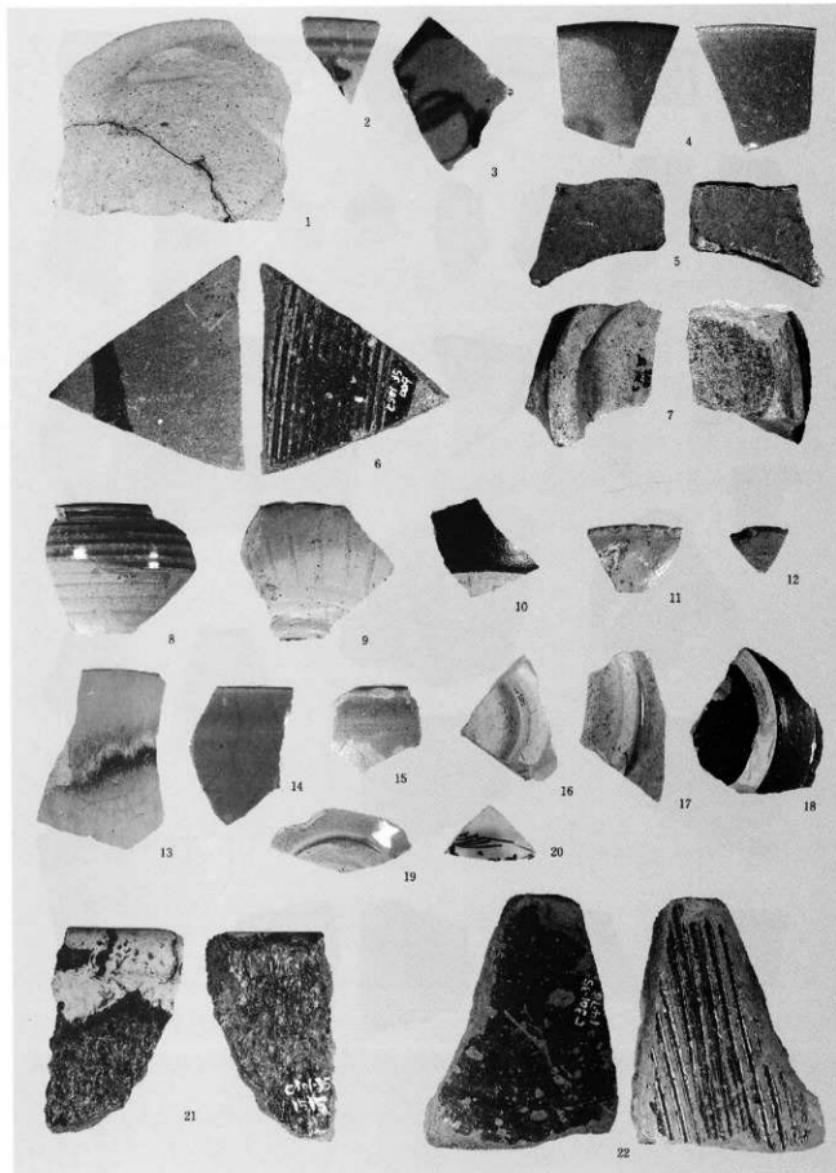


写真132 1・2層出土遺物 (1) 1かわらけ、2-22陶器 (2~3肥前、4~5唐津、6唐津系、
7唐津?、8瀬戸・美濃、9~10窓瀬
11~12志野、13~20相馬、21窓瀬?)

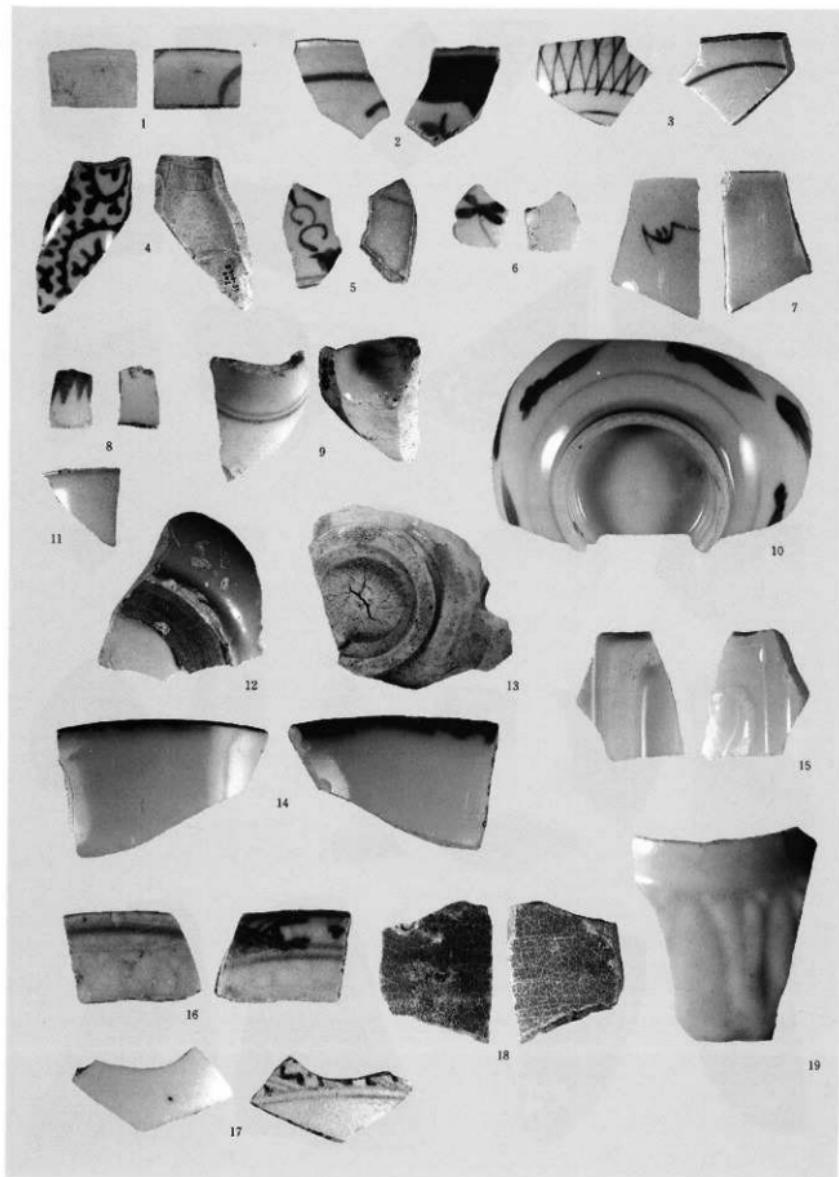


写真133 1・2層出土遺物（2）磁器（1～13肥前、14～15瀬戸・美濃、16～18中国、19庶地不明）

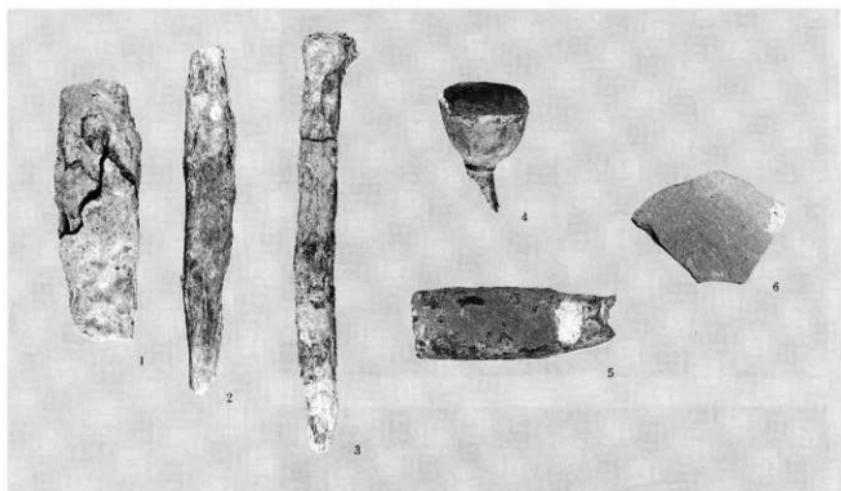


写真134 1・2層出土遺物（3） 1～3鐵製品、4～5銅製品、6灰陶陶器

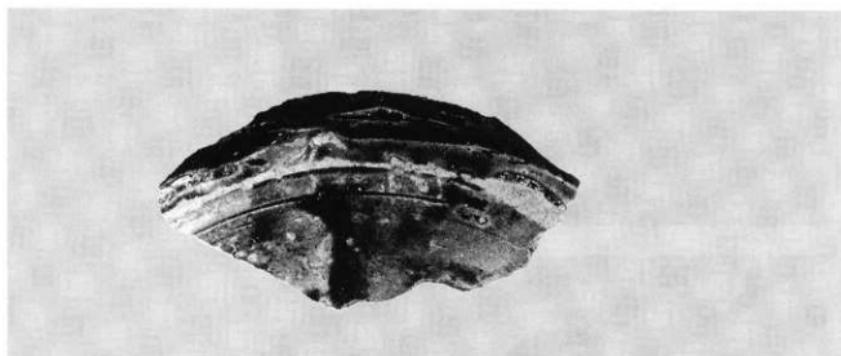
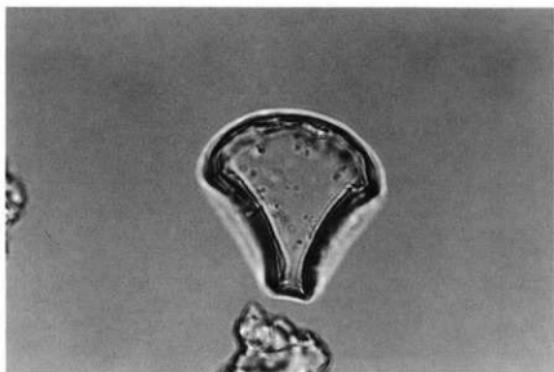
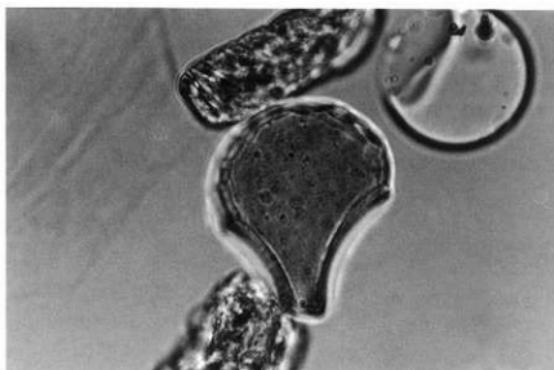


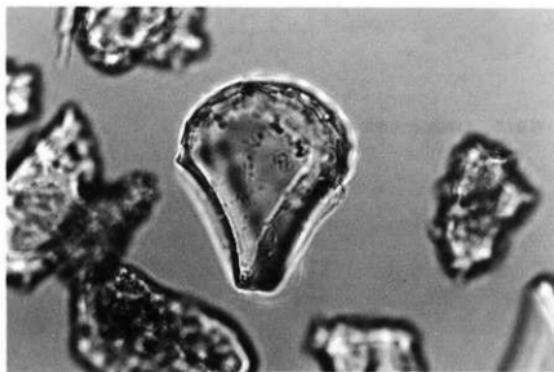
写真135 その他の出土遺物 陶器（古瀬戸）



1. イネ
地 点 A
試料名 15-3
倍 率 400



2. イネ
地 点 A
試料名 15-4
倍 率 400



3. イネ
地 点 B
試料名 15-3
倍 率 400

写真136 プラント・オパールの顕微鏡写真 (1)

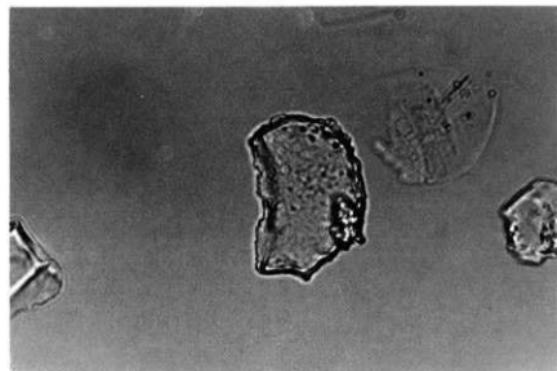
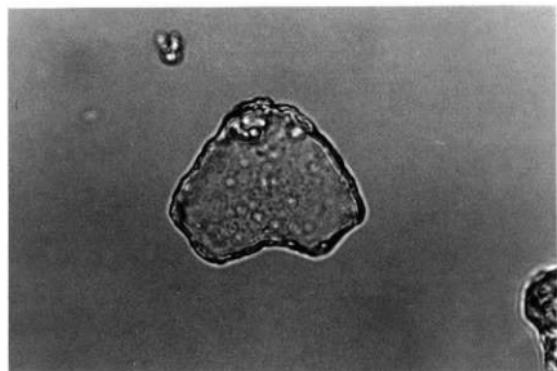
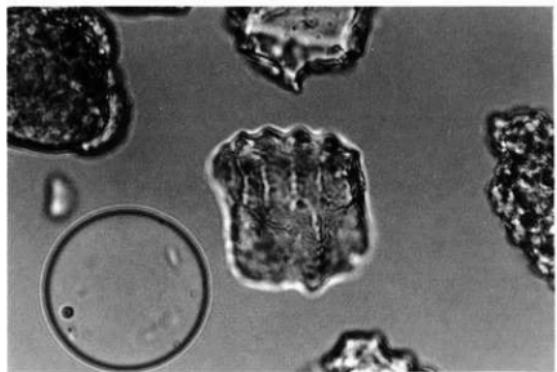
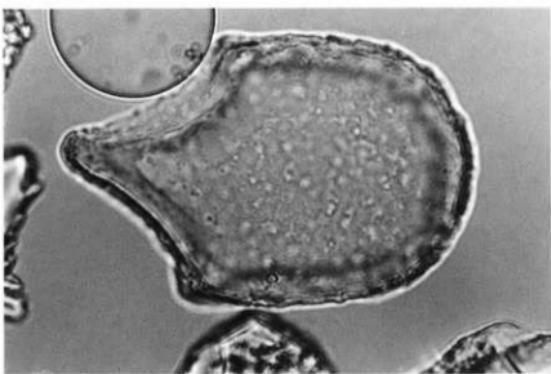


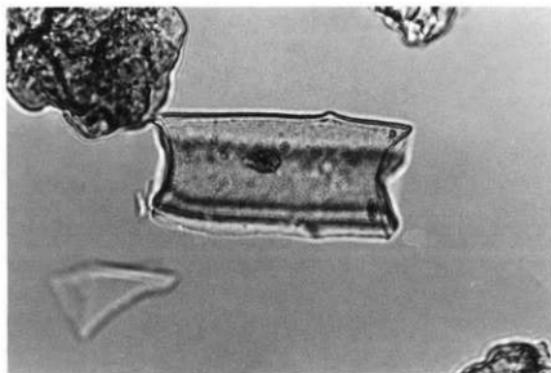
写真137 プラント・オパールの顯微鏡写真 (2)



1. ヨシ属
地 点 A
試料名 15-4
倍 率 400

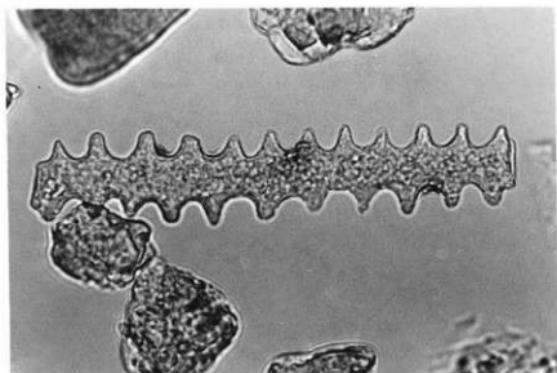


2. 不明(キビ族類似)
地 点 A
試料名 16
倍 率 400

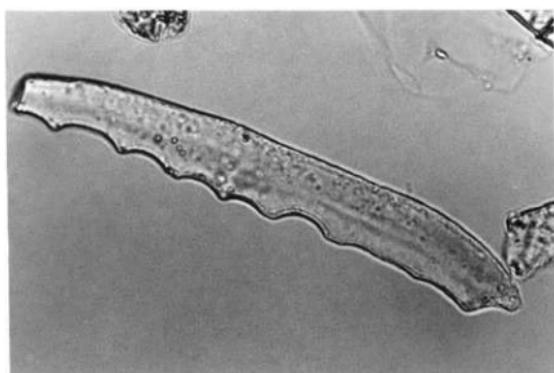


3. 不明(茎部?)
地 点 A
試料名 14
倍 率 400

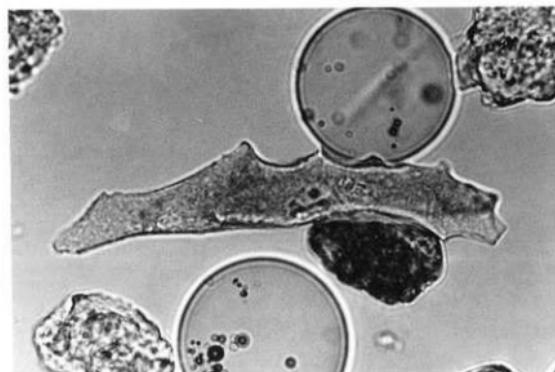
写真138 プラント・オパールの顕微鏡写真 (3)



1. 不明
地 点 A
試料名 15-3
倍 率 400



2. 樹木起源(ブナ科?)
地 点 №10
試料名 2
倍 率 400



3. 樹木起源(ブナ科?)
地 点 A
試料名 15-3
倍 率 400

写真139 プラント・オパールの顕微鏡写真 (4)

文化財課職員録

課長 早坂春一

管理係	調査第一係	調査第二係
係長 橋田義幸	係長 佐藤 隆	係長 加藤正範
主事 白崎靖子	主任 田中則和	主任 熊谷幹男
〃 佐藤良文	教諭 佐藤好一	教諭 太田昭夫
〃 高橋三也	主任 麻原信彦	主事 佐藤 洋
〃 庄司 厚	〃 木村浩二 主事 金森安孝 〃 古岡恭平 〃 工藤哲司 〃 斎野裕彦 〃 長島榮一 〃 工藤信一郎 〃 荒井 格 教諭 五十嵐康洋 〃 渡辺進二 主事 大江美智代	〃 佐藤甲二 教諭 小川淳一 主事 渡部弘美 〃 主浜光朗 〃 中宮 洋 〃 平間亮輔 教諭 高倉祐一 主事 佐藤 淳 〃 渡部 紀

仙台市文化財調査報告書第150集

富沢遺跡 —第35次発掘調査報告書—

平成3年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区四谷町3-7-1

仙台市教育委員会文化財課

印刷 (株) 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL 263-1166

